

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810100101        | 科目ナンバリング | 007D001  |
| 講義名   | 哲学A               |          |          |
| 英文科目名 | Philosophy        |          |          |
| 担当者名  | 中川 明博             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 2時限 北1－201 |          |          |

授業概要

哲学は、私たちがともすれば当然のこととして問わずに済ましている事柄の根拠をあらためて問い直す営みと言ってよいでしょう。たとえば、勇気ある行動は賞賛に値するでしょうが、そもそも「勇気」とは何なのでしょう。あるいは、私たちは「主観」をもっていますが、どうすれば主観が「客観的な」知識に到達できるのでしょうか。他人が「痛い」と言うとき、私はこの言葉で何を理解したことになるのでしょうか。この授業は、こうした問いを扱っていきます。

授業では、古代から現代に至る西洋哲学を大きく4つのタイプに分け、それぞれの問いの立て方と考え方をたどっていきます。第1学期は、真に存在するものは何かを問う「存在をめぐる哲学」(プラトン哲学がその典型)、世界における人間の位置を問う「神をめぐる哲学」。私は何を知り得るかを問う「知識をめぐる哲学」(デカルト哲学がその典型)を中心に検討していきます。第2学期は、言語によって私は何を理解していることになるのかを探究する「言葉をめぐる哲学」(ウィットゲンシュタインがその典型)を中心に、現代の諸哲学の展開を追跡していきます。

以上を通じて、哲学の問いがどのようなものであり、哲学者たちがどのように思索を進めたかについて理解を深めていきます。同時に、過去の哲学者たちの思考を共有することを通じて、ものごとを根本的に考えることをめざします。みずから考えることなしに哲学はありえませんが、そのためには基本的な用語や論理展開についての理解も不可欠です。過去の哲学を手本としながら受講者が根本的に問い、考える一助となれば幸いです。

到達目標

この授業の目標は、1)各哲学者の基本的な概念・用語等を理解すること、2)哲学的な問いの立て方と思考方法を学ぶこと、3)自分の考えを論理的に表現できること。4)以上を通じて、ものごとを自ら根源的に考える力を養うことにあります。

授業内容

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス(授業内容の概要、授業の進め方等についての説明)      |
| 第2回  | 存在をめぐる哲学(1)初期の自然学者たちの存在への問い        |
| 第3回  | 存在をめぐる哲学(2)ソフィストの登場                |
| 第4回  | 存在をめぐる哲学(3)ソクラテスの愛知とは              |
| 第5回  | 存在をめぐる哲学(3)ソクラテスの主知主義              |
| 第6回  | 存在をめぐる哲学(4)プラトン哲学のねらい              |
| 第7回  | 存在をめぐる哲学(5)プラトンのアイデア               |
| 第8回  | 存在をめぐる哲学(6)アリストテレスの問い              |
| 第9回  | 存在をめぐる哲学(7)アリストテレスのプラトン批判          |
| 第10回 | 神をめぐる哲学(1)アウグスティヌスの哲学              |
| 第11回 | 神をめぐる哲学(2)トマス＝アキナスの哲学              |
| 第12回 | 知識をめぐる哲学(1)デカルトの方法的懐疑              |
| 第13回 | 知識をめぐる哲学(2)デカルトの二元論と心身問題           |
| 第14回 | 知識をめぐる哲学(3)大陸合理論とイギリス経験論           |
| 第15回 | 第1学期のまとめと学期末試験についての説明              |
| 第16回 | 知識をめぐる哲学(4)ロックの経験論～その問題意識～         |
| 第17回 | 知識をめぐる哲学(5)ロックの経験論～観念とは～           |
| 第18回 | 知識をめぐる哲学(6)バークリーによる経験論の展開          |
| 第19回 | 知識をめぐる哲学(7)ヒュームによる経験論の徹底           |
| 第20回 | 知識をめぐる哲学(8)カント哲学の問い                |
| 第21回 | 知識をめぐる哲学(9)カントとアンチノミー              |
| 第22回 | 知識をめぐる哲学(10)カントの超越論的哲学             |
| 第23回 | 言葉をめぐる哲学(1)ウィットゲンシュタインの問いと言語論的転回   |
| 第24回 | 言葉をめぐる哲学(2)ウィットゲンシュタインの哲学(語りえぬもの)  |
| 第25回 | 言葉をめぐる哲学(3)ウィットゲンシュタインの哲学(言語ゲーム)   |
| 第26回 | 言葉をめぐる哲学(4)言語分析哲学の展開(論理実証主義と言語行為論) |
| 第27回 | 言葉をめぐる哲学(5)ソシュールの言語論               |
| 第28回 | 現代哲学の展開(1)                         |
| 第29回 | 現代哲学の展開(2)                         |
| 第30回 | 第2学期のまとめと学期末試験についての説明              |

授業計画コメント

受講者の関心に応じて先回り、遠回り、道草などをすることもあるのでご了承ください。

**授業方法**

講義形式の授業。ときどき問いを投げかけますが、臆せずに返答してください。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと(1～2時間)。授業後には講義内容を復習し、疑問点をまとめておくこと(約1時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                               |
|--------------------------|---------|--------------------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    | 基本用語を理解し、事柄について説明でき、自分の考えを論理的に述べることができる。         |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    | 基本用語を理解し、事柄について説明でき、自分の考えを論理的に述べることができる。         |
| 中間テスト                    |         |                                                  |
| レポート                     |         |                                                  |
| 小テスト                     | 10 %    | 数回提出してもらったコメントペーパーの内容によって授業の理解度、授業への取り組み等を評価します。 |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                                                  |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                                  |

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

第1学期の試験答案は、希望があれば第2学期に閲覧可とします。提出されたコメントペーパーの内容については授業内で紹介・コメントします。

**教科書**

図説・標準 哲学史,貫成人,新書館,2008,978-4-403-25093-4

**参考文献コメント**

参考文献については授業内で適宜紹介します。

**その他**

初回の授業時に、授業の進め方、評価方法などについて説明します。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810100102        | 科目ナンバリング | 007D001  |
| 講義名   | 哲学B               |          |          |
| 副題    | 哲学とは何か？           |          |          |
| 英文科目名 | Philosophy        |          |          |
| 担当者名  | 小島 和男             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 4時限 西2－501 |          |          |

### 授業概要

「哲学など学ばなくて生きていければ、それでいい」というのは本学でも教鞭をとったことのある著名な哲学者の言葉です。彼はこう続けます。「(「哲学は万人にとって必要だ」と) そうもつもらしく語る人をちらほら見かけますが、哲学とは何かまったく知らずに、いや知ろうとせずに、勝手に自分が思い描いている『哲学』という美名についてペラペラ喋っているだけなのだと思います、全身鳥肌が立ってくる。軽い殺意さえ覚えます」。「殺意」とは穏やかではありませんが、彼が言いたいのはそもそも「哲学とは何か？」を知らずに偉そうにものを言うなということらしくそれは至極もつとものです。

というわけで本授業では、正にその「哲学とは何か？」という疑問を皆さんと一緒に考えたいと思っております。実を言うと、担当教員である私もその疑問に対してははっきりとした答えを持っていません。研究途中です(なので「哲学は万人にとって必要だ」なんて言いきりません)。そこでまずは、哲学が問題にしているとされることやその考え方を紹介し、そのあとで哲学史についてや、哲学者と言ったらこの人、ソクラテスについて、お話ししたいと思います。そして「哲学は役に立つのか？」という問題にも正面切って一緒に考えたいと思っています。先の先生は「ほとんどの人には、役に立たないどころか害」と言い切っておられますが、はたして！？

なお、途中、レポートの書き方や発表の仕方についても、研究倫理についても含めて、お話しします。これは守るべきルールとおおよその正解があり、簡単に要領や方法を習得することができます。

(※引用は<https://toyokeizai.net/articles/-/89938>の中島義道先生の記事から)

### 到達目標

今まで当たり前だと思っていたこと、違うとは考えてもいなかったようなことが確かではないことを深く実感し他者に説明できるようになる(A)。

人の話を傾聴しつつ自分の意見が言えるようになる(B)。

所謂哲学の本を読んである程度理解し何かしら自分の意見が言えるようになる(C)。

体裁が整えられたレポートを書くことができるようになる(D)。

知を愛するということ(哲学)がどのような営みなのかを考え、そのプロセスを表現できるようになる(E)。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | イントロダクション、年間の授業のくわしい説明     |
| 第2回  | 「知る」ということについて 前編           |
| 第3回  | 「知る」ということについて 後編           |
| 第4回  | 「ある」とはどういうことか？ 前編          |
| 第5回  | 「ある」とはどういうことか？ 後編          |
| 第6回  | 論理的に正しいって何よ？ 前編            |
| 第7回  | 論理的に正しいって何よ？ 後編            |
| 第8回  | 自由についてあれこれ 前編              |
| 第9回  | 自由についてあれこれ 後編              |
| 第10回 | 正しいことと正しくないこと 前編           |
| 第11回 | 正しいことと正しくないこと 後編           |
| 第12回 | 「みんなちがってみんないい」というのは本当か？ 前編 |
| 第13回 | 「みんなちがってみんないい」というのは本当か？ 後編 |
| 第14回 | レポートの書き方入門                 |
| 第15回 | 第1学期のおさらい                  |
| 第16回 | 民主主義は最善か？ 前編               |
| 第17回 | 民主主義は最善か？ 後編               |
| 第18回 | 死と人生の意味 前編                 |
| 第19回 | 死と人生の意味 後編                 |
| 第20回 | 生まれて来てよかったかどうかと次世代への責任 前編  |
| 第21回 | 生まれて来てよかったかどうかと次世代への責任 後編  |
| 第22回 | 哲学は役に立つのか 前編               |
| 第23回 | 哲学は役に立つのか 後編               |
| 第24回 | ソクラテスを裁いた民衆を裁いてみよう 前編      |
| 第25回 | ソクラテスを裁いた民衆を裁いてみよう 後編      |
| 第26回 | ソクラテスはクリトンの説得に応じるべきだったか 前編 |

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 第27回 | ソクラテスはクリトンの説得に応じるべきだったか 後編 |
| 第28回 | 学生の発表                      |
| 第29回 | 第2学期のおさらい                  |
| 第30回 | これまでのおさらい                  |

### 授業方法

基本的には講義形式ですが、「前編」とある回ではグループワークとして皆さんに話し合いをし、意見を出し合ってもらいます。それについて私がコメントを加えていくといった形で授業をすすめます。「後編」とある回ではそのテーマについての講義が行われます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教科書や参考資料、配布するプリントを読み自身の意見を考えてくるのが予習(目安1～2時間)。  
疑問や反論などを考えまたそれに対して学習内容を振り返って答えたり再反論したりするのが復習(目安1～2時間)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 40 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

出席回数が規定に満たない場合は、自動的に単位を取得できなくなります。  
A、B、C、Eに関してはレポートと試験で、Dに関してはレポートで試されることになります。特にAとEに関しては授業への出席と講義内容をどれだけ聞いているかが鍵になるでしょう。Bに関してはグループワークや学生の発表時の様子からも窺うことになります。  
またただ聞いているだけではなく、その内容を振り返ることもポイントです。予習よりも復習が大事です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回responでコメントを提出して頂き、次の授業時に口頭でフィードバック致します。  
夏休みのレポートにはコメントを付けて返却します。そのコメントへの応答が学年末試験の一部になります。

### 教科書

ソクラテスの弁明: 光文社古典新訳文庫, プラトン, 光文社, 1, 2012, 978-4334752569

### 教科書コメント

教科書は第24回の授業時まで読んでおいてくだされば結構です。他の先生の訳が悪いわけではありませんが、必ず光文社古典新訳文庫の納富訳で！  
その他必要な資料は配布します。

### 参考文献

哲学ってどんなこと?, トマス・ネーゲル, 昭和堂, 1, 1993, 978-4812293058  
コウモリであるとはどのようなことか, トマス・ネーゲル, 勁草書房, 1, 1989, 978-4326152223  
哲学的な何か、あと科学とか: 二見文庫, 飲茶, 二見書房, 1, 2017, 978-4576170466

### 参考文献コメント

その他、授業中に適宜指示します。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810100103        | 科目ナンバリング | 007D001  |
| 講義名   | 哲学C               |          |          |
| 副題    | 形而上学・認識論・美学       |          |          |
| 英文科目名 | Philosophy        |          |          |
| 担当者名  | 國領 佳樹             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 3時限 中央－405 |          |          |

### 授業概要

本講義は、哲学をするとはどのようなことかに重点をおいて、形而上学・認識論・美学の基本問題を解説する。たとえば、「何が存在するのか?」(形而上学)「知るとはどういうことなのか?」(認識論)「芸術と芸術ではないものの違いは何か?」(美学)などについて考えます。

### 到達目標

到達目標は、次の二つです。(1) 論証とはどのようなものかを理解し、批判的な思考を身につけること、(2) 形而上学・認識論・美学に関する基礎知識を習得する。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                               |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                        |
| 第2回  | 何がどのように存在するのか? (1)               |
| 第3回  | 何がどのように存在するのか? (2)               |
| 第4回  | どうして私は昨日の私と同じなのか? (1) 記憶説        |
| 第5回  | どうして私は昨日の私と同じなのか? (2) 記憶説をめぐる議論  |
| 第6回  | どうして私は昨日の私と同じなのか? (3) 身体説        |
| 第7回  | どうして私は昨日の私と同じなのか? (4) 動物説        |
| 第8回  | どうして私は昨日の私と同じなのか? (5) 脳説         |
| 第9回  | まとめと理解度チェック                      |
| 第10回 | 知識とは何か? (1) 概要                   |
| 第11回 | 知識とは何か? (2) 内在主義と外在主義の論争         |
| 第12回 | 知識の源泉としての知覚(1) 直接実在論             |
| 第13回 | 知識の源泉としての知覚(2) 間接実在論             |
| 第14回 | 知識の源泉としての知覚(3) バークリーの観念論         |
| 第15回 | 知識の源泉としての知覚(4) 現代の認識論について        |
| 第16回 | 知識の源泉としての理性(1) 生得説とその反論          |
| 第17回 | 知識の源泉としての理性(2) 直観・演繹テーゼ          |
| 第18回 | 本当は私たちは何も知ることはできない(1) 哲学的懐疑論     |
| 第19回 | 本当は私たちは何も知ることはできない(2) 様々な懐疑論的な論証 |
| 第20回 | 本当は私たちは何も知ることはできない(3) 懐疑論への応答    |
| 第21回 | まとめと理解度チェック                      |
| 第22回 | 芸術とは何か(1) 鳥の歌と音楽                 |
| 第23回 | 芸術とは何か(2) 合目的性と伝統                |
| 第24回 | 芸術とは何か(3) 現代アート                  |
| 第25回 | 鑑賞と知識(1) 言語                      |
| 第26回 | 鑑賞と知識(2) 知識と技能                   |
| 第27回 | 鑑賞と知識(3) 美的性質と歴史的性質              |
| 第28回 | 芸術と感情(1) 表現                      |
| 第29回 | 芸術と感情(2) 喚起                      |
| 第30回 | まとめと理解度チェック                      |

### 授業方法

授業は講義形式で行いますが、授業内で質問や意見を求め、ショートディスカッションの時間も設けます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予習内容は毎回授業の最後に提示します。復習は、次の授業で質問や意見を出せるようにノートをまとめ直すこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 10 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーの内容も授業内のディスカッションに反映させるようにします。

### 参考文献

The Philosophy Skills Book, Stephen J. Finn , Continuum, 2012, 978-1441124562

音楽の哲学入門, セオドア・グレイシック, 慶應義塾大学出版会, 1, 2019, 978-4766425888

### 参考文献コメント

22回目以降の講義(美学)では、『音楽の哲学入門』の内容を紹介するかたちで授業を進めるので、事前に読んでおく講義内容の理解の助けになるでしょう。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                      |          |          |
|-------|------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810101101                                           | 科目ナンバリング | 007D002  |
| 講義名   | 美とロゴス                                                |          |          |
| 副題    | 身体                                                   |          |          |
| 英文科目名 | Beauty and Logos                                     |          |          |
| 担当者名  | 島尾 新・荒川 正明・京谷 啓徳・小島 和男・酒井 潔・佐野 みどり・杉山 直樹・松波 直弘・吉田 紀子 |          |          |
| 単位    | 2                                                    | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 2時限 西5－202                                  |          |          |

### 授業概要

哲学科の教員全員による輪講です。全部合わせて概論的説明になることをめざすわけではなく、それぞれの教員は、哲学思想史と美学美術史という二つの特定研究分野の専門知識と方法を十分に活かして、共通テーマに各論的かつ多角的な考察を加えます。自らが研究している時代や地域の美のあり方、あるいはロゴス（言葉、論理、説明）のあり方を踏まえ、大きなテーマの枠内で具体的な問題設定をして、各人各様にこれを論じていくわけです。これによって受講者は、専門 のいかにを問わず、大きなテーマについてただ漠然と考えるのではなく、それを具体的に特定の方法で考察することの面白さと重要性についても学ぶことになるでしょう。2019年度は、全体のテーマを「からだ／身体」とし、哲学思想史と美学美術史の両面から、多様な取り組みを行います。

### 到達目標

- 哲学科専任教員の専門分野がどのあたりであるかを学びます。
- 「からだ／身体」と関連するいくつものテーマと複数の学問的アプローチに接することによって、自分がもっていた先入見から解放され、自らの問題関心を再認識してください。
- 特に関心をもった講義については、調査し文献を読み、これを土台にして学期末課題に取り組んでください。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 担当教員全員によるガイダンス                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 第2回  | 器官としての身体・文明としての身体(佐野みどり・美学美術史系)<br>私たちにとって身体は、もっとも身近な自然と言えます。そのような身体を私たちはどのように馴化してきたでしょう<br>か？あるいは身体はどのようにそれに反撃してきたのでしょうか？日本の造形史をひもといて、身体の造形を考えて<br>いきます。                                                                                                                                                    |
| 第3回  | 「目」と「顔」の哲学(杉山直樹・哲学思想史系)<br>「現象学」という哲学潮流があります。私たちの経験が立ち上がってくるさまに寄り添う哲学です。そこで確認ないし発<br>見された事象に、「目」を見たり「顔」と対面したりする経験には、「モノ」相手とはまったく違った特殊性がある、というも<br>のがあります。サルトルやレヴィナスの考察を切り口にして、「身体」という謎に対する現代哲学のアプローチを紹介し<br>てみましょう。                                                                                          |
| 第4回  | キュビズムと身体表象(吉田紀子・美学美術史系)<br>フォーヴィズムが西洋絵画の色彩における革新であったとすれば、キュビズムは形態と構成における飛躍であったと<br>言えるでしょう。その推進者であったパブロ・ピカソ(～1973年)は、ルネサンス以来の三次元的再現を基礎とする絵<br>画の在り方をどのように変革1881したのでしょか。1907年の《アヴィニョンの娘たち》、1910年の《アンブロワーズ・<br>ヴォアールの肖像》を事例として取り上げ、キュビズムによる身体表象について考察します。                                                      |
| 第5回  | 機械と生きもののはざま(酒井潔・哲学思想史系)<br>17世紀の西洋では人々は、身体を「機械」として理解しようとしていました。今日と違って「機械」という概念は必ずし<br>も「生きもの」と矛盾する意味ではなかったのです。ライプニッツも、デカルトのいわゆる動物機械論を排除はしません<br>でした。しかしそのうえでライプニッツは、それがまさに「有機体」であり得るためにはなおも或る何かが必要であると<br>みるのです。その「何か」を考察すること手掛かりに、「身体」の身体性の問題に切り込んでみたいと思います。                                                |
| 第6回  | 前回の続き                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 第7回  | 身体とウツワ(荒川正明・美学美術史系)<br>皿やお椀、酒器やカップ、花器などは日常の暮らしのなかで使われています。心地よい暮らしを求めて、人々は使い<br>やすいもの、眺めて飽きないもの、一緒にいて邪魔じゃないものを求めます。果たしてどんなモノが私たちを満足さ<br>せ、幸せは気持ちにしてくれるのか。そのあたりのことを考えたいと思います。                                                                                                                                  |
| 第8回  | なぜソクラテスはアルキビアデスを抱かなかったのか？(小島和男・哲学思想史系)<br>美少年の美しい肉体が好きだと公言し憚らないソクラテス。そんなソクラテスに、自分が10代のころ同衾し迫ったのに<br>受け入れてもらえなかったと、アルキビアデスは語ります。その場面はプラトンの『饗宴』にあるのですが、そこから、<br>おもに肉体と欲求の関係について、プラトンに沿って考えようと思います。アルキビアデスが実はソクラテス好みの美<br>少年ではなかったのだとか、そういうことではありません。真面目な話をします。事前にプラトン『饗宴』(中澤務訳 光<br>文社古典新訳文庫 2013年)を読んでおいて下さい。 |
| 第9回  | 西洋美術における人体美(京谷啓徳・美学美術史系)<br>西洋美術史はつねに人体の表現を中心課題としてきたといっても過言ではありません。この講義では、古代ギリシア<br>人による理想的な人体美の発見と西欧世界におけるその後の展開について検討します。                                                                                                                                                                                  |
| 第10回 | 〈仏の身〉と〈神の体〉(松波直弘・哲学思想史系)<br>仏教語では〈仏のからだ〉を表す時、「仏身」という言葉をよく使います。「仏体」と使う場合もありますが、ニュアンスが<br>異なることが多いです。日本の神道では「神体」と言いますが、「神身」とはあまり言いません。同じ〈からだ〉を意味す<br>る「身」と「体」という字の語意・語感について述べてみたいと思います。                                                                                                                        |
| 第11回 | 〈行為〉としての絵画と書(島尾新・美学美術史系)<br>「書は人なり」といいますが、筆で書かれた文字からは書いた人の手の動きが分かります。絵画にも、画家の身体<br>が写し込まれています。その様子を観察しながら、「身体性の拡張」の問題について考えてみたいと思います。                                                                                                                                                                        |
| 第12回 | 前回の続き                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 第13回 | 担当教員全員によるコンクレーション                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

第14回 予備日

第15回 //

### 授業方法

リレー講義形式で授業を行います。初回と最後の回は担当教員全員が参加します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

特に予習は必要ありませんが、各教員の授業に触発され関心が芽生えたときには、それを大事にして図書館へ行き、関連する文献を読み、調査に取り組むのが望ましいです。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                 |
|--------------------------|---------|------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                                    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                                    |
| 中間テスト                    |         |                                    |
| レポート                     | 80 %    | 授業内で発表されるテーマから1つ選び、レポートを提出してもらいます。 |
| 小テスト                     |         |                                    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | クラス参加、グループ作業の成果等                   |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                    |

### 成績評価コメント

レポートと、平常点(出席やリアクションペーパー)を総合して評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

### 参考文献コメント

授業時に各教員が指示します。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810103101        | 科目ナンバリング | 007D003  |
| 講義名   | 論理学               |          |          |
| 副題    | 論証の分析と評価          |          |          |
| 英文科目名 | Logic             |          |          |
| 担当者名  | 三平 正明             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 5時限 北1－308 |          |          |

### 授業概要

論理学は、日常生活や学問の場面で行われるさまざまな論証を取り上げて、その正しさを研究する学問です。論理学の体系的研究はすでに古代ギリシアから始まっていますが、それが飛躍的な発展を遂げたのは、歴史的に見ればつい最近のこと、すなわち19世紀後半以降のことです。授業では、こうした現代論理学の基礎的な部分を取り上げます。そして入門で大事なものは、論理学上の成果を知ることよりもむしろ、私たちが日々行っている論証の中で働く「論理」をあらためて観察し、味わってみることでしょう。そのため、授業の重点は、実際に論証を分析し、その正しさを評価するという作業に置かれます。このような作業を通じて、論証の分析と評価を行うための体系的手段を身につけてもらうことが、授業の目的です。

### 到達目標

さまざまな論証を分析して、その論理的な正しさを評価することができる。また、背理法などの代表的な推論方法を習得して、それを十分に使いこなすことができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | 論理学とは？                     |
| 第2回  | 人工言語を作ろう！：自然言語から形式言語へ      |
| 第3回  | この言語の意味論：論理結合子の意味と真理表      |
| 第4回  | トートロジーと矛盾                  |
| 第5回  | 論理的同値、同値変形                 |
| 第6回  | 論証の妥当性                     |
| 第7回  | 自然演繹の方法とは？                 |
| 第8回  | 推論規則(1)：連言と条件法             |
| 第9回  | 推論規則(2)：選言と否定              |
| 第10回 | 推論規則(3)：双条件法と矛盾則           |
| 第11回 | 推論規則(4)：排中律と背理法            |
| 第12回 | 練習問題を解こう！                  |
| 第13回 | 自然演繹の方法は信頼できるか(1)          |
| 第14回 | 自然演繹の方法は信頼できるか(2)          |
| 第15回 | まとめ                        |
| 第16回 | 命題論理から述語論理へ：文の内部構造を分析する必要性 |
| 第17回 | 名前と述語、変項と量化子、ヴェン図          |
| 第18回 | 関係表現と関係図                   |
| 第19回 | 多重量化：誰もが誰かを愛する、誰かが誰からも愛される |
| 第20回 | 述語論理の言語とその意味論(1)           |
| 第21回 | 述語論理の言語とその意味論(2)           |
| 第22回 | 論証の妥当性                     |
| 第23回 | 自然演繹の方法を拡張する               |
| 第24回 | 量化子の推論規則(1)：「すべて」に関する規則    |
| 第25回 | 量化子の推論規則(2)：「存在」に関する規則     |
| 第26回 | 練習問題を解こう！                  |
| 第27回 | 同一性：ものものが等しいとは？            |
| 第28回 | 同一性の推論規則                   |
| 第29回 | 理解度の確認                     |
| 第30回 | 振り返り                       |

### 授業計画コメント

この授業では、特別な予備知識は何も必要としません。履修者に求められているのは、実際に手を動かして日本語の文を形式言語に翻訳したり、真理表や証明図を作成したりすることだけです。

### 授業方法

**授業方法**

毎回、基本的な事項と例題が説明された後、自分で練習問題を解くという手順になります。論理学なので、ただ話を聞くだけでなく、実際に自分の手を動かすことが大切です。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業時間内で扱える問題には限りがあります。そのため、授業で扱った題材に関して小課題が出ますので、それを次の授業時に提出してください(約1～2時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                    |
|--------------------------|---------|---------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                                       |
| 学年末試験(第2学期)              | 80 %    | 命題論理と述語論理について、基本的な推論能力を身につけたかどうかを見ます。 |
| 中間テスト                    |         |                                       |
| レポート                     |         |                                       |
| 小テスト                     | 20 %    | 論理学は積み重ねなので、各基本事項が理解されているかどうかを見ます。    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                                       |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                       |

**成績評価コメント**

学年末試験が成績評価の中心です。それに小テストや課題の点を加えます。論証の分析と評価のための基本的な手段を身につけたかどうか、成績評価の基準です。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

小テストや課題については、採点し、コメントを付与して、返却します。

**教科書コメント**

教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。

**参考文献**

- 論理学をつくる,戸田山和久,名古屋大学出版局,4815803900
- 記号論理入門,前原昭二,日本評論社,4535601046
- 記号論理入門:哲学教科書シリーズ,金子洋之,産業図書,4782802013
- Modern Logic,Graeme Forbes,Oxford UP,1999,0195080297

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                           |          |          |
|-------|---------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810104101                | 科目ナンバリング | 007D004  |
| 講義名   | 西洋倫理学史                    |          |          |
| 英文科目名 | History of Western Ethics |          |          |
| 担当者名  | 中野 安章                     |          |          |
| 単位    | 4                         | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 2時限 中央－403         |          |          |

## 授業概要

古代から現代まで西洋倫理思想は多様な展開を見せてきたが、その主たる二つの源泉が古代ギリシアとキリスト教(及びその母胎としてのヘブライズム)にあることは大方の同意するところであろう。通年にわたるこの講義では、前半の1学期においてまず西洋倫理思想の根源を成すギリシア(主としてプラトン、アリストテレス)、及びユダヤ・キリスト教(『聖書』に基づく)倫理思想について、その大枠を概観する。その際、余裕があればこれら両者における倫理思想の比較という考察をおこないたい。次いで後半の2学期には、近代における倫理思想の変容を18-19世紀のイギリスを中心に見ていくことになる。近代は大まかに言って倫理の世俗化の時代として、つまり倫理的規範を神との関係によってよりは人間本性や共同体という人間的領域内部で基礎づけようと模索し始める時代として特徴づけられるだろうが、その展開もギリシア及びキリスト教の倫理に関する予備知識の上にはじめて深く理解されるはずである。後半では、18世紀後半から19世紀までのイギリス道徳哲学の展開を、アダム・スミスから、ベンサム、J.S.ミルまでたどり、20世紀の倫理思想としてジョン・ロールズ、あるいはハンナ・アーレントを取り上げることにしたい。1学期、2学期ともに、講義資料を配布してそれぞれの倫理思想の概説を与えていくが、その際、できるかぎり各思想家の主要テキスト(日本語訳)の読解を重視して、原典そのものに接する時間を多くとる予定である。

## 到達目標

1. 西洋倫理思想の源流(特にキリスト教倫理)と近代倫理学の展開について理解する。
2. 倫理思想の原型および(そこから派生する)類型に親しむことを通じて、倫理学的問題を自ら考えるために必要な基本的素養を習得する。
3. 2.で習得された素養に基づき、現代の身近な倫理的、社会的問題についてもそれを適用し、自らの思考を発展させることができる。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | 第1学期イントロダクション              |
| 第2回  | プラトン(1)ーギュゲスの指輪、魂と国制       |
| 第3回  | プラトン(2)ー『国家』               |
| 第4回  | プラトン(3)ー『国家』               |
| 第5回  | アリストテレス(1)ー幸福、中庸、徳         |
| 第6回  | アリストテレス(2)ー『ニコマコス倫理学』      |
| 第7回  | アリストテレス(3)ー『ニコマコス倫理学』      |
| 第8回  | 聖書に関する予備知識                 |
| 第9回  | 神と創造ー『旧約聖書』(1)             |
| 第10回 | 罪と赦しー『旧約聖書』(2)             |
| 第11回 | 契約と律法ー『旧約聖書』(3)            |
| 第12回 | 福音ー『新約聖書』(1)               |
| 第13回 | 愛の秩序ー『新約聖書』(2)             |
| 第14回 | パウロとヨハネー『新約聖書』(3)          |
| 第15回 | 第1学期のまとめ                   |
| 第16回 | 第2学期イントロダクション              |
| 第17回 | アダム・スミス(1)ー 共感と正義、良心論      |
| 第18回 | アダム・スミス(2)ー 『道徳感情論』        |
| 第19回 | アダム・スミス(3)ー 『道徳感情論』        |
| 第20回 | ベンサム(1)ー 功利の原理、立法改革        |
| 第21回 | ベンサム(2)ー 『道徳と立法の原理序説』      |
| 第22回 | ベンサム補論ー フーコー『監獄の誕生』と現代社会   |
| 第23回 | J.S.ミル(1)ー 功利主義の修正、個性と自由   |
| 第24回 | J.S.ミル(2)ー 『自由論』           |
| 第25回 | J.S.ミル(3)ー 『自由論』           |
| 第26回 | ジョン・ロールズ(1)ー 功利主義批判、正義の原理  |
| 第27回 | ジョン・ロールズ(2)ー 『正義論』         |
| 第28回 | ハンナ・アーレント(1)ー 全体主義批判、活動的生活 |
| 第29回 | ハンナ・アーレント(2)ー 『人間の条件』      |
| 第30回 | 第2学期のまとめ                   |

授業計画コメント

以上に掲げた授業計画は講義全体の大枠を示すものであり、各回についての細目や進行の仕方には省略や変更の可能性がある。

授業方法

基本的に講義形式でおこなう。教科書は使用せず、用意した講義資料に基づいて進める。また、受講者が受け身の聴講に陥ることを防ぐため、毎回の授業でリアクションペーパーを活用し、1. 授業の簡単なまとめ、2. 授業で得た気づき、質問等、を書いてもらう予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各学期末試験においては、文章を書く力を重視する。試験前に簡単な文章作成指南の時間は取る予定だが、普段からレポート・論文作成のための参考書に目を通すなどして論述文の基本的作法について意識を高めておくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考         |
|--------------------------|---------|------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 45 %    | 論述試験       |
| 学年末試験(第2学期)              | 45 %    | 論述試験       |
| 中間テスト                    |         |            |
| レポート                     |         |            |
| 小テスト                     |         |            |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    | リアクションペーパー |
| その他(備考欄を参照)              |         |            |

成績評価コメント

2回の学期末試験の成績の総合点で評価する。試験は論述形式を基本とし、明晰な文章表現力を評価の基準とする。また、倫理という誰にとっても切実な問題を扱うので、自らの思考を発展させる力も評価する。毎回のリアクションペーパーも成績評価の判断に際して参考にすることがある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、リアクションペーパーで出された質問等を紹介しコメントする。また、1学期末試験については2学期初めの授業で短いコメントをつけた上で返却する。

教科書コメント

教科書は特に指定しない。

参考文献

聖書 新共同訳,日本聖書協会  
国家(上・下),プラトン(藤沢令夫訳),岩波文庫  
ニコマコス倫理学,アリストテレス(高田三郎訳),岩波文庫  
道徳感情論:日経BPクラシックス,アダム・スミス(村井章子・北川知子訳),日経BP社,2014  
自由論:光文社新訳文庫,ミル(斉藤悦則訳),光文社

参考文献コメント

上記の『聖書』は、昨年12月に日本聖書協会から最新の共同訳が出されており、それには引照と注が付いている。授業で参照する箇所は、上記の(最新版でない方の)新共同訳からコピーして講義資料として配布する予定だが、より広い文脈を参照したい人は手元に備えておくとう便利であろう。その他の文献は必要に応じて授業中に紹介していく。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席のこと。

その他

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810105101                    | 科目ナンバリング | 007D005  |
| 講義名   | 東アジアと日本の倫理思想                  |          |          |
| 英文科目名 | Ethics in Japan and East Asia |          |          |
| 担当者名  | 宮本 郷史                         |          |          |
| 単位    | 4                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 4時限 西2－303             |          |          |

授業概要

この講義では「倫理思想」を扱います。それも東アジアを中心とした倫理思想、倫理観について考える内容となります。  
 あなたは、「倫理」と聞くと何をイメージしますか。あなたは、どんな場面で「倫理」という言葉を使いますか。大学1年生なら、高校の社会科の「倫理」という科目がすぐに思い浮かぶかもしれません。そうでなくとも「〇〇倫理」という言葉が出てくる人もいるでしょう。実際、新聞を広げれば、「職業倫理」「放送倫理」「政治倫理(政治家の倫理観)」「教育倫理」「生命倫理」「環境倫理」など、いたるところで「倫理」を目にします。また、倫理的ではない行為として「不倫」という言葉もよく耳にします。このような「倫理」という言葉が持つイメージとして、行動規範といった人を縛るものではないでしょうか。そのため自分の人生や生き方を何にも縛られたくないと考える人からすると、「倫理」と聞くと煙たく感じるものかもしれません。  
 人を縛るものとしては、「法」があります。「法」の多くは成文化されていて、明確な規定として存在しています。それに対し、「倫理」は「法」と比べると明確ではありません。しかし、「倫理」も確実に、人間の行動を規定しています。その不明瞭な「倫理」、それも東アジアの「倫理」、そこに潜む思想、背後から支えるものを具体的な倫理観を取り上げながら見ていくのが、本講義です。

到達目標

- ・東アジアと日本における「倫理」について学び、現代の日本の倫理(観)と関係づけながら、論理的に表現できるようになること。
- ・自らの周辺にあるが、無自覚である倫理(観)を自覚化し、その起源や要因の可能性を考察し、論理的に書けること。

授業内容

| 実施回  | 内容                    |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンスとイントロダクション       |
| 第2回  | 道徳、倫理、倫理学             |
| 第3回  | 漢字文化圏における「道徳、倫理」①     |
| 第4回  | 漢字文化圏における「道徳、倫理」②     |
| 第5回  | 漢字文化圏における「道徳、倫理」③     |
| 第6回  | 和辻哲郎と倫理思想             |
| 第7回  | 中国の倫理思想① 天            |
| 第8回  | 中国の倫理思想② 日本の天(道)      |
| 第9回  | 中国の倫理思想③ 気            |
| 第10回 | 中国の倫理思想④ 気の諸相         |
| 第11回 | 道家の倫理思想① 道家と道教        |
| 第12回 | 道家の倫理思想② 道家思想         |
| 第13回 | 道家の倫理思想③ 日本人と道1       |
| 第14回 | 道家の倫理思想④ 日本人と道2       |
| 第15回 | 理解度の確認                |
| 第16回 | 第1学期の振り返り             |
| 第17回 | 神祇信仰における倫理思想① 「かみ」    |
| 第18回 | 神祇信仰における倫理思想② 「まつり」   |
| 第19回 | 神祇信仰における倫理思想③ 「かみ」の変質 |
| 第20回 | 神祇信仰における倫理思想④ ケガレ     |
| 第21回 | 日本人の死生観、他界観① 葬送       |
| 第22回 | 日本人の死生観、他界観② 死生観、他界観  |
| 第23回 | 仏教における倫理思想① 地獄        |
| 第24回 | 仏教における倫理思想② 殺生        |
| 第25回 | 仏教における倫理思想③ 破戒        |
| 第26回 | 武士の倫理思想① 武士道          |
| 第27回 | 武士の倫理思想② 恥            |
| 第28回 | 武士の倫理思想③ 死            |
| 第29回 | 日本の習俗から見える倫理思想 米      |
| 第30回 | 理解度の確認                |

授業計画コメント

進度などによって授業計画を変更する可能性あり。

**授業方法**

講義形式

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業中に配布した資料の必要部分や講義ノートを読み返し、疑問点をまとめておく(計1時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                    |
|--------------------------|---------|-----------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 45 %    | 論述形式                  |
| 学年末試験(第2学期)              | 45 %    | 論述形式                  |
| 中間テスト                    |         |                       |
| レポート                     |         |                       |
| 小テスト                     |         |                       |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    | 小レポートを課した場合は、それも含まれる。 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                       |

**成績評価コメント**

3分の2以上の出席が必要。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

コメントペーパーを書いてもらい、随時それに応える。

**教科書コメント**

特定の教科書指定はしない。

**参考文献コメント**

参考文献は、授業内で適宜紹介する。

**履修上の注意**

初回の授業時に、授業の進め方、評価方法など詳細を説明する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                  |          |          |
|-------|----------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810106101                       | 科目ナンバリング | 007D006  |
| 講義名   | 現代思想                             |          |          |
| 副題    | 文学と出来事から考える現代思想                  |          |          |
| 英文科目名 | Problems on Contemporary Thought |          |          |
| 担当者名  | 太西 雅一郎                           |          |          |
| 単位    | 4                                | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 4時限 北1－201                |          |          |

### 授業概要

この授業では、戦争と難民の世紀であった20世紀を生きた思想家たちの経験とそれにもとづく思索と問題提起を踏まえながら、現代思想と文学との関係や、政治との関係を問い直す。また現代社会を侵食するナショナリズムとレイシズム(人種主義)などについて、具体的な出来事をとりあげながら、現代思想の観点からの基本的な考察を紹介する。前期・後期を通して、ドイツのユダヤ系思想家であるヴァルター・ベンヤミンの思想と生き方を参照しつつ現代世界の諸問題を問い直す可能性を探る。また公正な研究活動に不可欠の研究倫理について学ぶ。

### 到達目標

(1) 現代思想の基本的な概念を身に付けられる。(2) 現代社会を構成する基本的な枠組や前提に対する批判的な視座を獲得できる。(3) 現代世界の歴史的背景を現代思想の観点から問い直す力を修得できる。(4) 現代思想の観点から文学テキストの読解法を修得できる。(5) 現代世界の具体的な出来事について批判的かつ構築的な思考を展開できる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                        |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 第1回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、プロローグ、第1節、および旧約聖書、また論文作成等で必要な研究倫理について学ぶ |
| 第2回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、プロローグ、第2節、およびギリシア悲劇                     |
| 第3回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第1章、第1節、およびシェイクスピア                      |
| 第4回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第1章、第2節、およびジャン＝ジャック・ルソー                 |
| 第5回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第1章、第3節、およびグリム兄弟                        |
| 第6回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第1章、第4節、およびボードレー                        |
| 第7回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第2章、第1節、およびドストエフスキー                     |
| 第8回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第2章、第2節、およびカフカ                          |
| 第9回  | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第2章、第3節、およびブルースト                        |
| 第10回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第2章、第4節、およびジェイムズ・ジョイス                   |
| 第11回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第3章、第1節、およびプリモ・レーヴィ                     |
| 第12回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第3章、第2節、およびプリモ・レーヴィ(つづき)                |
| 第13回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第3章、第3節、およびパレスチナの文学                     |
| 第14回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第3章、第4節、およびジャン・ジュネ                      |
| 第15回 | 第1～14回のまとめ                                                |
| 第16回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第4章、第1節、およびヨーロッパの社会問題                   |
| 第17回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第4章、第2節、およびフランスのレイシズム                   |
| 第18回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第4章、第3節、および移民と正義                        |
| 第19回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第4章、第4節、およびノルウェーにおける女性の権利               |
| 第20回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、インテルメッツォⅡ、およびフーコーについて                   |
| 第21回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第5章、第1節、およびデリダについて                      |
| 第22回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第5章、第2節、および戦争を裁く、独仏の事例                  |
| 第23回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第5章、第3節、および戦争を裁く、南アの事例                  |
| 第24回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、第5章、第4節、および植民地帝国フランス                    |
| 第25回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、エピローグ、第1節、およびフランスのライシテ                  |
| 第26回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、エピローグ、第2節、およびユダヤ人問題とパレスチナ問題             |
| 第27回 | 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』、エピローグ、第3節、および気候変動                       |
| 第28回 | ベンヤミンとハンナ・アーレント                                           |
| 第29回 | ベンヤミンとハイデガー                                               |
| 第30回 | 第16～29回のまとめ                                               |

### 授業計画コメント

教科書の内容確認と補足的な説明を行いつつ、現代思想の観点からの文学読解の事例を紹介するとともに、現代世界のアクチュア

ルな状況との関連性も考察する。必要に応じて、映像資料なども使用します。

### 授業方法

講義形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予習として、授業で扱うテキストの範囲を読み、不明な個所や概念などがあれば事前に調べておく。復習としては、授業内で疑問を抱いた事柄などがあれば、他の文献にあたり調べるか、次回への質問として整理しておく。予習と復習で1時間30分程度を要する。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 80 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

レポートは、テキストの要約あるいはコメントを年間で8本程度提出する。1本は1000字程度とする。平常点は、出席時に簡単なリアクション・ペーパーを数回提出することで評価する。レポートの提出は年間を通して授業時に随時受け付ける。最終授業時を提出の締め切りとする。

レポートは、要約であればテキストの内容理解の程度に基づいて、コメント(批判的意見)であれば問題の理解の程度と議論の掘り下げに基づいて評価する。平常点は、適切なリアクション・ペーパーが作成されているかどうかで評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

要望に応じてレポートを返却する。

### 教科書

ヴァルター・ベンヤミン:岩波新書,柿木伸之,岩波書店,1,2019,978-4-00-431797-5

### 参考文献

レイシズム・スタディーズ序説,鶴飼哲、酒井直樹、テッサ・モーリス＝スズキ、李孝徳,以文社,1,2012,978-4-7531-0304-1

日本／映像／米国,酒井直樹,青土社,1,2007,978-4-7917-6350-4

批判的想像力のために:平凡社ライブラリー,テッサ・モーリス＝スズキ,平凡社,1,2013,978-4-582-76781-0

フランス植民地主義の歴史,平野千果子,人文書院,1,2002,978-4-409-51049-5

フーコーの言説,慎改康之,筑摩書房,1,2019,978-4-480-01674-4

### 参考文献コメント

上記のほか、随時授業時に指示する。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                            |          |          |
|-------|----------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810107101                 | 科目ナンバリング | 007D007  |
| 講義名   | 科学の考え方                     |          |          |
| 副題    | 科学哲学への誘い                   |          |          |
| 英文科目名 | Scientific Way of Thinking |          |          |
| 担当者名  | 荒磯 敏文                      |          |          |
| 単位    | 4                          | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 3時限 西2－203          |          |          |

### 授業概要

たとえば、はじめて入ったお店で、美味しいものがでたでしょう。すると、次に行ったときも美味しいものがでるのではないかと「自然に」期待してもおかしくはない。一方で、あるサイコロをはじめて振ったとき、6の目が出たでしょう。では、次に振っても同じ6の目が出ると期待するだろうか。それは期待「できない」と考えるひとも多いだろう。なぜ、我々は、ある場合には期待し、ある場合には期待しないのか。その判断の裏には、いったい何が隠されているのだろうか。我々は、それが何であるのかを自覚しているだろうか。

また、たとえば、このサイコロを振り続けてみたところ、10回連続で6の目が出たでしょう。この場合、次も6の目が出ると期待できるかどうか、すこし自分の心に問いかけてみてほしい。そしてそれがyesでもnoでも答えが返ってきたならば、なぜそのように答えるべきであるのかを重ねて問うてみてほしい。ここで問われていることは、我々が常日頃行っているひとつひとつの判断の背後においてどのような「考え方」が一般的に機能しているのかということであり、そしてそれを自覚することがこの授業の目的である。

この授業では、「科学」の「考え方」が取り上げられる。そもそも、「科学」とは何なのか。そして、なぜ、「科学」はこれほどまでに成功を収めている（少なくともそのように見える）のか。そうした主題を、たとえば「帰納法」や「反証主義」や「パラダイム論」といったキーワードを用いて腑分けしていく。しかし、そうして語られる「科学」は、我々の日常的な思考と遊離したものではなく、むしろ、我々の日常的な思考の背景に潜んでいる「考え方」を一種洗練させたものであるとも言える。それゆえ、この授業は、「科学の考え方」を「学ぶ」ことの裏返しとして、「自らの考え方」に「気づく」ことを据えて進んでいくだろう。

ずいぶん長い「概要」になってしまったが、「科学」という言葉に興味をもった人だけでなく、お店の例やサイコロの例について思うところがあった人、言いたいことがあった人、他の人が何と言うだろうか気になった人には、この授業の受講をお勧めしたい。

### 到達目標

この授業では、第一に、科学と呼ばれるものの目的を哲学的な観点から明確にし、その目的が決して自明なものではないことを理解すること、第二に、その自明でない目的の達成のために、これまでどのような方法が提案されてきたのかを、我々の日常的な思考との関連をもって知ること、そして第三に、それらの方法がどのような動機をもち、どこで限界を迎えるのかを確認する(望むらくは追体験すること)ことが目標とされている。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                        |
|------|-------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション——科学とは何か——                       |
| 第2回  | 知識とは何か(1)——《知っていること》と《信じていること》はどこが違うのか    |
| 第3回  | 知識とは何か(2)——科学的な知識を得ることの難しさとは何か            |
| 第4回  | いかにして法則を正当化するか(1)——二度あることは三度ある(枚挙的帰納法)    |
| 第5回  | いかにして法則を正当化するか(2)——火のないところに煙はたたぬ(アブダクション) |
| 第6回  | いかにして法則を正当化するか(3)——帰納法の洗練(仮説演繹法)          |
| 第7回  | 帰納法に対する哲学者からの批判(1)——ヒュームの懐疑               |
| 第8回  | 帰納法に対する哲学者からの批判(2)——グルーのパラドクス             |
| 第9回  | 「科学」と「疑似科学」の区別(1)——進化論と創造科学の論争            |
| 第10回 | 「科学」と「疑似科学」の区別(2)——それぞれの言い分               |
| 第11回 | 「科学」と「疑似科学」の区別(3)——ポパーの反証主義               |
| 第12回 | 科学者の《誠実さ》とは(1)——超能力を科学で示そうとするひとびと         |
| 第13回 | 科学者の《誠実さ》とは(2)——方法論的反証主義                  |
| 第14回 | 授業のまとめ                                    |
| 第15回 | 振り返り                                      |
| 第16回 | 言語と科学の微妙な関係(1)——論理実証主義                    |
| 第17回 | 言語と科学の微妙な関係(2)——分析と総合の区別に対するクワインの批判       |
| 第18回 | 実在するとはいかなることか(1)——目に見えない原子は本当に《ある》のか      |
| 第19回 | 実在するとはいかなることか(2)——反実在論者たちの攻撃              |
| 第20回 | 実在するとはいかなることか(3)——実在論者たちの反撃               |
| 第21回 | 我々は本当に進歩しているのか——クーンのパラダイム論                |
| 第22回 | パラダイム論の破壊的な解釈——ファイヤアーベントの『方法への挑戦』を読む(上)   |
| 第23回 | パラダイム論の破壊的な解釈——ファイヤアーベントの『方法への挑戦』を読む(下)   |
| 第24回 | パラダイム論の建設的な解釈——ラカトシュの『方法の擁護』を読む(上)        |
| 第25回 | パラダイム論の建設的な解釈——ラカトシュの『方法の擁護』を読む(下)        |
| 第26回 | 絶対的な《正しさ》は存在するのか——相対主義                    |
| 第27回 | 我々は水槽の中の脳ではないと言えるのか(1)——独我論               |

- 第28回 我々は水槽の中の脳ではないと言えるのか(2)——パトナムの批判
- 第29回 授業のまとめ
- 第30回 振り返り

### 授業計画コメント

この授業内容はあくまで予定です。学生の関心に応じて進み具合には緩急が生じ得ます。

### 授業方法

講義形式で行います。  
 授業内容の性質上、質疑応答を重視します。  
 また、取り上げる主題によっては、受講者から意見やアイデアを集め、ディスカッションすることもあります。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。事前に読んでおくべき本などありません。  
 一方、各回の授業はその前の回までの内容を踏まえて進むため、前回までの内容を反芻しておくことが有効です。授業時に配布するプリントなどを見返すことで授業の内容をリマインドし、疑問点があれば質問ができるようメモなどしておいてください。(所要30分)

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考            |
|--------------------------|---------|---------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |               |
| 学年末試験(第2学期)              |         |               |
| 中間テスト                    |         |               |
| レポート                     | 50 %    | 前期レポートと後期レポート |
| 小テスト                     |         |               |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |               |
| その他(備考欄を参照)              |         |               |

### 成績評価コメント

レポートの評価基準は、①独創性があるか、②整合性があるか、③事例が適切か、④分かりやすく提示できているかの4点です。  
 平常点は、出席カードの提出だけでなく、授業中の質疑応答やコメントを評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに興味深い指摘や議論が書かれている場合、次回の授業で取り上げます。  
 レポートの書き方、採点する側の着眼点などについては、例を挙げて具体的に指導します。

### 教科書コメント

教科書はありません。

### 参考文献

- 科学の哲学,西脇与作,慶應義塾大学出版会,初,2004,4766410653  
 疑似科学と科学の哲学,伊勢田哲治,名古屋大学出版会,初,2003,978481504534  
 科学哲学の冒険,戸田山和久,NHK出版,初,2005,9784140910221

### 参考文献コメント

上記の参考文献は一般的なものですが。個別のテーマに関するものは、授業時にその都度案内をします。

### 履修上の注意

履修にあたっては、「科学」や「哲学」についての予備知識は必要ありません。  
 むしろ、何も知識がないところから1つ1つ考察を積み上げていくことで個々の説の動機を共有し、眼目を理解していくことを目的としています。そうした知的な営みを求める学生を歓迎しています。初回のイントロダクションで議論のサンプルを提示しますので、かならずそれをみて履修するかどうか判断してください。

### その他

授業内容などについて個別に質問がある場合は、授業時間外で対応いたします。  
 連絡方法については、授業時に案内いたします。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810108101        | 科目ナンバリング | 007D029  |
| 講義名   | 思想史               |          |          |
| 副題    | 西洋社会思想史           |          |          |
| 英文科目名 | History of Ideas  |          |          |
| 担当者名  | 柏崎 正憲             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 5時限 北1－401 |          |          |

授業概要

社会思想とは、社会的存在としての人間にとって導きとなる諸理念、すなわち、自由、平等、権利、等々にかんする思想である。ところで、自由とは何か？ 平等とは何か？ その答えは、歴史的に作り出される人間の自己理解に左右される。これをふまえて本講義では、他ならぬ現代の私たちにとって自由や平等がもつ意味を自覚化することをめざしつつ、社会思想史を学んでいく。

到達目標

1. 自由、平等、権利など、社会思想の基本カテゴリーについて、理論的に説明できるようになる。
2. 自分の自由で能動的な生きかたと他者の同様の生きかたとを、相互に補いあうものとして両立させるにはどうすればいいかについて、任意の体系的な社会思想を参考にしながら、筋道立てて議論できるようになる。

授業内容

| 実施回  | 内容                           |
|------|------------------------------|
| 第1回  | 前期導入 人間的な自由とは                |
| 第2回  | 人間の自然と慣習 プラトン                |
| 第3回  | 政治的動物としての人間(1) アリストテレス       |
| 第4回  | 理性的被造物としての人間(1) キケロ、アウグスティヌス |
| 第5回  | 政治的動物としての人間(2) マキャヴェッリ       |
| 第6回  | 理性的被造物としての人間(2) ルター、カルヴァン    |
| 第7回  | 演習1 論文指導                     |
| 第8回  | 自由な市民 モア、ハリントン               |
| 第9回  | 自由な人間 ホブズ                    |
| 第10回 | 自由と自我 デカルト、ロック               |
| 第11回 | 社会契約(1) ホブズ、ロック              |
| 第12回 | 道德感覚 ヒューム、スミス                |
| 第13回 | 社会契約(2) ルソー                  |
| 第14回 | 自由と自律 カント                    |
| 第15回 | 理解度の確認                       |
| 第16回 | 後期導入 社会を形成する人間               |
| 第17回 | 人間の権利と慣習 ペイン、バーク             |
| 第18回 | 功利主義 ベンサム、ミル                 |
| 第19回 | 自己変革的な人間 ヘーゲル                |
| 第20回 | 労働する人間 サン＝シモン、マルクス           |
| 第21回 | 社会主義 マルクス                    |
| 第22回 | 群衆としての人間 アーレント               |
| 第23回 | 実存としての人間 サルトル                |
| 第24回 | 大衆社会の民主主義 マクファースン            |
| 第25回 | 演習2 論文指導                     |
| 第26回 | 現代的リベラリズム ロールズ               |
| 第27回 | 脱植民地化 ファノン                   |
| 第28回 | 力としての人間 フーコー                 |
| 第29回 | 越境する人間 ベンハビブ                 |
| 第30回 | 到達度の確認                       |

授業方法

講義

使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料や紹介した文献を読んで復習すること(1-2時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考        |
|--------------------------|---------|-----------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |           |
| 学年末試験(第2学期)              |         |           |
| 中間テスト                    | 30 %    | 前期小論文     |
| レポート                     | 40 %    | 後期小論文     |
| 小テスト                     |         |           |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    | リアクションシート |
| その他(備考欄を参照)              |         |           |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションシートをふまえて補足説明や質問への回答をおこなう。

### 教科書コメント

文献表は第1回講義で配布する。少なくともレポート(後期小論文)で使用するテキストは、自分で購入すること。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810109101        | 科目ナンバリング | 007D008  |
| 講義名   | 応用倫理学             |          |          |
| 英文科目名 | Applied Ethics    |          |          |
| 担当者名  | 山本 圭一郎            |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 5時限 西1－306 |          |          |

授業概要

この授業では応用倫理学と呼ばれる学問領域をできる限り広く紹介します。大雑把に言えば、応用倫理学は、現代社会においてわたしたちが直面する倫理的問題を扱う倫理学の1分野です。倫理学は道徳哲学や実践哲学とも呼ばれますが、規範倫理学(一般規範倫理学・応用倫理学)と非規範倫理学(メタ倫理学・記述倫理学)に大別できます。このように、応用倫理学は倫理学の1分野であるため、この授業では最初に倫理学の入門的な講義を行います。具体的には、まず、哲学と倫理学の関係、次に、生命倫理学や環境倫理学でも大きな問題となる事実と価値問題(メタ倫理学的問題)、最後に、功利主義、義務論、徳倫理学などの一般規範倫理学の理論(倫理理論)について概説します。なお、事実と価値問題については、生命倫理学や環境倫理学におけるトピックも視野に入れてスモールグループディスカッション(SGD)を行います。このようにして、倫理学における応用倫理学の位置付けを理解します。

次に、応用倫理学を掘り下げて紹介します。応用倫理学は医療・環境・情報化社会・ビジネス等のさまざまな領域をカバーしますが、ここでは医学・医療(生命倫理学)およびコンピュータ・情報化社会(情報倫理学)を中心にあつかいます(なお、価値問題をあつかう時に環境倫理学も若干紹介する予定です)。生命倫理学では、ビデオ等も活用しながら医療倫理(研究倫理や臨床倫理等)に関する主な問題を紹介し、SGDも数回行う予定です。情報倫理学では倫理理論だけでなく政治哲学の理論も部分的に紹介しながら、プライバシーや知的所有権等の問題をあつかいます(なお、情報倫理学でもSGDは行います)。本授業は、これらの学習を通じて応用倫理学への理解を深めることを目的とします。

到達目標

- (1)一般規範倫理学と応用倫理学の関係を理解できるようになる。
- (2)生命倫理学とは何か、それが扱っている倫理的問題とは何かを説明できるようになる。
- (3)情報倫理学とは何か、それが扱っている倫理的問題とは何かを説明できるようになる。
- (4)環境倫理学における生命中心主義等の議論を理解できるようになる。
- (5)現代社会の倫理的問題を考察するために必要な分析能力を身に付けることができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                  |
|------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | 前期イントロダクション: 哲学と倫理学の関係                              |
| 第2回  | 倫理学における分類: 規範倫理学(一般規範倫理学・応用倫理学)と非規範倫理学(メタ倫理学・記述倫理学) |
| 第3回  | 価値論: 事実と価値問題                                        |
| 第4回  | 倫理学と価値論: 福利主義(主に環境倫理学における生命中心主義等)                   |
| 第5回  | 一般規範倫理学: 義務論                                        |
| 第6回  | 一般規範倫理学: 徳倫理学                                       |
| 第7回  | 一般規範倫理学と応用倫理学の関係: 生命倫理学の歴史                          |
| 第8回  | 生命倫理学: 研究倫理(1)                                      |
| 第9回  | 生命倫理学: 研究倫理(2)                                      |
| 第10回 | 生命倫理学: 研究倫理(3)                                      |
| 第11回 | 生命倫理学: 医療倫理の四原則と臨床倫理                                |
| 第12回 | 生命倫理学: 終末期医療                                        |
| 第13回 | 生命倫理学: 安楽死問題(1)                                     |
| 第14回 | 生命倫理学: 安楽死問題(2)                                     |
| 第15回 | 前期まとめ                                               |
| 第16回 | 後期イントロダクション: 一般規範倫理学と応用倫理学の関係の復習                    |
| 第17回 | 生命倫理学: 臨床倫理と臓器移植の倫理的問題                              |
| 第18回 | 生命倫理学: 生殖補助医療(1)                                    |
| 第19回 | 生命倫理学: 生殖補助医療(2)                                    |
| 第20回 | 生命倫理学: 公衆衛生倫理                                       |
| 第21回 | 情報倫理学: コンピュータ倫理学と情報通信技術の特異性                         |
| 第22回 | 情報倫理学: インターネットに対する法やCodeによる規制の問題                    |
| 第23回 | 情報倫理学: プライバシーとハッカー倫理と政治哲学                           |
| 第24回 | 情報倫理学: プライバシー理論とリベラリズムの伝統                           |
| 第25回 | 情報倫理学: プライバシー理論とリベラリズム・フェミニズム・コミュニタリアニズム            |
| 第26回 | 情報倫理学: 領域型プライバシー理論と自己情報コントロール理論                     |
| 第27回 | 情報倫理学: 知の所有をめぐる問題(1)                                |
| 第28回 | 情報倫理学: 知の所有をめぐる問題(2)                                |

第29回 情報倫理学:知的所有権とハッカー倫理再考

第30回 後期まとめ

### 授業計画コメント

受講者の関心や理解度に応じて若干内容や進度を変更する可能性があります。

### 授業方法

基本的には講義形式ですが、スモールグループディスカッション(SGD)を実施する回はむしろ演習に近い形式となります。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回の講義の終わりに「復習用の問題」を提示します。講義後は、該当する講義で配付した資料や自分で書き留めたノートを見ながらこの復習用の問題を解いてみてください。そうすることでより効率的な復習を行うことができます。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                              |
|--------------------------|---------|-------------------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    | 記述式テストによって評価                                    |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    | 記述式テストによって評価                                    |
| 中間テスト                    |         |                                                 |
| レポート                     |         |                                                 |
| 小テスト                     |         |                                                 |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | クラスならびにスモールグループディスカッションに積極的に参加し発言しているかどうかによって評価 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                                 |

### 成績評価コメント

学期末試験および学年末試験の問題は、毎回の講義の終わりに提示する「復習用の問題」から出題します。複数ある問題のうちいくつか選んで解答して頂きますが、その評価は主に(1)講義で扱った概念や理論を理解しているかどうか、(2)講義やスモールグループディスカッションで扱ったトピックや論点をきちんと把握しているかどうか、(3)論理的に記述できているかどうかから行います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の講義の終わりに「復習用の問題」を提示し、次の講義の冒頭でその解答について質問・解説をします。

### 教科書コメント

特にありません。講義内で配布する資料や紹介する文献が中心となります。

### 参考文献

生命倫理学とは何か: 入門から最先端へ 』,アラスデア・V. キャンベル,勁草書房,1,2016,978-4326102556

『情報の倫理学』:現代社会の倫理を考える(15),水谷雅彦,丸善,1,2003,978-4621072707

### 参考文献コメント

その他の参考書は授業内で紹介します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

講義後に何かあればお知らせください。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                             |          |          |
|-------|-----------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810110101                  | 科目ナンバリング | 007D009  |
| 講義名   | 中国の思想と文化                    |          |          |
| 副題    | 中国における儒教の歴史                 |          |          |
| 英文科目名 | Chinese Thought and Culture |          |          |
| 担当者名  | 小野 泰教                       |          |          |
| 単位    | 4                           | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 2時限 西1－202           |          |          |

### 授業概要

この授業では、中国の思想と文化の重要な構成要素である儒教について、前近代まで(清末まで)の展開を通史的に考察する。儒教については、古めかしい旧道德のイメージが持たれることが多いが、実は中国の長い歴史の中で独自の変化をとげてきたものであり、またその内容も時に現状を変革する思想として機能することがあった。この授業では儒教が各時代において有した意味を、当時の人々が残した史料も読みつつ明らかにしたい。また授業では、儒教を歴史的文脈に位置づける作業を行うと同時に、それを通じて、現代に生きるわれわれが儒教とどのような思想的対話ができるのかを考えてみたい。

### 到達目標

- ・中国の思想と文化の重要な構成要素である儒教について理解を深め、それが中国社会において持っていた役割を説明することができる。
- ・古代以来継承されてきた思想や文化が、どのようにしてその後につながっているかを知ること、長期的かつ歴史的な観点から物事を説明することができる。
- ・儒教に対する検討を通じて、自身の思考をより豊かにすることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                      |
| 第2回  | 儒教の構造                      |
| 第3回  | 1. 春秋戦国時代の社会状況             |
| 第4回  | 2. 儒家思想の登場(1)孔子            |
| 第5回  | 3. 儒家思想の登場(2)孟子            |
| 第6回  | 4. 儒家思想の登場(3)諸子百家の論争       |
| 第7回  | 5. 漢代の儒教(1)前漢の儒教           |
| 第8回  | 6. 漢代の儒教(2)今文と古文の論争        |
| 第9回  | 7. 漢代の儒教(3)後漢の儒教           |
| 第10回 | 8. 魏晉南北朝の儒教(1)玄学と儒教        |
| 第11回 | 9. 魏晉南北朝の儒教(2)仏教と儒教        |
| 第12回 | 10. 魏晉南北朝の儒教(3)道教と儒教       |
| 第13回 | 11. 唐代の儒教(1)経学の発展          |
| 第14回 | 12. 唐代の儒教(2)三教の関係          |
| 第15回 | 理解度の確認                     |
| 第16回 | 13. 唐代の儒教(3)唐王朝の混乱と儒教      |
| 第17回 | 14. 宋代の儒教(1)士大夫の登場         |
| 第18回 | 14. 宋代の儒教(2)道学の形成          |
| 第19回 | 15. 宋代の儒教(3)朱熹の思想          |
| 第20回 | 16. 宋代の儒教(4)朱熹の思想的影響力      |
| 第21回 | 17. 元代・明代の儒教(1)元代の朱子学      |
| 第22回 | 18. 元代・明代の儒教(2)陽明学の登場とその影響 |
| 第23回 | 19. 元代・明代の儒教(3)明後期の実学の潮流   |
| 第24回 | 20. 清代の儒教(1)明末清初の思想状況      |
| 第25回 | 21. 清代の儒教(2)考証学の発展         |
| 第26回 | 22. 清代の儒教(3)経世思想および公羊学の展開  |
| 第27回 | 23. 清末の儒教(1)康有為の思想         |
| 第28回 | 24. 清末の儒教(2)章炳麟の思想         |
| 第29回 | 授業の復習                      |
| 第30回 | 理解度の確認                     |

**授業方法**

基本的にはプリントを用いた講義形式で行うが、理解度の確認のため、学生から発言やコメントペーパー等の提出を求める。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

- ・各回のテーマについて、書籍やインターネットにて自分なりに情報を収集しておく(約1.5時間)。
- ・授業後は、自分の関心を持った点や感想をメモしておき、関連する知識を調べておく(約1.5時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 30 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 30 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 20 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

- ・テストの答案は返却し、授業中に解説を行う。
- ・各回の議論における学生の発言に対しては、そのつどコメントを行う。

**教科書コメント**

教員が作成したプリントをもとに授業を進める。

**参考文献コメント**

授業中に指示する。

**その他**

- ・この授業は、中国語や漢文に関する知識をあらかじめ持っていなくても参加できる。ただし、この授業の内容が、自身の専攻や関心にどのように役立つかを常に意識して取り組んでほしい。
- ・授業で発言する時には、自分の分かるところまでしっかりと考えること。分からない場合でも「どこが分からないのか」「なぜ分からないのか」をはっきり答えること。授業では、そうした発言・思考への頑張りを評価する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                      |          |          |
|-------|----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810200101           | 科目ナンバリング | 007D010  |
| 講義名   | 言語と文化A               |          |          |
| 英文科目名 | Language and Culture |          |          |
| 担当者名  | 斉木 美知世               |          |          |
| 単位    | 4                    | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 4時限 西5－303    |          |          |

### 授業概要

言語と文化の関係は多様な観点から考察されてきました。伝統的な日本語研究においても、言語現象に対する説明の拠り所として「日本文化」、「日本人の思考法」、「日本人の国民性」などの概念が持ち出されることがあります。一方で、言語学の世界では、言語自体が思考に影響を与えているという考え方もあり、言語と思考あるいは文化との関係は、興味の尽きないテーマになっています。本授業では、文化・歴史・思考法・国民性などを反映していると言われることのある言語現象等を概観してゆきます。これにより、「言語」という概念の多面性、およびその反映とも言える研究分野の多様性、言語研究の広がりを実感していただければと思います。

### 到達目標

諸言語の言語現象等を概観することにより、受講生が、①それぞれの言語を今ある姿に育んできた文化や歴史に対する理解を深めること、②特に日本語および日本文化に関する基礎的知識を確認することを到達目標とします。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                         |
|------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス(授業の概要、授業の進め方、一般的注意など)                |
| 第2回  | 母語の獲得／習得① ～導入～                             |
| 第3回  | 母語の獲得／習得② ～初めての言葉は何？～                      |
| 第4回  | 母語の獲得／習得③ ～事例研究～                           |
| 第5回  | 母語の獲得／習得④ ～言語理論との関係～                       |
| 第6回  | 母語の獲得／習得⑤ ～言語と脳、音楽と脳～                      |
| 第7回  | 言語と文化の関係① ～『源氏物語』から考える～                    |
| 第8回  | 「オノマトペ」をめぐって① ～導入～                         |
| 第9回  | 「オノマトペ」をめぐって② ～《ピカピカ光る》《ブーブー鳴く》は英語で何と言うか？～ |
| 第10回 | 「オノマトペ」をめぐって③ ～《がぶりとかむ》と《くちやくちやかむ》～        |
| 第11回 | 英語の語彙をめぐって① ～導入～                           |
| 第12回 | 英語の語彙をめぐって② ～英語はどこから来たのか？～                 |
| 第13回 | 英語の語彙をめぐって③ ～言語と歴史～                        |
| 第14回 | 第1学期総括およびレポート作成時の留意点について                   |
| 第15回 | 到達度の確認                                     |
| 第16回 | 英語の語彙をめぐって④ ～言語と文化～                        |
| 第17回 | 英語の語彙をめぐって⑤ ～言語と社会～                        |
| 第18回 | 言語と文化の関係② ～芭蕉の句から考える～                      |
| 第19回 | 日本語の語彙をめぐって① ～導入～                          |
| 第20回 | 日本語の語彙をめぐって② ～日本語はどこから来たのか？～               |
| 第21回 | 日本語の語彙をめぐって③ ～語彙の比較から見えてくるもの～              |
| 第22回 | 日本語の語彙をめぐって④ ～日本語起源論に関連諸分野から接近する～          |
| 第23回 | 日本語の語彙をめぐって⑤ ～ホモ・サピエンスの歴史から接近する～           |
| 第24回 | 「非対格性」をめぐって① ～導入～                          |
| 第25回 | 「非対格性」をめぐって② ～日英語における結果構文～                 |
| 第26回 | 「非対格性」をめぐって③ ～三島由紀夫、シェイクスピアなど～             |
| 第27回 | 「非対格性」をめぐって④ ～完了の助動詞「つ・ぬ」と「HAVE・BE」～       |
| 第28回 | 「非対格性」をめぐって⑤ ～言語と思考～                       |
| 第29回 | 第2学期総括                                     |
| 第30回 | 到達度の確認                                     |

### 授業計画コメント

上記の予定は、受講生の興味や授業の進捗状況に応じて変更する場合があります。

### 授業方法

基本的に講義形式で行ないますが、随時、コメントペーパーを提出していただきます。教科書は使用せず、ハンドアウトや資料などを配布します。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

予習として、授業の内容に関わる問題を随時出題します。まずは先行研究に頼ることなく、自らの視点・発想で考えてみてください。  
授業中に提起する諸問題を主体的に考察するために必要な作業となります(約1時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 30 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 40 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

詳しくは第1回目授業にて説明しますので、出来る限り出席してください。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業の予習を兼ねた課題(※要提出)の内容について、またコメントペーパーに記された質問等について、授業中に取り上げ、解説します。

**参考文献**

国語学史の近代と現代 ―研究史の空白を埋める試み, 齊木美知世・鷺尾龍一, 開拓社, 第1版, 2014, 9784758922043  
日本文法の系譜学 ―国語学史と日本語学史の接点: 開拓社 言語・文化選書32, 齊木美知世・鷺尾龍一, 開拓社, 第1版, 2012, 9784758925327

**参考文献コメント**

その他、授業の進度に合わせて授業時に適宜紹介します。

**その他**

予備知識は前提としませんが、受講期間中は言語に関わる諸現象・諸問題に関心を向けてください。専攻を問わず、幅広い興味をもつ学生を歓迎します。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                      |          |          |
|-------|----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810200102           | 科目ナンバリング | 007D010  |
| 講義名   | 言語と文化B               |          |          |
| 副題    | 日本語コミュニケーション研究       |          |          |
| 英文科目名 | Language and Culture |          |          |
| 担当者名  | 新井 保裕                |          |          |
| 単位    | 4                    | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 4時限 中央－303    |          |          |

### 授業概要

本授業では異文化コミュニケーションの観点から日本語コミュニケーションを見、実際にコミュニケーション行動研究を実践することで、日本語コミュニケーションの共通性と多様性に対する理解を深めていく。前半は異文化コミュニケーションは異なる国、言語、文化にのみ見られるものではなく身近に存在するものであるという立場に立ち、日本語コミュニケーションについて再考察する。後半は個人的な経験や感想という主観的なものからコミュニケーション行動を論じるのではなく、フィールドワークに基づく質的・量的調査結果や先行研究に基づき、コミュニケーション行動を実証・論証できるようになることを目指す。

### 到達目標

異文化コミュニケーションの観点から日本語コミュニケーションの共通性と多様性を学術的に理解するだけでなく、友人間や就職活動等、様々な日本語・異文化コミュニケーション場面で生じ得る問題の原因を自ら究明し、それを解決できる実践力を養う。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                  |
|------|-------------------------------------|
| 第1回  | 異文化コミュニケーションから見る日本語コミュニケーション        |
| 第2回  | メディアに見られる日本語コミュニケーション               |
| 第3回  | 言語行動コミュニケーション① 謝罪行動                 |
| 第4回  | 言語行動コミュニケーション② 感謝行動                 |
| 第5回  | 言語行動コミュニケーション③ 謝罪と感謝の関係             |
| 第6回  | 言語行動コミュニケーション④ 挨拶行動                 |
| 第7回  | 言語行動コミュニケーション⑤ 名前呼称、代名詞呼称           |
| 第8回  | 言語行動コミュニケーション⑥ 肩書呼称、親族語呼称           |
| 第9回  | 言語行動コミュニケーション⑦ 呼称の使われ方              |
| 第10回 | 非言語行動コミュニケーション① ジェスチャー              |
| 第11回 | 非言語行動コミュニケーション② スキンシップ              |
| 第12回 | メディア・コミュニケーション                      |
| 第13回 | 日本語コミュニケーション・モデル                    |
| 第14回 | コミュニケーション行動研究開始方法 先行研究の見つけ方・読み方     |
| 第15回 | 理解度の確認                              |
| 第16回 | コミュニケーション行動の調査方法① 量的調査と質的調査、調査の種類   |
| 第17回 | コミュニケーション行動の調査方法② アンケート調査票の構成       |
| 第18回 | コミュニケーション行動の調査方法③ インターネットによるアンケート調査 |
| 第19回 | 学生中間発表① 言語行動                        |
| 第20回 | 学生中間発表② 非言語行動                       |
| 第21回 | 学生中間発表③ メディア・コミュニケーション              |
| 第22回 | コミュニケーション行動の分析・考察方法① 質的分析と量的分析      |
| 第23回 | コミュニケーション行動の分析・考察方法② 統計分析           |
| 第24回 | 学生最終発表① 国内言語行動                      |
| 第25回 | 学生最終発表② 国内非言語行動                     |
| 第26回 | 学生最終発表③ メディア                        |
| 第27回 | 学生最終発表④ 国外言語行動                      |
| 第28回 | 学生最終発表⑤ 国外非言語行動                     |
| 第29回 | 授業の総括                               |
| 第30回 | 自主研究                                |

### 授業計画コメント

受講者の人数、要望等に応じて上記授業計画を変更する可能性がある。

### 授業方法

第1学期は基本的に講義形式で行うが、毎回リアクションペーパーを提出してもらうほか、適宜質問時間、議論時間を設ける。 第2学

期は講義形式と演習形式の両方で行い、受講者にグループワークを通じて自らコミュニケーション行動調査を実践、発表してもらう形をとる。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

- ・事前に配布するレジュメに沿って、次回授業で扱うコミュニケーション行動調査について回答するとともに、その調査内容を批評すること(第1学期:1時間)
- ・自身でコミュニケーション行動調査を計画、実施し分析すること(第2学期:1時間)
- ・授業で提示した資料の必要部分をすべて読み返し、疑問部分をまとめておくほか、自分自身が行う調査にどのように活かせるか考えること(通年:1時間)
- ・必要に応じて、授業内で提示された参考文献に目を通すこと(通年:1時間～2時間)

## 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                              |
|--------------------------|---------|-------------------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                                                 |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                                                 |
| 中間テスト                    |         |                                                 |
| レポート                     | 20 %    | 第1学期末にレポートを課し、コミュニケーション行動研究の批評と改善を行ってもらい、評価する。  |
| 小テスト                     |         |                                                 |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 40 %    | 毎回のリアクションペーパーや授業参加度をもとに評価する。                    |
| その他(備考欄を参照)              | 40 %    | 中間発表を通じて教員や他受講者から得たフィードバックをもとに最終発表を行ってもらい、評価する。 |

## 成績評価コメント

授業や先行研究の内容をよく理解するだけでなく、それを発展させる形でコミュニケーションを自分自身で理解及び考察、実践できるとよい。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出のリアクションペーパーは次回授業で教員が一部に対して回答してフィードバックを行う。また第2学期はグループワークを行なってもらいが、都度授業内で各グループに対してコメントを行う。

## 教科書コメント

一つのテキストではなく、担当教員が作成したppt、レジュメを用いることで、異文化コミュニケーションに関する広い知見を得られるようにする。教材はG-Portより期間限定でダウンロードできる。

## 参考文献コメント

授業時間内に適宜指示する。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

コミュニケーションは言語が重要な役割を担うものであるため、日本語や外国語など言語に高い関心を持つ学生の受講を歓迎する。

## カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                        |          |          |
|-------|------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810201101             | 科目ナンバリング | 007D011  |
| 講義名   | 比較文学                   |          |          |
| 副題    | ラフカディオ・ハーンとその周辺        |          |          |
| 英文科目名 | Comparative Literature |          |          |
| 担当者名  | 南條 竹則                  |          |          |
| 単位    | 4                      | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 5時限 西5－302      |          |          |

### 授業概要

ラフカディオ・ハーン、日本名小泉八雲は「怪談」「骨董」などの著書で明治期の日本の文化・風俗を海外に紹介した。一方、英語・英文学の教師として、彼は上田敏ら日本の文学者たちに深甚な影響を及ぼした。本講では、ハーンの代表作「怪談」を読みつつ、彼と関係のある日本の文学者たちについて考察する。とくに後半では永井荷風を取り上げ、荷風の代表作「墨東綺譚」を読むとともに、文明批評家としてのハーンとの共通点を考える。

### 到達目標

文学的なテキストから、その背景にある宗教的・文化的な問題を指摘し、論理的に分析する能力を身につけることを目標とする。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                   |
|------|----------------------|
| 第1回  | 授業の説明。               |
| 第2回  | 比較文学という学問の分野について 第一回 |
| 第3回  | 比較文学という学問の分野について 第二回 |
| 第4回  | ラフカディオ・ハーンについて 第一回   |
| 第5回  | ラフカディオ・ハーンについて 第二回   |
| 第6回  | 「怪談」を読む 第一回          |
| 第7回  | 「怪談」を読む 第二回          |
| 第8回  | 「怪談」を読む 第三回          |
| 第9回  | 「怪談」を読む 第四回          |
| 第10回 | 「怪談」を読む 第五回          |
| 第11回 | 「怪談」を読む 第六回          |
| 第12回 | 「怪談」を読む 第七回          |
| 第13回 | 「怪談」を読む 第八回          |
| 第14回 | 小まとめ                 |
| 第15回 | ディスカッション             |
| 第16回 | 「怪談」を読む 第九回          |
| 第17回 | 「怪談」を読む 第十回          |
| 第18回 | 「怪談」を読む 第十一回         |
| 第19回 | 上田敏と「海潮音」            |
| 第20回 | 永井荷風と「珊瑚集」           |
| 第21回 | 「墨東綺譚」を読む 第一回        |
| 第22回 | 「墨東綺譚」を読む 第二回        |
| 第23回 | 「墨東綺譚」を読む 第三回        |
| 第24回 | 「墨東綺譚」を読む 第四回        |
| 第25回 | 「墨東綺譚」を読む 第五回        |
| 第26回 | 「墨東綺譚」を読む 第六回        |
| 第27回 | 「墨東綺譚」を読む 第七回        |
| 第28回 | ディスカッション             |
| 第29回 | まとめ                  |
| 第30回 | 予備日                  |

### 授業方法

講義形式で行うが、毎回学生にテキストの音読とコメントを求める。また必要に応じてディスカッションを行う。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**  
毎回所定のテキストをあらかじめ熟読しておくこと。特に日本語テキストは音読を求めるので、辞書を引いて、わからない語句をしらべておくこと。約30分

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                       |
|--------------------------|---------|--------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                          |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                          |
| 中間テスト                    |         |                          |
| レポート                     | 70 %    | (授業時に説明した要点をとらえているかどうか。) |
| 小テスト                     |         |                          |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    | (授業態度。予習をよくしているかどうか。)    |
| その他(備考欄を参照)              |         |                          |

**成績評価コメント**  
レポートに関しては、授業時に説明した要点をとらえているかどうか。平常の授業に関しては、授業態度、および予習をよくしているかどうかを評価のポイントとする。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**  
受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。レポートについては、全体の傾向を把握した上で、今後アカデミック・ライティングを行う際に役立つようコメントをする。

**教科書**  
 溍東綺譚: 岩波文庫, 永井荷風, 岩波書店  
 怪談: 岩波文庫, 小泉八雲, 岩波書店  
 比較文学入門: 文庫クセジュ, イヴ・シュヴレル, 白水社, 2009, 97845609340

**参考文献コメント**  
授業時に適宜指示する。

**履修上の注意**  
履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

**その他**  
教科書以外にも、授業時に紹介した文学作品をできるだけ読んでおくこと。

**カリキュラムマップ**  
以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                    |          |          |
|-------|--------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810202101         | 科目ナンバリング | 007D019  |
| 講義名   | 芸術学                |          |          |
| 副題    | —西洋美術の諸相—          |          |          |
| 英文科目名 | Theory of Fine Art |          |          |
| 担当者名  | 太田 みき              |          |          |
| 単位    | 4                  | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 4時限 西2－401  |          |          |

### 授業概要

近年、西洋美術史、特に絵画に対する一般の方々の関心が急激に高まっています。ビジネスマンや主婦向けの入門書もたくさん出版されているところ。この講義では、西洋絵画を中心として、毎回トピックを提示しながら「芸術」について多角的に考察していきます。日本では数多くの展覧会がいつも開催されています。なんとなく綺麗だなと感じるだけだったり、どういう場面なのだろうと疑問に思うだけだったりしたものが、この講義を通じて、より身近に面白く感じられるようになるはずです。

第一学期では、西洋において、さまざまな「芸術」で扱われてきた主要な主題を紹介します。ここでは、絵画や彫刻だけでなく、演劇やオペラ、映画にも言及します。ひとつの伝統的な主題から、いかに多様な表現が生まれてくるかに、みなさんは面白さを感じるはずです。

第二学期は、美術と社会の関係を掘り下げ、より深く作品を楽しむことができるような様々なトピックを提示していきます。最後に、絵画と彫刻、美術と文学、美術と音楽など、諸芸術の特徴を比較考察します。

哲学科の1～2年生で美学・美術史を専攻しようと考えている方には、作品分析の具体的な方法があちらこちらに散りばめられているので、ぜひ履修をしてください。基礎教養科目の「西洋美術史」の授業とリンクしている情報がたくさんあります。併せて履修すると美術史の基礎的な考え方をマスターすることができるでしょう。

### 到達目標

- ・美術館や展覧会で作品を楽しむことができるようになる。
- ・西洋で様々な「芸術」の主題となってきたキリスト教、ギリシャ・ローマ神話についての基礎的な知識を得ることができる。
- ・美術について多様な角度から考察することができるようになる。
- ・「芸術」の各分野について、その共通点や相違点を考察できるようになる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                            |
|------|-------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                     |
| 第2回  | 「芸術学」という学問                    |
| 第3回  | 主題(1)—宗教:旧約聖書                 |
| 第4回  | 主題(1)—宗教:旧約聖書・新約聖書            |
| 第5回  | 主題(1)—宗教:新約聖書                 |
| 第6回  | 主題(2)—神話と寓意A                  |
| 第7回  | 主題(2)—神話と寓意B                  |
| 第8回  | 主題(3)—歴史A                     |
| 第9回  | 主題(3)—歴史B                     |
| 第10回 | 主題(4)—風俗A                     |
| 第11回 | 主題(4)—風俗B                     |
| 第12回 | 主題(5)—肖像                      |
| 第13回 | 主題(6)—風景                      |
| 第14回 | 主題(7)—静物                      |
| 第15回 | 理解度の確認                        |
| 第16回 | 工房システムと同業組合                   |
| 第17回 | 美術アカデミー—イタリア、フランス、日本          |
| 第18回 | 美術に固有の問題—造形(1)                |
| 第19回 | 美術に固有の問題—造形(2)                |
| 第20回 | 美術と身体表現—身振り、表情、視線             |
| 第21回 | 西洋美術とオリエンタリズム                 |
| 第22回 | 美術における「伝統」と「創造」               |
| 第23回 | 美術の鑑賞の場(1)権力への奉仕—教会、宮廷、コレクション |
| 第24回 | 美術の鑑賞の場(2)国民の「文化財」—展覧会と美術館    |
| 第25回 | 美術における「写真」                    |
| 第26回 | 諸芸術比較論(1)絵画と彫刻—平面と立体          |
| 第27回 | 諸芸術比較論(2)美術と文学—時間芸術と空間芸術A     |
| 第28回 | 諸芸術比較論(3)美術と文学—時間芸術と空間芸術B     |
| 第29回 | 学年末のまとめ                       |

**授業計画コメント**

内容によっては1回で終わらないことも予想されますので、その場合には同じテーマを2回続けることもあります。また、履修者の反応を見ながら、理解が足りないと思われる場合には、「理解度の確認」の回を使って補足する予定です。

**授業方法**

毎回、授業の内容をまとめたレジュメを配布します。レジュメは穴埋め箇所があり、パワーポイントで視覚的な資料を提示しながら、重要なポイントを随時埋めていく形式を取ります。パワーポイントの映写中は間接照明程度にしますので、ノートを取るためにペンライトなどの個人用照明を用意することをお勧めします。パワーポイントの画面を全て印刷したものは配布しませんが、主要作品や図版リストをレジュメに添付しますので、復習しやすいはずです。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

前回の授業と内容がつながっていることが多いので、レジュメを読み直すなどの復習をしておく、授業の内容がよりよく理解できます。適宜、参考文献を紹介しますので、興味がある方は知識を広げることも可能です。試験前には対策もします。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 45 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 45 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

出席を取って成績に反映しますので、気をつけてください。その平常点と、各学期末の試験、合計2回の成績の3つで評価します。試験は客観問題と論述問題で構成します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

携帯でコメントできるアプリを使ってみなさんに感想を書いてもらい、フィードバックを次の授業内で行います。各学期のテストについても出題方式などを事前にお伝えします。

**参考文献**

西洋美術のことば案内,高橋裕子,小学館,2008  
 まなごしのレッスン①西洋伝統絵画,三浦篤,東京大学出版,2001  
 まなごしのレッスン②西洋近現代絵画,三浦篤,東京大学出版,2015  
 すぐわかる西洋絵画よみとき66のキーワード,千足伸行,東京美術,2008  
 西洋美術館,青柳正規監修,小学館,1999

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                                                                                                                     |          |          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810203101                                                                                                                          | 科目ナンバリング | 007D018  |
| 講義名   | 舞台・映像芸術A                                                                                                                            |          |          |
| 副題    | 上演芸術の様々な視点                                                                                                                          |          |          |
| 英文科目名 | Stage and Picture Art                                                                                                               |          |          |
| 担当者名  | 多和田 真太良.砂澤 雄一.伊藤 優子.今村 麻子.上田 洋子.岡田 尚文.桂 真菜.加納 豊美.川崎 陽子.岸 正人.柴田 隆子.紫牟田 伸子.田室 寿見子.寺尾 格.中野 春夫.根岸 徹郎.藤崎 周平.二村 周作.松山 立.宮脇 永吏.八木 雅子.横堀 応彦 |          |          |
| 単位    | 4                                                                                                                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 4時限 西5－201                                                                                                                   |          |          |

### 授業概要

舞台芸術という思い浮かぶのは、演劇、バレエ、ミュージカル、あるいは歌舞伎やオペラ、コンテンポラリー・ダンスなどでしょうか。こうした上演形体や名称は、個々の歴史的、社会的背景の中で生まれ、形を変えて生きつづけているものです。この授業では国内外の事例をトピック的に扱いながら、舞台芸術が社会との関係でどのように成立してきたのかを学び、舞台芸術を学問領域で扱うことの今日的意味を考えます。舞台芸術はいかに観客を楽しませるかに腐心してきたメディアでもあります。複数の専門の異なる講師による様々な問題系に接することで、自分自身の身体を通して時代や社会を考える楽しみ方を学んでほしいと思います。

### 到達目標

舞台芸術の社会的・文化的意味の変遷を理解し、表象文化や社会の問題を分析的に思考する力を身に付けることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                              |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション 演劇ってなんだろう？①(多和田真太良)   |
| 第2回  | 世界の演劇祭(桂真菜)                     |
| 第3回  | 大学で演劇を学ぶということ 演劇という用語について(藤崎周平) |
| 第4回  | 演劇ってなんだろう？②(多和田真太良)             |
| 第5回  | 近代のシェイクスピア(伊藤優子)                |
| 第6回  | 演劇ってなんだろう？③(多和田真太良)             |
| 第7回  | 同時代のシェイクスピア劇上演(中野春夫)            |
| 第8回  | 戦後フランスの演劇(宮脇永吏)                 |
| 第9回  | ドイツ現代演劇の特性(寺尾格)                 |
| 第10回 | フランスの演劇①(根岸徹郎)                  |
| 第11回 | フランスの演劇②(八木雅子)                  |
| 第12回 | 現代ロシアのパフォーマンス(上田洋子)             |
| 第13回 | 現代日本演劇鳥瞰図(多和田真太良)               |
| 第14回 | 第1学期振り返り(多和田真太良)                |
| 第15回 | まとめ(多和田真太良)                     |
| 第16回 | 第2学期イントロダクション 演劇製作の現場(多和田真太良)   |
| 第17回 | 公共劇場の人材育成と教育普及(田室寿見子)           |
| 第18回 | 舞踊と舞踏(柴田隆子)                     |
| 第19回 | 公共のスペクタクル～現代都市論(紫牟田伸子)          |
| 第20回 | イギリスの現代俳優教育とシェイクスピア(松山立)        |
| 第21回 | 舞台美術の世界(二村周作)                   |
| 第22回 | 実践舞台衣裳論～衣服は饒舌(加納豊美)             |
| 第23回 | 演劇と映画～俳優の身体論(岡田尚文)              |
| 第24回 | 舞台芸術制作の現場(川崎陽子)                 |
| 第25回 | 公共劇場の役割(岸正人)                    |
| 第26回 | 演劇ジャーナリストの仕事(今村麻子)              |
| 第27回 | 観客を考える(藤崎周平)                    |
| 第28回 | 高校演劇の「今」(砂澤雄一)                  |
| 第29回 | 国内外の舞台芸術フェスティバル(横堀応彦)           |
| 第30回 | 到達度確認                           |

### 授業計画コメント

講義は複数の講師が担当します(担当者明記のない回は、オーガナイザーの多和田ほかが担当)。 各回の順番や内容は変更することがあります。

### 授業方法

授業方法  
講義形式

使用言語  
日本語

準備学習(予習・復習)

一般的な西洋史の知識があれば、特に予習は必要としません。授業後に講義内容を復習し、関心をもった内容については観劇、映像鑑賞、文献講読、調査などを行うこと(約3時間)。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 60 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 20 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20%(質問など授業への参加、リアクションペーパーの内容) 第2学期(学年末試験):60%(講義内容の理解度、与えられた課題への事前準備) 学年末試験は事前にテーマを示した上で、配布資料・ノート持込可で行う論述問題です。 レポート:20%(独自の観点)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時間内に口頭でコメントします。

参考文献

演出家の誕生 演劇の近代とその変遷,川島健,彩流社,初,2016,978-4-7791-7047-8

参考文献コメント

教室で指示します。

その他

オーガナイザー以外の各講師への質問は原則として授業後に限ります。全体への質問はメールでも受け付けます。

【実務経験のある教員による授業科目】

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810203102            | 科目ナンバリング | 007D018  |
| 講義名   | 舞台・映像芸術B              |          |          |
| 英文科目名 | Stage and Picture Art |          |          |
| 担当者名  | 彦江 智弘                 |          |          |
| 単位    | 4                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 2時限 西2－501     |          |          |

### 授業概要

映画は私たちの日常に当たり前のように存在している。もはや映画館に出向かなくても、様々なメディアを通して映画は偏在しているとさえ言えるだろう。だがその反面、往々にして私たちは固定化した映画観しか持っておらず、そこでは映画という「当たり前」の存在が歴史的な変遷を経て形作られたものであることが忘却されている。このような忘却は、私たちの「現在」を批判的に見返す視点を忘却することでもある。また現在を更新していく手がかりがそこに隠されているかもしれない。実際、映画の歴史的な変遷を辿ることは、映画が持っていた、あるいはこれから手にするだろう様々な可能性を意識化することに他ならない。このような観点から本講義においては、重要な動向・映画作家を取り上げながら映画史の概括を試みる。

### 到達目標

①映画がどのような変遷を辿って発展したのかを学び、映像芸術についての歴史的パースペクティブを獲得することができる。②個々の映画作家の作品のより詳細な分析を通して、映像読解の初歩を身につけることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                |
|------|-------------------|
| 第1回  | イントロダクション         |
| 第2回  | 映画とは何か？           |
| 第3回  | 映画の誕生             |
| 第4回  | リュミエール兄弟          |
| 第5回  | 初期映画の世界           |
| 第6回  | 古典的ハリウッドの成立       |
| 第7回  | D.W.グリフィス         |
| 第8回  | エイゼンシュテイン         |
| 第9回  | 20年代のドイツ映画とフランス映画 |
| 第10回 | サイレント／トーキー        |
| 第11回 | サイレント・コメディ        |
| 第12回 | 30年代：ハリウッドの黄金時代   |
| 第13回 | ハワード・ホークス         |
| 第14回 | 理解度の確認            |
| 第15回 | 前期の振り返り           |
| 第16回 | 30年代のフランス映画       |
| 第17回 | 40年代のハリウッド①ヒッチコック |
| 第18回 | 40年代のハリウッド②ウェルズ   |
| 第19回 | 戦後映画の始まり：ロッセリーニ   |
| 第20回 | ブレッソン             |
| 第21回 | ヌーヴェルヴァーグ①概括      |
| 第22回 | ヌーヴェルヴァーグ②映画作家たち  |
| 第23回 | 戦後映画の展開①概括        |
| 第24回 | 戦後映画の展開②映画作家たち    |
| 第25回 | ヴィム・ヴェンダース        |
| 第26回 | アジア映画の監督たち        |
| 第27回 | 北野武               |
| 第28回 | ゴダール              |
| 第29回 | 理解度の確認            |
| 第30回 | 振り返り              |

### 授業計画コメント

授業の進み具合、受講者のリアクションを見ながら、上記の予定を若干変更することがある。

**授業方法**

講義形式で授業を行うが、受講者が自分の考察を述べる機会も設けていきたい。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業で取り上げた作品を、復習として各自見ること。また、指定した映画を事前に劇場で、あるいはDVDで鑑賞しておいてもらうことがある。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 50 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

第2学期(学年末試験):50% 第1学期(学期末試験):50% 成績は基本的に学期末テストによって評価する。なお、授業の進行を妨げるような私語・遅刻・途中退出などが目立つ学生は、点数を大幅に減点するので注意すること。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

前期試験の結果は、後期の初回の授業で講評する。

**参考文献**

サイレント映画の黄金時代,ケヴィン・ブラウンロウ ,国書刊行会,9784336065377  
フレームの外へ,赤坂 太輔 ,森話社,9784864051439  
ジャン・ルーシュ——映像人類学の越境者,千葉 文夫 ,森話社,9784864051422  
聖者のレッスン: 東京大学映画講義,四方田犬彦 ,河出書房新社,9784309256436  
誰も必要としていないかもしれない、映画の可能性のために,諏訪 敦彦 ,フィルムアート社,9784845919130

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                                                                 |          |          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810203103                                                                                      | 科目ナンバリング | 007D018  |
| 講義名   | 舞台・映像芸術C                                                                                        |          |          |
| 副題    | メディアミックス時代の文化と芸術                                                                                |          |          |
| 英文科目名 | Stage and Picture Art                                                                           |          |          |
| 担当者名  | 岡田 尚文.浅野 菜緒子.足立 加勇.砂澤 雄一.今村 麻子.桂 真菜.丘山 晴己.小森 創介.柴田 隆子.関 智子.立石 和浩.多和田 真太良.長谷川 修.藤田 直哉.山崎 真之.芹澤 円 |          |          |
| 単位    | 4                                                                                               | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 4時限 西2－401                                                                               |          |          |

### 授業概要

インターネット端末を備えたスマートフォンや小型PCが普及した今日、私たちは、あらゆる視聴覚文化(映画、舞台、漫画、TVドラマ、アニメーション…)を、手元の画面でいつでもどこでも、好きなだけ参照・享受することができます。既存の芸術・文化もそのようなメディア環境のなかで多種多様に「協働」し始めているようです——「2.5次元舞台／ミュージカル」はその代表的な例といえるでしょう。あるいはネット端末を手には町を歩くと、文化施設、都市や地域、いや世界そのものが、これまでと異なる(複層的な)様相を呈し始めてはいないでしょうか——例えばアニメーション作品のロケ地(舞台)を訪ねる「〈聖地〉巡礼」がブームになるのも上記のような社会背景があってこそでしょう。この授業では、このような芸術や文化の、いわばメディアミックス的な状況について学問的(社会的・歴史的)に考えるために、様々な領域の研究者や現場経験者、ジャーナリストを招き、多角的な視点から講義してもらいます。

### 到達目標

今日のメディアミックスが、映像芸術や舞台芸術、引いては文化全般において具体的にどのように進行・展開しているかについて、その社会的・歴史的背景をも視野に入れながら、体系的・批判的に考えることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                      |
|------|-----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション(岡田尚文)                         |
| 第2回  | メディアミックス概論①(岡田尚文)                       |
| 第3回  | メディアミックス概論②(岡田尚文)                       |
| 第4回  | 舞台とポストシネマ(岡田尚文)                         |
| 第5回  | ミッキーマウスの身体論①(岡田尚文)                      |
| 第6回  | 演劇とジャーナリズム①(今村麻子)                       |
| 第7回  | メディアミックスとアダプテーション①(関智子)                 |
| 第8回  | メディアミックスとアダプテーション②(関智子)                 |
| 第9回  | 俳優の仕事(小森創介)                             |
| 第10回 | 日本の舞台(丘山晴己)                             |
| 第11回 | 総合芸術としての舞台～ワーグナーの理論と歴史的アヴァンギャルド①(柴田隆子)  |
| 第12回 | 総合芸術としての舞台～ワーグナーの理論と歴史的アヴァンギャルド②(柴田隆子)  |
| 第13回 | ミッキーマウスの身体論②(岡田尚文)                      |
| 第14回 | 前期のまとめ(岡田尚文)                            |
| 第15回 | 振り返り(岡田尚文)                              |
| 第16回 | 後期イントロダクション(岡田尚文)                       |
| 第17回 | パフォーミングアーツの現在①(桂真菜)                     |
| 第18回 | パフォーミングアーツの現在②(桂真菜)                     |
| 第19回 | サイトスペシフィック演劇(立石和浩)                      |
| 第20回 | 地域アートと2010年代の芸術(藤田直哉)                   |
| 第21回 | 映像内世界と観客の間にある壁をアニメーションは乗り越えられるのか?(足立加勇) |
| 第22回 | 2.5次元(これまで)と〈これから〉(砂澤雄一)                |
| 第23回 | 演劇とは何だろう(多和田真太良)                        |
| 第24回 | 〈聖地〉巡礼(山崎真之)                            |
| 第25回 | 演劇とジャーナリズム②(今村麻子)                       |
| 第26回 | シェイクスピアとヴィジュアルアート(浅野奈緒子)                |
| 第27回 | 〈はじめに音楽、次に映像〉～映画にみる音楽(長谷川修)             |
| 第28回 | ヴィジュアルでみるファッション(芹澤円)                    |
| 第29回 | 一年のまとめ(岡田尚文)                            |
| 第30回 | 到達度確認(岡田尚文)                             |

### 授業計画コメント

講義は複数の講師が担当します。各回の順番や内容は変更されることがあります。 イントロダクションや前期・後期の授業内容のまとめについてはオーガナイザーの岡田が担当します。

### 授業方法

講義形式。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内で言及された作品(映画、演劇、漫画作品その他)、文献について、自分でも積極的に参照してください。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 70 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

平常点は出席状況、リアクション・ペーパーの内容などをもとにしてつける。学年末試験は、あらかじめ提示された問題について論述してもらい、それをもとに授業の理解度、批評能力などをはかり、評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時間内に口頭で行う。

### 教科書コメント

特にない。

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示する。

### その他

各講師に対する質問は原則として授業後にしてください。

【実務経験のある教員による授業科目】

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                         |          |          |
|-------|-------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810204101              | 科目ナンバリング | 007D020  |
| 講義名   | 日本美術史A                  |          |          |
| 副題    | 日本美術史入門                 |          |          |
| 英文科目名 | History of Japanese Art |          |          |
| 担当者名  | 庵原 理絵子                  |          |          |
| 単位    | 4                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 4時限 西2－501       |          |          |

### 授業概要

この授業は、日本美術史の入門編です。美術に関する特別な知識はあらかじめ要りません。縄文から現代にいたるまで、日本列島においてつくられた造形作品を時代の流れに沿って見ていきます。

幸運なことに、私達は先人が遺してくれた「もの」を実際に目にする機会に恵まれています。それらは、いったいどのような事情で、どのような技術をもって、つくられたのでしょうか。現代にいきる私達が、その造形に魅力を感じるとしたら、それはなぜでしょうか。作品に込められた、わざ、思い、背景を丁寧にすくい取り、知ることによって、縁遠かった過去の遺物が、時代を超え、身近に感じられるかもしれません。

明治時代、はじめて体系的に日本美術史を構築しようとした岡倉天心は、「世人は歴史を目して過去の事蹟を編集したる記録、すなわち死物となす。これ大なる誤謬なり。歴史なるものは吾人の体中に存し、活動しつつあるものなり。畢竟古人の泣きたるところ、古人の笑いたるところは、すなわち今人の泣き、あるいは笑うの源をなす。」(『日本美術史』)と言いました。これはどのような意味でしょうか。まずはそんなところから入っていきましょう。

### 到達目標

- ・日本美術の大まかな流れを把握し、作品を鑑賞するための基礎知識を習得する。
- ・作品の造形がもつ面白さや魅力を自分の目で見て探り、制作背景を想像する力を養う。
- ・これまで日本美術史が探求してきた造形作品に対するさまざまなアプローチの仕方を知ること、日本美術史という学問の輪郭をつかむ。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                               |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクションー「美術」への接近ー近代における美術制度と鑑賞 |
| 第2回  | 縄文時代 かたちと色の表現ー土偶、土器              |
| 第3回  | 弥生・古墳時代 支配者のための美術ー銅鐸、埴輪、装飾古墳     |
| 第4回  | 飛鳥時代 仏教伝来ー仏教美術のはじまり              |
| 第5回  | 奈良時代(1)寺院造営の拡大と古典様式の成立           |
| 第6回  | 奈良時代(2)美術と保存ー正倉院宝物               |
| 第7回  | 平安時代(1)密教美術の広がり□                 |
| 第8回  | 平安時代(2)美麗なる仏画と浄土への願い□            |
| 第9回  | 平安時代(3)やまと絵の発生と絵巻の見方             |
| 第10回 | 平安時代(4)絵巻の多様性                    |
| 第11回 | 鎌倉時代(1)鎌倉幕府と彫刻ー運慶と快慶             |
| 第12回 | 鎌倉時代(2)神と仏と人ー縁起絵と垂迹画             |
| 第13回 | 室町時代(1)禅宗文化と会所                   |
| 第14回 | 室町時代(2)水墨画とやまと絵                  |
| 第15回 | まとめ                              |
| 第16回 | 室町～桃山時代 中世から近世美術へ                |
| 第17回 | 桃山時代(1)天下人と絵師ー狩野永徳と長谷川等伯         |
| 第18回 | 桃山時代(2)「かぶく」造型とわび茶の確立            |
| 第19回 | 桃山～江戸時代 都市と美術ー洛中洛外図と風俗画          |
| 第20回 | 江戸時代(1)狩野派の美術                    |
| 第21回 | 江戸時代(2)琳派の美術ー宗達から抱一まで            |
| 第22回 | 江戸時代(3)「写生」と絵画ー円山応挙と曾我蕭白         |
| 第23回 | 江戸時代(4)文人画ー池大雅と与謝蕪村              |
| 第24回 | 江戸時代(5)浮世絵と出版文化                  |
| 第25回 | 江戸～明治時代 幕末期の美術と万国博覧会             |
| 第26回 | 明治時代(1)「日本画」と「洋画」の誕生             |
| 第27回 | 明治時代(2)美術学校と展覧会                  |
| 第28回 | 大正時代ー自己表現のための芸術                  |
| 第29回 | 大正～昭和前期 「日本美術史」と現代美術             |

### 授業方法

パワーポイントやDVD、配付資料等を使用し、講義形式で進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業でもその時開催されている展覧会を紹介しますが、美術館、寺院等で鑑賞する機会を積極的に得るよう心がけてください。百聞は一見にしかず、です。また、毎回配布するプリントにはスライドで扱う作品のリストをつけています。図書館等に所蔵されている全集や、インターネットを使用し、各自で作品について復習してください。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 25 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 25 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 20 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

- ①第1学期と第2学期両方の試験を受験しないと成績は不可となるので注意してください。
- ②美術館見学に関するレポートを1回提出してもらいます(観覧料金が必要になります)。
- ③平常点は、不定期に配布するコメント・ペーパーで判断します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメント・ペーパーでの質問は、可能な限り授業中に返答し、履修者全員で問いを共有します。

### 参考文献コメント

授業時に適宜紹介します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。授業中の私語は厳禁です。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                         |          |          |
|-------|-------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810204102              | 科目ナンバリング | 007D020  |
| 講義名   | 日本美術史B                  |          |          |
| 副題    | 日本美術の魅力を知ろう             |          |          |
| 英文科目名 | History of Japanese Art |          |          |
| 担当者名  | 江崎 ゆかり                  |          |          |
| 単位    | 4                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 5時限 西5－303       |          |          |

授業概要

日本美術史入門の講義として、縄文時代から現代までを対象に、各時代の代表的な作品を紹介しながら、日本の美術の歴史をたどっていきます。グローバルな視野を獲得するためには、自らがよって立つ基盤となる自国の文化への理解を深めることが重要です。この授業では、日本美術の流れを把握するとともに、視覚的な造形としての特質や魅力を知り、美術を通じて日本の文化を学ぶことができるように促していきます。また、作品の基本的な見方を紹介し、日本美術を楽しんで鑑賞できるスキルを身につけることも目指します。

到達目標

- ・日本美術の歴史の流れを把握する。
- ・日本美術の代表的な作品に対する理解を深める。
- ・日本の文化を造形という観点から語ることができるための知識を習得する。
- ・美術作品を鑑賞するための基本的なスキルを身につける。

授業内容

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | はじめに: 日本美術の面白さ             |
| 第2回  | 美術館に行ってみよう!: 作品鑑賞の豆知識      |
| 第3回  | 縄文時代(1): 土器、考古遺物からアートへ     |
| 第4回  | 縄文時代(2): 「縄文のヴィーナス」と呼ばれた土偶 |
| 第5回  | 弥生時代: 文物が語る大陸との交流          |
| 第6回  | 古墳時代: 埴輪と装飾古墳にみる権力と造形      |
| 第7回  | 飛鳥・奈良時代: 仏教美術と時代様式         |
| 第8回  | 奈良時代: 正倉院宝物を中心に            |
| 第9回  | 平安時代 (1): 密教美術と浄土教美術       |
| 第10回 | 平安時代 (2): 貴族の美意識、「和」のかたち   |
| 第11回 | 平安～鎌倉時代: メディアとしての絵巻の可能性    |
| 第12回 | 鎌倉時代: 人を象る、神仏を表す           |
| 第13回 | 鎌倉～室町時代: 禅宗文化と造形           |
| 第14回 | トピック: 詩歌と美術                |
| 第15回 | 理解度の確認                     |
| 第16回 | 室町時代: 東山御物と座敷かざり           |
| 第17回 | 室町～桃山時代: 芸能とお伽草子           |
| 第18回 | 室町～近世初期: 流派の成立と発展          |
| 第19回 | トピック: 蒔絵と屏風: 海外で愛された日本美術   |
| 第20回 | 桃山時代(1): 天下人の造形            |
| 第21回 | 桃山時代(2): 狩野永徳と長谷川等伯        |
| 第22回 | 桃山～江戸時代: 時代を映す風俗画          |
| 第23回 | 江戸時代(1): 寛永文化と元禄文化         |
| 第24回 | 江戸時代(2): 出版の隆盛と個性の開花       |
| 第25回 | 江戸時代(3): 近代性の萌芽            |
| 第26回 | トピック: ファッションの歴史的変遷         |
| 第27回 | 明治時代: 洋画と日本画の誕生            |
| 第28回 | 大正～昭和時代: デカダンスとモダニズム       |
| 第29回 | 戦後・現代: 伝統美術からポップカルチャーまで    |
| 第30回 | 理解度の確認                     |

**授業方法**

講義内容に関するプリントをもとに、パワーポイントやDVD等を用いてビジュアル資料を提示しながら、講義形式で行います。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

- ・前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと(1時間～2時間)。
- ・展覧会に足を運び実際の作品世界に触れる、あるいは美術全集などの書籍を開いて作品の図版を見ること(1時間～2時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 10 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

学期末試験では、授業の内容をどの程度理解できているか、および自身が理解していることについて筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。なお、試験は第1学期と第2学期の両方を受験しないと不可となりますので注意してください。レポート、コメントペーパーでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出物の内容をもとに実施後の授業に反映させ、問題点や課題が見つかった場合は授業時にアドバイスをを行います。

**教科書コメント**

特に指定しません。

**参考文献**

- 日本美術全集,前川誠郎他編,講談社,1990～1993
- 日本美術館,小学館,1997
- 日本美術の歴史,辻惟雄,東京大学出版会,2005
- 日本美術全集,辻惟雄・泉武夫・山下裕二・板倉聖哲編,小学館,2012～16
- 美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史,山下裕二・高岸輝監修,美術出版社,2014

**参考文献コメント**

これらのほか適宜授業時に紹介します。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                         |          |          |
|-------|-------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810205101              | 科目ナンバリング | 007D021  |
| 講義名   | 西洋美術史A                  |          |          |
| 英文科目名 | History of European Art |          |          |
| 担当者名  | 久保寺 紀江                  |          |          |
| 単位    | 4                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 4時限 西2－301       |          |          |

授業概要

本講座は西洋の美術史を初めて学ぶ方を対象とします。一年間で古代ギリシア・ローマ時代から20世紀前半までの美術の流れをつかみ、知っておきたい作品を鑑賞しながら、各時代に特有の様式などを学びます。西洋の美術作品を前にしたとき、私たちの知らない意味やシンボル、目に見えない歴史的背景などが、私たちの作品への理解を妨げることがあります。しかし、西洋美術の流れをつかみ、各時代において重要な作品や様式などを学び、主題として多く取り上げられる聖書や神話の物語を知るならば、遠い時代の西欧の絵画や彫刻が身近なものに感じられるはずです。美術作品の発するメッセージがわかると、西洋美術史はとても楽しくなります。そんな体感をしていただくことが、本講義のめざすところです。

また、授業ではパワーポイントを使用して作品を紹介しますが、実際に美術館を訪問し、本物を鑑賞するということは、美術史を学ぶ上で大変重要なことです。そのため、授業の一環として、美術館見学も実施します。知識を増やし、作品を鑑賞する体験を通じ、西洋美術史の楽しさを味わいましょう。

到達目標

古代から20世紀までの西洋の美術史について、大きな流れや知っておきたい代表的作品や様式の特徴などを理解することができ、作品の楽しみ方がわかる。

授業内容

| 実施回  | 内容                             |
|------|--------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション(授業の概要と諸注意など)         |
| 第2回  | 古代1（古代ギリシア）                    |
| 第3回  | 古代2（古代ローマ）                     |
| 第4回  | 西洋美術と神話                        |
| 第5回  | 西洋美術と聖書                        |
| 第6回  | 中世1（ロマネスク）                     |
| 第7回  | 中世2（ゴシック）                      |
| 第8回  | 作品を鑑賞するために知っておきたい技術            |
| 第9回  | 美術館見学(日時は未定)                   |
| 第10回 | ルネサンス1（初期ルネサンス）                |
| 第11回 | ルネサンス2（盛期ルネサンス、レオナルド・ダ・ヴィンチなど） |
| 第12回 | ルネサンス3（ミケランジェロ、ラファエッロなど）       |
| 第13回 | 北方ルネサンスとマニエリスム                 |
| 第14回 | まとめ                            |
| 第15回 | 予備日                            |
| 第16回 | バロック1（カラバッジョなど）                |
| 第17回 | バロック2（リュベンス レンブラントなど）          |
| 第18回 | ロココ                            |
| 第19回 | 新古典主義1（ダヴィッドなど）                |
| 第20回 | 新古典主義2（アングルなど）                 |
| 第21回 | 美術館見学(日時は未定)                   |
| 第22回 | ロマン主義(ドラクロワなど)                 |
| 第23回 | 写実主義(ミレーなど)                    |
| 第24回 | 印象主義(セザンヌ、モネなど)                |
| 第25回 | 印象主義と新印象主義                     |
| 第26回 | ポスト印象主義(ゴッホ、ゴーガンなど)            |
| 第27回 | 象徴主義(モローなど)とその他19世紀後半の流れ       |
| 第28回 | 20世紀前半(ピカソなど)                  |
| 第29回 | 総まとめ                           |
| 第30回 | 理解度の確認                         |

授業計画コメント

前期・後期の美術館見学会は開講後に相談の上、日程を決定します。そのため、授業計画に変更が生じる場合があります。

### 授業方法

通常はパワーポイントで作品等を見ながらの講義です。  
学外授業として美術館見学を実施します。交通費・観覧料金などが必要です。月曜日あるいは土曜日の午後など、授業時間外となる可能性が高いです。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

是非見学しておきたい展覧会や話題の展覧会などを授業内で紹介します。実際に美術館へ行き、本物の作品の前に立ち、直接鑑賞する機会を増やしてください。また、授業前には、前の回に紹介した様式の特徴や代表作品について、再度確認し、紹介した作家や時代に関して別の作品も調べてみてください(約1時間)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考              |
|--------------------------|---------|-----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                 |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                 |
| 中間テスト                    |         |                 |
| レポート                     | 30 %    |                 |
| 小テスト                     |         |                 |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    | 美術館見学や授業内での課題など |
| その他(備考欄を参照)              |         |                 |

### 成績評価コメント

レポート、第2学期学年末試験、平常点の3要素から成績評価をします。学年末試験を受験するためには、レポートを提出している必要があります。その他、小課題、Responやコメント用紙での参加も加味されます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

見学会、レポート等の課題については、授業への反映、コメントを行います。

### 教科書コメント

毎回資料を配布します。

### 参考文献

カラー版 西洋美術史,高階秀爾 監修,美術出版社,増補新装,2002

### 参考文献コメント

授業の際、必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。(180名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

授業内での意見交換などにResponアプリ(あるいはコメント用紙)を使用します。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                         |          |          |
|-------|-------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810205102              | 科目ナンバリング | 007D021  |
| 講義名   | 西洋美術史B                  |          |          |
| 英文科目名 | History of European Art |          |          |
| 担当者名  | 味岡 京子                   |          |          |
| 単位    | 4                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 4時限 中央－403       |          |          |

### 授業概要

人類は、文字による情報伝達を行うはるか以前から、何がしかのイメージを作り出し、視覚を通じて情報を伝える営みを行ってきました。その一つに私たちが今「美術」と見なしているものがあります。人々を魅了する美術は、きわめて有効な情報伝達手段となり得るため、多様な役割を担いながら社会と相互に影響し合ってきました。美術とは、孤高の天才によって生み出される奇跡の産物などではなく、社会的存在としての人間によって、時代の価値観や社会の需要に応じて作り出される、言うなれば時代の産物なのです。以上を踏まえ、本講義では、先史時代から20世紀にいたる西洋美術（建物や彫刻や絵や工芸品など）が、いつ、どこで、誰によって、何のために作られたのかを、各時代の社会・文化と関連付けながら振り返ります。初学者に向けて基礎的な美術の鑑賞方法も講じます。美術の見方に規則はありませんが、最低限の知識は必要です。感性だけに頼る見方や、「巨匠」によって作り出された「傑作」といった既存の価値観や先入観からいったん距離をおき、自身で作品を「読み解いていく」意識を養いませんか？美術の歴史を知ることが、かならずや美術を「楽しむ」助けとなるはずです。

### 到達目標

美術作品を見るための基礎知識と西洋美術の大きな流れを習得し、個々の作品をその時代の社会や文化の幅広いコンテキスト(文脈)の中で理解する力を身につける。最終的には、過去的美術作品が、現代に通じる普遍的な問題を考えるためのテキストになり得ることを知ってもらう。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                          |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | イントロダクション:美術(史)とは？          |
| 第2回  | 原始～古代オリエント(メソポタミア、エジプト)     |
| 第3回  | 古代ギリシャ                      |
| 第4回  | エトルリアとローマ                   |
| 第5回  | 初期キリスト教、ビザンティン、初期中世         |
| 第6回  | ロマネスク、ゴシック                  |
| 第7回  | ゴシック後期、国際ゴシック               |
| 第8回  | イタリア・ルネサンス1(初期ルネサンス)        |
| 第9回  | イタリア・ルネサン2(盛期ルネサンス)         |
| 第10回 | イタリア・ルネサンス3(ヴェネツィア派)、マニエリスム |
| 第11回 | 15・16世紀の北方美術                |
| 第12回 | バロック1(イタリア、フランドル、スペイン)      |
| 第13回 | バロック2(フランス、オランダ)            |
| 第14回 | 前期まとめ                       |
| 第15回 | 振り返り                        |
| 第16回 | ロココ                         |
| 第17回 | 新古典主義                       |
| 第18回 | ロマン主義                       |
| 第19回 | 風景画、オリエンタリズム                |
| 第20回 | レアリズム(写実主義)                 |
| 第21回 | エドゥアール・マネ、アカデミスム絵画          |
| 第22回 | 印象主義、ジャポニスム                 |
| 第23回 | ポスト印象主義(セザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、スーラ)  |
| 第24回 | 象徴主義、世紀末、アール・ヌーヴォー          |
| 第25回 | フォーヴィスム、ドイツ表現主義             |
| 第26回 | キュビスム、未来派、抽象絵画              |
| 第27回 | エコール・ド・パリ、アール・デコ            |
| 第28回 | シュルレアリスム                    |
| 第29回 | 第二次大戦後～現代                   |
| 第30回 | 理解度の確認                      |

### 授業計画コメント

春学期と秋学期に一回ずつ(計2回)美術展を見学し、小レポートを書いてもらいます。シラバスに沿って授業を進めるつもりですが、リアクションペーパーから理解や関心の度合を判断し、多少の変更を行うことがあるかも

しません。予めご了承ください。

### 授業方法

毎回配布するプリントを基に、取り上げる作品の画像をパワーポイントで投影し、解説を加えながら講義をします。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

積極的に美術館に足を運びオリジナル作品を見ること。(授業で美術館・展覧会情報を伝えます。)

毎回配布するプリントを精読し、取り上げた作家や作品について参考文献等で確認し、気づいた点をまとめておくこと。(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                  |
|--------------------------|---------|---------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                     |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                     |
| 中間テスト                    |         |                     |
| レポート                     | 30 %    | 展覧会レポート2回、夏休み宿題レポート |
| 小テスト                     |         |                     |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    | リアクションペーパーの内容       |
| その他(備考欄を参照)              |         |                     |

### 成績評価コメント

学年末試験を受験するためには、前期に課すレポートを提出している必要があります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業期間中に提出されたリアクションペーパーやレポートに関しては、授業への反映およびコメントを行います。

### 教科書コメント

特になし。毎回レジュメを配布します。

### 参考文献

カラー版 西洋美術史,高階秀爾監修,美術出版社,増補新装 ,2002,9784568400649

### 参考文献コメント

その他の参考文献は、授業内で指示します。

### 履修上の注意

履修に関する諸々の注意事項を伝えるので、第一回目の授業に必ず出席すること。

### その他

E-mail : 20190118@gakushuin.ac.jp

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810206101                              | 科目ナンバリング | 007D022  |
| 講義名   | 音楽史                                     |          |          |
| 英文科目名 | History of Music                        |          |          |
| 担当者名  | 網野 公一・豊永 聡美                             |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 1時限 西2－503.第2学期 火曜日 1時限 西2－503 |          |          |

授業概要

この授業は、前期と後期で内容（講師）が異なります。前期は西洋（ヨーロッパ）、後期は日本における音楽史を論じます。

【第1学期】今年度の前期では、ヨーロッパの芸術音楽をルネサンス、バロック、古典主義、ロマン主義の区分けをして概観する。それぞれを歴史的に理解するとともに、社会的、文化的、音楽理論的および芸術技法的の各側面から考察し、なおかつ実際に音源を用いて音楽を鑑賞して理解する。基本的な概念、用語、人物名などを把握し、講義ではCDなどの音楽音源や図像、楽譜資料のどを用いて立体的に音楽や芸術の歴史について説明できるようにすることを目的とする。とくに音楽を様式史として楽曲分析に頼って概観するのではなくて社会史や文化史として考察する考え方を獲得する。

【第2学期】日本音楽の歴史的変遷を概観するとともに、雅楽、伎楽、声明、神楽、能楽、歌舞伎など様々な伝統芸能に見られる音楽の特徴を把握する。

到達目標

【第1学期】・西洋音楽に関する教養的な知識を習得する。 ・それぞれルネサンス、バロック、古典主義、ロマン主義がどのような音楽活動であり、かつ社会とのかかわりを持っていたかを各概念や歴史用語と関連付けて説明することが出来ること。また、その内容についてレポートにまとめることが出来ること。

【第2学期】日本の音楽の歴史や特徴について学ぶことにより、日頃の生活の中で何気なく耳にしていた日本の音楽について興味を持ち、理解することができるようになる。また、グローバル社会で、日本の音楽について世界の人々に発信できるようになる。

授業内容

| 実施回  | 内容                   |
|------|----------------------|
| 第1回  | イントロダクション: 音楽の時空間    |
| 第2回  | 中世の音楽                |
| 第3回  | ルネサンスの音楽①(概念など)      |
| 第4回  | ルネサンスの音楽②(音源を用いて)    |
| 第5回  | 音楽における記号論            |
| 第6回  | バロックの音楽①(概念など)       |
| 第7回  | バロックの音楽②(音源を用いて)     |
| 第8回  | 古典主義の音楽①(概念など)       |
| 第9回  | 古典主義の音楽②(音源を用いて)     |
| 第10回 | 近代西洋芸術音楽の語法＝「調性」     |
| 第11回 | ロマン主義の音楽①(背景となる歴史)   |
| 第12回 | ロマン主義の歴史②(概念など)      |
| 第13回 | ロマン主義の歴史③(音源を用いて)    |
| 第14回 | ロマン主義以後              |
| 第15回 | まとめと理解度の確認           |
| 第16回 | 日本音楽史の全体像            |
| 第17回 | 日本の楽器の源流             |
| 第18回 | 日本の音楽の源流             |
| 第19回 | 雅楽の編成と演奏形態           |
| 第20回 | 伎楽について               |
| 第21回 | 宮廷社会における音楽           |
| 第22回 | 正倉院と音楽               |
| 第23回 | 源氏物語の音楽              |
| 第24回 | 神社における音楽　ー御神楽を中心にー   |
| 第25回 | 寺院における音楽　ー声明と舞楽を中心にー |
| 第26回 | 能楽                   |
| 第27回 | 近世の音楽　ー三味線の到来ー       |
| 第28回 | 歌舞伎の音楽               |

|      |        |
|------|--------|
| 第29回 | 総括     |
| 第30回 | 到達度の確認 |

### 授業方法

【第1学期】講義形式を取ります。つまり、毎回レジュメを配布し、それにもとづき話を進めます。また必要に応じて、音声・画像資料を視聴します。質問や発言は歓迎します。

【第2学期】視聴覚教材を使用しつつ、講義形式で進める。毎回リアクションペーパーを課し、受講者の意見や感想を求める。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

【第1学期】時間の都合から楽曲全体をかけることは少ないので、授業中に触れられたものは各自を聴いておきましょう。また各回のレジュメに記されている専門用語などを復習して、知識を獲得して欲しい。

【第2学期】1時間ほどの時間を費やして、授業中に配布したレジュメや参考資料を再読して重要なポイントを再確認すること、そして次の講義のテーマとなっている内容について、書籍やインターネットなどによりあらかじめ学習しておくこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考        |
|--------------------------|---------|-----------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |           |
| 学年末試験(第2学期)              |         |           |
| 中間テスト                    |         |           |
| レポート                     |         |           |
| 小テスト                     |         |           |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |           |
| その他(備考欄を参照)              | 100%    | 下記のコメント参照 |

### 成績評価コメント

【第1学期】平常点(出席、リアクションペーパーの提出状況等):20%、学期末試験(少人数の場合は学期末レポートとする):80%

【第2学期】平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70% リアクションペーパーの提出状況と試験を合わせて評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期では、講義内における数回のリアクションペーパー(質問などを記入する)への回答や解説を行う。

第2学期では、授業ごとにリアクションペーパーに質問や問題点を記入してもらい、次の授業の時にそれらに対する回答や解説を行う。

### 教科書コメント

【第1学期】講義内でその都度指示する。

【第2学期】特に教科書は使用しないが、單元ごとに授業内容をまとめたプリントを配布する。

### 参考文献

フランス音楽史,今谷和徳・井上さつき,春秋社,2010,978-4393931875  
 図解音楽事典,U・ミヒェルス,音楽之友社,1989,9784560036860  
 西洋音楽史:「クラシック」の黄昏,岡田暁生,中央公論新社,2005,9784121018168  
 新 西洋音楽史(下),D・J・グラウト/C・V・パリスカ,音楽之友社,1999,9784276112148

### 参考文献コメント

【第1学期】【第2学期】講義内でその都度指示する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                                                                                                                                     |          |          |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810207101                                                                                                                                          | 科目ナンバリング | 007D023  |
| 講義名   | 日本の伝統芸能                                                                                                                                             |          |          |
| 副題    | —理論と実演から芸能を学ぶ—                                                                                                                                      |          |          |
| 英文科目名 | Traditional Japanese Performing Arts                                                                                                                |          |          |
| 担当者名  | 藤澤 茜.石川 高.市川 新蔵.今井 豊茂.小濱 明人.片山 旭星.亀井 広忠.神田 阿久鯉.後藤 幸浩.佐野 玄宜.鈴木 祥江.田中 傳左衛門.月岡 祐紀子.鶴澤 友之助.豊竹 睦太夫.中村 亀鶴.野澤 松也.藤間 勘十郎.水島 結子.三田 徳明.三田 晴美.未定.森谷 裕美子.柳家 喬之助 |          |          |
| 単位    | 4                                                                                                                                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 2時限 西5－B1                                                                                                                                    |          |          |

授業概要

日本には、現在まで継承されてきた伝統芸能が多数存在する。この授業では、雅楽、能、狂言、尺八、琵琶楽、贅女の芸能、文楽、歌舞伎、落語、講談を取り上げ、国内外で活躍する演奏家、演者、役者、脚本家、研究者を講師に迎え、専門家の立場から講義や実技、演奏などを担当していただく。芸能の歴史や楽器、所作、衣裳などの詳細な説明に加え、実演を間近で鑑賞する機会も多く、それぞれの芸能の奥深さが実感できるはずである。多様な伝統芸能の本質をつかむことで、日本文化への理解を深め、ぜひ自主的に劇場等へ足を運ぶようになってほしい。

到達目標

日本の伝統芸能に関する基礎的な事項を学び、それぞれの芸能の特徴について理解する。  
 伝統芸能の現在についても理解し、海外にもアピールできるその魅力を自分の言葉で説明できるようになる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | 授業の進め方 オーガナイザー 藤澤 茜                |
| 第2回  | 日本の伝統芸能を学ぶ意義 オーガナイザー 藤澤 茜          |
| 第3回  | 雅楽—理論と実技— 瑞穂雅楽瑞宝会主席 三田徳明           |
| 第4回  | 雅楽—理論と実技— 瑞穂雅楽瑞宝会主席 三田徳明・三田晴美・鈴木祥江 |
| 第5回  | 雅楽—実技— 笙演奏家 石川高                    |
| 第6回  | 能—理論と実技— 宝生流シテ方 佐野玄宜               |
| 第7回  | 能—理論と実技— 宝生流シテ方 佐野玄宜               |
| 第8回  | 能—理論と実技— 宝生流シテ方 佐野玄宜               |
| 第9回  | 能—理論と実技— 葛野流大鼓方 亀井広忠               |
| 第10回 | 尺八—実技— 尺八奏者 小濱明人                   |
| 第11回 | 文楽—実技— 文楽太夫 豊竹睦太夫・文楽三味線方 鶴澤友之助     |
| 第12回 | 歌舞伎—理論— 歌舞伎脚本家 今井豊茂                |
| 第13回 | 狂言—理論と実技—①                         |
| 第14回 | 狂言—理論と実技—②                         |
| 第15回 | 到達度確認                              |
| 第16回 | 文楽—理論—① 文楽研究家 森谷裕美子                |
| 第17回 | 文楽—理論—② 文楽研究家 森谷裕美子                |
| 第18回 | 琵琶楽—実技— 薩摩琵琶奏者 後藤幸浩                |
| 第19回 | 琵琶楽—実技— 筑前琵琶奏者 片山旭星                |
| 第20回 | 歌舞伎 理論 近世演劇研究家 藤澤 茜                |
| 第21回 | 歌舞伎—実技— 歌舞伎俳優 六代目市川新蔵              |
| 第22回 | 歌舞伎—実技— 歌舞伎囃子方 十三世田中傳左衛門           |
| 第23回 | 歌舞伎—実技— 歌舞伎俳優 二代目中村亀鶴              |
| 第24回 | 日本舞踊—理論と実技— 宗家藤間流 八世宗家藤間勘十郎        |
| 第25回 | 歌舞伎—実技— 歌舞伎竹本三味線方 野澤松也             |
| 第26回 | 贅女の芸能—実技— 民謡歌手・三味線奏者 月岡祐紀子         |
| 第27回 | 落語—理論と実技— 落語家 柳家喬之助                |
| 第28回 | 講談—理論と実技— 講談師 神田阿久鯉                |
| 第29回 | 戦争と芸能—琵琶楽・実技— 薩摩琵琶奏者 水島結子          |
| 第30回 | 理解度の確認                             |

授業計画コメント

公演等で活躍される先生方も多いため、授業内容を変更する場合があります。授業時の指示や掲示に注意すること。

### 授業方法

講義形式。講師の先生によっては実演のこともある。パワーポイント、映像資料なども適宜使用する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予習:あらかじめ講師の先生の専門分野やプロフィールに関する資料を配布するので、必要部分を読んでおくこと。

復習:授業で提示された文献や映像等がある場合、各自で確認しておくこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 70 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

平常点については、出席状況と毎回課すコメントの内容を加味して評価する。

欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合、単位の取得はできないので注意すること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業時に提出されたコメントについて、各自の考えがよくまとめられているものについては、随時授業にて紹介し、解説も加える。

### 教科書コメント

教科書は使用するが、具体的には授業時に指示するので、それから購入すること。適宜配布資料も用意するので、各自まとめてファイル等に綴じて持参すること。

### 参考文献

芸能史: 体系日本史叢書21, 服部幸雄他, 山川出版社, 第1版, 1998

〈声〉の国民国家 浪花節が創る日本近代: 講談社学術文庫, 兵藤裕己, 講談社, 第1版, 2009

日本の祭りと芸能ーアジアからの視座ー, 諏訪春雄, 吉川弘文館, 第1版, 1998

### 参考文献コメント

参考文献に関しては、関連するものを随時紹介する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。(200名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと(履修制限を行なう場合、第1回目の授業に出席している学生の中から選抜する)。

### その他

人数が多い場合は履修制限を行なう。第2回目の授業までに履修者を確定するので、必ず第1回目の授業に出席し課題などを提出の上、履修可能者の掲示に注意すること。私語厳禁。例年、遅刻者も目立つので気を付けること。適正に授業が行なわれるよう、履修者一人一人の注意を促したい。

### 【実務経験のある教員による授業科目】

伝統芸能の継承者として活躍する講師が、その経験を活かし、実技などを通じて芸能を学ぶ意義を具体的に講義する。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810300101        | 科目ナンバリング | 007D024  |
| 講義名   | 法学                |          |          |
| 副題    | 憲法入門              |          |          |
| 英文科目名 | Law               |          |          |
| 担当者名  | 福井 康佐             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 2時限 南1－205 |          |          |

授業概要

憲法は日常生活に密接にかかわっています。自分を守るためにも、憲法の知識は必須です。公務員志望者には、基本原理を説明し、憲法の学習方法も説明します。まずは、憲法の基本的な考え方を学び、続いて、人権を巡る諸問題を考察します。第2学期は、裁判員制度・選択的人工妊娠中絶・死刑制度といった現代的な問題も取り上げます。

到達目標

なぜ、憲法が大切か、なぜ、人権を保障しなければならないのかを、具体例を通して学びます。

授業内容

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                          |
| 第2回  | 人権保障の意義 権利はなぜ保障されるのか。              |
| 第3回  | 人権の性質と限界 自由は「何をやっていい」という意味ではない。    |
| 第4回  | 人権の享有主体 外国人にはどこまで人権を保障すべきか？        |
| 第5回  | 自己決定権1 自分の人生を自分の責任で決定する権利          |
| 第6回  | 自己決定権2 同性愛者の権利・中絶の自由・安楽死・尊厳死       |
| 第7回  | 思想良心の自由 教師や生徒に「君が代を歌わない自由はあるか？     |
| 第8回  | 信教の自由1 新興宗教とそのリスク                  |
| 第9回  | 信教の自由2 靖国神社の参拝                     |
| 第10回 | 表現の自由1 民主主義社会で最も重要な人権              |
| 第11回 | 表現の自由2 ポルノグラフィー・ヘイトスピーチ            |
| 第12回 | 表現の自由3 インターネットの表現の自由               |
| 第13回 | プライバシーの権利 監視カメラの設置                 |
| 第14回 | 平等権 差別はどうしてなくなるか？                  |
| 第15回 | まとめ                                |
| 第16回 | 生存権 生活保護はなぜ必要か？                    |
| 第17回 | 死刑制度1 死刑のしくみ                       |
| 第18回 | 死刑制度2 死刑は廃止すべきか？                   |
| 第19回 | 裁判員制度 なぜ国民が裁判に参加するのか？              |
| 第20回 | 選択的人工妊娠中絶 遺伝子検査で陽性が出たとき、産む・産まないの自由 |
| 第21回 | 教科書検定 なぜ国が教科書作成に関わるか？              |
| 第22回 | マイノリティーの権利 誰もがマイノリティになるかもしれない。     |
| 第23回 | 平和主義1 自衛隊は憲法違反か？                   |
| 第24回 | 平和主義2 国際紛争にはどう対応するか？               |
| 第25回 | 公務員の人権                             |
| 第26回 | 選挙と民主主義                            |
| 第27回 | 憲法改正                               |
| 第28回 | 違憲審査制                              |
| 第29回 | まとめ                                |
| 第30回 | 理解度の確認                             |

授業計画コメント

憲法は難しい科目ではありません。やさしいテキストを使ってわかりやすい授業をします。

### 授業方法

伝統的な講義スタイルをとる。適宜、コメントペーパーの提出を求め、学生と意見交換をしたい。

### 準備学習(予習・復習)

今回の範囲のテキストを読むこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考       |
|--------------------------|---------|----------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |          |
| 学年末試験(第2学期)              | 90 %    |          |
| 中間テスト                    |         |          |
| レポート                     |         |          |
| 小テスト                     |         |          |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |          |
| その他(備考欄を参照)              | 10 %    | コメントペーパー |

### 成績評価コメント

第2学期(学年末試験):90%(授業の理解力・論述力) 試験の成績と、適宜求めるコメントペーパーで、総合的に評価します。コメントペーパー:10%

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

### 教科書

いちばんやさしい憲法入門:有斐閣アルマ,初宿正典他,有斐閣,第5,2017

### 教科書コメント

テキストを持参しない学生が目立ちます。テキストは必ず購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810301101            | 科目ナンバリング | 007D025  |
| 講義名   | 日本国憲法A                |          |          |
| 英文科目名 | Japanese Constitution |          |          |
| 担当者名  | 松村 芳明                 |          |          |
| 単位    | 2                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 3時限 西2－301   |          |          |

授業概要

本講義は、憲法についての基本事項を学ぶ講義である。「憲法とは何か」や立憲主義のような総論的・原理的な事項から、人権保障のあり方や統治機構事項まで、最低限知っておくべき憲法の基本事項を一通りコンパクトに学べる講義である。

到達目標

- ・社会における憲法の存在意義および政府の成り立ち・構造を踏まえ、社会の在り方を構造的に把握できるようになる。
- ・人権について憲法の条文に即して考察することができるようになる。
- ・法的思考(リーガル・マインド)と人権感覚をもって社会生活を送れるようになる。
- ・少数者への配慮など多様性への理解をもつことができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                    |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | 講義の概要／法のイメージ                          |
| 第2回  | 法と憲法                                  |
| 第3回  | 憲法とは何か①: 立憲主義                         |
| 第4回  | 憲法とは何か②: 権力分立／憲法尊重擁護義務                |
| 第5回  | 個人の尊重と人権保障の原理①: 個人の尊重／人権概念／新し人権／人権の分類 |
| 第6回  | 個人の尊重と人権保障の原理②: 人権の私人間効力              |
| 第7回  | 個人の尊重と人権保障の原理③: 人権の制限／人権の主体           |
| 第8回  | 法の下の平等                                |
| 第9回  | 信教の自由／思想・良心の自由                        |
| 第10回 | プライバシーと表現の自由                          |
| 第11回 | 社会権(生存権を中心に)                          |
| 第12回 | 国民主権と議会制民主主義                          |
| 第13回 | 平和主義                                  |
| 第14回 | 日本国憲法制定過程と憲法改正                        |
| 第15回 | 理解度の確認                                |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業前に教科書や配布済みの資料を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間)。
- ・授業後に授業を振り返り、必要に応じて参考書なども読みつつ、知識の整理を行うとともに、立場の分かれる論点について自分なりに考察すること(3時間)。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 80 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 20 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについてはコメントし、以後の講義に反映させる。

教科書

日本国憲法,長谷部恭男,岩波書店,2019,9784003403310

参考文献

憲法,芦部信喜,岩波書店,7,2019,9784000613224  
リアル憲法学,石埼学ほか,法律文化社,2,2013,974589035097

憲法への招待,渋谷秀樹,岩波書店,新,2014,9784004314707

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810301102            | 科目ナンバリング | 007D025  |
| 講義名   | 日本国憲法B                |          |          |
| 英文科目名 | Japanese Constitution |          |          |
| 担当者名  | 松村 芳明                 |          |          |
| 単位    | 2                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 4時限 中央－401   |          |          |

授業概要

本講義は、憲法についての基本事項を学ぶ講義である。「憲法とは何か」や立憲主義のような総論的・原理的な事項から、人権保障のあり方や統治機構事項まで、最低限知っておくべき憲法の基本事項を一通りコンパクトに学べる講義である。

到達目標

- ・社会における憲法の存在意義および政府の成り立ち・構造を踏まえ、社会の在り方を構造的に把握できるようになる。
- ・人権について憲法の条文に即して考察することができるようになる。
- ・法的思考(リーガル・マインド)と人権感覚をもって社会生活を送れるようになる。
- ・少数者への配慮など多様性への理解をもつことができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                    |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | 講義の概要／法のイメージ                          |
| 第2回  | 法と憲法                                  |
| 第3回  | 憲法とは何か①: 立憲主義                         |
| 第4回  | 憲法とは何か②: 権力分立／憲法尊重擁護義務                |
| 第5回  | 個人の尊重と人権保障の原理①: 個人の尊重／人権概念／新し人権／人権の分類 |
| 第6回  | 個人の尊重と人権保障の原理②: 人権の私人間効力              |
| 第7回  | 個人の尊重と人権保障の原理③: 人権の制限／人権の主体           |
| 第8回  | 法の下の平等                                |
| 第9回  | 信教の自由／思想・良心の自由                        |
| 第10回 | プライバシーと表現の自由                          |
| 第11回 | 社会権(生存権を中心に)                          |
| 第12回 | 国民主権と議会制民主主義                          |
| 第13回 | 平和主義                                  |
| 第14回 | 日本国憲法制定過程と憲法改正                        |
| 第15回 | 理解度の確認                                |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業前に教科書や配布済みの資料を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間)。
- ・授業後に授業を振り返り、必要に応じて参考書なども読みつつ、知識の整理を行うとともに、立場の分かれる論点について自分なりに考察すること(3時間)。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 80 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 20 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについてはコメントし、以後の講義に反映させる。

教科書

日本国憲法,長谷部恭男,岩波書店,2019,9784003403310

参考文献

憲法,芦部信喜,岩波書店,7,2019,9784000613224  
リアル憲法学,石埼学ほか,法律文化社,2,2013,974589035097

憲法への招待,渋谷秀樹,岩波書店,新,2014,9784004314707

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810301103            | 科目ナンバリング | 007D025  |
| 講義名   | 日本国憲法C                |          |          |
| 英文科目名 | Japanese Constitution |          |          |
| 担当者名  | 松村 芳明                 |          |          |
| 単位    | 2                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 水曜日 1時限 西2－401   |          |          |

授業概要

本講義は、憲法についての基本事項を学ぶ講義である。「憲法とは何か」や立憲主義のような総論的・原理的な事項から、人権保障のあり方や統治機構事項まで、最低限知っておくべき憲法の基本事項を一通りコンパクトに学べる講義である。

到達目標

- ・社会における憲法の存在意義および政府の成り立ち・構造を踏まえ、社会の在り方を構造的に把握できるようになる。
- ・人権について憲法の条文に即して考察することができるようになる。
- ・法的思考(リーガル・マインド)と人権感覚をもって社会生活を送れるようになる。
- ・少数者への配慮など多様性への理解をもつことができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                   |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 講義の概要／法のイメージ                         |
| 第2回  | 法と憲法                                 |
| 第3回  | 憲法とは何か①:立憲主義                         |
| 第4回  | 憲法とは何か②:権力分立／憲法尊重擁護義務                |
| 第5回  | 個人の尊重と人権保障の原理①:個人の尊重／人権概念／新し人権／人権の分類 |
| 第6回  | 個人の尊重と人権保障の原理②:人権の私人間効力              |
| 第7回  | 個人の尊重と人権保障の原理③:人権の制限／人権の主体           |
| 第8回  | 法の下の平等                               |
| 第9回  | 信教の自由／思想・良心の自由                       |
| 第10回 | プライバシーと表現の自由                         |
| 第11回 | 社会権(生存権を中心に)                         |
| 第12回 | 国民主権と議会制民主主義                         |
| 第13回 | 平和主義                                 |
| 第14回 | 日本国憲法制定過程と憲法改正                       |
| 第15回 | 理解度の確認                               |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業前に教科書や配布済みの資料を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間)。
- ・授業後に授業を振り返り、必要に応じて参考書なども読みつつ、知識の整理を行うとともに、立場の分かれる論点について自分なりに考察すること(3時間)。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 80 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 20 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについてはコメントし、以後の講義に反映させる。

教科書

日本国憲法,長谷部恭男,岩波書店,2019,9784003403310

参考文献

憲法,芦部信喜,岩波書店,7,2019,9784000613224  
リアル憲法学,石埼学ほか,法律文化社,2,2013,974589035097

憲法への招待,渋谷秀樹,岩波書店,新,2014,9784004314707

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810302101          | 科目ナンバリング | 007D026  |
| 講義名   | 政治学                 |          |          |
| 副題    | 日本を中心とする政治と政治学の入門講義 |          |          |
| 英文科目名 | Politics            |          |          |
| 担当者名  | 黒澤 良                |          |          |
| 単位    | 4                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 土曜日 2時限 中央－403   |          |          |

### 授業概要

この授業は、政治を理解するために必要な政治学的な見方や、政治に関わる主要な概念を学ぶことを目的としています。政治学の入門講義として、時事的な問題や、各テーマの理解に必要な歴史などを授業で取り上げて、さまざまな分野を専攻する受講者にも、政治学や日本の政治のアウトラインがつかめるようにしたい。

以下の授業計画にしたがって、政治、民主主義、自由主義など政治に関わる言葉や概念を知る総論的な内容から始めて、選挙やメディア、地方自治、国際政治、外交など様々なテーマを取り上げていきます。

ニュースがわからないと感じる方、政治の基礎知識を身に付けたい方にも受講をお勧めします。

### 到達目標

政治に関する基礎的な知識を習得し、現代社会の諸現象や諸問題について、自分で考え分析する能力を身に付けることができる。

時事的な問題について、理解に必要な歴史的な経緯をふまえて、説明できるようになる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                     |
|------|------------------------|
| 第1回  | イントロダクション              |
| 第2回  | 政治と権力                  |
| 第3回  | 民主主義                   |
| 第4回  | 自由主義                   |
| 第5回  | 政党と政党制                 |
| 第6回  | 日本の政党政治                |
| 第7回  | 議会と国会                  |
| 第8回  | 選挙と選挙制度                |
| 第9回  | 投票行動                   |
| 第10回 | 利益集団                   |
| 第11回 | 政治家と選挙                 |
| 第12回 | 官僚                     |
| 第13回 | メディアと政治                |
| 第14回 | 授業のまとめ                 |
| 第15回 | 到達度の確認                 |
| 第16回 | 立法過程と政治主導              |
| 第17回 | 首相のリーダーシップ             |
| 第18回 | 震災と政治1 阪神淡路大震災と新潟県中越地震 |
| 第19回 | 震災と政治2 東日本大震災と原発事故     |
| 第20回 | 社会保障                   |
| 第21回 | 皇位継承                   |
| 第22回 | 地方自治1                  |
| 第23回 | 地方自治2                  |
| 第24回 | 国際政治                   |
| 第25回 | 外交                     |
| 第26回 | 憲法・沖縄                  |
| 第27回 | 安全保障1                  |
| 第28回 | 安全保障2                  |
| 第29回 | 授業のまとめ                 |
| 第30回 | 到達度の確認                 |

### 授業計画コメント

時事的な政治問題の解説や、質問への回答の時間をとるなど、進行や状況に応じて内容を追加したり、変更することがあります。

### 授業方法

授業は板書とレジュメを用いながら、各回のテーマを説明していく講義形式で進めていきます。授業中に受講者の意見や関心を知るための小レポートを数回実施します。授業冒頭に質問に対する回答や、時事問題についてコメントする時間をとります。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

日々新聞に目を通して、政治に対する見方と現実の政治とに関する感覚を研ぎ澄ませておくこと(約20分)。図書館等を活用して複数の新聞を比較して、各紙の論調の違いに目を配る習慣を身につけること(約30分)。受講前に各回のテーマに関して情報収集し、受講後には配布資料やノートを読み返し、疑問点をまとめておくこと(約90分)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                |
|--------------------------|---------|-------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |                   |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                   |
| 中間テスト                    |         |                   |
| レポート                     | 5 %     | 出席票裏面に記載のコメントを含む。 |
| 小テスト                     |         |                   |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 15 %    |                   |
| その他(備考欄を参照)              |         |                   |

### 成績評価コメント

平常点と小レポート:20%(出席状況や、出席票裏面の質問や感想の記載内容、など)、第1学期(学期末試験):40%、第2学期(学年末試験):40% 成績は2回の試験と、平常点・小レポートとを合わせて評価します。ただし、就職活動や教育実習などによる欠席には配慮します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

出席票の裏面に書かれたコメント(質問や感想)、小レポートの内容については、回答や補足説明の時間をとるなどして、授業に反映させていきます。

### 教科書コメント

教科書はとくに指定しません。授業で示した参考文献を各自で参照することが望ましい。

### 参考文献コメント

参考文献は授業の際にレジュメに提示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

毎回出席をとります。出席票の裏面に質問や感想を書いてもらっています。次の授業のはじめに質問への回答や補足説明の時間をとり、講義形式でも受講生の疑問や関心を授業に反映していきます。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                          |          |          |
|-------|--------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810303101               | 科目ナンバリング | 007D027  |
| 講義名   | 社会学(基礎教養科目)              |          |          |
| 副題    | 主体・学習・技術・インクルージョンからみる社会学 |          |          |
| 英文科目名 | Sociology                |          |          |
| 担当者名  | 柴田 邦臣                    |          |          |
| 単位    | 4                        | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 3時限 西2-305        |          |          |

授業概要

考えてみると、社会ほど不可視なものはないかもしれない。しかし「不可視」であることは、「不要」であることと同義ではない。社会関係への気づきをもってはじめて、私たちは自らの社会を読み解く出発点に立つことができる。おそらくこの授業の履修者で、社会学を専門的に学ぶという人はさほど多くないだろうだろう。共通科目であるこの授業は、まずは社会学の導入として設置されているものであるが、体系的な学びの土台というよりは、文学、心理学、経済学やそのほかの学問において、社会学的まなざしを生かすための土壌と考えるべきだろう。

このためこの授業では2つの工夫をおこなう。第一には社会学の基礎知識を学ぶのだが、それを教条的に扱うのではなく、知識そのものは絞り込んで、社会学的な見方・視角というものを中心的に扱いたい。そのため、困難な社会においてどのようにリアリティをもち、社会をみとおそうとするか、という視角についてを重視する。だからいわゆる「資格試験のための社会学教養」や「用語を網羅するための社会概論」とは大きく異なる。例えば専門用語などはテキストなどで指摘するが、あまり重視はしない。

次に社会学を、現代の生きる社会の中に再設置するために、極端だが典型的な例を・・・ややショッキングなものを含めて・・・積極的に取り入れていきたいと思う。それらの事例は主として高齢社会や福祉領域の社会的マイノリティや、情報技術に関するものが頻出するだろうが(なぜかは受講していただければすぐにわかるだろう)、それらの極端な例を学ぶことで、見とおしにくい社会を捉えるための土台を得ることができる。基本的な理論や歴史的な経緯なども取り上げ、その共通構造を論じることで、自分たちの日常の関係性を相対化し、その過程で、多様な私たちが多様な関係性を尊重して社会に参加していく術(すべ)を構想したいと考えている。

到達目標

社会学の基礎的な知識を身につけつつ、「社会学的な視座」を理解し、各自の専門性に活かすための土壌を育てることが目的である。

授業内容

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション(1): 社会と主体のリアリティ          |
| 第2回  | イントロダクション(2): 社会と主体のリアリティ          |
| 第3回  | 中間考察(1)                            |
| 第4回  | 社会のリアリティ(1):過疎化する被災地から             |
| 第5回  | 社会のリアリティ(2):変動する被災地・地域支援           |
| 第6回  | 社会のリアリティ(3):主体とアイデンティティ理論          |
| 第7回  | 社会のリアリティ(4):記憶とコミュニティ理論            |
| 第8回  | 社会のリアリティ(5):露呈する限界集落、地域格差、経済的格差    |
| 第9回  | 中間考察(2)                            |
| 第10回 | 現代の主体と社会学(1):字幕メディアからーメディア社会学      |
| 第11回 | 現代の主体と社会学(2):女性・家族とインクルージョンー家族社会学  |
| 第12回 | 現代の主体と社会学(3):自然環境と国際社会ー環境社会学       |
| 第13回 | 現代の主体と社会学(4):環境開発とテクノロジーー科学技術社会学   |
| 第14回 | まとめ(1):生きる技法の社会学                   |
| 第15回 | 中間考察(3)                            |
| 第16回 | イントロダクション(3):主体と社会のリアリティ           |
| 第17回 | イントロダクション(4):主体と社会のリアリティ           |
| 第18回 | 現代社会の問題(1):超高齢社会の現実                |
| 第19回 | 現代社会の問題(2):過疎化・高齢化・人口減社会           |
| 第20回 | 現代社会の問題(3):社会問題の社会的構成・「障害」の社会モデルから |
| 第21回 | 現代社会の問題(4):「合理的配慮」と社会的支援           |
| 第22回 | 中間考察(4)                            |
| 第23回 | 社会変化の社会学(1): 現代社会の“情報強迫性障害”        |
| 第24回 | 社会変化の社会学(2): デジタル・ディバイドと社会的弱者      |
| 第25回 | 社会変化の社会学(3): メタボ検診とGAFAプラットフォーム    |
| 第26回 | 社会変化の社会学(4): 介護保険と共通番号制度           |
| 第27回 | 社会変化の社会学(5):ソーシャル・クレジットシステムとAI     |
| 第28回 | 社会変化の社会学(6): テクノロジーと「学び」の進化        |
| 第29回 | まとめ(2):社会参加の”技術”と学び                |

**授業計画コメント**

社会学の専門概念を30回で学習するのは不可能なので、内容はややダイジェストにならざるを得ない。その分、現代社会の最新の例をいくつも取り入れて、他の学問にはない社会的な見方にこだわっていききたいと思う。取り上げる事例は日本の状況から、高齢化、障害者福祉、教育、情報化、テクノロジー、能力、インクルージョンといったキーワードが主となるだろうから、履修の際の参考にしたい。

**授業方法**

基本的なスタイルは教壇授業で、プロジェクタでデジタルな素材を提示しながら進めていく。主体的な学びを実践してもらうべく、あえてスライド配布やレジュメ配布はおこなわない。スライドの撮影も原則として認めない。各自で自分のスタイルに従って関心に沿ってノートなどをとってほしい。ただし、アクセシビリティ面の配慮を希望する受講生は、初回授業で申告いただければ全面的に対応す

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

専門用語や知識についてはダイジェストになってしまうので、テキスト・参考文献での予習復習を強くすすめる。できればテキストは手元に用意して学習に役立ててほしいと思う。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 30 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 30 %    |    |
| 中間テスト                    | 20 %    |    |
| レポート                     | 20 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

中間テスト:20%(授業理解に基づいた思考力) 第1学期(学年末試験):30%(授業理解に基づいた思考力) 第2学期(学期末試験):30%(授業理解に基づいた思考力) 小テスト:20%(授業理解に基づいた思考力) 社会学はテクニカル・タームにこだわる学問ではない。知識のみを問うだけでなく、社会的な視角に基づいた柔軟な思考力を問いていきたいと思う。評価のポイントは、単なる知識ではなく、授業や教科書をどれほど立体的・構造的に理解して、社会問題を把握し思考しているかに置く。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

感想文やレポートに関しては、適時授業時間などにその内容に言及するなどしてフィードバックを図る。

**教科書**

《情弱》の社会学:ポスト・ビッグデータ時代の生の技法,柴田邦臣,青土社,2019,4791772180

**教科書コメント**

教科書は授業中に言及するだけでなく、予習復習に活用することで、本授業を別の側面から立体的にするために指定される。また、授業の進度によって、あらたに教科書を指定することもある。

**参考文献**

字幕とメディアの新展開:多様な人々を包摂する福祉社会と共生のリテラシー,柴田邦臣・吉田仁美・井上滋樹,青弓社,2016  
思い出をつなぐネットワーク:日本社会情報学会・災害情報支援チームの挑戦,柴田邦臣, 吉田寛, 服部哲, 松本早野香,昭和堂,2014  
社会学のつばさ,早坂裕子, 天田城介, 広井良典,ミネルバ書房,2010

**履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

**その他**

講師は非常勤ですので、連絡に関してはメールなどをお願いいたします。また、適時、授業に関連のある学内外のイベントを案内します。単位履修の必須ではありませんが、参加した方がより社会学への理解が深まりますので、積極的な参加を期待しています。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                        |          |          |
|-------|------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810304101             | 科目ナンバリング | 007D028  |
| 講義名   | 経済学                    |          |          |
| 副題    | 経済分析の基礎                |          |          |
| 英文科目名 | Principle of Economics |          |          |
| 担当者名  | 内海 幸久                  |          |          |
| 単位    | 4                      | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 2時限 北1－303      |          |          |

授業概要

この授業では経済学の入門的な説明をおこなう。ミクロ経済学、マクロ経済学と呼ばれる経済学の分析の手法を通して、新聞等で報道される政治・経済問題を理論的な視点から考えられるようになることを授業の目標とする。講義の前半では、現実的な経済問題に焦点をあて、ミクロ経済理論やマクロ経済理論、実験などを扱う。後半では、マクロ経済のシミュレーション分析とゲーム理論を講義する。ゲーム理論では、選挙行動、環境問題、オークション、節電ゲームと制度設計、マッチングなどの分析を紹介する。

到達目標

経済学の基本的な分析手法について理解し、自らの言葉で社会現象を説明できるようになることを目標とする。

授業内容

| 実施回  | 内容                            |
|------|-------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス、授業で利用する基本的な事柄の確認      |
| 第2回  | 完全競争市場での分析・消費者行動の分析(需要曲線)     |
| 第3回  | 完全競争市場での分析(消費者余剰)             |
| 第4回  | 完全競争市場での分析・生産者行動の分析(供給曲線)     |
| 第5回  | 完全競争市場での分析(生産者余剰)             |
| 第6回  | 市場取引実験と市場の働き                  |
| 第7回  | 需給曲線を利用した均衡分析とミクロ経済政策について     |
| 第8回  | 経済余剰分析とミクロ経済政策について            |
| 第9回  | 経済余剰分析による貿易政策の分析              |
| 第10回 | ミクロ経済学のまとめ                    |
| 第11回 | 経済統計とGDP(マクロ経済)               |
| 第12回 | 経済統計と産業関連表                    |
| 第13回 | 長期の分析 ソロー経済成長モデル              |
| 第14回 | 授業の総括                         |
| 第15回 | 到達度の確認                        |
| 第16回 | 経済モデルとシミュレーション                |
| 第17回 | シミュレーション分析の基礎                 |
| 第18回 | ソローモデルを利用したシミュレーション           |
| 第19回 | 変数やモデルを変更してシミュレーションを行う        |
| 第20回 | 経済モデルのシミュレーション演習              |
| 第21回 | 為替レートと為替市場                    |
| 第22回 | 開放経済のマクロ経済政策(マンデル・フレミングモデル)   |
| 第23回 | 海外を考慮したモデルでのシミュレーションの演習       |
| 第24回 | ゲーム理論の導入                      |
| 第25回 | 選好関係・効用関数                     |
| 第26回 | 戦略型ゲームとは                      |
| 第27回 | 戦略形ゲームの応用例1(ジレンマゲーム・待ち合わせゲーム) |
| 第28回 | 戦略形ゲームの応用例2(節電ゲームとメカニズム)      |
| 第29回 | 戦略型ゲームの応用例3(オークション)           |
| 第30回 | マッチング・交渉問題などの話題               |

授業方法

講義が中心となるが、授業の理解を深めるために授業中に演習・実験などを実施する。詳細は初回の授業にて紹介する。

使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業前は、参考書を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間程度)

授業後は、講義で学習した理論を用いてどのような経済現象が説明できるのかを考察すること(1時間程度)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 90 %    | 2回 |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

評価は、第1学期のレポートと第2学期のレポート、授業中の貢献から判断する。

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10%(授業中の小テストなどもこちらの項目で評価する)

第1学期のレポート:30%(詳細は授業中に公表するが、余剰分析を利用した経済政策の分析がメインとなる)

第2学期のレポート:60%(ゲーム理論の部分が充実している方が望ましい)

経済実験への参加:(各個人のパフォーマンスに応じて、第1学期のレポートの得点に加点する)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出されたレポートについては、コメントを付して返却する。

**教科書コメント**

基本的な経済学の教科書であればどれでもよい。授業時に参考になる書籍を紹介する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                    |          |          |
|-------|------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810305101                         | 科目ナンバリング | 007D069  |
| 講義名   | 金融リテラシーとライフデザイン                    |          |          |
| 副題    | 人生とお金の知恵について                       |          |          |
| 英文科目名 | Financial Literacy and Life Design |          |          |
| 担当者名  | 清水 順子・小泉 達哉                        |          |          |
| 単位    | 2                                  | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 金曜日 4時限 西5－202                |          |          |

授業概要

この講義では、「あなたにとって必要な金融・経済の基礎知識」を伝授します。全国銀行協会や金融庁、金融広報中央委員会（日銀）、ファイナンシャルプランナーなど、金融各界の実務経験者が毎回オムニバス形式で教壇に立ちます。経済や金融を志す人はもちろん、「金融・経済は分からないし、興味がない」という方こそ受講してください。人生では、どうしても避けられない、費用が高額なイベントが発生します(教育、住居、老後など)。それらに備えて、人生の資金計画をどう描くのか。若いころからどう資産形成していけばよいのか。あなたの今後数十年の人生における金融面の羅針盤となるはずです。就職先次第では、あなたは社会人第一日目から企業年金の運用先(株や債券)の選択を迫られます。この講義を聴いているかどうかであなたの対応は違うものになることでしょう。

到達目標

社会人として、自分の人生設計を考えるうえで、それを資金面で下支えしていくための、最低限必要な金融と経済の知識を身に付けてもらうこと。その知識をもとに、現在のわが国の社会保障制度を巡る厳しい情勢の中で、あなたの人生にとってもっとも合理的な判断を行っていきけるような、そういう力を養ってもらうこと。

授業内容

| 実施回  | 内容                    |
|------|-----------------------|
| 第1回  | 導入—— 金融経済教育の重要性(金融庁)  |
| 第2回  | お金を稼ぐ(金融広報中央委員会)      |
| 第3回  | お金と経済(金融広報中央委員会)      |
| 第4回  | ライフプランを描く①(日本FP協会)    |
| 第5回  | ライフプランを描く②(日本FP協会)    |
| 第6回  | お金を借りる①(全国銀行協会)       |
| 第7回  | お金を借りる②(全国銀行協会)       |
| 第8回  | お金をふやす①(日本証券業協会)      |
| 第9回  | お金をふやす②(投資信託協会)       |
| 第10回 | リスクに備える①(生命保険文化センター)  |
| 第11回 | リスクに備える②(日本損害保険協会)    |
| 第12回 | トラブルに強くなる(東京都金融広報委員会) |
| 第13回 | ライフプランを描く③(日本FP協会)    |
| 第14回 | 全体総括(金融広報中央委員会)       |
| 第15回 | 理解度の確認とまとめ            |

授業計画コメント

毎回金融の専門家が講義を行います。

授業方法

講義を中心に、キャッシュフロー表の作成や学生同士の話し合いなども適宜織り交ぜる予定ですから、積極的に講義に参加してください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に講師派遣団体のHPを予め見ておくことが望ましい。講義で関心をもった事項については、講義の際に配布される各種教材や各団体のHPを使ってさらに理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 60 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 40 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

期末試験(60%)と中間レポート(40%)の評価をベースとしつつ、講義中に行われる質疑応答や講義内での課題の積極的参加な

ど、講義への貢献度も勘案して総合評価します。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

最終授業(第14回)では、試験内容を念頭に置いた総合的な復習を行います。またオムニバス形式で行われた各授業や中間レポートの課題内容等に関し、最終授業では総合して質問を受け付けます。

### **教科書**

大学生のお金と知恵,金融広報中央委員会,2017

### **教科書コメント**

上記テキストは、金融広報中央委員会のHPである「しるぼと」サイト内で検索すると、ウェブ上で無料で閲覧できます。各講義において各団体から配布されるパンフレット類も適宜参照してください。

### **その他**

金融はこれからの人生において必要かつ不可欠な知識です。経済学部以外の学生さんが積極的に受講してくださることを望みます。

【実務経験のある教員による授業科目】

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810400101        | 科目ナンバリング | 007D035  |
| 講義名   | イスラム世界            |          |          |
| 英文科目名 | Islamic World     |          |          |
| 担当者名  | 橋爪 烈              |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 5時限 西2－402 |          |          |

**授業概要**

第1学期はイスラーム勃興の背景とその教義、そして初期の政治史を中心に授業を進める。第2学期はイスラーム世界において行われた諸学問の概要及び西欧との関係について講義する。これによってイスラーム世界の基本事項をおさえるとともに、特に西欧世界との密接な関係を理解させることが本授業の目的である。

**到達目標**

現代世界で起こっている様々な出来事や事象を、中東、イスラームからの視点でも考えられるようになる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                           |
|------|------------------------------|
| 第1回  | 授業実施についての説明、アラビア語について        |
| 第2回  | 一神教について                      |
| 第3回  | イスラーム生誕以前のアラブの歴史・信仰・慣習       |
| 第4回  | ムハンマドの生涯とイスラームの成立：マッカ時代      |
| 第5回  | ムハンマドの生涯とイスラームの成立：マディーナ時代    |
| 第6回  | イスラームの教義(六信：神、天使、啓典)         |
| 第7回  | イスラームの教義(六信：預言者、来世、運命)       |
| 第8回  | イスラームの教義(五行：信仰告白、礼拝、齋戒)      |
| 第9回  | イスラームの教義(五行：喜捨、巡礼)、ジハード、祝祭など |
| 第10回 | カリフ制の成立と「正統カリフ」時代            |
| 第11回 | 第一次内乱と分派の発生                  |
| 第12回 | スンナ派、シーア派、ハワーリジュ派            |
| 第13回 | ウマイヤ朝と第二次内乱                  |
| 第14回 | アッバース朝「革命」                   |
| 第15回 | 第1学期まとめ                      |
| 第16回 | 平安の都バグダード                    |
| 第17回 | 都市とワクフ制度                     |
| 第18回 | ウラマー(知識人)とマドラサ               |
| 第19回 | イスラーム諸学：ハディース学、法学            |
| 第20回 | イスラーム諸学：神学、政治思想              |
| 第21回 | 外来の学問：翻訳活動                   |
| 第22回 | 外来の学問：アラビア科学(数学・天文学・自然学)     |
| 第23回 | 外来の学問：アラビア科学(錬金術・医学・薬学)      |
| 第24回 | 外来の学問：哲学                     |
| 第25回 | アラビア科学・哲学の西欧への影響             |
| 第26回 | タサウウフ(イスラーム神秘主義)             |
| 第27回 | 西欧のイスラーム観                    |
| 第28回 | 十字軍とレコンキスタ                   |
| 第29回 | オスマン朝と西欧列強の進出                |
| 第30回 | 第2学期まとめ                      |

**授業計画コメント**

授業の進度や受講者の興味・関心によって内容を変更する場合がある。

**授業方法**

講義形式。授業ごとにプリントを配布する。毎回の授業の冒頭ないし半ばに、前回の質問・コメントに応える時間を取る。

**使用言語**

日本語

### 準備学習(予習・復習)

講義内容や配布資料中の語句について、参考文献等を用いて調べておくこと(30分程度)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 30 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 30 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 10 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

第1学期(学期末試験):30%(第1学期の講義内容について理解したことを論述形式で提示してもらう。理解が正確であるか、また理解した内容を分かりやすく伝えることができているか、という点に注目し、評価する。)

第2学期(学年末試験):30%(第1学期と同様である。)

レポート:10%(課題に対して、独創的な見解や自らの経験を交えた文章を書いた者に高評価を与える。)

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30%(コメントペーパーは出席確認を兼ねているので、毎回提出すること。コメントペーパーには授業内容についての疑問点・関連事項に関する質問・感想などを書くこと。その内容を次回授業で取り上げたものについては、成績評価に反映し、白紙での提出が多い者については減点する。)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに示された受講者の質問については、次回授業中に回答する。また個別に質問等のあるものに対しては、授業後ないしメールアドレスを提示するので、メールで受け付ける。

### 教科書コメント

教科書は特に指定しない。

### 参考文献

岩波イスラーム辞典,大塚和夫 他編,岩波書店,初,2002

### 参考文献コメント

上記以外の参考文献は授業中に随時指示する。

### その他

基本的には授業後に質問等を受け付ける。また毎回配布するプリントに担当者のメールアドレスを記載するので、個別に連絡を取りたい学生は、そのアドレスにメールを送ること。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810401101                              | 科目ナンバリング | 007D036  |
| 講義名   | ヨーロッパ世界                                 |          |          |
| 副題    | 西欧から中世を考える/中東欧から近現代を考える                 |          |          |
| 英文科目名 | European World                          |          |          |
| 担当者名  | 青山 由美子・香坂 直樹                            |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 4時限 中央－302・第2学期 火曜日 4時限 中央－302 |          |          |

## 授業概要

### 【第1学期】

第1学期の講義の目的は、ヨーロッパ中世社会(5世紀～15世紀)の特質をつかむことである。地域としては、西ヨーロッパを主に取り上げる。できるだけ生の史料の日本語訳と関連映像に触れることによって、自分なりに、ヨーロッパ中世社会の特質とその変化をイメージできるように進める。

### 【第2学期】

第2学期の講義では「近代」や「現代」と呼ばれる時代(19・20世紀)を取り上げる。その際、ドイツとロシア(後にはソ連)の狭間に位置した「中欧」と呼ばれる地域の体験に注目したい。中欧は西欧や日本とは異なる形で近代や現代に発生した政治や社会の変化を体験した地域である。それゆえに、中欧の近代・現代を知ること、複数の近代・現代の形を知ることにつながるだろう。最終的には、中欧の近代や現代を手掛かりにしつつ、近代・現代という時代それ自体の特徴も考えていきたい。

## 到達目標

### 【第1学期】

- ・中世ヨーロッパ社会の特質を理解し自分の言葉で説明できるようになる。
- ・史料の日本語訳の内容を理解し、自分で解釈できるようになる。
- ・関連映像に触れて、当該テーマに関して自分の意見や感想をまとめられる。

### 【第2学期】

- ・現代社会の歴史的な背景を考える際の新たな視角を習得できる。
- ・中欧の近代・現代に関する知識を習得できる。
- ・上記の知識に基づいて世界の各地域が多様な近代化プロセスを経験したことを学び、各地域の近代化が持つ意味と結果について、総合的に理解する力を得ることができる。
- ・授業では中欧の19・20世紀に関する史料も適宜紹介する。これを通じて、歴史研究に必要な資料の読み方の基礎を学ぶことができる。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                                      |
|------|-----------------------------------------|
| 第1回  | 中世西ヨーロッパ社会の主要なトピックを理解する                 |
| 第2回  | ヨーロッパ中世初期の概要を理解する                       |
| 第3回  | ヨーロッパ中世初期に関連する史料に触れる                    |
| 第4回  | ヨーロッパ中世初期に関連する映像に触れる                    |
| 第5回  | ヨーロッパ中世初期に関して各自の時代像をつくる                 |
| 第6回  | ヨーロッパ中世中期の概要を理解する                       |
| 第7回  | ヨーロッパ中世中期に関連する史料に触れる                    |
| 第8回  | ヨーロッパ中世中期に関連する映像に触れる                    |
| 第9回  | ヨーロッパ中世中期に関して各自の時代像をつくる                 |
| 第10回 | ヨーロッパ中世末期の概要を理解する                       |
| 第11回 | ヨーロッパ中世末期に関連する史料に触れる                    |
| 第12回 | ヨーロッパ中世末期に関連する映像に触れる                    |
| 第13回 | ヨーロッパ中世末期に関して各自の時代像をつくる                 |
| 第14回 | ヨーロッパ中世と現代の私たち                          |
| 第15回 | 取り上げたトピックについて各自のコメントをまとめる               |
| 第16回 | 「近現代と中欧」: 中欧の基礎情報／授業を通じて注目するテーマ群の確認     |
| 第17回 | 「帝国の中欧」: ハプスブルク帝国統治下の中欧の状況／帝国の構成原理      |
| 第18回 | 「(多)民族の中欧」: 19世紀のナショナリズム運動と中欧への影響／政治の対応 |
| 第19回 | 「第一次世界大戦と中欧」: 帝国の戦争／ナショナリズム運動家にとっての戦争   |
| 第20回 | 「戦間期と中欧」: 帝国から国民国家へ／新しい秩序の維持と課題         |
| 第21回 | 「第二次世界大戦と中欧1」: 中欧での第二次世界大戦／被害体験と加害体験    |
| 第22回 | 「第二次世界大戦と中欧2」: 抵抗運動の重層性／戦後構想の中での中欧      |
| 第23回 | 「中欧から“東欧”へ」: 社会主義政権の成立／社会主義下での社会変容      |
| 第24回 | 「中欧の欧州回帰」: 東欧での社会主義の崩壊／EU加盟プロセスとその結果    |
| 第25回 | 「中欧での住民管理」: 中欧での住民管理技術の展開／統治への応用        |

- 第26回 「中欧での住民移動」: 中欧での様々な住民移動／戦争と住民移動
- 第27回 「中欧での記念と記憶」: 各国で国民史の記憶のされ方と記念碑・記念日
- 第28回 「中欧と戦争」: 戦争が中欧に残したもの／戦争と記憶の分断
- 第29回 「中欧の歴史認識」: 歴史認識の分断の克服に向けた中欧各国の試み
- 第30回 理解度の確認

#### 授業計画コメント

- 【第1学期】特になし
- 【第2学期】特になし

#### 授業方法

- 【第1学期】
- ・最初にテーマと史料の解説、その後に映像をみてもらい、最後にコメントを書く時間をとります。
- 【第2学期】
- ・講義方式で行う。パワーポイントや参考図版などを映写しつつ口頭説明と板書を交えて授業を進める。
  - ・内容理解のために、パワーポイント・スライドや参考図版、文献紹介などをまとめた資料を毎回の授業時に配布する。(なお、配布資料は授業終了後にG-Portにアップロードする。)

#### 使用言語

日本語

#### 準備学習(予習・復習)

- 【第1学期】
- ・予習として、取り上げるテーマについて、世界史の教科書や資料集、西洋史概説のテキストに目を通してみてください。(1時間)
  - ・復習として、取り上げたテーマの概要や意味について、配布されたプリントを読み返し、自分なりの考えをまとめ直してください。(1時間)
- 【第2学期】
- ・復習として、授業後に配布資料を読み返し、授業内では意味を理解できなかった用語などを各自で調べ、不明な点をまとめておくこと。(1～2時間)
  - ・予習として、前回の授業時に教員が指示した文献資料に目を通し、文献中に出てくる不明点や疑問点をまとめておくこと。(1時間)

#### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                    |
|--------------------------|---------|-----------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 50 %    | 第1学期の評価方法はコメント欄に記します。 |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    | 第2学期の評価方法はコメント欄に記します  |
| 中間テスト                    |         |                       |
| レポート                     |         |                       |
| 小テスト                     |         |                       |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                       |
| その他(備考欄を参照)              |         |                       |

#### 成績評価コメント

- 【第1学期の成績評価方法】
- ・毎回授業の最後を書いて提出してもらったコメント:100%
- 【第2学期の成績評価方法】
- ・学年末試験:50%
  - ・中間レポート:40%
  - ・平常点:10%

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 【第1学期】
- ・毎回の授業で提出してもらったコメントに基づき、次回の授業の最初に、多くの受講生から寄せられた疑問について解説する。
- 【第2学期】
- ・毎回の授業で提出を求めるコメント・ペーパーの内容を次回の配布資料に反映させ、前回の授業内容に対する疑問や質問に答える。
  - ・提出された中間レポートに対して、コメントを付したうえで返却する。

#### 教科書コメント

- 【第1学期】
- ・教科書は使用しない。
- 【第2学期】
- ・教科書は使用しない。

#### 参考文献コメント

- 【第1学期】
- ・参考文献は授業内で適宜指示する。
- 【第2学期】
- ・参考文献は授業内で適宜指示する。

#### 履修上の注意

- 【第2学期】
- ・授業への積極的な参加を期待する。また、他の受講生への妨害となるので授業中の私語は厳に慎むこと。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810402101        | 科目ナンバリング | 007D037  |
| 講義名   | 東アジア世界            |          |          |
| 副題    | 映像が語る東アジアの20世紀    |          |          |
| 英文科目名 | East Asian World  |          |          |
| 担当者名  | 長井 暁・井上 隆史        |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 5時限 中央－404 |          |          |

### 授業概要

20世紀はその多くの出来事が映像によって記録された「映像の世紀」である。TVドキュメンタリーは記録映像や文書史料を収集し、当事者へのインタビューを実施して映像で20世紀の歴史を描き伝えてきた。この授業では毎回TVドキュメンタリーを視聴しながら、激動の東アジア現代史を学んで行く。そして、21世紀、日本(日本人)は東アジアの中でどのように生きて行くべきかを考える。

### 到達目標

東アジアの20世紀の歩みを理解するとともに、21世紀、日本(日本人)が東アジアの一員としてどのように生きて行くべきか、自分なりの考えを持てるようになる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                              |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | (4/9 担当:長井) 孫文の革命運動と日本          |
| 第2回  | (4/16 担当:井上) 日露戦争を考える①旅順陥落の謎    |
| 第3回  | (4/23 担当:井上) 日露戦争を考える②一等国の錯誤    |
| 第4回  | (4/30 担当:長井) 張作霖爆殺事件と満州事変       |
| 第5回  | (5/7 担当:長井) 満州国とは何だったのか         |
| 第6回  | (5/14 担当:長井) 日本軍生物化学兵器部隊と満州国    |
| 第7回  | (5/21 担当:井上) 国際スパイ・ゾルゲとは何だったのか？ |
| 第8回  | (5/28 担当:井上) 国際スパイ・ゾルゲの悲劇       |
| 第9回  | (6/4 担当:井上) 日米暗号戦争の教訓           |
| 第10回 | (6/11 担当:長井) 西安事件               |
| 第11回 | (6/18 担当:長井) 日中戦争               |
| 第12回 | (6/25 担当:長井) ノモンハン事件            |
| 第13回 | (7/2 担当:井上) 草原の国・モンゴル           |
| 第14回 | (7/9 担当:井上) ベトナム戦争・反戦の歌声        |
| 第15回 | (9/17 担当:井上) ビルマ独立義勇軍と日本        |
| 第16回 | (9/24 担当:長井) 太平洋戦争開戦と御前会議       |
| 第17回 | (10/1 担当:長井) 毛沢東とスターリン          |
| 第18回 | (10/8 担当:長井) 大躍進と文化大革命          |
| 第19回 | (10/15 担当:井上) 中国の改革開放①          |
| 第20回 | (10/22 担当:井上) 中国の改革開放②          |
| 第21回 | (10/29 担当:井上) 中国の改革開放③          |
| 第22回 | (11/5 担当:長井) 朝鮮戦争               |
| 第23回 | (11/12 担当:長井) 日韓国交正常化           |
| 第24回 | (11/19 担当:長井) 日中国交正常化           |
| 第25回 | (11/26 担当:長井) 天安門事件             |
| 第26回 | (12/3 担当:井上) シルクロード①            |
| 第27回 | (12/10 担当:井上) シルクロード②           |
| 第28回 | (12/17 担当:井上) シルクロード③           |
| 第29回 | 自主研究                            |
| 第30回 | 自主研究                            |

### 授業計画コメント

1クール3回を基本として、2人の講師が交互に授業を実施する。

### 授業方法

歴史の概要とTVドキュメンタリーの構成要素(記録映像・文書史料・インタビュー)についてパワーポイントや配布資料を使って解説した後、実際にTVドキュメンタリーを視聴する。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

各回のテーマとなる国やその歴史について、基本的な事柄を事前に学習しておくこと。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                |
|--------------------------|---------|-------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                   |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                   |
| 中間テスト                    |         |                   |
| レポート                     | 70 %    | レポート①20% レポート②50% |
| 小テスト                     |         |                   |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |                   |
| その他(備考欄を参照)              |         |                   |

**成績評価コメント**

平常点30%(出席・感想)と、レポート70%(ドキュメンタリーの企画書作成20%、ドキュメンタリーの台本作成50%)で評価する。レポートの評価は、文書史料・記録映像・証言などのリサーチと、集めた素材を使って想像力を働かせながら、自分なりにどのようにドキュメンタリーを構成できるかがポイントとなる。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポート①については9月24日(第16回)の授業の中でフィードバックする。レポート②については希望者に対してメールでフィードバックする。

**教科書コメント**

教科書は特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する。

**参考文献コメント**

参考文献については必要に応じて授業の中で紹介する。

**履修上の注意**

出席回数が3分の2に満たない者の単位を認定しない。

**その他**

出来るだけ休まず受講することが望ましい。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                    |          |          |
|-------|--------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810403101         | 科目ナンバリング | 007D038  |
| 講義名   | 南アジア世界             |          |          |
| 英文科目名 | South Asian Region |          |          |
| 担当者名  | 小嶋 常喜              |          |          |
| 単位    | 4                  | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 4時限 西5－301  |          |          |

### 授業概要

「南アジア」という地域世界について、歴史を中心に様々な視点からその多様性を学ぶ。1学期は古代から植民地期までの歴史を概観し、南アジアの外の世界との接触の中で様々な宗教や豊かな文化が育まれてきたことを理解する。2学期は南アジアの近現代史を、ナショナリズムやポストコロニアリズムという視点からみていく。近年注目されている南アジアの経済成長、貧困や差別、国境問題や環境問題、そして移民をめぐる問題についても紹介する予定である。

### 到達目標

- (1)南アジア世界の特徴である多様性、およびその歴史的形成について理解する。
- (2)南アジアの歴史的事象を固有のものとはせず、歴史研究の一般的な問題と関連させて理解する。
- (3)現在の南アジア世界の諸問題を歴史的視点から理解し、またそれらを南アジア固有のものとはせず、自らが生きる社会の諸問題とも比較・関連させながら理解する。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | 南アジアの地理～「多様性」社会としての南アジア            |
| 第2回  | 南アジアの古代文明～インダス文明とその交易ネットワーク        |
| 第3回  | 「アーリヤ人」とは誰か？～ヴェーダ時代の社会             |
| 第4回  | 仏教の誕生と南アジア社会                       |
| 第5回  | 仏教美術と金貨にあらわれる古代南アジアの東西交流           |
| 第6回  | ヒンドゥー教とカースト                        |
| 第7回  | 南アジアの「中世」～社会・文化の多様性はどのように育まれたのか    |
| 第8回  | スーフィーと聖者廟～南アジアのイスラーム(1)            |
| 第9回  | インド=イスラーム文化～南アジアのイスラーム(2)          |
| 第10回 | 環インド洋地域～海がつなぐ世界                    |
| 第11回 | 植民地支配と南アジアの「近代」                    |
| 第12回 | インド大反乱をめぐる諸問題                      |
| 第13回 | 差異化と分類～植民地社会を記録することの意味             |
| 第14回 | 文化の流用～チャイ・ヒングリッシュ・クリケット            |
| 第15回 | 第1学期のまとめ(レポート)                     |
| 第16回 | 植民地エリートとナショナリズムの勃興～南アジアのナショナリズム(1) |
| 第17回 | インド兵はなぜ戦ったのか～第一次世界大戦と南アジア          |
| 第18回 | M・K・ガンディーの思想と行動～南アジアのナショナリズム(2)    |
| 第19回 | ヒンドゥーとムスリムの境界～南アジアのナショナリズム(3)      |
| 第20回 | B・R・アンベードカルと不可触民解放運動               |
| 第21回 | 脱植民地化～分離独立への過程                     |
| 第22回 | 南アジア諸国の政治と民主主義                     |
| 第23回 | 南アジア諸国の経済成長をめぐる諸問題                 |
| 第24回 | 南アジアと日本～その交流の歴史                    |
| 第25回 | 赤い革命と緑の革命～南アジアのポストコロニアル(1)         |
| 第26回 | カシミールをめぐる諸問題～南アジアのポストコロニアル(2)      |
| 第27回 | 歴史と記憶～南アジアのポストコロニアル(3)             |
| 第28回 | 南アジア系移民の世界(1)～植民地期まで               |
| 第29回 | 南アジア系移民の世界(2)～脱植民地化後               |
| 第30回 | 第2学期のまとめ(学年末試験)                    |

### 授業方法

指定の教科書を使い、講義ごとにレジュメと必要に応じて史資料を配布する。またインド映画やドキュメンタリーなどの映像資料を積極的に活用する。必要に応じて数回小テストを課し、その場で提出してもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

高校世界史の南アジアに関連する事項程度は把握しておくことが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考     |
|--------------------------|---------|--------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |        |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    | 持ち込み不可 |
| 中間テスト                    |         |        |
| レポート                     | 20 %    |        |
| 小テスト                     | 30 %    |        |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |        |
| その他(備考欄を参照)              |         |        |

### 成績評価コメント

- (1)については南アジアの諸宗教の特徴とその形成について理解しているか
- (2)南アジア史の重要な事象の歴史的意義について理解しているか
- (3)現在の南アジアの諸問題について歴史的観点から理解しているか

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された小テストの解答に対して、解説や授業への反映を行う

### 教科書

ようこそ南アジア世界へ:地域研究のすすめ,石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編,昭和堂,1,2020,9784812219188

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810404101            | 科目ナンバリング | 007D040  |
| 講義名   | 神話学講義                 |          |          |
| 英文科目名 | Lectures on Mythology |          |          |
| 担当者名  | 平藤 喜久子                |          |          |
| 単位    | 4                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 4時限 西2－302     |          |          |

### 授業概要

世界の神話についての基礎的な知識を得て、その上で神話学の多様な見方を学んでいく。

### 到達目標

神話学の基本的な考え方を理解する。  
神話の背景にある宗教文化について理解する。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                       |
|------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション1               |
| 第2回  | 神話の基礎知識1 日本・古代オリエント      |
| 第3回  | 神話の基礎知識2 ギリシャ・北欧・インド・その他 |
| 第4回  | 神話の世界観                   |
| 第5回  | はじまりの神話1                 |
| 第6回  | はじまりの神話2                 |
| 第7回  | はじまりの神話3                 |
| 第8回  | はじまりの神話4                 |
| 第9回  | 英雄の神話1                   |
| 第10回 | 英雄の神話2                   |
| 第11回 | 英雄の神話3                   |
| 第12回 | 神話のいきもの1                 |
| 第13回 | 神話のいきもの2                 |
| 第14回 | 神話と異形                    |
| 第15回 | 中間まとめ                    |
| 第16回 | 神話学のはじまり                 |
| 第17回 | 日本と神話学                   |
| 第18回 | 日本の神話学                   |
| 第19回 | 神話と儀礼                    |
| 第20回 | 神話と社会                    |
| 第21回 | 神話と歴史                    |
| 第22回 | 聖典の神話化                   |
| 第23回 | 神話とナショナリズム               |
| 第24回 | 神話と民間信仰                  |
| 第25回 | 神話と昔話                    |
| 第26回 | 神話と心1                    |
| 第27回 | 神話と心2                    |
| 第28回 | ポップカルチャーと神話1             |
| 第29回 | ポップカルチャーと神話2             |
| 第30回 | まとめ                      |

### 授業計画コメント

授業計画は履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります

### 授業方法

パワーポイントを使用した講義形式

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

関連する神話に関する文献を読んでおくこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 70 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

授業時に小レポート、あるいはmanabaなどを利用したフィードバックを求める場合がある。その内容も成績評価の参考とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に小レポート、あるいはmanabaなどを利用したフィードバックを求める場合がある。そこで質問があった場合は、次の授業時間内に回答を行う。

### 参考文献

神の文化史事典,平藤喜久子、松村一男、山田仁史,白水社,2013

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810405101                              | 科目ナンバリング | 007D041  |
| 講義名   | 歴史に見る日本                                 |          |          |
| 英文科目名 | Japan in History                        |          |          |
| 担当者名  | 三舟 隆之・加藤 祐介                             |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 金曜日 5時限 西2－301.第2学期 金曜日 5時限 西2－301 |          |          |

授業概要

（前期）現在誰もが知っている浦島太郎の昔話は、実は奈良時代に成立した古代伝承をもとにして成立した昔話である。この講義では古代の浦島子伝承がどのように成立し、それが古代・中世を経て近世・近現代まで時代の変化と共にどのように変化していくか、日本古代の思想史を考察し、歴史学的な方法論を理解することを目的とする。  
（後期）国家と社会の関係という視角から、日本近代史を概観する。歴史を複眼的に捉える方法を鍛えるとともに、現在につながる問題を発見することを目指したい。

到達目標

- ①歴史学がどのような学問であるのか、古代から近代までの伝承を史料として、その背景にある歴史像を理解する。
- ②国家の歴史像に偏るのではなく、地域に生きた民衆の生活と信仰について理解する。
- ③日本近代の歴史について基礎的な事実関係を理解し、説明することができる。
- ④現在存在している制度や観念が、歴史的に形成されたものであることを理解する。

授業内容

| 実施回  | 内容                                        |
|------|-------------------------------------------|
| 第1回  | 現代の浦島物語―さまざまな浦島物語                         |
| 第2回  | 『日本書紀』の浦島子伝承の成立                           |
| 第3回  | 『丹後国風土記』の浦島子伝承                            |
| 第4回  | 『万葉集』の浦島子伝承                               |
| 第5回  | 浦島子伝承の源流―中国・朝鮮半島の説話との比較                   |
| 第6回  | 平安時代の浦島子伝承―「浦島子伝」の成立と展開                   |
| 第7回  | 中世の「浦島太郎」―『御伽草子』の成立                       |
| 第8回  | 「浦島寺」の成立―近世の交通路の整備と浦島物語の広がり               |
| 第9回  | 近世文学の浦島物語―滑稽な浦島太郎                         |
| 第10回 | 近代の浦島太郎①―『日本昔噺』から国定教科書へ                   |
| 第11回 | 近代の浦島太郎②―近代文学の中の浦島太郎～森鷗外から島崎藤村            |
| 第12回 | 羽衣説話との比較①―古代の羽衣伝承                         |
| 第13回 | 羽衣説話との比較②―中国・韓国の羽衣説話との共通点                 |
| 第14回 | 羽衣説話との比較③―羽衣伝承の在地化―近江・余呉地方の在地伝承           |
| 第15回 | まとめ：浦島伝承と羽衣伝承の共通点と相違点―古代の物語は現在までどう変化したのか。 |
| 第16回 | イントロダクション                                 |
| 第17回 | 近世の身分制国家から近代の国民国家へ                        |
| 第18回 | 明治社会を生きる                                  |
| 第19回 | 憲法をつくる                                    |
| 第20回 | 日清・日露戦争と社会                                |
| 第21回 | 帝国としての近代日本―植民地支配                          |
| 第22回 | 第一次世界大戦の世界史的意義                            |
| 第23回 | 第一次世界大戦と日本                                |
| 第24回 | 大正デモクラシーの思想と運動①                           |
| 第25回 | 大正デモクラシーの思想と運動②                           |
| 第26回 | 政党内閣制の形成                                  |
| 第27回 | 政党内閣制の展開と崩壊                               |
| 第28回 | 昭和恐慌と軍部の台頭                                |
| 第29回 | 日中戦争からアジア太平洋戦争へ                           |
| 第30回 | 昭和戦時期の社会                                  |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

講義で配布した資料を見直し、必要に応じて参考文献を読むこと。また授業中に配布された史料をよく読み、不明な点があれば次の授業で質問することが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 50 %    |                |
| 学年末試験(第2学期)              | 35 %    |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     |         |                |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 15 %    | 毎回受講票を記入してもらう。 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

(後期)2回に1回くらいのペースで、受講票に対するリプライを行う。

### 参考文献

大学の日本史 教養から考える歴史へ 4,小風秀雅,山川出版社,2016

それでも、日本人は「戦争」を選んだ,加藤陽子,朝日出版社,2009

浦島太郎の日本史:歴史文化ライブラリー285,三舟隆之,吉川弘文館,2,2009

### 参考文献コメント

挙げた文献以外にも、授業中で適宜提示します。

### その他

毎回出席して、教養を高めようという意欲のある学生の受講を望みます。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810406101                              | 科目ナンバリング | 007D042  |
| 講義名   | 歴史に見る世界                                 |          |          |
| 副題    | 【第1学期】秦漢時代史概説【第2学期】18世紀イタリア史概説          |          |          |
| 英文科目名 | World in History                        |          |          |
| 担当者名  | 邊見 統・大西 克典                              |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 2時限 西5－303.第2学期 火曜日 2時限 西5－303 |          |          |

## 授業概要

### 【第1学期】

秦漢帝国は皇帝制度の成立や郡県制的支配の全国的展開など、後の中国王朝に大きな影響を与えた。よって、秦漢時代を理解することは、後の中国史を理解するうえでも重要である。この時代については、『史記』・『漢書』・『後漢書』などの文献史料に加え、近年陸続と出土資料が公表されており、これらをもとに多くの知見を得ることができる。本講義では、秦漢時代の政治史の流れを確認した後、秦漢時代について考える際に必要ないくつかの事項について検討する。

### 【第2学期】

高等学校までの世界史ではほとんど扱われない近世のイタリア半島の歴史を講義する。18世紀ヨーロッパの政治史と関連付けながらイタリア半島の歴史を概説的に扱ったのち、イタリア半島の諸国で行われた行財政の改革について論じていく。

## 到達目標

### 【第1学期】

秦漢時代を理解する際に前提となる知識を得る。それを踏まえて、中国史を考える力を養う。

### 【第2学期】

18世紀のイタリアを中心としたヨーロッパ史について、基礎的な知識を獲得し、その知識を適切に表現できる。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                                            |
|------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                                     |
| 第2回  | 秦漢時代史概観1                                      |
| 第3回  | 秦漢時代史概観2                                      |
| 第4回  | 中央官制1                                         |
| 第5回  | 中央官制2                                         |
| 第6回  | 地方官制1                                         |
| 第7回  | 地方官制2                                         |
| 第8回  | 爵制1                                           |
| 第9回  | 爵制2                                           |
| 第10回 | 対外関係                                          |
| 第11回 | 豪族                                            |
| 第12回 | 家族                                            |
| 第13回 | 戦後日本における秦漢史研究1                                |
| 第14回 | 戦後日本における秦漢史研究2                                |
| 第15回 | 総括                                            |
| 第16回 | 第2学期: イントロダクション                               |
| 第17回 | 17世紀のイタリア:スペイン支配期のイタリア                        |
| 第18回 | 18世紀ヨーロッパ政治の中のイタリア(1):スペイン継承戦争                |
| 第19回 | 18世紀ヨーロッパ政治の中のイタリア(2):ポーランド継承戦争からオーストリア継承戦争まで |
| 第20回 | 18世紀ヨーロッパ政治の中のイタリア(3):1748年以後の平和              |
| 第21回 | ハプスブルク家支配下の啓蒙改革:ミラノ公国                         |
| 第22回 | トスカーナ大公国の啓蒙改革(1):摂政期                          |
| 第23回 | トスカーナ大公国の啓蒙改革(2):1765-1770年代                  |
| 第24回 | トスカーナ大公国の啓蒙改革(3):1780年代                       |
| 第25回 | ナポリ王国における啓蒙改革(1)                              |
| 第26回 | ナポリ王国における啓蒙改革(2)                              |
| 第27回 | 改革なき国?: ヴェネツィア共和国の場合                          |
| 第28回 | フランス革命とイタリア(1):ナポレオンのイタリア支配                   |
| 第29回 | フランス革命とイタリア(2):フランス革命の遺産                      |
| 第30回 | 第2学期総括                                        |

授業方法  
講義形式

使用言語  
日本語

準備学習(予習・復習)  
予習は不要。授業中に配付するレジュメをもとに復習をしてほしい。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              | 100%    |    |

成績評価コメント

【第1学期】  
学期末試験:80%、平常点:20%  
【第2学期】  
学期末試験:70% 平常点: 30%  
※第1学期、第2学期それぞれ50点満点。これらを合算して通年の成績を算出する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回のコメントペーパーをもとに、受講者の疑問などに回答する。

参考文献コメント

参考文献は授業中に示す。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                                         |          |          |
|-------|---------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810407101                                              | 科目ナンバリング | 007D043  |
| 講義名   | 宗教の現在A                                                  |          |          |
| 副題    | 宗教情報リテラシーを培う                                            |          |          |
| 英文科目名 | Religion in the Present-day Society                     |          |          |
| 担当者名  | 林 東洋.小川 文子.門屋 温.狩野 希望.丹羽 泉.橋迫 瑞穂.平沢 卓也.三島 まき.宮本 郷史.山田 徹 |          |          |
| 単位    | 4                                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 土曜日 2時限 西5－B1                                        |          |          |

授業概要

日本における新宗教は、幕末・維新时期以降に勃興した。当初は侮りの意味もこめて〈新興宗教〉あるいは〈擬似宗教〉などと呼ばれたが、時の試練に耐えて生き延びた各教団は、現在では看過できぬほど大きな社会的影響力を有している。一方、新宗教の活動に刺激を受けた伝統宗教も、それぞれ再生の道を模索している。

本講義では、日本を含む東アジアから広く世界にいたるまで、各宗教の実情を確認しながら、現代における宗教のあり方を多面的に検証していく。それらの考察を通して、「人間とは何か」、「人間の心とはどのようなものか」といった普遍的な問題にも言及していくことができれば最上である。

到達目標

現代の日本では宗教について正面から論じられることは少なく、特定の宗教組織に所属しない人の比率も高いといわれる。しかし、「自分は無宗教である」と認識している人も〈お盆〉や〈初詣〉などの際に宗教的行動をとることは少なくないし、世界全体でみれば宗教と一切の関わりを持たずに生きられる人はごく少数なのである。自分自身が信仰を有しているか否かにかかわらず、我々は今後の人生において幾つもの宗教的な儀礼・行事に参列し、宗教を自覚的に信仰する人々とも接していくものと思われる。

また、研究・教育の場である大学における、いわゆる〈カルト〉の勧誘も問題となって久しい。宗教に対してどのような態度で接するべきか、我々ひとりひとりが自身に問う必要に迫られているのである。

本講義を通じて現代の宗教の諸相について知り、それに対する研究者の見解に触れることによって、受講生が宗教に対する広く深い視野を涵養することを願っている。

授業内容

| 実施回  | 内容                                    |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | 4/11 ガイダンス 学習院大学講師 林東洋                |
| 第2回  | 4/18 イントロダクション 清泉女子大学講師 門屋温           |
| 第3回  | 4/25 同上                               |
| 第4回  | 5/2 同上                                |
| 第5回  | 5/9 日本の民俗宗教 沖縄県立芸術大学付属研究所共同研究員 三島まき   |
| 第6回  | 5/16 同上                               |
| 第7回  | 5/23 同上                               |
| 第8回  | 5/30 神道の現在 学習院大学講師 山田徹                |
| 第9回  | 6/6 同上                                |
| 第10回 | 6/13 同上                               |
| 第11回 | 6/20 現代日本の仏教 学習院大学講師 宮本郷史             |
| 第12回 | 6/27 同上                               |
| 第13回 | 7/4 同上                                |
| 第14回 | 7/11 特別講義 立教大学兼任講師 橋迫瑞穂               |
| 第15回 | 7/18 予備日                              |
| 第16回 | 9/12 芸術と宗教 早稲田大学日本宗教文化研究所招聘研究員 平沢卓也   |
| 第17回 | 9/19 同上                               |
| 第18回 | 9/26 同上                               |
| 第19回 | 10/3 日本人とキリスト教 学習院大学講師 小川文子           |
| 第20回 | 10/10 同上                              |
| 第21回 | 10/17 同上                              |
| 第22回 | 11/7 グローバル化とイスラーム 学習院大学講師 狩野希望        |
| 第23回 | 11/14 同上                              |
| 第24回 | 11/21 同上                              |
| 第25回 | 11/28 韓国の現代宗教 東京外国語大学教授 丹羽泉           |
| 第26回 | 12/5 同上                               |
| 第27回 | 12/12 同上                              |
| 第28回 | 12/19 スピーチ・ディベート・ディスカッション 学習院大学講師 林東洋 |
| 第29回 | 12/26 同上                              |

**授業計画コメント**

学外の講師の都合によって講義の順・内容が変更されることがある。G-Portによる伝達事項に注意すること。

**授業方法**

各分野の専門家に協力を依頼しており、講師によって授業の進め方は様々である。(なお、各回の内容は前年度とほぼ同一である。)主として講義形式であるが、アクティブラーニング(スピーチ・ディベート・ディスカッション等)の機会も設ける予定である。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

各回の担当講師により、予習や復習が指示されることがある。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 100%    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

学年末試験は、以下の2部構成である。

1. 各講師から出題される選択式問題(出題範囲は授業で扱う全分野)
2. 指定された主題に沿って論じる記述式問題(主題は試験前に公開)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

各講師が、コメントペーパー(リアクションペーパー)で意見や質問を募ることがある。それに対するフィードバックは、原則として授業中に行われる。

**参考文献**

新宗教 教団・人物事典,井上順孝ほか編,弘文堂,1996,9784335160288  
現代日本の宗教事情:遊学叢書,諏訪春雄編,勉誠出版,1999,9784585040613

**参考文献コメント**

このほか必要に応じて、各講師から参考文献が紹介される。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                     |          |          |
|-------|-------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810407102                          | 科目ナンバリング | 007D043  |
| 講義名   | 宗教の現在B                              |          |          |
| 副題    | 現代日本の宗教事情                           |          |          |
| 英文科目名 | Religion in the Present-day Society |          |          |
| 担当者名  | 加藤 みち子                              |          |          |
| 単位    | 4                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 1時限 南3－202                   |          |          |

## 授業概要

現代日本の若い人に「宗教」についてどう思いますか、とたずねると、「やばい」「こわい」か「関係ない」という答えがかなり多いように思います。しかしその一方で、それと気づかないうちに宗教に「はまって」しまう人も多いようです。このように両極端に分かれてしまうのは宗教に対して無知であることにも原因があるように思います。この講義では、「宗教とは何か」ということについて、宗教学上の区分にとどめず、機能面から「信仰系」宗教と「文化・習俗系」宗教に分け、宗教が伝統的に果たしてきた役割と、現代社会においてなお「必要」とされる意味について考えていきます。

具体的には、前期で、現代日本で多くの帰依者を持っている新宗教の特色を社会背景を踏まえて分析し、現代人が何を求めて「宗教」に出会うのかを考えていきます。そして後期には、伝統宗教の特色を分析し、現代社会における、現代人の宗教的要求に対してどのような役割を果たしているのかを考えます。以上の作業を通じて、われわれ日本人にとっての宗教とは何であったか、そして何でありうるかということ、具体的に考えていきたいと思います。

## 到達目標

- ①「宗教」とは何か、「宗教」と「カルト」の違いについて正しい理解をもつ。
- ②現代日本社会の動向と、新宗教の提供するものの対応関係を理解する。
- ③日本の新・旧宗教の基本的特色を理解し、宗教が人間社会にどのような役割を果たしてきたか、また今後果たしうるかについて意見を持てるようになる。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                                       |
|------|------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクションとガイダンスー日本人はなぜ「宗教」がキライか？         |
| 第2回  | 「宗教」とは何かー「信仰」系宗教と「文化・習俗」系宗教              |
| 第3回  | 「カルト」と「宗教」を区別する(1)                       |
| 第4回  | 「カルト」と「宗教」を区別する(2)                       |
| 第5回  | spiritual,religious,religionー「宗教的なもの」の諸相 |
| 第6回  | 「スピリチュアル」系のブームー宗教とよばれない宗教の流行             |
| 第7回  | 新宗教と現代社会(1)ー経済・社会の動向と新宗教流行の関係            |
| 第8回  | 新宗教と現代社会(2)ー幕末・明治期成立の新宗教の特色              |
| 第9回  | 新宗教と現代社会(3)ー日蓮・法華系新宗教の信者が膨大に存在する理由       |
| 第10回 | 新宗教と現代社会(4)ー「病氣治し」と宗教                    |
| 第11回 | 新宗教と現代社会(5)ー「終末論」と宗教                     |
| 第12回 | 新宗教と現代社会(6)ー自己啓発と自己変革を求めて                |
| 第13回 | 新宗教と現代社会(7)ー社会参加する新宗教                    |
| 第14回 | まとめ:現代社会と新宗教の諸相                          |
| 第15回 | 理解度の確認 レポートの書き方及び、公正な研究活動とするための資料の活用法    |
| 第16回 | 後期イントロダクションー現代日本における伝統宗教の諸相              |
| 第17回 | 伝統宗教(1) 自然崇拜？アニミズム？ー八百万の神々とは何か？          |
| 第18回 | 伝統宗教(2) なぜ「オハライ」「オキヨメ」をするのか？ー神道行事の意味するもの |
| 第19回 | 伝統宗教(3) 仏教とはどんな宗教か？ーグローバルにみた仏教           |
| 第20回 | 伝統宗教(4) 葬式？法事？輪廻？ー仏教にかかわる年中行事と日本仏教       |
| 第21回 | 伝統宗教(5) 日本仏教の特色ー歴史的背景からひもとく              |
| 第22回 | 伝統宗教(6) 孝の生命論と儒教のスピリチュアリティ               |
| 第23回 | 伝統宗教(7) 家族倫理・社会倫理の根底にあるものー儒教的文化風土        |
| 第24回 | 伝統宗教(8) 日本ではなぜ町中に「墓」があるのか？               |
| 第25回 | 伝統宗教(9) なぜ人の「たま」を神社でまつのか？ーヒトガミ信仰の背景には    |
| 第26回 | 伝統宗教(10) 神仏習合するのは日本だけか？                  |
| 第27回 | 伝統宗教(11) 日本人キリスト教徒1%の壁-日本文化とキリスト教        |
| 第28回 | 伝統宗教(12) 韓国にはなぜキリスト教徒が多いのか？ー東アジアのキリスト教   |
| 第29回 | まとめ:現代日本における伝統宗教の意義                      |

### 授業計画コメント

ただし、講義の進み具合で順序や内容を変更することもあります。

### 授業方法

講義形式です。毎回リアクションペーパーを書いてもらいます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に次回のテーマについて、以下の点を考えておく(約60分)

①自分と周囲の人々の「宗教」や「宗教行事」について観察しておく。

②自分が「宗教」についてどのような考えをもっているか、整理しておく。

③「宗教」と現代社会・「宗教」と伝統文化について、疑問点を考えておく。授業後には配布資料をよく読み、ノートに自分の考えを整理しておく。(約60分)

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 35 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 35 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

前期の理解度は、レポートで評価します。自分なりの問題意識を持った取り組みを歓迎します。毎授業時にリアクションペーパーを書いてもらいます。積極的な姿勢を高く評価します。学年末には試験をします。通年の内容理解度を確認する試験です。詳細は講義時に説明します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期レポートは、コメントと評価をつけて各自に返却します。学年末試験の結果は、試験終了時に正解を公表します。

### 教科書コメント

教科書は特に指定しません。授業時に毎回資料を配布します。

### 参考文献コメント

テーマが多岐にわたるので、講義内にて随時紹介します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

主体的な興味を持った、積極的な参加を希望します。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                                                                                                                              |          |          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810500101                                                                                                                                                   | 科目ナンバリング | 007D044  |
| 講義名   | 現代科学                                                                                                                                                         |          |          |
| 副題    | 科学の不思議と面白さ                                                                                                                                                   |          |          |
| 英文科目名 | An Introduction to Modern Science                                                                                                                            |          |          |
| 担当者名  | 稲熊 宜之.赤荻 正樹.秋山 隆彦.浅原 弘嗣.井田 大輔.今関 修.岩田 耕一.大木 理恵子.岡田 哲二.清末 知宏.草間 博之.佐藤 健太郎.嶋田 透.杉山 和夫.詫摩 雅子.徳川 直子.西宮 伸幸.長谷川 哲夫.菱田 卓.平野 琢也.平山 孝人.細野 忍.正宗 賢.柳 茂.横山 悦郎.吉田 聡.渡邊 匡人 |          |          |
| 単位    | 4                                                                                                                                                            | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 3時限 西5－202                                                                                                                                            |          |          |

### 授業概要

宇宙の誕生から生命の仕組みまで、現代の自然科学とそれを支える技術開発の状況、または研究の考え方、進め方などについて、最先端の研究者を講師としてお招きし、文系・理系の学生諸君にもよく理解してもらえるように解説していただく。この講義を通して、現代科学への関心を広げ、科学と人間社会関わりについて考える材料を発見してくれることを期待する。

### 到達目標

「科学」とはどのような学問で、どのように取り組むべきかを理解することを到達目標とする。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション/機能性セラミックス材料の化学 稲熊宜之(理学部化学科)                                 |
| 第2回  | 水素エネルギー社会の再定義と今後の課題 西宮伸幸(日本大学理工学部)                                    |
| 第3回  | 医薬品の合成と有機化学 秋山隆彦(理学部化学科)                                              |
| 第4回  | It’s NOT a small world:小さな非翻訳RNAが織りなす遺伝子のフロンティアと医学への応用 浅原弘嗣(東京医科歯科大学) |
| 第5回  | 国際宇宙ステーションにおける氷の結晶成長 横山悦郎(計算機センター)                                    |
| 第6回  | 植物の概日リズムと花芽形成 清末知宏(理学部生命科学科)                                          |
| 第7回  | 環境中の放射線と原発事故などの影響 吉田 聡(放射線医学総合研究所)                                    |
| 第8回  | ゲノム情報とその産業応用 嶋田 透(理学部生命科学科)                                           |
| 第9回  | 放物曲面とボロノイ図 細野 忍(理学部数学科)                                               |
| 第10回 | 超高压下の物質の世界 赤荻正樹(理学部化学科)                                               |
| 第11回 | ミトコンドリアと老化 柳 茂(理学部生命科学科)                                              |
| 第12回 | 航空機の空気力学 徳川直子(宇宙航空研究開発機構)                                             |
| 第13回 | がん研究の最前線～がん抑制遺伝子p53はどのようにがんを抑制するのか?～ 大木理恵子(国立がん研究センター研究所)             |
| 第14回 | 化学反応の進行を追跡する高速実験 岩田耕一(理学部化学科)                                         |
| 第15回 | 第1学期のまとめ                                                              |
| 第16回 | ウイルス感染症を正しく理解するために 杉山和夫(行徳総合病院)                                       |
| 第17回 | 建築の背後にある数理 今関 修(鹿島建設技術研究所)                                            |
| 第18回 | 科学記事の読み方 インチキ科学にだまされるな 詫摩雅子(日本科学未来館)                                  |
| 第19回 | ゲノム解析と疾患 菱田 卓(理学部生命科学科)                                               |
| 第20回 | 太陽系外惑星と地球外生命 長谷川哲夫(国立天文台)                                             |
| 第21回 | 太陽電池の物理と技術 渡邊匡人(理学部物理学科)                                              |
| 第22回 | 天体の運動について 井田大輔(理学部物理学科)                                               |
| 第23回 | 医理工学による先端治療 正宗 賢(東京女子医科大学)                                            |
| 第24回 | 感覚を担う分子 岡田哲二(理学部生命科学科)                                                |
| 第25回 | 化学を伝える技術 佐藤健太郎(サイエンスライター)                                             |
| 第26回 | 有機合成化学 ～欲しいものだけ創る～ 草間博之(理学部化学科)                                       |
| 第27回 | 身近な物理 平山孝人(立教大学理学部)                                                   |
| 第28回 | 量子と情報のはなし 平野琢也(理学部物理学科)                                               |
| 第29回 | 予備日                                                                   |
| 第30回 | 第2学期のまとめ                                                              |

### 授業計画コメント

1) 講義の具体的日程表は、オリエンテーションにおいて配布する。日程は都合により変更することもあるが、変更については、その都度掲示する。2) 学期末にレポートの提出を義務づける。

### 授業方法

**授業方法**

講義形式。スライド等を使用し、また必要に応じて実物投影、プリントなどの配布を行う。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

毎回授業内容を復習し、提出予定のレポートの構想を練る(60分)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 40 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 60 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席状況、授業態度を重要視する。)出席状況を毎回調べる。また授業中講義を聴く態度について真剣に聞くことを望む。レポート:40%(レポートは学期毎に3報提出してもらう。)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業内容に関する質問を受け付け、回答します。

**履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

**その他**

第1回目の授業については必ず出席するように。人数の関係上、適正規模を超えた場合は人数制限を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                |          |          |
|-------|--------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810501101                     | 科目ナンバリング | 007D045  |
| 講義名   | 数学                             |          |          |
| 副題    | 身近な問題から学ぶ数学                    |          |          |
| 英文科目名 | An Introduction to Mathematics |          |          |
| 担当者名  | 柳澤 優香                          |          |          |
| 単位    | 4                              | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 2時限 西1－202              |          |          |

授業概要

数学は人類と共に進歩し、実生活で使われることで発展を遂げてきた。例えば、現代社会ではあらゆる分野でAI(人工知能)の活用が模索されているが、AIのアルゴリズムは微分や線形代数(ベクトル, 行列)などから構成されており、技術は日々進歩している。本授業では「数学がどのように使われてるか」を題材にし、高校2年生までの数学に加え、微分積分や線形代数などの基礎数学を丁寧に解説する。毎回の授業で例題や演習問題を取り上げ、自らが解くことを重要視する。適宜、コンピュータも使用する予定である。

到達目標

- ・数学の楽しさを知る
- ・数学が社会に密接に関係していることを認識する
- ・基礎数学(微分, 積分, 線形代数など)の概念, 知識, 及び, 基本的な計算力を習得する

授業内容

| 実施回  | 内容             |
|------|----------------|
| 第1回  | オリエンテーション, 数と式 |
| 第2回  | 連立方程式と高次方程式    |
| 第3回  | 集合と論理          |
| 第4回  | 写像と二次関数        |
| 第5回  | 三角関数           |
| 第6回  | 指数と対数          |
| 第7回  | 数列             |
| 第8回  | 振り返り演習         |
| 第9回  | 二次曲線           |
| 第10回 | ベクトル           |
| 第11回 | 行列, 行列の和と差     |
| 第12回 | 行列の積, 逆行列      |
| 第13回 | 線形変換           |
| 第14回 | 連立方程式の解        |
| 第15回 | 理解度の確認         |
| 第16回 | 微分積分学の歴史       |
| 第17回 | 数列の極限          |
| 第18回 | 関数の極限          |
| 第19回 | 微分の定義とその記号     |
| 第20回 | 微分の性質          |
| 第21回 | 平均値の定理         |
| 第22回 | 2変数関数の微分: 偏微分  |
| 第23回 | 不定積分           |
| 第24回 | 定積分            |
| 第25回 | 積分の応用          |
| 第26回 | 振り返り演習         |
| 第27回 | 確率と期待値         |
| 第28回 | 二項分布と正規分布      |
| 第29回 | 推定と検定          |
| 第30回 | 理解度の確認         |

授業計画コメント

受講者の理解度や演習問題の実施状況を確認しながら講義を進める予定

授業方法

- ・「予習」に重点を置き、授業中は演習とその解説を中心に行う「反転授業」を行う。

- ・教材はスライドやプリントを使用する

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

- ・毎回の授業で「次回授業で扱う範囲」指示するので、その範囲を予習する. 具体的に「予習」とは以下のステップで行い講義に臨むこと:.
- ・指示された「次回授業で扱う範囲」に目を通し、
- ・自ら例題を解き理解を深め、
- ・わからないことや質問事項を明らかにし、次回授業にて解決させること.

## 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考          |
|--------------------------|---------|-------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 25 %    |             |
| 学年末試験(第2学期)              | 25 %    |             |
| 中間テスト                    |         |             |
| レポート                     |         |             |
| 小テスト                     | 20 %    | 各学期の中間に行う予定 |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |             |
| その他(備考欄を参照)              |         |             |

## 成績評価コメント

数学は積み重ねが大切. 毎回の授業で出題する演習問題の実施状況(平常点)を重要視する.  
小テストは学期の中間に行う予定であり、その結果と学期末試験結果を総合して判断する.

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・演習問題や小テストについては、次回授業内で丁寧に解説を実施する
- ・テストの答案は返却し、授業内で解説を行う

## 教科書コメント

教材はスライドやプリントを使用する

## 参考文献

新体系・高校数学の教科書 上:ブルーバックス,芳沢 光雄,講談社,2010,978-4062576772  
新体系・高校数学の教科書 下:ブルーバックス,芳沢 光雄,講談社,2010,978-4062576789

## 履修上の注意

第1回目の講義に必ず出席すること.

## カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                    |          |          |
|-------|------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810503101                         | 科目ナンバリング | 007D047  |
| 講義名   | 時間・空間・物質の科学                        |          |          |
| 英文科目名 | Science of Time, Space and Matters |          |          |
| 担当者名  | 菅本 晶夫                              |          |          |
| 単位    | 4                                  | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 3時限 中央－402                  |          |          |

授業概要

物理学の視点から、近代自然科学の画期的な発見をその発見者に寄り添いながら振り返り、その内容をなるべく分かり易く解説する。画期的な発見として、基本的な力学、電磁気学、相対性理論、量子力学、統計力学及び発展的なゲージ理論、対称性の自発的破れを取り上げる。基本的な発見を感覚器官の働きの理解に適用する。すなわち聴覚、視覚、嗅覚を理解する。それらは神経伝達や脳の働きとも関係するので、化学や生理学の知識も必要となり、自然現象を理解するためには様々な分野が役割を果たすことを理解する。次に発展的な発見の適用例として、微視的世界の素粒子と巨視的世界の宇宙を概観する。これらの世界では最近相次いで新しい発見が得られたので、その幾つかを解説する。

到達目標

基本的な力学、電磁気学、相対性理論、量子力学、統計力学を十分に理解できなくとも、それらを聴覚、視覚、嗅覚等の感覚器官に適用するとその働きが理解できることを理解し、更に最近の素粒子や宇宙における新しい発見の概要が理解できれば、授業の目標に到達したことになる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                         |
|------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ニュートンによる力学の発見                              |
| 第2回  | 力学を振動現象に適用する                               |
| 第3回  | 音とはなにか                                     |
| 第4回  | 聴覚はいかにして音の高さを理解するか                         |
| 第5回  | ファラデー他による電磁気学の発見                           |
| 第6回  | 光とはなにか 電波とはなにか                             |
| 第7回  | 視覚はいかにして色の違いを見分けるか                         |
| 第8回  | 視覚はいかにして物の形を見分けるか                          |
| 第9回  | アインシュタインによる特殊相対性理論の発見                      |
| 第10回 | アインシュタインによる一般相対性理論の発見とひも理論                 |
| 第11回 | ハイゼンベルグによる量子力学の発見                          |
| 第12回 | ボルツマンによる統計力学の発見                            |
| 第13回 | 嗅覚はいかにして化学物質を見分けるか                         |
| 第14回 | 神経はいかにして情報を伝達するか                           |
| 第15回 | (課外授業: 古典力学と量子力学の基礎方程式)                    |
| 第16回 | ヤン・ミルズと内山によるゲージ理論の発見                       |
| 第17回 | ランダウと南部による対称性の自発的破れの発見                     |
| 第18回 | 素粒子物理の誕生: ローレンスによる加速器の発明                   |
| 第19回 | 湯川による中間子論の提唱とその実験的検証                       |
| 第20回 | 奇妙な粒子の発見と中野・西島とゲルマンによる分類則                  |
| 第21回 | リーとヤンによる空間反転(パリティ) 対称性の破れの予言とその実験的検証       |
| 第22回 | ゲルマンによる基本粒子(クォーク)の予言とその実験的検証               |
| 第23回 | 素粒子の世界の標準的理解(標準模型)                         |
| 第24回 | 動画を用いて「宇宙の果て」と「極微の世界の果て」を見る                |
| 第25回 | ビッグバンをもとにした宇宙膨張の標準的理解                      |
| 第26回 | 宇宙の年齢(138億年)と宇宙の温度(−270℃)はどのようにして測定されるか    |
| 第27回 | 冷却による宇宙の相転移                                |
| 第28回 | セルンにおける弱い相互作用を媒介する粒子(W, Z)の発見とヒッグス粒子の発見    |
| 第29回 | 日本の素粒子実験(物質と反物質の間の対称性(CP)の破れの検証、ニュートリノ振動等) |
| 第30回 | 宇宙物理のフロンティア(暗黒物質と暗黒エネルギー、重力波の観等)           |

授業方法

講義形式(板書を主とし時々スライドを使う)

使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

復習を重視する。授業時間中に講義内容をノートに取って次回までにそのノートを復習し、講義内容を良く理解しておくこと。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                       |
|--------------------------|---------|--------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                          |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                          |
| 中間テスト                    |         |                          |
| レポート                     | 80 %    | 間レポートの評価40%、最終レポートの評価40% |
| 小テスト                     |         |                          |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |                          |
| その他(備考欄を参照)              |         |                          |

**成績評価コメント**

中間レポートと最終レポートの課題はG-portに掲載する。レポートの評価基準はいかに受講者の個性が表れているかである。クラスの議論に積極的に参加すると高い平常点が得られる。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポートのフィードバックはしない。

**履修上の注意**

履修者数の制限:なし

**その他**

授業中に質問時間を設けると共に、授業終了後にも質問することを歓迎する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                     |          |          |
|-------|-------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810504101                          | 科目ナンバリング | 007D048  |
| 講義名   | 環境・エネルギーの化学                         |          |          |
| 副題    | 生命・環境・エネルギーの化学                      |          |          |
| 英文科目名 | Chemistry of Environment and Energy |          |          |
| 担当者名  | 増田 万里                               |          |          |
| 単位    | 4                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 土曜日 2時限 中央－404                   |          |          |

授業概要

2019年は、西日本豪雨、強い勢力を維持し上陸した台風21号、そして埼玉県熊谷市の観測史上国内最高気温記録(41.1度)など異常気象に見舞われた。言い換えると地球温暖化は既に我々が予測した以上に進んでおり予断を許さぬ状況にあることは個人レベルにおいても認識できる状況になっている。2015年末にCOP21(気候変動枠組条約締約国会議)で合意・採択されたパリ協定は、各国が挑戦的なCO2の削減目標を掲げ、低炭素社会実現に向けた歴史的第一歩となったが、昨年12月にマドリードで開催されたCOP25では、今世紀の地球温暖化を2℃以下に抑えようとする国際合意はあるものの、具体的なCO2削減数字を国際的に約束することはできなかった。今後は、地球環境を維持しながら我々の生活、経済、利便性、安全性を確保すべく、個々の意識改革と科学技術革新・発展が望まれる。化学は物質の構造、物性(性質)、及び反応(変化)の三要素を研究する学問であるが、加えて自然(地球環境)とそこに棲息する生命を認識する学問であることが求められている。本講義では、第1学期で化学の基礎を、次に生体を構成する物質の化学について解説し、さらに生命現象を化学をベースに説明する。第2学期の授業では、環境、エネルギー、脱炭素社会に向けた代替エネルギーについて第1学期で学んだ化学と生物学の視点から解説する。我々が地球という環境の中に他の生物と同様に「生かされている」ことを再認し、個々の地球環境を守る意識と行動が今必要とされていることを強調したい。

到達目標

まずは、環境問題及びその原因を化学と生物学の視点から理解できるようになり、環境維持のために何をすべきかを意識した生活のできる一個人となる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                                             |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業の紹介と進め方について、「何故、環境とエネルギーを学ぶために化学と生物を学ぶのか？」                                   |
| 第2回  | チェルノブイリと福島から我々が学ぶべきこと(放射性物質による環境汚染)                                            |
| 第3回  | 化学の基礎I:原子の構造、原子と元素、周期表                                                         |
| 第4回  | 化学の基礎II:化学結合の説明(イオン結合、共有結合、配位結合、金属結合、水素結合)                                     |
| 第5回  | 化学の基礎III:化学式、示性式、構造式、電子式の違い                                                    |
| 第6回  | 化学の基礎IV:酸と塩基及びpH                                                               |
| 第7回  | 化学の基礎V:酸化と還元                                                                   |
| 第8回  | 蛋白質の化学I:蛋白質はアミノ酸のポリマー、アミノ酸の構造                                                  |
| 第9回  | 蛋白質の化学II:蛋白質の高次構造                                                              |
| 第10回 | 蛋白質の化学III:生体内での蛋白質の役割、蛋白質の異常に起因する疾病(狂牛病、鎌状赤血球貧血症)                              |
| 第11回 | 核酸の化学I::DNA・RNAの構造                                                             |
| 第12回 | 核酸の化学II:蛋白質の生合成、生命の設計図を読む                                                      |
| 第13回 | がん研究の動向と治療薬の現状:がん患者にベストマッチする治療を見つけるPrecision Medicineを目指して                     |
| 第14回 | 第1学期まとめ                                                                        |
| 第15回 | 予備日                                                                            |
| 第16回 | アル ゴア氏「不都合な真実」から学ぶ地球気候変動の現実                                                    |
| 第17回 | エコロジーの概念:生態系について、レイチェル カーソン「沈黙の春」                                              |
| 第18回 | 日本における公害問題(歴史、概要、環境改善):田中 正造:足尾銅山鉍毒問題に挑んだ環境保全運動先駆者                             |
| 第19回 | 地球環境の化学I:オゾンホールはなぜできる？ NASAのデータから今日のオゾン量を見てみよう！                                |
| 第20回 | 地球環境の化学II:酸性雨(原因、解決策)、「晴れた日の酸性雨？」                                              |
| 第21回 | 地球環境の化学III:地球温暖化(原因、解決策)、私たちに今何ができるか？                                          |
| 第22回 | 地球環境の化学IV:砂漠化と安全な水の確保                                                          |
| 第23回 | 地球環境の化学V:森林破壊(私たちの使っている紙はどこの森林伐採からできたもの？)                                      |
| 第24回 | 化学物質の人体への影響I:環境ホルモン、ダイオキシン(ベトナム戦争枯葉作戦の傷跡)                                      |
| 第25回 | 化学物質の人体への影響II:環境ホルモン、有機スズ、ビスフェノールA、世代を超えた環境ホルモンの影響をスーパーメダカに学ぶ                  |
| 第26回 | 化学物質の人体への影響III:石綿問題、石綿が体を蝕むメカニズム 石綿小体とは                                        |
| 第27回 | ゴミ・廃棄物問題(ダイオキシンの発生源)バイオプラスチックの現状:非食化を実現した日本の技術 稲わらのセルロースとカシューナッツの殻からプラスチックができる |
| 第28回 | 新エネルギー:太陽光発電(太陽電池・ソーラータワー)、風力発電(風レンズ風車)、海洋温度差発電(ウエハラサイクル)、地熱発電の原理・普及状況・問題点     |
| 第29回 | 循環型環境社会と再生可能エネルギーへの転換に向けて                                                      |

### 授業計画コメント

希望者には環境問題のテーマを与え、授業の一部の時間を使って発表の機会を与える。科学発表や質問への対応の仕方を身につける機会として利用してもらいたい。

### 授業方法

講義形式。毎回資料を配布し、power pointで作成したスライドやアニメーションなどを使用し、資料の内容を説明する。出席をしなかった学生に、過去の授業の資料は配布しないことを原則とする。欠席の際は前もってメールで相談すること。病気の場合は考慮する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

復習が必要な内容については授業中に伝える。基本的に予習よりは復習に重点をおく。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 25 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 25 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 20 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

出席を最も重視する。高校で化学あるいは生物学を履修していない学生でも理解できるように授業を進める。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業に出席していれば十分高得点が期待できる内容の期末試験を前期と後期に行うが、毎回の授業の最後に簡単なクイズに回答してもらい提出によって出席とする。

### 参考文献

不都合な真実,アル ゴア,ランダムハウス講談社,2007

沈黙の春,レイチェル カーソン,新潮文庫,62刷改版,2004

### その他

質問はメールにても受け付ける。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810505201          | 科目ナンバリング | 007D049  |
| 講義名   | 生物学1                |          |          |
| 英文科目名 | Biology 1           |          |          |
| 担当者名  | 松田 良一               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 水曜日 2時限 西2－205 |          |          |

### 授業概要

私たちの身体は30億年間以上の時間をかけて試行錯誤の末、作られてきた歴史的産物です。  
なぜ、老化するのか?なぜ寿命があるのか? なぜ、雌雄があるのか? 免疫機構はなぜ自己と非自己  
を見分けるのか? なぜ免疫機構があるのに、哺乳類の母親は胎盤を拒絶しないのか? これらの疑問について  
現代の生物学がどのようにアプローチしているのかを概説します。

### 到達目標

生物の理解は私たちに健康で安全な生活を営む上で重要なヒントを与えます。

### 授業内容

| 実施回  | 内容             |
|------|----------------|
| 第1回  | 生命とは何か         |
| 第2回  | 個体の寿命と細胞の寿命 1. |
| 第3回  | 個体の寿命と細胞の寿命 2. |
| 第4回  | 個体の寿命と細胞の寿命 3. |
| 第5回  | 個体の寿命と細胞の寿命 4. |
| 第6回  | 個体の発生1.        |
| 第7回  | 個体の発生2.        |
| 第8回  | 個体の発生3.        |
| 第9回  | 個体の発生4.        |
| 第10回 | 多細胞体制の構築機構1.   |
| 第11回 | 多細胞体制の構築機構2.   |
| 第12回 | 多細胞体制の構築機構3.   |
| 第13回 | 多細胞体制の構築機構4.   |
| 第14回 | 免疫のしくみ1.       |
| 第15回 | 免疫のしくみ 2.      |

### 授業方法

講義形式

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

講義内で指定する。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 50 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 25 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 25 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート内容についてレポート回収後に解説を加える。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810505301          | 科目ナンバリング | 007D050  |
| 講義名   | 生物学2                |          |          |
| 英文科目名 | Biology 2           |          |          |
| 担当者名  | 安部 洋                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 木曜日 2時限 西2－506 |          |          |

**授業概要**

ニュースなどで遺伝子診断、遺伝子治療、ゲノム編集といった言葉を聞くことが増えてきました。このように、今後、これまで以上に生物学の知識は私たちの生活に密着したものとなってくるでしょう。本生物学では、「遺伝子」について、その構造や働きのメカニズムといった基礎的な面について学習すると共に、遺伝子改変、ゲノム編集といった応用的な知識も習得する。

**到達目標**

遺伝子の働きや、その制御といった基礎的な知識を習得すると共に、現在、急速な勢いで進展しているゲノム編集など最新の科学などについても理解し、内容を分析することができるようになる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                |
|------|-------------------|
| 第1回  | 遺伝子発現のメカニズム       |
| 第2回  | 遺伝子発現の制御          |
| 第3回  | エピジェネティックな遺伝子発現制御 |
| 第4回  | シグナル伝達            |
| 第5回  | ストレス応答            |
| 第6回  | 遺伝子組換え植物          |
| 第7回  | 生物間の相互作用          |
| 第8回  | ゲノム情報とは？          |
| 第9回  | ゲノム情報とビッグデータ      |
| 第10回 | 生物遺伝資源の重要性        |
| 第11回 | ゲノム編集             |
| 第12回 | この10年における生物学の進歩   |
| 第13回 | 10年後の生物学          |
| 第14回 | 理解度の確認            |
| 第15回 | 振り返り              |

**授業方法**

講義形式で授業を進める。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業中に配布した資料を読み返し、レポートにまとめる。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 50 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

定期試験のかわりにレポート課題を課す。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

学生からのレポートの内容をもとに、授業への反映や資料作成を行う。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810600101        | 科目ナンバリング | 007D053  |
| 講義名   | 心理学A              |          |          |
| 副題    | こころの働きと行動について     |          |          |
| 英文科目名 | Psychology        |          |          |
| 担当者名  | 小方 涼子             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 木曜日 2時限 西2－301 |          |          |

### 授業概要

心理学とは、こころの働きと行動を科学的に研究する学問であり、その領域は多岐にわたっている。日常生活における身近な現象を例示しながら授業を進め、心理学に対する興味と理解が深まることを目指す。

### 到達目標

心理学の様々な分野について学び、その理解を深めることにより、多様な視点から人や物事をとらえることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                               |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 心理学とは(1)心理学の領域について 一年間の授業内容を説明するとともに、他の学問との接点を見出しながら、心理学が扱う領域を理解しよう。                                                             |
| 第2回  | 心理学とは(2)心理学の研究方法について 心理学では、観察や実験、質問紙というアンケート調査から得られたデータを、主に統計学を利用して分析することにより、その結果を解釈する。授業中には、実際に質問紙調査を体験してみよう。                   |
| 第3回  | 感覚－人間の五感について 様々な刺激情報が渦巻く環境で、我々は何を感じているのか。刺激を体のどこで受け取り、どのように処理しているのか、視覚を主に取り上げて調べよう。                                              |
| 第4回  | 知覚(1)物理的世界と心理的世界の違いについて 外界に存在している刺激を、我々はそのままに知覚しているわけではない。そこには存在していないものを補い、あるいは、歪んだ解釈をしていることもある。例示する図形を見ながら、物理的世界と心理的世界の違いを楽しもう。 |
| 第5回  | 知覚(2)視覚の実験－視覚の不思議について ミューラー・リヤーの錯視図形を用いて、その図形の一部を変化させることにより、ものの見え方はどのようになるのか。私の目って、不思議！？                                         |
| 第6回  | 学習(1)古典的条件づけ 条件反応とは、どのようにして形成されるのか。有名なパブロフの犬の実験から、その過程をみていこう。                                                                    |
| 第7回  | 学習(2)オペラント条件づけ1 ある行動をとった後に、ごほうびがもらえるのか、それとも、お仕置きされるのか。何が得られるかによって、同じ行動を次もとるかどうかが、大きく影響を受けることであろう。ペットに芸を仕込む際には、どのようにする？           |
| 第8回  | 学習(3)オペラント条件づけ2 複雑な一連の行動を学ぶ方法や、嫌な刺激を回避する行動について学ぼう。                                                                               |
| 第9回  | 学習(4)社会的学習 どのように振舞ってよいのか分からないときなど、その場に他の人がいれば、その人のまねをすることでであろう。しかし、まねることが常に好ましいとは限らない。望ましくない行動をまねさせないためには、どのような点に注意すればよいのか。      |
| 第10回 | 認知(1)問題解決について 問題解決を容易にすると、困難にするとを実際に体験して、解決にいたるプロセスを探ろう。                                                                         |
| 第11回 | 認知(2)記憶の仕組みについて 少しの間だけ覚えている事柄もあれば、何年経っても鮮明な事柄もある。ものを覚えているとは、どういうことなのか。                                                           |
| 第12回 | 認知(3)忘却の仕組みについて 「覚えている」こともあれば、「忘れる」こともある。なぜ忘れてしまうのか、その仕組みについて探っていこう。                                                             |
| 第13回 | 認知(4)記憶の変容について 覚えている事柄は、変わることなく、覚え続けるものなのか。記憶の曖昧さを認識しよう。                                                                         |
| 第14回 | 理解度の確認                                                                                                                           |
| 第15回 | 到達度の確認                                                                                                                           |
| 第16回 | 情動－快・不快の感情について 日常生活では、絶えず様々な感情を抱いている。その感情に応じて、行動も変化していることであろう。また、体内の状態をどのような感情と結びつけるのか、という観点からも、興味深い研究を紹介する。                     |
| 第17回 | 動機づけ(1)行動を起こす過程について 何かがほしい、何かをしたいと思えば、その願いに即した行動をとることであろう。何を思って行動を起こしているのかについて、探っていこう。                                           |
| 第18回 | 動機づけ(2)無力感について やる気が出ない、という経験をしたことはないであろうか。このような状態を克服するにはどうすればよいのか、考えてみよう。                                                        |
| 第19回 | 発達(1)社会性の発達について 生まれてきた赤ん坊は、自分を取り巻く環境とどのように関わっていくのであろうか。養育者との関係にも触れながら、探っていこう。                                                    |
| 第20回 | 発達(2)認知的発達について1 人間の成長の様子を、ピアジェの考え方にそって、2回にわたりみていく。生まれてから児童へ至る間に、物事への理解がどのように深まっていくのかを、映像も交えながら説明する。                              |
| 第21回 | 発達(3)認知的発達について2 幼児期において特徴的とされる、課題の失敗について取り上げる。                                                                                   |
| 第22回 | 知能－知能およびその測定方法について 知能とは、何なのであろうか。知能には、いくつかの側面が想定されて                                                                              |

いる。知能検査で用いられる器具の紹介を通して、その側面についてみてみよう。

- 第23回 パーソナリティ(1)パーソナリティおよびその測定方法について パーソナリティは、どのように捉えればよいのであろうか。様々な考え方を列挙し、その上で、各々の測定方法についてみていこう。
- 第24回 パーソナリティ(2)パーソナリティ検査の実施 実際にパーソナリティ検査を受けることで、自らの理解を深めるとともに、「検査」というものについて考えてほしい。
- 第25回 臨床(1)心理療法について1 フロイトの唱えた精神分析を取り上げ、彼の理論や考え方について触れる。無意識とは！？
- 第26回 臨床(2)心理療法について2 様々な心理療法の一端に触れてみよう。
- 第27回 社会(1)自己意識について 自分を意識することはあるか。それはどのような時か。自分への意識が高まると、どのような行動をとるようになるのか、自分を意識しない場合と比較してみよう。
- 第28回 社会(2)対人魅力について 何をきっかけに、人と仲良くなり、また人を好きになるのか。自分の友人を思い浮かべながら、そのきっかけを探っていこう。
- 第29回 社会(3)他者からの影響について 皆がそうしているから、同じようにしてしまう。このような経験をしたことが、一度はあるのではないだろうか。一方、たった一人が主張していることが、やがて周りの人に受け入れられることもある。多数派、そして少数派の影響について、考えてみよう。
- 第30回 理解度の確認

### 授業方法

主に講義形式で授業を進めるが、簡単な実験や心理検査を取り入れた実習も行う。図表を載せたプリントは毎回配付し、理解度を高めるようにする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業時に配付したプリントやノートを読み返し、身近な事例を思い起こしながらまとめる(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考        |
|--------------------------|---------|-----------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |           |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    |           |
| 中間テスト                    |         |           |
| レポート                     |         |           |
| 小テスト                     |         |           |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    | 実験レポート内容等 |
| その他(備考欄を参照)              |         |           |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実習として行う実験の結果や考察については、次回の授業内で解説する。

### 参考文献

心理学,鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編),東京大学出版会,第5版,2015,9784130121095

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810600102        | 科目ナンバリング | 007D053  |
| 講義名   | 心理学B              |          |          |
| 副題    | -心理学的「こころ」の見方-    |          |          |
| 英文科目名 | Psychology        |          |          |
| 担当者名  | 風間 文明             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 2時限 中央－404 |          |          |

### 授業概要

心理学は人間の「こころ」を研究対象とし、そこに潜む法則性を明らかにすることを目指す学問です。一口に「こころ」といっても、心理学で扱う「こころ」は、人の行動、思考、感情、記憶、知覚など多岐にわたっています。心理学の多様な領域について、どのような方法で「こころ」を研究し、どのような成果をあげてきたかについて、身近な現象と関連づけながら解説していきます。

### 到達目標

実験や調査によるデータに基づきながら心理学の様々な理論や知見を解説していきます。受講を通して、抽象的な概念を数値化して分析する力、データを読み取る力を身につけることができます。また心理学の知識や理論を身につけ、心理学的な視点について理解を深めることで、日常の出来事を心理学的な「目」で見られる様になることを目指します。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                               |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス:心理学の研究例と講義の概要              |
| 第2回  | 心理学とは(1):心理学の定義、諸領域              |
| 第3回  | 心理学とは(2):研究対象と研究方法               |
| 第4回  | 心理学とは(3):心理学の歴史                  |
| 第5回  | 知覚のはたらき(1):感覚と知覚                 |
| 第6回  | 知覚のはたらき(2):錯視                    |
| 第7回  | 知覚のはたらき(3):空間の知覚                 |
| 第8回  | 社会的認知(1):対人認知                    |
| 第9回  | 社会的認知(2):帰属過程                    |
| 第10回 | 社会的認知(3):帰属が行動に与える影響             |
| 第11回 | 対人魅力と人間関係(1)対人魅力の定義～好意を測る        |
| 第12回 | 対人魅力と人間関係(2)対人魅力の規定因             |
| 第13回 | 対人魅力と人間関係(3)外見の魅力の効果             |
| 第14回 | 対人魅力と人間関係(4)似ている人を好きになるか？        |
| 第15回 | 自主研究                             |
| 第16回 | 対人魅力と人間関係(5)環境、相手から好意を向けられることの効果 |
| 第17回 | 対人魅力と人間関係(6)個人の内的状態の影響           |
| 第18回 | 対人魅力と人間関係(7)自己開示の効果              |
| 第19回 | 対人魅力と人間関係(8)対人関係の親密化             |
| 第20回 | 性格(1):パーソナリティーの定義、機能             |
| 第21回 | 性格(2):パーソナリティの測定法                |
| 第22回 | 愛着(1):親子間の絆としての愛着                |
| 第23回 | 愛着(2):愛着の個人差を測定する                |
| 第24回 | 愛着(3):青年期の愛着                     |
| 第25回 | 愛着(4):愛着に連続性はあるのか？               |
| 第26回 | 集団過程(1):集団の構造                    |
| 第27回 | 集団過程(2):リーダーシップ                  |
| 第28回 | 集団過程(3):集団状況とリーダーシップ             |
| 第29回 | まとめ                              |
| 第30回 | 理解度の確認                           |

### 授業方法

講義形式で行います。授業内容に関連した心理尺度や簡単な実験を行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

前の回の内容をノートに整理してよく理解してくること(約30分)

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 80 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 15 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 5 %     |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

### 成績評価コメント

学年末試験(第2学期実施):80% レポート(実験実施とそれに基づく小レポート):15% 平常点(出席、授業内での小課題):5%

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

成績をもってフィードバックとする

### 教科書コメント

教科書は指定しません。資料を配付します。

### 参考文献

サイコ・ナビ 心理学案内,山岡重行編,おうふう,2010,9784273035914

### その他

授業時間内で卒業論文や研究のための質問紙調査に協力をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810600103        | 科目ナンバリング | 007D053  |
| 講義名   | 心理学C              |          |          |
| 英文科目名 | Psychology        |          |          |
| 担当者名  | 桑名 俊徳             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 4時限 中央－401 |          |          |

授業概要

私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方は学問領域によってさまざまです。この講義では「こころ」の働きについての科学的な理解を目指しています。では、心理学者たちは、見ることも触れることもできない対象である「こころ」をどのようにして科学的に捉えようとしているのでしょうか。まず、昔の研究者たちは「こころ」をどのように捉えてきたのか、こうした背景事情にふれながら現代の科学的心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な捉え方と考え方の理解に努めてみます。これを踏まえて、人間が備える高度の知性や人間行動にかかわる「こころ」の諸機能、そして人間形成にとって大切な遺伝と環境の問題などについて、科学的心理学の立場からの理解を深めてゆきたいと考えています。そして、「こころ」の働きの理解を通じて、その優れた環境適応性に気づいてもらえたらと思います。また必要に応じて、心理学と隣接する諸領域(哲学、神経科学、進化生物学など)について若干触れてみることで、「こころ」についての理解をもう少し深めてみたいとも思っています。受講生には、科学的心理学の理解のために、いろいろな心理学的知見を習得するだけでなく、それらが得られた方法についても関心を深めてもらいた

到達目標

心が関係するちょっとした出来事について、私的な立場から一旦離れて、科学的、客観的な立場から考え進めてゆくことができるようになること。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 1. 心理学の視点<br>(1)「こころ」を巡る諸問題<br>古い時代より人々は「こころ」と書する対象を理解しようとするためにどのような探求を続けてきたのでしょうかという話。哲学者たちの「こころ」の研究や自然科学者たちの独創的な「こころ」の研究についてふれてみましょう。                                                                                                                                                                                          |
| 第2回  | (2)「意識」と「こころ」<br>その昔、といっても19世紀ですが、科学的心理学は「意識」なる対象を理解しようとしてはじまったのですが、はたしてそのような心理学で分かることは何でしょうか、そして分からないことは何でしょうか。古典的な意識研究がもつ問題から展開してゆきましょう。                                                                                                                                                                                       |
| 第3回  | (3)心理学の視点<br>「こころ」の科学研究とはいかなるものだろうかという話。そこでは「こころ」なる対象を知るために一体全体何を研究の対象にして調べたらよいのでしょうか、そしてどのような研究の方法で「こころ」と称する対象を捉えたらよいのでしょうか。                                                                                                                                                                                                    |
| 第4回  | 2. 感覚・知覚(環境認知の基礎過程)<br>(1)錐体系と桿体系の機能特性<br>常日頃、私たちは「昼間の目」と「夜間の目」とでも呼ぶような2種類の眼を使い分けているのだという話。これを通じて、私たちの眼が、そしてそれを使ってものを見るという働きが上手に環境と関わっているのだということに気づいていみましょう。                                                                                                                                                                     |
| 第5回  | (2)色の知覚と色覚理論<br>昼間に目を開ければ色彩豊かな世界を見ることができ、それなので、緑の葉と表現するように色は外の世界にあるものだと考えてしまいがちだが、こうした信念は本当かという話。これを通じて、色とは「こころ」の働きがあってこそ見ることのできる対象で、ではどのようにして色を見分けることができるのかについて考えてみましょう(偉大な物理学者アイザック・ニュートンの光学から現代までの軌跡を辿ってみます)                                                                                                                  |
| 第6回  | (3)知覚の恒常性<br>白く見えるものは実際に白く、大きく見えるものは実際も大きいものだ。このような素朴な信念は本当かという話。これを通じて、今こうして見ている知覚世界が極めて安定したもので、それを作り出すためには高度の知覚の働きが必要なのだとということに気づいてみましょう。                                                                                                                                                                                      |
| 第7回  | (4)ゲシュタルトの知覚<br>モノや形が見えれば、それらはそのように目に映っているはずだ、という信念は本当かという話。モノが目映ることと、それが見えることは同じことなのだろうか。これを通じて、モノや形を見るためにはどんな規則を利用しているのか考えてみましょう。                                                                                                                                                                                              |
| 第8回  | (5)空間と知覚<br>遠くにあるものは遠くに見えて、立体的なものは立体的に見える。こうした、ごくあたりまえの体験ができることには、実は心理学上大問題があるのだという話。これを通じて、そうしたことができるのはどうしてかを考えてゆきましょう(経験論の哲学者バークリから現代までの軌跡を辿ってみます)                                                                                                                                                                             |
| 第9回  | 3. 記憶(経験の効果の保持機能)<br>(1)記憶のしくみ<br>何かを覚えたり思い出したりするなど、わたしたちは普段から記憶を使って毎日を過ごしているのですが、そのときいかなる仕組みが働いているのでしょうか。すると、私たちの記憶は、覚えたことを一時的にしか維持しておかない記憶(短期記憶)と、長い期間にわたって覚えておける永続的な記憶(長期記憶)とに分けられるのだという話をしてみましょう。<br>(2)短期記憶とワーキング・メモリ<br>ほんのわずかなことでも少しのあいだしか覚えておけない記憶は本当にあるのでしょうか、そのような記憶は一体全体何の役に立つのだろうかという話。これを通じて、記憶と思考とのかかわりに気づいてみましょう。 |
| 第10回 | (3)健忘症と記憶<br>世間を見渡してみると、いろいろな原因によって記憶がうまく働かず困難を抱えてしまっている人たちがおります。そうした人たちは、ただ単純に何でも覚えられない、すぐ忘れてしまう、といった訴えを示すだけなのでしょうか。健忘症という記憶障害のお話をしてみましょう。これを通じて、覚えたことが脳内の一箇所に蓄えられるのではなく、私たち                                                                                                                                                    |

の長期記憶がいろいろな種類に分けられるのだということに気づいてみましょう。

- 第11回 (4) 保持と忘却  
完全に暗記した記憶も、そのあとそれを使わなければ次第に忘れ去られてゆくことはよく知っていることでしょう。では、時間の推移とともに忘れること、つまり忘却はどのように進行し、そしてそこにはどのような原因があるのでしょうかという話。
- 第12回 (5) 記憶と意識  
過去の経験を思い出せば、そのとき、自分はそれを確かに体験したとの実感や自覚をもっていることでしょう。ところが、私たちの記憶には、そうした実感や自覚がなくても過去経験を利用していることがあるのだという話。記憶の潜在的(無自覚的)なふるまいについて気がついてみましょう。
- 第13回 4. 言語  
普段、当たり前のように使っている言語には、どのような値打ちがあるのだろうかという話。言語のもつ多様な役割を通じて、私たち人間が言語の働きを備えていることの意義に気がついてみましょう。  
(1) コミュニケーションの道具  
人間だけがコミュニケーションをとることができる、というわけではありません。その他の動物たちの行動と比べてみながら、コミュニケーションに言語を使うことができることの意義について気がついてみましょう。  
(2) 代表機能  
当たり前のことですが、言葉は必ずそれが指す対象をもつものです。私たちがいろいろな対象を言葉を使って代表させることができることにどんな意義があるのかを、他の動物たちの行動と比べてみながら考えてみましょう。
- 第14回 (3) 思考の道具  
私たちは言語を使って考えます。だから、思考は人間に特有の行動なのだと考えるでしょう。しかし、チンパンジーも考えることができます。では、思考が言語と出会うことで、私たちはいったい何を得ているのでしょうか。言語を使うて感があることができることの意義に気がついてみましょう。  
(4) 行動の調整機能
- 第15回 これまでの授業内容を振り返ってみる
- 第16回 4. 学習(行動変容の基礎過程)  
(1) 学習とは何か  
誰でも学ぶこと、つまり学習は自分にとってとても大切なことだし、役に立つことだと考えるでしょう。ところで、どうして学習は大切なものという話。学んでできるようになることは、何を自分にもたらししてくれるのでしょうか。これを通じて、私たち人間だけでなく、そのほかの動物たちも含めて、学ぶことが環境とかかわり適応していく上でとても大切なことなのだというに気づいてみましょう。
- 第17回 (2) 古典的条件づけ  
あることが起きると次に何が起こるのかの学習(2つの出来事のあいだのつながりの学習)の話。このような知識を身につけることができるから、あることが起きたら何をすればよいかを予想して準備することができるのだということに気づいてみましょう。そして、経験を通じてどのような出来事間のつながりを知識として身につけているのだろうかを考えてみましょう。
- 第18回 古典的条件づけの話が続きます。2つの出来事のあいだにつながりが出来上がって、それを知識として利用できるようになるには、いかなる経験を必要とするのだろうかを考えてみましょう。
- 第19回 (3) オペラント条件づけ  
ある行動をとると次に何が起こるのかの学習(行動と出来事のあいだのつながりの学習)の話。このような知識を身につけることができるからこそ、状況に応じて何をすべきか、あるいは何はすべきでないかを判断し、上手に立ち回れるようになるのだということに気づいてみましょう。
- 第20回 オペラント条件づけの話が続きます。私たちは常日頃、自ら起こした行動とそのあとに起こる出来事とのあいだにどのような関係を体験しているのでしょうか。これを通じて、普段の数多くの行動がこの条件づけと強くかかわっていることに気づいてみましょう。
- 第21回 (4) 条件づけ学習の生物学的制約  
代々受け継がれてきたことは学習の成立に何をもたらすのだろうかという話。これを通じて、学習のような生後の経験によって身につけることにも、生まれる前から身につけていたことが影響するのだということに気がついてみましょう。
- 第22回 5. 動機づけ(行動の推進力)  
(1) 動機の種類  
なぜ行動が起きるのか、その理由を考えてみる話。ここでは、人や動物たちが起こす様々な行動を駆り立てたり、あるいはそれを維持したりする原動力となる動機にはいかなる種類があるのかを概観してみましょう。
- 第23回 (2) ホメオスタシスと動機づけ  
食べる、飲む、温める、こうした生命を維持するための行動が身体内部からの力によって駆り立てられるのだという話。これを通じて、身体の働きがいかにして行動を駆り立てるのかの仕掛けを、私たちの脳の働きとかかわらせて考えてみましょう。
- 第24回 (3) 内発的動機づけ  
人間のもつ高度な知性もそれを発揮しなければ、それを備えている意味はない。見て聞いて、考えて、振る舞う。このような知性を働かせるにも、それを駆り立てる力が発生しなければならないのだという話。これを通じて、はたして人は、不精を決め込むことができるのだろうか考えてみましょう。
- 第25回 (4) コンフリクト(葛藤)  
多くの行動は複数の動機がかかわって維持されるものですが、ときには、同時発生した動機が衝突してしまうこともあるという話。これもしたいしあれもしたい、どちらにしようか、このような迷いが起きる事態をいろいろと考えてみましょう。  
(5) フラストレーションと対処行動  
誰でも知っているように、動機は必ず満足されるわけではありません。するとフラストレーションを体験するのですが、このようなとき、わたしたちはいかなる行動を起こして、このような不快な状況に対処するのでしょうかという話。
- 第26回 6. 人間発達における遺伝と環境  
(1) 遺伝かそれとも環境か

氏と育ちは対立するものかという話。優れた人物がそうであるのは、血筋のおかげだよとか、育ちのおかげだよとか考えちゃうかもしれませんが、これら二つは果たして対立する関係にあるものだろうか考えましょう。

- 第27回 (2) 遺伝も環境も  
人間形成は両親から受け継いだ遺伝と、いろいろな環境でいろいろな体験を通じてなされるものだという話。決して遺伝と環境は対立する間柄ではありません、これらは関わり合って今の私たちに影響しているのだということを、双子を対象とした行動研究や遺伝性の病気をもった子供たちの知的発達などを取り上げてみながら考えてゆきましょう。
- 第28回 (3) 行動発達の要因  
私たちが、それぞれ独自にもつ遺伝要因と、環境要因といってもどんな類の環境が関わり合って発達をとげてゆくのだろうかという話。これを通じて、環境要因というように一言で表現しても、私たちの発達に影響するこの要因は、本当のところ多様なのだということに気がついてみましょう。
- 第29回 (4) 初期経験(初期学習)  
幼いころの経験は、あとになって何をもたらすのだろうかという話。家庭環境や教育環境などは個々人で異なっているのが普通ですが、わが身の来たし道を振り返ってみると、皆が共通に体験してきていることが実はあるのです。つまり経験することが当然の体験となりますが、こうした体験があとになってとても大切となるのだということに気づいてみましょう。
- 第30回 理解度の確認

#### 授業計画コメント

講義内容は上記のようになるが、進具合によって変更があるかもしれない。

#### 授業方法

講義形式

#### 使用言語

日本語

#### 準備学習(予習・復習)

復習に励むこと。授業時に暗記すべしと指摘されたことはその通りにしておくこと。

#### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                     |
|--------------------------|---------|------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                        |
| 学年末試験(第2学期)              | 96 %    |                        |
| 中間テスト                    |         |                        |
| レポート                     |         |                        |
| 小テスト                     |         |                        |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 2 %     |                        |
| その他(備考欄を参照)              | 2 %     | 特別体験学習への参加(実施しないこともある) |

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート課題を課したときには個別に対応する

#### 教科書コメント

教科書は使用しない

#### 参考文献

心理学の認識(ミラーの心理学入門), G.A. Miller(新田・戸田 訳), 白揚社  
行動学入門 第3版, D. O. Hebb(白井ほか訳), 紀伊國屋書店  
心理学, 鹿取ほか, 東京大学出版会  
実験心理学 改訂増補第2版, 筒井雄二・桑名俊徳, 八千代出版

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810600104        | 科目ナンバリング | 007D053  |
| 講義名   | 心理学D              |          |          |
| 副題    | 他者理解と人間関係の心理学     |          |          |
| 英文科目名 | Psychology        |          |          |
| 担当者名  | 濱村 良久             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 3時限 中央－403 |          |          |

### 授業概要

この講義では、専門科目の基礎を広く浅く学ぶのではなく、「人間らしく生きていくための教養」としての心理学を目指します。以下の授業内容に記載したものは、私たちが感じる「心についての問い」をいくつか取り上げたもので、授業では日常生活における他者理解や人間関係についての問いと、学生からの問題提起を取りあげながら、「心理学的なものの見方とは何か」を心理学専攻以外の学生にも理解してもらえよう、講義しようと思います。従って、紹介する研究も、心理学理論の歴史的発展よりも応用面を重視します。学生が授業において積極的に問題を提起してくれることを望みます。(勿論、心理学科の学生も大歓迎です)。

### 到達目標

他者理解と人間関係について、心理学的なものの見方、考え方ができるようになること。 他者理解を通じて、人間として成長すること。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                                                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 心理学とは何か 簡単な心理学実験を織りまぜながら、「実験や調査によって心を考える」心理学的なものの考え方の世界を紹介します。授業の中で実際に簡単な実験をやり、小さな「発見」の体験をすることで、なぜ実験や調査が必要なのか、どうすれば「心」の実験ができるのかを考えます。また、授業で扱うテーマについてのアンケート、授業についての説明(形式・テスト・レポート・成績評価など)も行います。 |
| 第2回  | 外界の認知1 私たちは周囲の外界や他者をどのような目で見ているのでしょうか？                                                                                                                                                         |
| 第3回  | 外界の認知2                                                                                                                                                                                         |
| 第4回  | 心理テスト1 外界や他者の認知には個人差があります。投影法の心理テストはこれを調べることで、性格の個人差を明らかにしようとしています。                                                                                                                            |
| 第5回  | 心理テスト2 質問紙法の心理テストを実習し、自己分析を行います。                                                                                                                                                               |
| 第6回  | 個人差と人間関係1 性格とは何でしょうか？                                                                                                                                                                          |
| 第7回  | 個人差と人間関係2 外向性・内向性の正体とは何でしょうか？                                                                                                                                                                  |
| 第8回  | 集団の性格 集団の性格の違いはどうやって調べるのでしょうか？                                                                                                                                                                 |
| 第9回  | 人間の感情と自己理解1 感情とは何でしょうか？                                                                                                                                                                        |
| 第10回 | 人間の感情と自己理解2 私たちは何を手掛かりにどうやって自分の感情を「知る」のでしょうか？                                                                                                                                                  |
| 第11回 | 多重人格 私たちの「心」は本当に一つなのでしょうか？                                                                                                                                                                     |
| 第12回 | 他者理解1 私たちは人の心の何を知りたいのでしょうか？なぜ人の心を知りたいのでしょうか？                                                                                                                                                   |
| 第13回 | 他者理解2 「君は俺のことを分かってくれる」と言われると嬉しいですね！人は何をどのように理解されたとき、自分が理解されたと感じるのでしょうか？                                                                                                                        |
| 第14回 | 他者理解3 (レポートの講評を兼ねて、後期に回すかもしれませんが)なぜお互いに理解しあうことが難しいのでしょうか？内側からの理解と人間関係、聴き手の人間的成長の関係について考えます。                                                                                                    |
| 第15回 | 総括                                                                                                                                                                                             |
| 第16回 | 感情の理解と親和欲求 なぜ感情はあるのでしょうか？人はどういう時に、どんな友達を求めるのでしょうか？友達を避けるのはどういう時でしょうか？友達の多い少ない、友情の深い浅いはどこから来るのでしょうか？                                                                                            |
| 第17回 | 対人認知、魅力と恋愛1 魅力とは何でしょうか？                                                                                                                                                                        |
| 第18回 | 対人認知、魅力と恋愛2 恋愛と友情はどう違うのでしょうか？                                                                                                                                                                  |
| 第19回 | 対人認知、魅力と恋愛3 進化心理学から魅力の男女差を考えます。                                                                                                                                                                |
| 第20回 | 説得と対人行動1 説得と弁論。認知的不協和の理論                                                                                                                                                                       |
| 第21回 | 説得と対人行動2 コミットメント                                                                                                                                                                               |
| 第22回 | 説得と対人行動3 返報性                                                                                                                                                                                   |
| 第23回 | 催眠と暗示 催眠技法とその応用について紹介します。                                                                                                                                                                      |
| 第24回 | リーダーシップと集団行動1 特性発見的アプローチと行動記述的アプローチ                                                                                                                                                            |
| 第25回 | リーダーシップと集団行動2                                                                                                                                                                                  |
| 第26回 | 怒りと攻撃欲求 なぜ人は人を傷つけるのでしょうか？                                                                                                                                                                      |
| 第27回 | メンタルヘルス1 精神的健康とは？                                                                                                                                                                              |
| 第28回 | メンタルヘルス2 ストレスにうち勝つには？                                                                                                                                                                          |
| 第29回 | 夏期レポートの講評および実験結果のフィードバック                                                                                                                                                                       |

### 授業計画コメント

以上はあくまで計画です。第1回授業時に取り扱うテーマについて学生の要望を募り、多少修正します。

### 授業方法

講義形式で行いますが、可能な限り、適宜、実験も取り入れていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回までに、必ず授業の内容を復習すること(約20分)。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                                                     |
|--------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                                                                        |
| 学年末試験(第2学期)              | 80 %    | 夏期の実験に関する論述問題1問、その他のテーマに関する用語説明4問程度を出題します。持込不可。                        |
| 中間テスト                    |         |                                                                        |
| レポート                     | 15 %    | 夏期休暇中に他者理解の実験を行い、実験レポートを提出してもらいます。未提出者は学年末試験を受けても採点の対象外とします。           |
| 小テスト                     |         |                                                                        |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 5 %     | 毎回、質問・意見・感想を書いてもらい、出された質問については次回の授業の冒頭に説明します。優秀な意見・質問については5%を上限に加点します。 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                                                        |

### 成績評価コメント

レポート: 人間行動の観察と分析。自己理解。

平常点: リアクションペーパーによる問題提起。質問。

期末試験: 人間行動に対する洞察(論述問題)。心理学用語の理解(用語説明問題)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期レポートについては第2学期にフィードバックを行います。

### 教科書コメント

教科書の代わりに、適宜プリントを配布しますが、その他の部分はしっかりノートを取って下さい。

### 参考文献

キーワードコレクション心理学, 重野純, 新曜社, 改訂, 2012, 9784788512900

### 参考文献コメント

個々の項目をもう少し詳しく知りたい人向けです。

### その他

授業、レポート、テスト、その他についての質問は、電子メール(hamamura@mg.scn-net.ne.jp)でいつでも受け付けます。学生のメールには必ず返事を出しますが、どの授業の質問か分からないことがよくあり、また迷惑メールと判別がつきにくいので、題名に必ず学生氏名と科目名(心理学D)を入れて下さい。携帯からのメールには返信文字数制限を記入し、パソコンメールからの受信拒否を設定している場合は一時的に解除してください。匿名のメールおよび添付ファイルはウィルス対策のため読まずに削除しますので、注意して下さい。私としては「とにかく人間が好きな人」がたくさん来てくれることを望みます。人間関係が苦手で克服したいと思っている人も大歓迎です。逆に、手っ取り早く多くの心理学的知識を得たい学生(この授業の情報量はやや少な目です)、友情・恋愛・他者理解・説得・リーダーシップなどの人間関係に興味がない学生(きっと飽きてしまうでしょう)や、基本的に他者を理解することには関心がないという学生(レポートがとても辛いと思います)は、他の先生の心理学を取るのを勧めます。他の先生の心理学もそれぞれに特徴があり、どれもとても面白いと思います。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810600105        | 科目ナンバリング | 007D053  |
| 講義名   | 心理学E              |          |          |
| 副題    | 日常生活を心理学的に読み解く    |          |          |
| 英文科目名 | Psychology        |          |          |
| 担当者名  | 明石 聡子             |          |          |
| 単位    | 4                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 2時限 西5－302 |          |          |

## 授業概要

皆さんは心理学と聞くとどんな学問だと想像するでしょうか。テレビや雑誌で見るような、3択やチャート式の占いに似た心理テストでしょうか。それとも相手が何を考えているかわかってしまう、読心術や超能力的なイメージでしょうか。しかし、実際の心理学は人間の心を科学的に解明しようとする学問です。そして、心理学は心に関連するあらゆる分野を対象としており、その範囲は多岐に渡っています。この授業では、心理学の面白さが伝わるよう、身近な題材を取り上げ、講義だけでなく、心理テストや実際のワークなどの体験を通じて心理学を理解してもらいたいと思っています。

## 到達目標

心理学の知見は、調査や実験、観察、実践によるデータに基づいていることを理解することができる。そして日常生活を心理学的視点から理解する力を養うことができる。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                                                               |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 心理学とは何か？<br>授業の概要の説明の後、身近な例を取り上げて、心理学のテーマを紹介します。初回なので、緊張を解きほぐすためのアイスブレイキングとして他己紹介のグループワークを行います。                                                                  |
| 第2回  | 臨床(1) 臨床心理学の範囲<br>悩んでいる人を助ける臨床心理学は、何を対象とし、どんなアプローチがあるのかを概観します。                                                                                                   |
| 第3回  | 臨床(2) フロイトの精神分析<br>フロイトの考え方や、自分の心を守るための「防衛機制」などについて具体例を挙げて説明します。無意識の世界を覗いてみましょう。                                                                                 |
| 第4回  | 臨床(3) ユングの分析心理学<br>フロイトの弟子たちは、どのように精神分析を批判し、発展させていったのでしょうか。ここではユングを取り上げます。ユングとフロイトでは、無意識の捉え方が異なります。言語連想法で、自分の無意識を垣間見てみましょう。                                      |
| 第5回  | 臨床(4) 行動療法、認知行動療法<br>無意識を扱った精神分析とは異なり、目に見える行動や、物事の捉え方を変えることで悩みを解決していく方法を学びます。リラクゼーション法も体験してみましょう。                                                                |
| 第6回  | 臨床(5) カウンセリング、人間性心理学、その他の心理療法<br>人間が本来持っている力に注目したのが人間性心理学です。自己の成長はどのように促されるのでしょうか。ロジャースの来談者中心療法や、マズローの欲求階層説などについて触れます。その他、集団療法や家族療法、子どもを対象とした臨床についても事例を交えてお話します。 |
| 第7回  | 臨床(6) 芸術療法<br>芸術療法の一つである風景構成法を体験してみましょう。クレパスや色鉛筆、黒のサインペンをお忘れなく。                                                                                                  |
| 第8回  | 性格と個人差の心理学<br>性格はどうやって作られるのでしょうか。性格は変わらないように見えますが、実は状況によって大きく変わるものなのです！また、血液型性格判断には、科学的に信頼できる証拠が存在しないにも関わらず、血液型で性格がわかるように感じるのはなぜかも解説します。                         |
| 第9回  | 社会(1) 他者の心の理解<br>私たちは、他者をどのように理解しているのでしょうか。簡単な実験を交えて、印象の形成やステレオタイプ、原因帰属について学びます。                                                                                 |
| 第10回 | 社会(2) コミュニケーション<br>他者と上手にコミュニケーションするにはどうしたら良いのでしょうか。ソーシャル・スキル・トレーニングの一部を体験します。また、他者の態度を変容させるためにはどのような説得的コミュニケーションが効果的なのでしょうか。                                    |
| 第11回 | 社会(3) 対人魅力<br>私たちは、どんな人をどんな時に、どうして好きになるのか解説します。また、恋愛感情の心理テストを行って、自分の恋愛タイプを発見しましょう。                                                                               |
| 第12回 | 社会(4) 援助と攻撃<br>私たちはどのような時に他者を援助したり攻撃したりするのでしょうか。ソーシャル・サポート尺度で、自分の身近な人たちがどのくらい心の支えになっているのかを測ってみましょう。                                                              |
| 第13回 | 社会(5) 集団の心理<br>皆に合わせて自分の意見を変えた経験はありませんか？強いリーダーや権威に服従して、自分の意に反した行為をすることだってあります。しかし、少数派が多数派に影響力を及ぼすことも可能です。                                                        |
| 第14回 | まとめ                                                                                                                                                              |
| 第15回 | 自主研究                                                                                                                                                             |
| 第16回 | 発達(1) 発達の理論、胎児期、新生児期<br>生まれたばかりの赤ちゃんも、意外と有能なんです！発達の理論を概観した後、胎児期と新生児期の発達についてお話します。                                                                                |



|      |                                                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第17回 | 発達(2) 乳児期<br>「3歳までは母の手で」という母性神話は本当でしょうか？愛着と言語発達、発達障害について取り上げます。                                                                    |
| 第18回 | 発達(3) 幼児期、児童期<br>幼児期・児童期の認知発達、仲間関係について解説します。幼児期になると、自分という意識が芽生えてきて、時には自己主張もするようになります。他者のこころを理解、推量できるようにもなってきます。児童期のいじめの問題も取り上げます。  |
| 第19回 | 発達(4) 青年期<br>青年期は自分が何者であるか悩む時期と言われています。自分のアイデンティティについて考えてみましょう。また、青年期に恋愛がうまくいかない背景についても解説します。                                      |
| 第20回 | 発達(5) 成人期・中年期①夫婦関係<br>年数が経つにつれ、夫と妻では、どちらの結婚満足度が高いでしょうか。結婚満足度を上げるにはどうしたらいいか解説します。また、離婚の背景についても取り上げます。                               |
| 第21回 | 発達(6) 成人期・中年期②親子関係、老年期<br>母親の就業が、必ずしも子どもに悪影響を与えるわけではありません。母親の育児不安や父親の育児についても取り上げます。また、老年期は衰退する一方ではないことをお話しします。                     |
| 第22回 | 心理学的アセスメント<br>これまでの授業で心理テストを体験しましたが、心理テストはきちんと標準化され、信頼性、妥当性を確認した検査です。質問紙法以外にもどんなアセスメントがあるのか見てみましょう。                                |
| 第23回 | 認知(1) 知覚<br>私たちは必ずしも、周囲の環境を正確に知覚しているわけではありません。様々な目の錯覚を体験してみましょう。授業で錯視模型を実際に作ってみる予定です。はさみとものさし、セロテープをご用意ください。                       |
| 第24回 | 認知(2) 記憶<br>皆さんは、試験勉強をする時に、記憶術を効果的に活用したいと思うかもしれません。記憶の仕組みや記憶術について解説し、記憶テストで記憶力がどれだけ上がったか確認しましょう。また、伝言ゲームで記憶の変容や忘却についても体験して理解しましょう。 |
| 第25回 | 認知(3) 学習<br>学習というと、学校の勉強を思い浮かべるかもしれませんが、心理学でいう「学習」は、経験によって新しい行動が身についたり、行動が変化したりすることすべてをさします。条件づけによる学習を中心に話を進めます。                   |
| 第26回 | 認知(4) やる気と情動<br>やる気を起こすにはどうしたら良いのでしょうか。また、情動をうまく制御するにはどうしたら良いのでしょうか。嘘の見分けかたについてもお話しします。                                            |
| 第27回 | 認知(5) 思考<br>私たちは日々、考えを巡らして問題を解決しています。問題解決の方法を学んだ後、実際に様々な問題を考えて解いてみましょう。                                                            |
| 第28回 | 心理学の歴史と方法<br>現在の心理学がどのように形成されたのかを知るために歴史を学ぶことは重要です。心理学の研究法についても取り上げます。これまでの総復習も、ゲーム形式で楽しく行いましょう。                                   |
| 第29回 | まとめ                                                                                                                                |
| 第30回 | 自主研究                                                                                                                               |

授業方法

主に講義形式を取りますが、一方的な講義ではなく、心理テストや実験、クイズやグループワーク、ビデオなどの視聴覚教材などを織り交ぜて、できる限り体験型、参加型のアクティブ・ラーニングな授業を目指します。授業は主に教科書に沿って行い、参考書で知識を補足する形で進めて行きます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した教科書を熟読してください。毎回、次の授業に関連するページを予習し(約1時間)、授業で扱った内容を復習(約1時間)してください。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                                                                                                      |
|--------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                                                                                                         |
| 学年末試験(第2学期)              | 76 %    | 授業で話したこと及び配布資料、教科書全般の内容が範囲です。                                                                           |
| 中間テスト                    |         |                                                                                                         |
| レポート                     | 24 %    | 第1学期の授業で学習した事柄を、自分の身近な日常生活に当てはめて、具体例を報告してください。授業の例と全く同じ例は不可です。自分の体験から考えてください。適切な例かどうかを評価します。提出は第1学期末です。 |
| 小テスト                     |         |                                                                                                         |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                                                                                                         |
| その他(備考欄を参照)              |         |                                                                                                         |

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートの内容を授業内で紹介し、コメントします。  
学年末試験の練習問題を授業内で行い、直後に解説をして試験に備えます。

## **教科書**

心理学・入門 改訂版 心理学はこんなに面白い:有斐閣アルマ,サトウタツヤ・渡邊芳之,有斐閣,改訂,2019,9784641221383

## **参考文献**

手にとるように心理学がわかる本,渋谷昌三・小野寺敦子,かんき出版 ,2006,4761263393

心理学,鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) ,東京大学出版会,第5,2015,9784130121095

心理学,無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治,有斐閣,初,2004,4641053693

心理学入門:図解雑学,久能徹・松本桂樹,ナツメ社,2009,9784816329272

## **参考文献コメント**

その他適宜参考文献を用います。

## **履修上の注意**

教科書は必ず買ってください。

## **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                           |          |          |
|-------|-------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810601101                                | 科目ナンバリング | 007D055  |
| 講義名   | スポーツと健康を考える                               |          |          |
| 英文科目名 | Introduction to Health and Sports Science |          |          |
| 担当者名  | 羽田 雄一.北崎 悦子.北村 麻衣.高丸 功                    |          |          |
| 単位    | 4                                         | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 火曜日 1時限 中央－301                         |          |          |

授業概要

スポーツおよび健康に関する内容を幅広く紹介する。

到達目標

スポーツ科学や健康科学を通して、競技パフォーマンスの向上や健康の維持増進に必要な幅広い基礎的知識を身につけることにより、これまでとは違った視点で自身の身体と向き合えるようになる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                |
|------|-----------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション 高丸 功                    |
| 第2回  | スポーツの歴史 高丸 功                      |
| 第3回  | オリンピックの歴史と課題 高丸 功                 |
| 第4回  | 科学技術の進歩とスポーツ 高丸 功                 |
| 第5回  | 現代社会とスポーツ 高丸 功                    |
| 第6回  | 薬物乱用防止について(保健センターとの共催講義) 高丸 功     |
| 第7回  | まとめ 高丸 功                          |
| 第8回  | 現代人の健康 北村 麻衣                      |
| 第9回  | 嗜好品と健康の関係 北村 麻衣                   |
| 第10回 | 痩せと肥満・健康的な食生活 北村 麻衣               |
| 第11回 | 運動と栄養 北村 麻衣                       |
| 第12回 | 運動指針・エネルギー代謝 北村 麻衣                |
| 第13回 | こころの健康 北村 麻衣                      |
| 第14回 | 怪我予防と応急処置 北村 麻衣                   |
| 第15回 | まとめ                               |
| 第16回 | スポーツの技術と戦術 北崎 悦子                  |
| 第17回 | 運動の構造と発達 北崎 悦子                    |
| 第18回 | プロスポーツの現状と課題 北崎 悦子                |
| 第19回 | スポーツの選手育成とキャリア形成 北崎 悦子            |
| 第20回 | スポーツとこころ 北崎 悦子                    |
| 第21回 | 大学生の健康(保健センターとの共催講義) 北崎 悦子        |
| 第22回 | まとめ 北崎 悦子                         |
| 第23回 | 体カトレーニング①骨格筋の構造と筋収縮 羽田 雄一         |
| 第24回 | 体カトレーニング②トレーニングの原理・原則 羽田 雄一       |
| 第25回 | 体カトレーニング③筋力トレーニング 羽田 雄一           |
| 第26回 | 体カトレーニング④パワートレーニング 羽田 雄一          |
| 第27回 | 体カトレーニング⑤持久力トレーニング 羽田 雄一          |
| 第28回 | 体カトレーニング⑥調整力トレーニング、トレーニング計画 羽田 雄一 |
| 第29回 | 体カトレーニング⑦健康とトレーニング 羽田 雄一          |
| 第30回 | まとめ                               |

授業方法

講義形式。4名の担当教員による持ち回りの授業である。  
シラバスに沿って進めるが、場合によっては内容が変更になることがある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

スポーツならびに健康に関するトピックスを調べておくこと。(30分)

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     | 90 %    |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 10 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

- 平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 小テスト:90%(それぞれの教員ががテストを実施予定)
- ・各担当教員がそれぞれ25点(平常点含む)、計100点満点の採点を行う。
  - ・授業開講回数の3分の2以上出席した者のみ、評価の対象となる。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

各担当教員が実施するテストの他に、授業内で行うレポート等については、採点後に履修者に対してフィードバックを行う。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                   |          |          |
|-------|-------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810603101        | 科目ナンバリング | 007D070  |
| 講義名   | 野外教育(実習)          |          |          |
| 副題    | 能登半島探索(一周)サイクリング  |          |          |
| 英文科目名 | Outdoor Education |          |          |
| 担当者名  | 横山 悦郎             |          |          |
| 単位    | 2                 | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 集中(通年) その他 集中講義   |          |          |

**授業概要**

4泊5日のサイクリング実習を通して野外教育の一分野である冒険教育にチャレンジする。人の生きがいは、美しさへの感動、創造性、人間らしさの味わいにあるといわれており、それらを総合的に体験する学習である。数回の事前及び事後の講義では、自然豊かな能登半島の風光に触れ、環境保全の重要性に気付くとともに、過疎地域の社会的実態についても理解を深める。野外教育、環境教育、身体教育などを含んだ総合教育的授業である。通年集中授業であり、事前事後講義は原則第2火曜日の6限とし、合計6回を学内で行う。4泊5日の実習は8月下旬から9月上旬の夏季休業時に行う。現地集合解散を原則とし、宿泊費等は自己負担である。安全性及び不慮事態対応を考え、伴走車が付く。自転車とヘルメットは教材として用意してある。しかし、各自が自分のものを輪行し持参することは歓迎する。

**到達目標**

自分の限界に挑戦することにより、自己への気付き自己改革、自己創造の萌芽が惹起される。また、野外教育から得られる達成感是自己肯定感にもつながる。自然環境の問題に触れることにより自然の中で生かされている自分に気づく。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                                                        |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 4月21日(第3火曜日)18:00-19:00 南3－102 オリエンテーションおよび 野外教育の意義                       |
| 第2回  | 5月12日(第2火曜日)18:00-19:30 南3－102 野外教育に必要な技能実践1(自転車に乗れるスキルの確認、サイクリングの基本知識)   |
| 第3回  | 6月9日(第2火曜日)18:00-19:30 南3－102 野外教育に必要な技能実践2(自転車の基礎知識、ホイールとペダルの脱着、パンク修理など) |
| 第4回  | 7月14日(第2火曜日)18:00-19:30 南3－102 実習前準備・確認                                   |
| 第5回  | 8月20日(木)-8月24日(月) 現地実習(奥能登サイクリング探索):現地集合解散                                |
| 第6回  | 9月15日(第3火曜日)18:00-19:30 南3－102 事後作業の確認、報告書、文集作成                           |
| 第7回  | 10月13日(第2火曜日)18:00-19:30 南3－102 まとめ                                       |
| 第8回  |                                                                           |
| 第9回  |                                                                           |
| 第10回 |                                                                           |
| 第11回 |                                                                           |
| 第12回 |                                                                           |
| 第13回 |                                                                           |
| 第14回 |                                                                           |
| 第15回 |                                                                           |

**授業計画コメント**

第1回授業4月21日(第3火曜日)(オリエンテーション)に必ず参加すること。以後の授業計画の詳細を伝える。現地実習(奥能登サイクリング探索)は、8月20日(木)-8月24日(月) 開催。現地集合解散。

**授業方法**

グループワークを主とする。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

能登半島の地理、路線、地勢、気候、風土などを資料研究しておくこと。自転車に乗れるスキルを獲得しておくこと。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 40 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 60 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

実習参加が単位認定の最低条件である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

事後に皆で作成した報告書を配布する。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810700101                              | 科目ナンバリング | 007D056  |
| 講義名   | 生命論A                                    |          |          |
| 英文科目名 | Philosophy and Science of Life          |          |          |
| 担当者名  | 岡野 浩・島田 健太郎                             |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 4時限 西5－201.第2学期 火曜日 4時限 西5－201 |          |          |

### 授業概要

【第1学期】医療技術と生命工学のめまぐるしい程の進歩は、私たちに多くの恩恵をもたらすとともに、深刻な態度決定を迫るような様々な問題にも直面させることとなった。この授業では、新たな死の形としての＜脳死＞や移植医療、高度な延命医療とその是非、また生殖補助医療や遺伝子操作等の問題についての基本的な理解を構築するとともに、日本及び世界の動向にも目を向けながら、医療行為を通じて確保、実現されるべき＜生命の質（quality of life）＞、その意味について考えてゆきたい。

【第2学期】第2学期は「つながり」をキーワードに、東洋的思惟の立場から「いのち」を考えてゆきます。大まかに言えば、東洋では自己を含めた全体とのつながり・関わりの中で、「いのち」ということを発想します。本講では、このような生命現象についての日本人の言説を軸に、中国・インドの考え方と比較検討し、その上で、生命をめぐる現代の様々な問題について考えていきたいと思っています。多少聞き慣れない話になると思いますが、これらの話が皆さんにとって単なる過去の思想的所産ではなく、現在の自分の問題として考えるための視野を広げるきっかけとなれればと考えています。

### 到達目標

【第1学期】本講義では特に人間の誕生と、死をめぐる医療に焦点を当て、今日の生命倫理の基本的な論点を示す具体的な事件、事例について考える事で、近い将来、恐らくは受講者の誰もが直面することになるろう人の命をめぐる＜深刻な態度決定＞に一人の社会人として、真摯に、また冷静に向き合ってゆくために備えておくべき基本的な見識の涵養を目指したい。

【第2学期】生命の問題を、現在の自分の問題として考えるための視野を広げることができる。 東洋と西洋の「ものの考え方」の違いを理解し、生命の問題を考察するための、より大きな視点を獲得することができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                      |
|------|-----------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション 授業内容、成績評価などの説明                |
| 第2回  | ＜生命倫理＞とは何か① 生命倫理が創始された背景                |
| 第3回  | ＜生命倫理＞とは何か② 「人間の尊厳」と「社会的効用」をめぐる伝統的議論    |
| 第4回  | 脳死と臓器移植をめぐる問題①脳死とは何か                    |
| 第5回  | 脳死と臓器移植をめぐる問題②臓器移植法の改正について              |
| 第6回  | 脳死と臓器移植をめぐる問題③臓器移植医療の問題点                |
| 第7回  | 安楽死を巡る議論① いわゆる＜安楽死問題＞の概観                |
| 第8回  | 安楽死を巡る議論② ＜生命の質 quality of life ＞をめぐる問題 |
| 第9回  | 尊厳ある死とは何か① 一般的定義と問題点                    |
| 第10回 | 尊厳ある死とは何か② ＜良き死＞に含意されるものをめぐる問題          |
| 第11回 | 生命の誕生に関わる＜人為的操作＞－生殖補助医療を巡る問題の概観         |
| 第12回 | 体外受精と代理母 科学技術の進歩と子供の尊厳との葛藤              |
| 第13回 | いつから人間と言えるのか－ ヒト胚をめぐる問題                 |
| 第14回 | 遺伝子診断、着床前診断そして人工妊娠中絶をめぐる問題              |
| 第15回 | 理解度の確認                                  |
| 第16回 | 「概説」(90分)                               |
| 第17回 | 古代日本人の生命観－「いのち」と「いき」－                   |
| 第18回 | 古代日本人の生命観－「たま」－                         |
| 第19回 | 古代日本人の生命観－「身」－                          |
| 第20回 | 日本人の生命観－「身」と「いのち」－                      |
| 第21回 | 日本人の生命観－「尊厳」と「人格」－                      |
| 第22回 | 日本人の生命観－「子ども」－                          |
| 第23回 | 日本人の生命観－「子ども」と「いのち」－                    |
| 第24回 | 古代中国の生命観－「生」と「命」－                       |
| 第25回 | 古代中国の生命観－「気」－                           |
| 第26回 | 古代中国の生命観－「孝」－                           |
| 第27回 | 仏教の生命観－生命の原初形態－                         |
| 第28回 | 仏教の生命観－「因」と「縁」－                         |
| 第29回 | 仏教の生命観－生命のありよう－                         |

**授業方法**

講義形式で行います。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

【第1学期】授業のレジュメ、資料は前もって数回分程度を配布することになるので、配布資料にはあらかじめ目を通し、授業の内容、方向性について把握しておくこと。

【第2学期】特に必要としないが、授業中に出て来た専門用語を、すぐに調べることができる何らかの辞書があると、授業が聞きやすくなります。また第1学期の授業や生命倫理の問題点とどのように関連するのか考えながら授業を聞くと、問題点が分かりやすくなります。さらに授業後には、ノートを見ながら授業内容の問題点や疑問点をメモしておくといでしょう(約30分)。加えて授業で扱われた内容で興味を持った事柄について、何らかの文献を読むようにすれば、さらに問題関心と視野が広がると思います(約4時間)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                            |
|--------------------------|---------|-------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |                               |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                               |
| 中間テスト                    |         |                               |
| レポート                     | 20 %    |                               |
| 小テスト                     |         |                               |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                               |
| その他(備考欄を参照)              |         | 岡野 浩 講師(第1学期)／島田 健太郎 講師(第2学期) |

**成績評価コメント**

【第1学期】(学期末試験):80%(短答問題を十問と、論述問題を二問出題します。特に論述問題については、どこまで説得力のある議論ができているかが評価の基準になります。)小テスト:20%(いくつかの重要な問題について、<アンケート形式>で各自の考えを述べてもらいます。個々の問題について考えを述べる場合には、常に論拠を明確にして意見表明をするよう心掛けてください。)この授業で取り上げる問題はどれも、受講者の誰もがその人生の中で直面する可能性のあるものばかりなので、単なるトピックとしてのみ捉えるのではなく、常に自身の問題として引き受けて考える習慣を身に付けることが求められます。

【第2学期】学年末試験:80%(論述形式。視点の独自性、文章の論理性、視野の広さなどを総合的に勘案して評価します)。レポート:20%(小レポート。数回実施。問題関心の有無や位置づけ、文章の論理性、表現力などを総合的に判断して評価します)。「生命」について、あなた自身が自分の問題としてどれだけ深く考えられているか、そしてその表現が十分な説得力を持つ形で表明されているか、という点を重視します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎年多くの学生が受講するので、授業の中で提出されたレポートについての総評を述べ、注意点と共に特筆すべき意見等があれば適宜紹介し、課題についてすべての受講者があらためて認識を深める機会となるように心がけています。

**教科書コメント**

教科書は使用しませんが、授業時に配布するレジュメ、資料がその代りとなります。

**参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

**履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                         |          |          |
|-------|-----------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810700102                              | 科目ナンバリング | 007D056  |
| 講義名   | 生命論B                                    |          |          |
| 英文科目名 | Philosophy and Science of Life          |          |          |
| 担当者名  | 島田 健太郎,岡野 浩                             |          |          |
| 単位    | 4                                       | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 4時限 中央－303,第2学期 火曜日 4時限 中央－303 |          |          |

授業概要

【第1学期】第1学期は「つながり」をキーワードに、東洋的思惟の立場から「いのち」を考えます。大まかに言えば、東洋では自己を含めた全体とのつながり・関わりの中で、「いのち」ということを発想します。本講では、この問題についての日本の考え方を軸に、中国・インドの考え方と比較検討し、その上で、生命をめぐる現代の様々な問題について考えていきます。聞き慣れない話も多いと思いますが、これらの話が皆さんにとって単なる過去の思想的所産ではなく、現在の自分の問題として考えるための視野を広げるきっかけとなればと考えています。

【第2学期】医療技術と生命工学のめまぐるしい程の進歩は、私たちに多くの恩恵をもたらすとともに、深刻な態度決定を迫るような様々な問題にも直面させることとなった。この授業では、新たな死の形としての＜脳死＞や移植医療、高度な延命医療とその是非、また生殖補助医療や遺伝子操作等の問題についての基本的な理解を構築するとともに、日本及び世界の動向にも目を向けながら、様々な医療行為を通じて確保、実現されるべきく生命の質 (quality of life) >、その意味について考えてゆきたい。

到達目標

【第1学期】生命の問題を、現在の自分の問題として考えるための視野を広げることができる。 東洋と西洋の「ものの考え方」の違いを理解し、生命の問題を考察するための、より大きな視点を獲得することができる。

【第2学期】本講義では特に人間の誕生と、死をめぐる医療に焦点を当て、今日の生命倫理の基本的な論点を示す具体的な事件、事例について考える事で、近い将来、恐らくは受講者の誰もが直面することになろう人の命をめぐる＜深刻な態度決定＞に一人の社会人として、真摯に、また冷静に向き合ってゆくために備えておくべき基本的な見識の涵養を目指したい。

授業内容

| 実施回  | 内容                                     |
|------|----------------------------------------|
| 第1回  | 「概説」(90分)                              |
| 第2回  | 古代日本人の生命観－「いのち」と「いき」－                  |
| 第3回  | 古代日本人の生命観－「たま」－                        |
| 第4回  | 古代日本人の生命観－「身」－                         |
| 第5回  | 日本人の生命観－「身」と「いのち」－                     |
| 第6回  | 日本人の生命観－「尊厳」と「人格」－                     |
| 第7回  | 日本人の生命観－「子ども」－                         |
| 第8回  | 日本人の生命観－「子ども」と「いのち」－                   |
| 第9回  | 古代中国の生命観－「生」と「命」－                      |
| 第10回 | 古代中国の生命観－「気」－                          |
| 第11回 | 古代中国の生命観－「孝」－                          |
| 第12回 | 仏教の生命観－生命の原初形態－                        |
| 第13回 | 仏教の生命観－「因」と「縁」－                        |
| 第14回 | 仏教の生命観－生命のありよう－                        |
| 第15回 | 総括－「つながり」からみた生命－                       |
| 第16回 | オリエンテーション 授業内容、成績評価などの説明               |
| 第17回 | ＜生命倫理＞とは何か① 生命倫理が創始された背景               |
| 第18回 | ＜生命倫理＞とは何か② 「人間の尊厳」と「社会的効用」をめぐる伝統的議論   |
| 第19回 | 脳死と臓器移植をめぐる問題①脳死とは何か                   |
| 第20回 | 脳死と臓器移植をめぐる問題②改正臓器移植法について              |
| 第21回 | 脳死と臓器移植をめぐる問題③臓器移植医療の問題点               |
| 第22回 | 安楽死を巡る議論① いわゆる＜安楽死問題＞の概観               |
| 第23回 | 安楽死を巡る議論② ＜生命の質 quality of life＞をめぐる問題 |
| 第24回 | 尊厳ある死とは何か① 一般的定義と問題点                   |
| 第25回 | 尊厳ある死とは何か② ＜良き死＞に含意されるものをめぐる問題         |
| 第26回 | 生命の誕生に関わる＜人為的操作＞－生殖補助医療をめぐる問題の概観       |
| 第27回 | 体外受精と代理母 科学技術の進歩と子供の尊厳との葛藤             |
| 第28回 | いつから人間と言えるのか－ ヒト胚をめぐる問題                |

第29回 遺伝子診断、着床前診断そして人工妊娠中絶をめぐる問題

第30回 理解度の確認

### 授業方法

講義形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

【第1学期】特に必要としないが、一般的な生命倫理に関する書物(新書程度でよい)を事前に読み、何が問題点となっているのか大まかな知識があると授業が聞きやすくなります(約4時間)。また授業中に何らかの辞書がある方が、授業が聞きやすいと思います。また授業後は、ノートを見ながら授業内容を思い出し、疑問点や問題点をメモしておくといでしょう(約30分)。

【第2学期】授業のレジュメ、資料等は、数回分を前もって配布しておくので、それらに予め目を通し、授業の内容、方向性等について把握した上で授業に臨むこと。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                            |
|--------------------------|---------|-------------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 40 %    |                               |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                               |
| 中間テスト                    |         |                               |
| レポート                     | 20 %    |                               |
| 小テスト                     |         |                               |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |                               |
| その他(備考欄を参照)              |         | 島田 健太郎 講師(第1学期)／岡野 浩 講師(第2学期) |

### 成績評価コメント

【第1学期】 学期末試験:80%(論述形式。視点の独自性、文章の論理性、視野の広さなどを総合的に勘案して評価します。) レポート:20%(小レポート。数回実施。問題関心の有無や位置づけ、文章の論理性、表現力などを総合的に判断して評価します。) 「生命」について、あなた自身が自分の問題としてどれだけ深く考えられているか、そしてその表現が十分な説得力を持つ形で表明されているか、という点を重視して評価します。

【第2学期】(学期末試験):80%(短答問題を十問と、論述問題を二問出題します。特に論述問題については、どこまで説得力のある議論ができているかが評価の基準になります。) 小テスト:20%(いくつかの重要な問題について、<アンケート形式>で各自の考えを述べてもらいます。個々の問題について考えを述べる場合には、常に論拠を明確にして意見表明をするよう心掛けてください。) この授業で取り上げる問題はどれも、受講者の誰もがその人生の中で直面する可能性のあるものばかりなので、単なるトピックとしてのみ捉えるのではなく、常に自身の問題として引き受けて考える習慣を身に付けることが求められます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎年多くの学生が受講するので、授業の中で提出されたレポートについての総評を述べ、注意点と共に特筆すべき意見等があれば適宜紹介し、課題についてすべての受講者があらためて認識を深める機会となるように心がけています。

### 教科書コメント

教科書は使用しません。授業時に配布するレジュメや資料がその代りとなります。

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                 |          |          |
|-------|---------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810701601                      | 科目ナンバリング | 007D067  |
| 講義名   | エコロジー（環境問題とエネルギー）               |          |          |
| 英文科目名 | Ecology（Environment and Energy） |          |          |
| 担当者名  | 落合 勝昭                           |          |          |
| 単位    | 2                               | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 土曜日 2時限 中央－402             |          |          |

授業概要

環境問題を考える上での視点（経済学）を修得し、その応用として地球温暖化、日本のエネルギー問題などを考察する能力を身に着ける。

到達目標

本授業の到達目標は、(1)環境問題を考える上での基本的な概念の修得、(2)地球温暖化問題、日本が直面するエネルギー問題などの把握、(3)それらの問題への対策の理解、である。

授業内容

| 実施回  | 内容                      |
|------|-------------------------|
| 第1回  | エコロジーとは何か（概念と歴史）        |
| 第2回  | エコロジーと人間の生活             |
| 第3回  | エコロジー（環境問題）と経済          |
| 第4回  | 環境問題はなぜ発生するのか           |
| 第5回  | 環境問題を理解するための手法（経済学的考え方） |
| 第6回  | 環境問題への対策                |
| 第7回  | 環境の評価                   |
| 第8回  | 環境と経済発展（日本の公害、水俣病）      |
| 第9回  | 環境と経済発展（日本の公害、その他）      |
| 第10回 | 日本の経済発展とエネルギー政策         |
| 第11回 | これからのエネルギー政策            |
| 第12回 | 地球温暖化とは何か               |
| 第13回 | 地球温暖化と国際関係              |
| 第14回 | 地球温暖化と日本の取り組み           |
| 第15回 | まとめ                     |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

扱う範囲が広いため、事前に配布される資料による予習（約30分）、授業の記憶が鮮明なうちに復習（約30分）を行うこと。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分（％） | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 80 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 20 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

試験は、講義内で扱う各トピックを網羅する形で出題される。基本的な知識の理解が重要。  
レポートは講義で扱うトピックから課題を提示する。講義で説明した基礎概念を踏まえているかが重要。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

レポートについては採点の上、返却する。

教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

参考文献

グラフィック環境経済学,浅子和美・落合勝昭・落合由紀子,新世社,2015,ISBN=9784883842216

参考文献コメント

授業中に配布する資料に追加の参考文献を記載する。

#### **履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                             |          |          |
|-------|-------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810703101                                                  | 科目ナンバリング | 007D060  |
| 講義名   | 福祉A                                                         |          |          |
| 副題    | 考え、そして行動する福祉                                                |          |          |
| 英文科目名 | Social Welfare                                              |          |          |
| 担当者名  | 岡野 浩.稲葉 剛.小山内 園子.小野 昌彦.酒井 潔.鈴木 公基.高橋 龍太郎.長谷川 博史.馬場 純子.堀 千鶴子 |          |          |
| 単位    | 4                                                           | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 土曜日 1時限 西5－201                                           |          |          |

## 授業概要

「福祉」(welfare)とはもともと「幸せ」を意味する語である。しかし近代の学問の歴史をみると、幸せや幸福は主観的な概念に過ぎないと見なされ、基本的には排除されてきたといえよう。そういう意味で、現代において、幸福を対象とする福祉学ないし社会福祉学が成立したことには画期的な意義がある。さらに、福祉という学問は、その本質からして、すでに実践を含んでいる。つまり理論だけの福祉というのは本来あり得ないはずであろう。私たちは、愛する人や自分の幸せということについて無関心ではいられないし、行動せずにはいられないからである。今日、急激な少子高齢化、長引く経済不況にあつて、福祉もまた危機に瀕し、その見直しの急務が叫ばれているのは周知の通りである。その場合に大事なことは、福祉は単に行政や法や制度上の問題ではなく、まして、個人の善意や献身に丸投げされ得るようなものではない(さりとて、安易な自己責任論にも組することはできない)ということである。つまり、福祉とは単なる社会問題や、あるいは個人の憐憫や慈善に尽きてしまうのではなく、むしろ私たちが、この社会の中で他人とどのように「共に生き」、行動し、自らの充足感を得ることができるのかという、身近で切実な、まさに哲学的かつ行動的ともいえるような問いであるだろう。そこで、本講義では、いわゆる「理論」と「実践」を区別するのではなく、むしろ一体としてとらえ、私たちを取り巻くさまざまな福祉の分野から、各専門の講師を招いて、その今日的現状と緊急の課題について明らかにしてゆく。それらの分野とは、貧困・低所得者、エイズ、老人医療、高齢者福祉政策、女性福祉、家族福祉、児童福祉、行動福祉、医療保険などである。各講師は、行政機関職員、NPO職員、医師、福祉関係学科教員、スーパーバイザー、ソーシャルワーカーなどとして、現場の第一線で活躍している。各講義を通じてそれらのリアルタイムの現実の一つ一つ触れながら、あらためて「幸せとは何か」、「生きがいとは何か」について考えてみたい。

## 到達目標

この授業で取り上げられるトピックは、どれも受講者が社会生活を送る中で直面する可能性のあるものばかりである。本授業では、受講者一人一人が、各講師の提起する課題に真剣に向き合い、常に自らの問題として考えることを通じて、＜共に、この社会に生き、この社会を担うメンバー＞としての自覚と基礎的な見識の涵養を目指したい。

## 授業内容

| 実施回  | 内容                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業を始めるにあたって。「福祉」とはどのような意味か。一年間の授業計画(日程、テーマ等)岡野 浩(学習院大学文学部哲学科) |
| 第2回  | 貧困・低所得者福祉(1):ホームレスの現状とその支援 稲葉剛(立教大学大学院特任教授)                   |
| 第3回  | 貧困・低所得者福祉(2):生活保護の現状と課題① //                                   |
| 第4回  | 貧困・低所得者福祉(3):生活保護の現状と課題② //                                   |
| 第5回  | エイズをめぐる諸問題(1)長谷川博史(NPO法人 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス理事)            |
| 第6回  | エイズをめぐる諸問題(2) //                                              |
| 第7回  | 老人医療と福祉(1)高橋龍太郎(老年医学研究・臨床医)                                   |
| 第8回  | 老人医療と福祉(2) //                                                 |
| 第9回  | 老人医療と福祉(3) //                                                 |
| 第10回 | 高齢者福祉と介護保険制度(1)馬場純子(専修大学文学部)                                  |
| 第11回 | 高齢者福祉と介護保険制度(2) //                                            |
| 第12回 | 高齢者福祉と介護保険制度(3)                                               |
| 第13回 | 老いと看取りを廻る現実 岡野浩                                               |
| 第14回 | 前期授業を振り返る 岡野浩                                                 |
| 第15回 | まとめ                                                           |
| 第16回 | 女性福祉(1)堀千鶴子(城西国際大学福祉総合学部)                                     |
| 第17回 | 女性保護事業の現場から 小山内園子(NPO法人みずら)                                   |
| 第18回 | 女性福祉(2)堀千鶴子                                                   |
| 第19回 | 家族福祉から＜共生＞を考える 酒井潔(学習院大学文学部哲学科)                               |
| 第20回 | 家族、そして親子、人間関係の基本構造について考える 岡野浩                                 |
| 第21回 | 「あるべき社会の姿とは(1)我が国の医療・保健制度をめぐる問題 岡野浩                           |
| 第22回 | 児童福祉(1)鈴木公基(関東学院大学教育学部こども発達学科)                                |
| 第23回 | 児童福祉(2) //                                                    |
| 第24回 | 児童福祉(3) //                                                    |
| 第25回 | 障害児・不登校・行動福祉(1)小野昌彦(明治学院大学)                                   |
| 第26回 | 障害児・不登校・行動福祉(2)                                               |
| 第27回 | 障害児・不登校・行動福祉(3) //                                            |

- 第28回 「あるべき社会」の姿とは(2) 社会正義の実現と個人の自由をめぐる問題① 岡野浩
- 第29回 「あるべき社会」の姿とは(3) 社会正義の実現と個人の自由をめぐる問題② 岡野浩
- 第30回 理解度の確認

#### 授業計画コメント

今日の日本の福祉の実態(制度や活動)と課題を、具体的な問題や現場に密着しながら明らかにしてゆく。そのため、とくにホームレス支援、エイズ問題、老人介護、婦人保護についてはそれぞれソーシャルワーカーの方を講師に招いている。このことも本授業の特色である。また、テーマによっては講師によるフィールドワークも実施されるので、この機会を大いに活用して欲しい。

#### 授業方法

講義形式が基本となる。福祉の現場・第一線で活動する講師陣と接することのできる機会を最大限活かしてもらいたい。毎回、資料プリントが配布されるほか、パワーポイントやDVD等も使用される。

#### 使用言語

日本語

#### 準備学習(予習・復習)

テキスト『考える福祉』には、この授業の基本的なコンセプト、方向性、また内容等が分かりやすくまとめられているので、それらを理解した上で、各授業の該当箇所についても事前に目を通し、その概要を掴んで授業に臨むこと。

#### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                    |
|--------------------------|---------|-----------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                       |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                       |
| 中間テスト                    |         |                       |
| レポート                     | 40 %    |                       |
| 小テスト                     |         |                       |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | 毎回授業時に、リアクションペーパーを提出。 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                       |

#### 成績評価コメント

第1学期レポート(夏休み明け提出)と学年末試験を総合して評価する。第2学期学年末試験:40% 2学期に講義を担当した講師が出題する課題の中から、各自一題を選んで論述してもらう。講義内容をしっかりと把握した上で、どこまで説得力のある議論ができるかが評価のポイントとなる。) レポート:40% 1学期授業の中から各自興味のあるテーマを選んで、レポートを作成してもらう。取り上げたテーマについて、単に一般的な知識をまとめるのではなく、各自がそれぞれの視点で、どこまで考え抜くことができたかが評価のポイントになる。毎回提出するリアクションペーパーでの意欲的な質問、意見は高く評価したい。:20%

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎年受講者が多いので、レポートの返却を希望する学生については、査読者がコメントを付けて返却している。

#### 教科書

考える福祉(改訂版),酒井潔/岡野浩編,東洋館出版社,改訂,2016

#### 参考文献コメント

参考文献については、各テーマごとの講師が授業時に適宜紹介する。

#### その他

授業の概観、成績評価の方法、履修上の注意などについて説明するので、第一回目の授業には必ず出席すること。授業では、30以上の遅刻は認めない。また、授業時間中の私語は禁止。授業中のPC、スマートフォン等の使用は原則として認めない。

【実務経験のある教員による授業科目】

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                             |          |          |
|-------|-------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810703102                                                  | 科目ナンバリング | 007D060  |
| 講義名   | 福祉B                                                         |          |          |
| 副題    | 考え、そして行動する福祉                                                |          |          |
| 英文科目名 | Social Welfare                                              |          |          |
| 担当者名  | 岡野 浩.稲葉 剛.小山内 園子.小野 昌彦.酒井 潔.鈴木 公基.高橋 龍太郎.長谷川 博史.馬場 純子.堀 千鶴子 |          |          |
| 単位    | 4                                                           | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 土曜日 2時限 西5－201                                           |          |          |

### 授業概要

「福祉」(welfare)とはもともと「幸せ」を意味する語である。しかし近代の学問の歴史をみると、幸せや幸福は主観的な概念に過ぎないと見なされ、基本的には排除されてきたといえよう。そういう意味で、現代において、幸福を対象とする福祉学ないし社会福祉学が成立したことには画期的な意義がある。さらに、福祉という学問は、その本質からして、すでに実践を含んでいる。つまり理論だけの福祉というのは本来あり得ないはずであろう。私たちは、愛する人や自分の幸せということについて無関心ではいられないし、行動せずにはいられないからである。今日、急激な少子高齢化、長引く経済不況にあって、福祉もまた危機に瀕し、その見直しの急務が叫ばれているのは周知の通りである。その場合に大事なことは、福祉は単に行政や法や制度上の問題ではなく、まして、個人の善意や献身に丸投げされ得るようなものではない(さりとて、安易な自己責任論にも組することはできない)ということである。つまり、福祉とは単なる社会問題や、あるいは個人の憐憫や慈善に尽きてしまうのではなく、むしろ私たちが、この社会の中で他人とどのように「共に生き」、行動し、自らの充足感を得ることができるのかという、身近で切実な、まさに哲学的かつ行動的ともいえるような問いであるだろう。そこで、本講義では、いわゆる「理論」と「実践」を区別するのではなく、むしろ一体としてとらえ、私たちを取り巻くさまざまな福祉の分野から、各専門の講師を招いて、その今日的現状と緊急の課題について明らかにしてゆく。それらの分野とは、貧困・低所得者、エイズ、老人医療、高齢者福祉政策、女性福祉、家族福祉、児童福祉、行動福祉、医療保険などである。各講師は、行政機関職員、NPO職員、医師、福祉関係学科教員、スーパーバイザー、ソーシャルワーカーなどとして、現場の第一線で活躍している。各講義を通じてそれらのリアルタイムの現実の一つ一つ触れながら、あらためて「幸せとは何か」、「生きがいとは何か」について考えてみたい。

### 到達目標

この授業で取り上げられるトピックは、どれも受講者が社会生活を送る中で直面する可能性のあるものばかりである。本授業では、受講者一人一人が、各講師の提起する課題に真剣に向き合い、常に自らの問題として考えることを通じて、＜共に、この社会に生き、この社会を担うメンバー＞としての自覚と基礎的な見識の涵養を目指したい。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業を始めるにあたって。「福祉」とはどのような意味か。一年間の授業計画(日程、テーマ等)岡野 浩(学習院大学文学部哲学科) |
| 第2回  | 貧困・低所得者福祉(1):ホームレスの現状とその支援 稲葉剛(立教大学大学院特任教授)                   |
| 第3回  | 貧困・低所得者福祉(2):生活保護の現状と課題①                                      |
| 第4回  | 貧困・低所得者福祉(3):生活保護の現状と課題②                                      |
| 第5回  | エイズをめぐる諸問題(1)長谷川博史(NPO法人 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス理事)            |
| 第6回  | エイズをめぐる諸問題(2)                                                 |
| 第7回  | 老人医療と福祉(1)高橋龍太郎(東京都老人総合研究所)                                   |
| 第8回  | 老人医療と福祉(2)                                                    |
| 第9回  | 老人医療と福祉(3)                                                    |
| 第10回 | 高齢者福祉と介護保険制度(1)馬場純子(専修大学文学部)                                  |
| 第11回 | 高齢者福祉と介護保険制度(2)                                               |
| 第12回 | 高齢者福祉と介護保険制度(3)                                               |
| 第13回 | 老いと看取りを廻る現実 岡野浩                                               |
| 第14回 | 前期授業を振り返る 岡野浩                                                 |
| 第15回 | まとめ                                                           |
| 第16回 | 女性福祉(1)堀千鶴子(城西国際大学福祉総合学部)                                     |
| 第17回 | 女性保護事業の現場から 小山内園子(NPO法人みずら)                                   |
| 第18回 | 女性福祉(2)堀千鶴子                                                   |
| 第19回 | 家族福祉から＜共生＞を考える 酒井潔(学習院大学文学部哲学科)                               |
| 第20回 | 家族、そして親子、人間関係の基本構造について考える 岡野浩                                 |
| 第21回 | 「あるべき社会の姿」とは(1)我が国の医療・保険制度をめぐる問題 岡野浩                          |
| 第22回 | 児童福祉(1)鈴木公基(関東学院大学教育学部こども発達学科)                                |
| 第23回 | 児童福祉(2)                                                       |
| 第24回 | 児童福祉(3)                                                       |
| 第25回 | 障害児・不登校・行動福祉(1)小野昌彦(宮崎大学大学院教育研究科)                             |
| 第26回 | 障害児・不登校・行動福祉(2)                                               |
| 第27回 | 障害児・不登校・行動福祉(3)                                               |

- 第28回 「あるべき社会」の姿とは(2) 社会正義の実現と個人の自由をめぐる問題① 岡野浩
- 第29回 「あるべき社会」の姿とは(3) 社会正義の実現と個人の自由をめぐる問題② 岡野浩
- 第30回 理解度の確認

#### 授業計画コメント

今日の日本の福祉の実態(制度や活動)と課題を、具体的な問題や現場に密着しながら明らかにしてゆく。そのため、とくにホームレス支援、エイズ問題、老人介護、婦人保護についてはそれぞれソーシャルワーカーの方を講師に招いている。このことも本授業の特色である。また、テーマによっては講師によるフィールドワークも実施されるので、この機会を大いに活用して欲しい。

#### 授業方法

講義形式が基本となる。福祉の現場・第一線で活動する講師陣と接することのできる機会を最大限活かしてもらいたい。毎回、資料プリントが配布されるほか、パワーポイントやDVD等も使用される。

#### 使用言語

日本語

#### 準備学習(予習・復習)

テキスト『考える福祉』には、この授業の基本的なコンセプト、方向性、また内容等が分かりやすくまとめられているので、それらを理解した上で、各授業の該当箇所についても事前に目を通し、その概要を掴んで授業に臨むこと。

#### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                   |
|--------------------------|---------|----------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                      |
| 学年末試験(第2学期)              | 40 %    |                      |
| 中間テスト                    |         |                      |
| レポート                     | 40 %    |                      |
| 小テスト                     |         |                      |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | 毎回授業時にリアクションペーパーを提出。 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                      |

#### 成績評価コメント

第1学期レポート(夏休み明け提出)と学年末試験を総合して評価する。第2学期学年末試験:40%(2学期に講義を担当した講師が出題する課題の中から、各自一題を選んで論述してもらう。講義内容をしっかりと把握した上で、どこまで説得力のある議論ができるかが評価のポイントとなる。) レポート:40%(1学期授業の中から各自興味のあるテーマを選んで、レポートを作成してもらう。取り上げたテーマについて、単に一般的な知識をまとめるのではなく、各自がそれぞれの視点で、どこまで考え抜くことができたかが評価のポイントになる。毎回提出のリアクションペーパーでの意欲的な質問、意見は高く評価したい。:20%

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎年履修者が多いので、希望する学生には査読者がコメントを付けてレポートを返却している。

#### 教科書

考える福祉(改訂版),酒井 潔・岡野 浩 編,東洋館出版,改訂,2016

#### 参考文献コメント

参考文献については、テーマごとに講師が授業時に適宜紹介する。

#### 履修上の注意

j授業の概観、成績評価の仕方、履修上の注意等について説明するので、第一回目の授業には必ず出席すること。授業開始30分以降の遅刻は認めない。授業では私語は禁止。また、授業時間中のPCやスマートフォン等の使用は原則として認めない。

#### その他

【実務経験のある教員による授業科目】

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                                        |          |          |
|-------|--------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810704101                                             | 科目ナンバリング | 007D062  |
| 講義名   | ボランティア論                                                |          |          |
| 英文科目名 | Theory of Volunteer Activities                         |          |          |
| 担当者名  | 長沼 豊・飯沼 慶一・伊藤 忠弘・久保田 福美・後藤 麻理子・妹尾 信孝・野呂 純一・眞嶋 史叙・元田 結花 |          |          |
| 単位    | 4                                                      | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 水曜日 2時限 中央－302                                      |          |          |

### 授業概要

ボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察することで、学生のボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機とすることを目的とする。トピックは以下の通りで、以下の担当者ごとに講義やワークショップ(参加・参画型授業)がなされる。

- ボランティアとは何か(長沼豊 教育学科教授)
- 国際開発協力論とボランティア(元田結花 政治学科教授)
- 心理学から見たボランティア(伊藤忠弘 心理学科教授)
- 福祉・人権とボランティア(妹尾信孝 日本福祉教育研究所所長)
- ボランティアコーディネーション(後藤麻理子 JVCA事務局長)
- 経済活動とボランティア(野呂純一 経済経営研究所客員所員)
- 環境とボランティア(飯沼慶一 教育学科教授)
- 学校教育とボランティア(久保田福美 教育学科専任講師)
- 国際協力とボランティア(眞嶋史叙 経済学科教授)

### 到達目標

学生がボランティアに対する理解を深め、その多様性を知ることができる。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                                        |
|------|-------------------------------------------|
| 第1回  | 4月8日 全体ガイダンス (長沼)                         |
| 第2回  | 4月15日 色々なボランティア (長沼)                      |
| 第3回  | 4月22日 ボランティア概論 (後藤)                       |
| 第4回  | 4月29日 ボランティアの社会的意義 (長沼)                   |
| 第5回  | 5月6日 ボランティアと生き方 (長沼)                      |
| 第6回  | 5月13日 国際開発協力とボランティア① (ガバナンス論と市民社会支援) (元田) |
| 第7回  | 5月20日 国際開発協力とボランティア② (市民社会支援の実態) (元田)     |
| 第8回  | 5月27日 向社会的行動の心理学 (伊藤)                     |
| 第9回  | 6月3日 人はなぜボランティアをするのか? (伊藤)                |
| 第10回 | 6月10日 社会的関係性のなかのボランティア (伊藤)               |
| 第11回 | 6月17日 私とボランティア ～体験を通して～ (妹尾)              |
| 第12回 | 6月24日 生活に生かすボランティア ～人をつなぎ、心をつなぐもの～ (妹尾)   |
| 第13回 | 7月1日 福祉教育とボランティア ～生きる姿勢や心のあり方を考える～ (妹尾)   |
| 第14回 | 7月8日 ボランティア学習 (長沼)                        |
| 第15回 | 前期のまとめ                                    |
| 第16回 | 9月16日 ボランティアコーディネーションとは (後藤)              |
| 第17回 | 9月23日 コーディネーターの役割 (後藤)                    |
| 第18回 | 9月30日 コーディネーターの資質向上を目指して (後藤)             |
| 第19回 | 10月7日 「ボランティア」と「報酬」の関係について考える (野呂)        |
| 第20回 | 10月14日 「非営利組織」と「ボランティア」の関係について考える (野呂)    |
| 第21回 | 10月21日 「企業」と「ボランティア」の関係について考える (野呂)       |
| 第22回 | 10月28日 動物園のボランティア (飯沼)                    |
| 第23回 | 11月11日 自然環境とボランティア (飯沼)                   |
| 第24回 | 11月18日 学校教育とボランティア① (児童生徒のボランティア学習) (久保田) |
| 第25回 | 11月25日 学校教育とボランティア② (学校支援ボランティア) (久保田)    |
| 第26回 | 12月2日 国際協力とボランティア① (地域コミュニティ支援ボランティア (眞嶋) |
| 第27回 | 12月9日 国際協力とボランティア② (地球環境を守る植林ボランティア (眞嶋)  |
| 第28回 | 12月16日 ボランティアの負の側面 (長沼)                   |
| 第29回 | 12月23日 全体まとめ (長沼)                         |
| 第30回 | 総括                                        |

**授業方法**

講義、ワークショップ、討論、ビデオ視聴など多様。アクティブラーニングも取り入れる。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

分野ごと(それぞれの講師担当)の内容について、学習した知見を整理しておくこと(各回2時間)(レポートを課す場合がある)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 60 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 10 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

総合的に評価する。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

最終の授業で行う。

**参考文献**

実践に役立つボランティア学習の基礎理論,長沼豊,大学図書出版,2010

**参考文献コメント**

各講師が授業時に指示する。

**履修上の注意**

長沼の担当回は以下に留意すること。

1. 環境への配慮から紙資料の配付を自粛する。授業資料は授業前にGポートから履修者にPDFファイルを配信する。履修者は各自でダウンロードし、授業には当該ファイルを閲覧できるスマートフォン、タブレット端末、ノートPC等を持参するか、印刷したものを持参すること。
2. 授業中にWEBサイトを見てもらうことがあるため、QRコードを読みとることが出来る情報端末(スマートフォン等)を持参すること。

**その他**

【実務経験のある教員による授業科目】

ボランティア活動、NPO活動等の経験のある担当教員が、実践に即した具体的な内容を解説する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810705201          | 科目ナンバリング | 007D071  |
| 講義名   | ジェンダーと文化1A          |          |          |
| 英文科目名 | Gender and Culture1 |          |          |
| 担当者名  | 竹崎 一真               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 月曜日 4時限 西5－202 |          |          |

**授業概要**

この講義では、ジェンダー（男らしさ／女らしさ）やセクシュアリティ(性的指向)といった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを考えていく。その際、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種などの身近な身体文化を題材にする。身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶことも、この講義のテーマである。

**到達目標**

ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにする。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                                   |
|------|------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス                                              |
| 第2回  | ジェンダーとは何か① 女性学の展開                                    |
| 第3回  | ジェンダーとは何か② 男性学の展開                                    |
| 第4回  | セクシュアリティとは何か 異性愛とLGBT                                |
| 第5回  | ジェンダー化する身体① 男になる／女になる                                |
| 第6回  | ジェンダー化する身体② ドキュメンタリー鑑賞『ハイヒール革命！』                     |
| 第7回  | スポーツとジェンダー① 男らしさを生み出す装置                              |
| 第8回  | スポーツとジェンダー② 眼差される女性身体                                |
| 第9回  | 男性身体の理想 日米における男性身体の理想の変遷                             |
| 第10回 | 女性身体の理想 美に生きる／病と生きる                                  |
| 第11回 | 日本文化におけるセクシュアルマイノリティの表象                              |
| 第12回 | 戦後日本と専業主婦                                            |
| 第13回 | 性と愛を勝ち取る ドキュメンタリー鑑賞『ジェンダー・マリアーヂュ』                    |
| 第14回 | 性的マイノリティの戦後史 ドキュメンタリー鑑賞『Love 1948－2018～多様な性をめぐる戦後史～』 |
| 第15回 | まとめ                                                  |

**授業方法**

講義形式

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

日々の生活からジェンダーやセクシュアリティに関するニュースなどに注目すること。  
 その他は授業中に指示する。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 100%    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

成績はレポートにて評価しますが、全授業の2／3以上の出席がなければ評価対象外とします。  
 また＋αの評価として、毎回のコミュニケーションペーパーの内容に応じて1点ずつ加点します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎授業前後で対応します。

**教科書コメント**

特にはありません。

**参考文献コメント**

各授業の参考図書は、授業内で説明します。

### **履修上の注意**

履修制限あり(240名・先着順)

定員を超えることが予想されます。初回授業に先着順で履修優先券を配布しますので、履修希望の方は早めに教室に来ること。

代理出席は認めません。必ず本人が出席してください。

ジェンダーと文化1Aおよびジェンダーと文化1Bは同一授業です。どちらか一方しか履修できません。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810705202          | 科目ナンバリング | 007D071  |
| 講義名   | ジェンダーと文化1B          |          |          |
| 英文科目名 | Gender and Culture1 |          |          |
| 担当者名  | 竹崎 一真               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 水曜日 4時限 西2－201 |          |          |

授業概要

この講義では、ジェンダー（男らしさ／女らしさ）やセクシュアリティ(性的指向)といった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを考えていく。その際、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種などの身近な身体文化を題材にする。身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶことも、この講義のテーマである。

到達目標

ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにする。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                   |
|------|------------------------------------------------------|
| 第1回  |                                                      |
| 第2回  | ジェンダーとは何か① 女性学の展開                                    |
| 第3回  | ジェンダーとは何か② 男性学の展開                                    |
| 第4回  | セクシュアリティとは何か 異性愛とLGBT                                |
| 第5回  | ジェンダー化する身体① 男になる／女になる                                |
| 第6回  | ジェンダー化する身体② ドキュメンタリー鑑賞『ハイヒール革命！』                     |
| 第7回  | スポーツとジェンダー① 男らしさを生み出す装置                              |
| 第8回  | スポーツとジェンダー② 眼差される女性身体                                |
| 第9回  | 男性身体の理想 日米における男性身体の理想の変遷                             |
| 第10回 | 女性身体の理想 美と生きる性                                       |
| 第11回 | 日本文化におけるセクシュアルマイノリティの表象                              |
| 第12回 | 戦後日本と専業主婦                                            |
| 第13回 | 性と愛を勝ち取る ドキュメンタリー鑑賞『ジェンダー・マリアージュ』                    |
| 第14回 | 性的マイノリティの戦後史 ドキュメンタリー鑑賞『Love 1948－2018～多様な性をめぐる戦後史～』 |
| 第15回 | まとめ                                                  |

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

日々の生活からジェンダーやセクシュアリティに関するニュースなどに注目すること。  
 その他は授業中に指示する。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 100%    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

成績はレポートにて評価しますが、全授業の2／3以上の出席がなければ評価対象外とします。  
 また＋αの評価として、毎回のコミュニケーションペーパーの内容に応じて1点ずつ加点します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業前後で対応します。

教科書コメント

特にはありません。

参考文献コメント

各授業の参考図書は、授業内で説明します。

### **履修上の注意**

履修制限あり(240名・先着順)

定員を超えることが予想されます。初回授業に先着順で履修優先券を配布しますので、履修希望の方は早めに教室に来ること。

代理出席は認めません。必ず本人が出席してください。

ジェンダーと文化1Aおよびジェンダーと文化1Bは同一授業です。どちらか一方しか履修できません。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810705301          | 科目ナンバリング | 007D072  |
| 講義名   | ジェンダーと文化2A          |          |          |
| 英文科目名 | Gender and Culture2 |          |          |
| 担当者名  | 竹崎 一真               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 月曜日 4時限 西5－202 |          |          |

**授業概要**

この講義では、ジェンダー(男らしさ／女らしさ)やセクシュアリティ(性的指向)といった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを考えていく。その際、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種などの身近な身体文化を題材にする。身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶことも、この講義のテーマである。

**到達目標**

ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにする。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                     |
|------|------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス                |
| 第2回  | ジェンダー／セクシュアリティを研究すること  |
| 第3回  | ジェンダー研究とその理論           |
| 第4回  | セクシュアリティ研究とその理論        |
| 第5回  | 「女子力」とは何か？             |
| 第6回  | 多様化する男性性               |
| 第7回  | ドキュメンタリー鑑賞『ゲーム・フェイス』   |
| 第8回  | 日本の保守論壇にみるLGBTの現在①     |
| 第9回  | 日本の保守論壇にみるLGBTの現在②     |
| 第10回 | 外部講師によるLGBTに関する講演(予定)  |
| 第11回 | 生殖補助医療とジェンダー           |
| 第12回 | ドキュメンタリー鑑賞『オーダーメイドベビー』 |
| 第13回 | 現代少女と売買春               |
| 第14回 | 日本の性教育とその問題            |
| 第15回 | まとめ                    |

**授業方法**

講義形式

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

日々の生活からジェンダーやセクシュアリティに関するニュースなどに注目すること。  
 その他は授業中に指示する。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 100%    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

成績はレポートにて評価しますが、全授業の2／3以上の出席がなければ評価対象外とします。  
 また＋αの評価として、毎回のコミュニケーションペーパーの内容に応じて1点ずつ加点します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎授業前後で対応します。

**教科書コメント**

特にはありません。

**参考文献コメント**

各授業の参考図書は、授業内で説明します。

### **履修上の注意**

履修制限あり(240名・先着順)

定員を超えることが予想されます。初回授業に先着順で履修優先券を配布しますので、履修希望の方は早めに教室に来ること。

代理出席は認めません。必ず本人が出席してください。

ジェンダーと文化2Aおよびジェンダーと文化2Bは同一授業です。どちらか一方しか履修できません。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810705302          | 科目ナンバリング | 007D072  |
| 講義名   | ジェンダーと文化2B          |          |          |
| 英文科目名 | Gender and Culture2 |          |          |
| 担当者名  | 竹崎 一真               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 水曜日 4時限 西2－201 |          |          |

**授業概要**

この講義では、ジェンダー（男らしさ／女らしさ）やセクシュアリティ(性的指向)といった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを考えていく。その際、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種などの身近な身体文化を題材にする。身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶことも、この講義のテーマである。

**到達目標**

ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにする。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                     |
|------|------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス                |
| 第2回  | ジェンダー／セクシュアリティを研究すること  |
| 第3回  | ジェンダー研究とその理論           |
| 第4回  | セクシュアリティ研究とその理論        |
| 第5回  | 「女子力」とは何か？             |
| 第6回  | 多様化する男性性               |
| 第7回  | ドキュメンタリー鑑賞『ゲーム・フェイス』   |
| 第8回  | 日本の保守論壇にみるLGBTの現在①     |
| 第9回  | 日本の保守論壇にみるLGBTの現在②     |
| 第10回 | 外部講師によるLGBTに関する講演（予定）  |
| 第11回 | 殖補助医療とジェンダー            |
| 第12回 | ドキュメンタリー鑑賞『オーダーメイドベビー』 |
| 第13回 | 現代少女と売買春               |
| 第14回 | 日本の性教育とその問題            |
| 第15回 | まとめ                    |

**授業方法**

講義形式

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

日々の生活からジェンダーやセクシュアリティに関するニュースなどに注目すること。  
 その他は授業中に指示する。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 100%    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

成績はレポートにて評価しますが、全授業の2／3以上の出席がなければ評価対象外とします。  
 また＋αの評価として、毎回のコミュニケーションペーパーの内容に応じて1点ずつ加点します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎授業前後で対応します。

**教科書コメント**

特にはありません。

**参考文献コメント**

各授業の参考図書は、授業内で説明します。

### **履修上の注意**

履修制限あり(240名・先着順)

定員を超えることが予想されます。初回授業に先着順で履修優先券を配布しますので、履修希望の方は早めに教室に来ること。

代理出席は認めません。必ず本人が出席してください。

ジェンダーと文化2Aおよびジェンダーと文化2Bは同一授業です。どちらか一方しか履修できません。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                                                                                        |          |          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810706101                                                                                                             | 科目ナンバリング | 007D031  |
| 講義名   | 記録保存と現代                                                                                                                |          |          |
| 副題    | アーカイブズ論への招待                                                                                                            |          |          |
| 英文科目名 | Record Keeping and Modern Society                                                                                      |          |          |
| 担当者名  | 保坂 裕興.青木 直己.青木 睦.青木 祐一.青島 顕.太田 富康.加藤 聖文.亀長 洋子.菊谷 英司.久保田 裕次.桑尾 光太郎.児玉 優子.坂口 貴弘.下重 直樹.高木 秀彰.高松 洋一.武内 房司.富善 一敏.森本 祥子.湯上 良 |          |          |
| 単位    | 4                                                                                                                      | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 4時限 中央－405                                                                                                      |          |          |

授業概要

2011年の東日本大震災では、津波によって市町村の行政文書や企業・団体・個人の文書・写真など、貴重な記録が大きな被害を受け、改めて記録の大切さが認識されました。また近年、ずさんな記録管理が市民の権利や健康、時には生命さえも脅かしている現状が各方面で次々と明るみに出ました。宙に浮いた5000万件の年金記録問題、薬害C型肝炎記録のずさんな管理、老舗食品メーカーの賞味期限改ざんと記録廃棄、築地市場の豊洲移転問題における文書の不存在、“モリ・カケ・サクラ”で知られた政府の不適切な公文書管理などです。また、2014年暮れに施行された「特定秘密保護法」をめぐるのは、国が保有する記録に対する国民のアクセス権をどう保障するのかについて深刻な議論が巻き起こりました。「記録」や「文書」は歴史の重要な史料であり、記憶を未来に伝えるための大切な証拠であることは言うまでもありません。しかし同時に、「記録」や「文書」は、現代に生きる私たちの人権や生命を守るための、また民主的で平和な社会を作るためのかけがえのない情報資源でもあることが、日本の貧しい「記録保存」問題から逆によくわかるのではないのでしょうか。最近「アーカイブズ」という言葉をよく聞くようになりました。実はこの「アーカイブズ」こそ、歴史資料として重要な、かつ人権を守り民主社会を支える情報資源としても不可欠な「記録」のこと、あるいは、そのための「記録保存システム」のことなのです。いま日本では、このような考え方にもとづいて、あらゆる方面でアーカイブズの構築が始まっています。自治体や企業・大学・団体、あるいは理系・文系・芸術系など、分野を問わずアーカイブズは現代社会に不可欠な記憶装置として重要視されつつあります。その動向を反映して、2008年、本学に日本初の大学院教育課程「アーカイブズ学専攻」が生まれました。この授業では、「アーカイブズ学専攻」の教員に加えて、アーカイブズの世界で活躍している専門家を多数お招きし、世界と日本のアーカイブズの歴史と現状を学びます。多様な講義を楽しみながら、「記録保存」が現代社会に持つ意義と一緒に考えたいと思います。なお本授業の姉妹編として、基礎教養科目「記録管理と組織－レコード・マネジメント－への招待」が開講されています。記録管理をめぐる民主的・文化的社会の常識を身につける授業であり、両方を受講するといっそう学習効果が上がります。

到達目標

洋の東西、過去と現代を問わず、「記録」が人間活動の土台を支える基礎的なツールであることを理解し、これを永続的な情報資源＝すなわち「アーカイブズ」として保存・活用することが、平和で豊かな人間社会を発展させるために不可欠であることを理解する。

授業内容

| 実施回  | 内容                                         |
|------|--------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション(保坂):講義の目的と内容、参考文献、基本用語解説など       |
| 第2回  | 現代社会とアーカイブズ:総論(保坂)                         |
| 第3回  | アーカイブズの歴史(1)(保坂):古代世界のアーカイブズ(ヨーロッパ～中東～アジア) |
| 第4回  | アーカイブズの歴史(2):ヨーロッパにおけるアーカイブズの発展            |
| 第5回  | アーカイブズの歴史(3):日本古代・中世のアーカイブズ                |
| 第6回  | アーカイブズの歴史(4):日本近世のアーカイブズ(1)                |
| 第7回  | アーカイブズの歴史(5):日本近世のアーカイブズ(2)                |
| 第8回  | アーカイブズの歴史(6):日本近代のアーカイブズ                   |
| 第9回  | アーカイブズの歴史(7):戦争・植民地支配とアーカイブズ               |
| 第10回 | アーカイブズの歴史(8):戦後日本のアーカイブズ運動                 |
| 第11回 | 現代のアーカイブズ(1):現代アーカイブズ概論                    |
| 第12回 | 現代のアーカイブズ(2):世界のアーカイブズ                     |
| 第13回 | 現代のアーカイブズ(3):世界のアーカイブズ                     |
| 第14回 | 現代のアーカイブズ(4):世界のアーカイブズ(オーストラリア)            |
| 第15回 | 予備日                                        |
| 第16回 | 現代のアーカイブズ(5):世界のアーカイブズ(中東)                 |
| 第17回 | 現代のアーカイブズ(6):世界のアーカイブズ(北米)                 |
| 第18回 | 現代のアーカイブズ(7)世界のアーカイブズ(中国、東南アジア)            |
| 第19回 | 現代のアーカイブズ(8):日本の国立アーカイブズ                   |
| 第20回 | 現代のアーカイブズ(9):日本の地方自治体アーカイブズ                |
| 第21回 | 現代のアーカイブズ(10):日本の企業アーカイブズ                  |
| 第22回 | 現代のアーカイブズ(11):日本の大学アーカイブズ                  |
| 第23回 | 現代のアーカイブズ(12):日本の自然科学アーカイブズ                |
| 第24回 | 現代のアーカイブズ(13):日本の音声・映像アーカイブズ               |
| 第25回 | 予備日                                        |
| 第26回 | 現代のアーカイブズ(14):ジャーナリズムとアーカイブズ               |

- 第27回 現代のアーカイブズ(15):アーカイブズの保存(1)
- 第28回 現代のアーカイブズ(16):アーカイブズの保存(2)
- 第29回 現代のアーカイブズ(17)(保坂):アーキビスト(アーカイブズ専門職員)の教育と養成
- 第30回 1年間の総括(試験)

#### 授業計画コメント

授業の順番は、講師の都合により変更になる場合がある。

#### 授業方法

講義を中心とし、パワーポイント等を用いたプレゼンテーション、配付資料などにより進行します。講師によっては、講義終了前に講義についての意見や感想を書いてもらうことがあります。

#### 使用言語

日本語

#### 準備学習(予習・復習)

教科書、参考書として掲げた文献のうち関係部分を読んでおくこと(約30分)。

#### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 80 %    |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

#### 成績評価コメント

毎回出席し、授業内容を理解するだけでなく、それぞれの立場から理解を深めることが大切である。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20%(感想・質問等を提出してもらうことがある。)第2学期(学年末試験):80%(授業内容の理解)

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時間を通して丁寧に説明していくこととする。

#### 教科書コメント

必要な資料を配付します。

#### 参考文献

- アーカイブズが社会を変える:平凡社新書,松岡資明,平凡社,2011
- アーカイブズの科学,国文学研究資料館史料館,柏書房,2003
- アーカイブズ論ー記録のちからと現代社会ー,スー・マケミッシュほか,明石書店,2019

#### その他

本授業は、【実務経験のある教員による授業科目】である。第14～18回の「世界のアーカイブズ」では当該国のアーカイブズ資料を実際に取り扱ってきたアーキビスト、また第19～28回までの「日本のアーカイブズ」では当該分野の最前線で専門家／アーキビストとして現場を率いてきた者が教鞭をとる。その現場におけるアーカイブズ資料又は特別な管理方法等が、写真・映像等を交えながら具体例に提示され、高い水準の実学教育となることが期待される。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                    |          |          |
|-------|------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810707101                         | 科目ナンバリング | 007D034  |
| 講義名   | 記録管理と組織                            |          |          |
| 英文科目名 | Record Management and Organization |          |          |
| 担当者名  | 下重 直樹.佐藤 勝巳.松崎 裕子.宮間 純一            |          |          |
| 単位    | 2                                  | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 金曜日 3時限 中央－403                |          |          |

授業概要

基礎教養科目「記録保存と現代」の姉妹編として2011年度から始まった授業である。  
2011年の東日本大震災では、津波によって市町村の公文書や企業・団体・個人の文書・写真など、かけがえのない記録が大きな被害を受け、改めてその大切さが認識された。さらに昨今の政府の意思決定や企業経営をめぐる続発する不祥事に見られるように、これまで杜撰であった日本の記録管理に対する社会の問題意識は高まりつつある。国、地方公共団体、大学法人、あるいは学生サークルのような任意団体であっても、およそ組織であるからには情報と記録なしには持続的な活動は成り立たず、適切な記録管理(レコードマネジメント)は組織運営の要となる。  
この授業では、受講者の多くが将来勤めることになるであろう企業や行政機関で、情報や記録がいかに重要な役割を果たしているかを学び、適切な記録管理とはどういうものかを、歴史を踏まえながら考える。  
授業は3部に分かれ、現場経験豊かな3人の実務家出身の講師によって行われる。第1部は「記録管理の歴史と現在」で中央大学文学部准教授の宮間純一講師、第2部は「現代の行政と記録管理」で同じく戸田市アーカイブズ・センター元専門員の佐藤勝巳講師、第3部は「現代の企業と記録管理」で、渋沢栄一記念財団実業史研究情報センターの松崎裕子講師が担当する。コーディネーターは、本学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻の下重准教授が務める。  
なお、本授業と合わせて「記録保存と現代」を履修することを推奨する。

到達目標

あらゆる組織にとって、知的資源としての記録の作成取得、整理、保存、活用がその組織運営と活動の発展の基盤となることを理解し、記録管理の歴史と現状についての基礎的知識を習得するとともに、今後の課題と解決の糸口を考察する知的態度を身につけることを目標とする。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                                                                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション(下重直樹)講義の目的と内容、講師の紹介、参考文献の紹介、基本用語解説など                                                                                                    |
| 第2回  | 記録管理の歴史と現在(1)(宮間純一)(前近代の記録管理)前近代の組織と記録管理のシステムを江戸時代を中心に概観する。                                                                                       |
| 第3回  | 記録管理の歴史と現在(2)(宮間純一)(近代国家の成立・展開と記録管理)明治維新を経て日本における記録管理のあり方は大きく変わった。政府の記録管理を中心にその変遷を学ぶ。                                                             |
| 第4回  | 記録管理の歴史と現在(3)(宮間純一)(戦争と記録管理・史料保存運動)戦争は、記録管理にも大きな影響を及ぼした。戦中、戦後の動向を学習する。                                                                            |
| 第5回  | 記録管理の歴史と現在(4)(宮間純一)(戦後から現在まで)現在、記録管理は行政/歴史研究者のためのものではなくなった。新しい専門領域の成立史とともにその歩みを検討する。                                                              |
| 第6回  | 現代の行政と記録管理(1)(佐藤勝巳)国や地方公共団体における記録管理について、その原理・原則を俯瞰して考えます。「公文書」とは何か、その目的は何なのか、基本的な役割を学ぶ。                                                           |
| 第7回  | 現代の行政と記録管理(2)(佐藤勝巳)記録管理を業務の執行という面から考え、公文書のライフサイクルを踏まえて、公文書の持つ「情報」という側面や、「記録」という側面について評価・選別を通して学ぶ。                                                 |
| 第8回  | 現代の行政と記録管理(3)(佐藤勝巳)行政が、持続可能な「組織」となるための記録管理はどうあるべきなのか、法的な側面から考える。併せて公開、利用について「公文書管理法」、「情報公開法」そして「公文書館法」などの法律や各自治体の条例などから学ぶ。                        |
| 第9回  | 現代の行政と記録管理(4)(佐藤勝巳)これからの行政組織のあり方を考えながら、新しい形での記録、電子記録について学び、電子記録としての公文書をどう考えるか、具体的な業務執行の流れの中で考える。                                                  |
| 第10回 | 現代の企業と記録管理(1)(松崎裕子)現代の企業と記録管理(1)(松崎裕子)組織活動の証拠としての記録の保存の目的(業務利用、アカウントビリティ支援、文化利用)について、複式簿記の発明や株式会社の発展といった企業活動の歴史を通じて学ぶ。                            |
| 第11回 | 現代の企業と記録管理(2)(松崎裕子)デジタル時代における品質マネジメントと記録管理の関係とその重要性を、ISOやJISなど産業規格・標準の中の「文書」「記録」の語彙、組織の社会的責任(SR)に関する国際標準ISO26000、国連の持続可能な開発目標(SDGs)といった例を通じて理解する。 |
| 第12回 | 現代の企業と記録管理(3)(松崎裕子)記録管理に関わる国際標準ISO15489、記録が有効であるための要件、記録の保存と利用にとって不可欠な記録の「コンテキスト」とメタデータの概要について学ぶ。                                                 |
| 第13回 | 現代の企業と記録管理(4)(松崎裕子)生活と仕事の中で作成される記録とそのメタデータについて、受講者の実際の活動(部活、サークル活動、アルバイト、ボランティアなど)を例としてグループワークを通じて理解する。                                           |
| 第14回 | 総括                                                                                                                                                |
| 第15回 | 自主研究                                                                                                                                              |

授業計画コメント

第10回～第13回の授業についてはスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットに接続できるデジタル端末を必ず持参すること。

授業方法

講師が作成した教材(資料)を配布し、講義形式で授業を進める。プロジェクターを使用することがある。

使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に参考文献のうち2～3冊以上に目を通しておくことが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                         |
|--------------------------|---------|----------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                            |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    | 基礎的知識を踏まえた課題に対する思考能力を重視する。 |
| 中間テスト                    |         |                            |
| レポート                     |         |                            |
| 小テスト                     |         |                            |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | 感想や質問を提出してもらうことがある。        |
| その他(備考欄を参照)              |         |                            |

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の授業で提出のあった感想や質問について後日授業で取り上げることがある。

### 参考文献

レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための,エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー著、森本祥子ほか編訳,日外アソシエーツ,2016

今、なぜ記録管理なのか＝記録管理のパラダイムシフト,小谷允志,日外アソシエーツ,2008

文書と記録のはざまで:最良の文書・記録管理を求めて,小谷允志,日外アソシエーツ,2013

企業アーカイブズの理論と実践,企業史料協議会編,丸善プラネット,2013

株式会社,ジョン・ミクルスウェイト,エイドリアン・ウールドリッジ,ランダムハウス講談社,2006

### 参考文献コメント

このほか、参考文献については適宜授業で指示する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

【実務経験のある教員による授業科目】 講師及びコーディネーターはいずれも官民のアーカイブズ機関の運営に携わった経験を持ち、基礎的な理論や知識が現場においてどのように実践されているかを踏まえた授業を行うこととしている。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                       |          |          |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810708101            | 科目ナンバリング | 007D032  |
| 講義名   | 生活と法                  |          |          |
| 副題    | 社会生活・個人生活と刑事法         |          |          |
| 英文科目名 | Everyday Life and Law |          |          |
| 担当者名  | 岩下 雅充                 |          |          |
| 単位    | 2                     | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 2時限 中央－405   |          |          |

**授業概要**

専門家でない市民が法(法律)に深く関与する場面は、現代社会において増している。犯罪と刑罰に関する法(法律)すなわち刑事法においては、いわゆる裁判員制度が代表例であろう。

また、裁判員裁判で被告人を裁くことやえん罪の事件に巻き込まれるようなことには偶々ならなかったとしても、たとえば非法のギャンブルや規制薬物・指定薬物の入手・使用といった問題について、多かれ少なかれ日常生活と刑事法との関わりを感じさせられる場面は、決して少なくないはずである。さらに、たとえば道路交通に関する法の制度・運用のように、目に見えるかたちであれ見えないかたちであれ、刑事法が他の法(法律)と相まって有害な結果や反社会的な行為を防止するために絶えず日常生活に介入しているという現実、わたしたちの周辺に数限りなく存在する。

以上のように、刑事法は、特定の場面に限らずに、わたしたちの社会生活・個人生活においても、不断にはたらいっている。また、これら刑事法の中には、変化のめまぐるしい現代社会においてあらたに形成されたものが多くあるのと同時に、直面する問題の解決や社会の発展に十分に役立っていないものもある。

この講義では、刑事法に関する基本のことがらを概観したうえで、現代社会において刑事法はどのようにあるべきなのかという問題意識のもとに、わたしたちの社会生活・個人生活と刑事法に関する各種のテーマをとり上げて具体的に解説・検討する。

**到達目標**

刑事法に関する基本の知識を確実に習得したうえで、社会生活・個人生活におけるさまざまな場面と刑事法との密接なかかわりを理解して、刑事法の意義やそのはたらき、あるいはそれらの限界を自分なりに説明できるようになる。さらに、とり上げたテーマに関連する知識をもとに、刑事法におけるものとのとらえ方や議論の仕方を学ぶことによって、現代社会にふさわしい法(法律)のあり方に関する自身の意見・態度が形成できるようになる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                               |
|------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | はじめに：市民と法(法律)／民事法・行政法・刑事法といった法(法律)の領域／民事裁判と刑事裁判  |
| 第2回  | 犯罪と刑罰：日本における犯罪の情勢／犯罪と刑罰を定めた法(法律)                 |
| 第3回  | 刑事裁判の制度：刑事裁判の歴史／刑事手続のながれと刑事手続に関する法(法律)／現代社会と刑事裁判 |
| 第4回  | 刑事裁判における市民の参加(1)：裁判員制度の概観                        |
| 第5回  | 刑事裁判における市民の参加(2)：裁判員裁判をめぐる課題                     |
| 第6回  | 正しい刑事裁判の実現(1)：えん罪の事例／えん罪の原因                      |
| 第7回  | 正しい刑事裁判の実現(2)：えん罪の防止に向けた対策                       |
| 第8回  | 犯罪者の処遇：再犯の防止と社会復帰に向けた取り組み                        |
| 第9回  | 医療と刑事法(1)：生命の始期・終期と刑事法                           |
| 第10回 | 医療と刑事法(2)：医療事故に対する刑事責任の追及                        |
| 第11回 | 子どもの逸脱行動と刑事法：少年非行の情勢と少年法の概要／少年事件の手続と非行少年の処遇      |
| 第12回 | 家族と刑事法：児童虐待やDV(ドメスティック・バイオレンス)といった家族間暴力の問題など     |
| 第13回 | さまざまな場面ではたらく刑事法(1)：道路交通と刑事法／ストーカーと刑事法 など         |
| 第14回 | さまざまな場面ではたらく刑事法(2)：規制薬物・指定薬物と刑事法／国境を越える犯罪と刑事法 など |
| 第15回 | まとめ                                              |

**授業計画コメント**

受講者の興味・関心に応じて、計画されている内容の一部を変更することがある。

**授業方法**

授業は、原則として講義の形式ですすめられる。レジュメや資料を配布して講義する。また、必要に応じて、PowerPointや視聴覚教材も使用する予定である。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業で配布されたレジュメや資料は、そのつどの指示にしたがって、事前に読んでおくこと。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目 | 評価配分(%) | 備考 |
|------|---------|----|
|------|---------|----|

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 75 %    |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     |         |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 25 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

#### 成績評価コメント

評価の方法や評価のポイントなどの詳細については、第1回の授業で具体的に説明する。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者が授業の時間に記載して提出したコメントペーパーに関しては、そのつどの講義の折に、寄せられた有意義な見解・疑問などをとり上げて、解説や意見を加える。また、期末試験については、出題の趣旨などを盛り込んだ簡単な説明が示される予定である。

#### 教科書コメント

教科書は指定しない。

#### 参考文献コメント

第1回の授業で参考文献を紹介する。

#### その他

難解さを極力避けた講義の実施につとめているとはいえ、しばしば法律学に固有の考え方を扱うことになるため、聴講する側には、適確に習得した知識をもとに多面的に評価・検討するという知的作業が求められる。そして、期末試験では、この知的作業の能力を試すような問題が出されるため、毎回の授業に出席して習熟することが必要となる。

また、配布される資料の大半は文章を中心としたものであるため、その内容を十分に把握するためには、ある程度の長文の読解力が要求される。

もっとも、刑事法にからんだ各種の問題に対する積極的な関心と、問題の解決に向けた刑事法のあるべき姿について考えたいという意欲があれば、受講の前提条件としては十分である。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810709101          | 科目ナンバリング | 007D039  |
| 講義名   | アジアを学ぶ              |          |          |
| 副題    | 東アジア研究と学習院          |          |          |
| 英文科目名 | Studies of Asia     |          |          |
| 担当者名  | 植田 喜兵成智・鈴木 舞        |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 水曜日 4時限 南1－201 |          |          |

**授業概要**

「アジアに関する研究」と聞いて、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか？東洋文化研究所は60年以上にわたる歴史をもち、東アジアを対象に、歴史・政治・経済・哲学・教育・言語学など様々な分野の研究を継続してきました。また、中国の古典籍にあたる漢籍、植民地朝鮮の記録・文書・地図類など多様な形態の文献資料の集積・研究が進められています。そこでこの授業では、実際に研究所が所蔵している資料を紹介しながら、これまで研究所で行われてきた最先端の研究成果を分かりやすく解説していきます。高校までの授業で教えられる内容は、広大な学問世界の一部にすぎません。学習院で行われている最新のアジア研究を通じて、見たことのないアジアの一面に触れてみませんか？

**到達目標**

この授業を履修することによって、学習院の歩みと東アジアとの関わりについて知ることができるとともに、学習院にどのような資料が所蔵されているかを理解し、それを活用して調査研究を進める能力を獲得することができる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                         |
|------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス:植田喜兵成智(東洋文化研究所助教)                    |
| 第2回  | 戦前の学習院とアジア研究:鈴木舞(東洋文化研究所助教)                |
| 第3回  | 戦後の学習院とアジア研究:植田                            |
| 第4回  | 中国研究の基礎知識:鈴木                               |
| 第5回  | 東洋文化研究所の中国コレクション1(漢籍):鈴木                   |
| 第6回  | 東洋文化研究所の中国コレクション2(近代中国関係資料):鈴木             |
| 第7回  | 東洋文化研究所の中国研究について:鈴木                        |
| 第8回  | 朝鮮研究の基礎知識:植田                               |
| 第9回  | 東洋文化研究所の朝鮮コレクション1(広開土王碑拓本):植田              |
| 第10回 | 東洋文化研究所の朝鮮コレクション2(新羅村落文書・『三国史記』・『三国遺事』):植田 |
| 第11回 | 東洋文化研究所の朝鮮研究について(友邦文庫・録音記録):植田             |
| 第12回 | 資料の検索方法と調査の進め方:植田                          |
| 第13回 | 東洋文化研究所資料調査実習:植田・鈴木                        |
| 第14回 | その他のアジア地域についての研究:鈴木                        |
| 第15回 | 理解度確認:植田                                   |

**授業方法**

講義形式。毎回、授業に関する理解度を確認するリアクションペーパーを提出してもらう。また小課題を、中国分野、朝鮮分野終了後にそれぞれ課す(第7回、第11回)。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

講義において配布したプリントや提示した参考文献に目を通し、復習すること。1時間程度の時間を要する。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              | 60 %    |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     |         |                |
| 小テスト                     | 20 %    | 小課題(2回)        |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | リアクションペーパー(各回) |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

リアクションペーパーに寄せられた質問は、次の講義の時に回答します。

**参考文献**

知識は東アジアの海を渡った: 学習院大学コレクションの世界,学習院大学東洋文化研究所,丸善プラネット,2010,9784863450370

### **履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### **その他**

質問などがある場合は東洋文化研究所事務室(北1号館4階)まで

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                           |          |          |
|-------|-----------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810712101                                                | 科目ナンバリング | 007D073  |
| 講義名   | 生命社会学                                                     |          |          |
| 副題    | スタンフォード型:文理連携講義で超高齢社会へチャレンジする                             |          |          |
| 英文科目名 | Human Life Sciences                                       |          |          |
| 担当者名  | 高島 明彦.阿形 清和.安達 卓.大泉 啓一郎.久保山 哲二.小島 和男.末廣 昭.高丸 功.菱田 卓.山本 政人 |          |          |
| 単位    | 2                                                         | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 集中(第1学期) その他 集中講義                                         |          |          |

授業概要

認知症、がん、老化、再生医療など様々な分野における生命科学研究の発展により、健康寿命が飛躍的に延伸する超高齢社会の実現可能性が高まっている。超高齢社会の到来は、人類にとって新たな発展を意味するが、同時に、様々な問題も生み出しうる。本講義では、生命社会科学の最先端の研究成果とこれをもたらす医療・介護分野の革新を紹介するとともに、超高齢社会がはらむ様々な課題を経済、社会、法、倫理などの面から多角的に考察し、文理連携による新たな「生命社会学」の可能性を展望する。

到達目標

生命科学研究の最先端の成果について理解を深めると共に、超高齢社会の到来がもたらす様々な課題を学ぶことを通じて、文理連携による新たな「生命社会学」アプローチを理解する。

授業内容

| 実施回  | 内容                      |
|------|-------------------------|
| 第1回  | 生命科学の発展と超高齢社会到来の可能性     |
| 第2回  | 生命科学の発展と生命倫理            |
| 第3回  | 脳内メカニズムの解明と認知症治療        |
| 第4回  | 成年後見制度を通じた高齢者支援         |
| 第5回  | 老化メカニズムの解明と長寿化          |
| 第6回  | 超高齢社会における個人の幸福          |
| 第7回  | スポーツ科学と健康寿命の延伸          |
| 第8回  | 再生メカニズムの解明と再生医療への応用可能性  |
| 第9回  | アジアの経済発展と人口問題(1)        |
| 第10回 | アジアの経済発展と人口問題(2)        |
| 第11回 | DNA損傷ストレスの解明とがん治療       |
| 第12回 | 医療分野におけるビッグデータの活用とリスク管理 |
| 第13回 | 超高齢社会における心理的苦悩とその意味     |
| 第14回 | 老化機構とアンチエイジング           |
| 第15回 | 超高齢社会を支える技術と倫理          |

授業計画コメント

学習院大学のブランドである文理連携の講義。日本における高齢社会問題は現在の若い世代につきつけられた大問題である。この大問題を今までと違う切り口で、文系・理系の教員・学生と一緒に学び・考える講義。オール学習院ともいべき講師陣を揃え、これからの高齢社会を、若い世代の未来へつなげるテーマとして取り組む。

授業方法

土曜に2コマの集中講義形式で7回行う予定(日程の詳細は後日にアナウンス)。ワンキャンパスの学習院大学だから提供できる文理連携のユニークな講義。高齢社会の諸問題について文系と理系の教員1名ずつから異なる視点でのレクチャーしてもらい、その時のテーマに応じた議論を受講生を含む参加者と一緒に行うという新たな授業形態。議論の焦点がズレないように、進行役のオーガナイザーを置いて議論を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義ごとに関連した参考書・文献を紹介するので、それらを予習・復習の素材として活用してもらおう。また、紹介する参考書や文献に関して、貸出すことも予定している。

成績評価の方法・基準

| 評価項目 | 評価配分(%) | 備考 |
|------|---------|----|
|------|---------|----|

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

#### 成績評価コメント

講義に出てディスカッションに参加することが一番の評価の対象となる。到達度の確認のためにレポートを提出してもらい、それらの内容を含んで総合的に評価を行う。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義ごとに関連した参考書・文献を紹介するので、それらを予習・復習の素材として活用してもらうとともに、積み残しの議論があった場合は、その次の講義時にオーガナイザーに伝えてもらう。

#### その他

新たな形式の講義へのチャレンジ。学生にも新たな講義の構築に積極的に参加してもらいたい。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800101                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法A                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 青木 祐子                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 2時限 西1－305           |          |          |

**授業概要**

大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけるために、実践的な場面を想定して、会話・電話・手紙・メールを用いた対外的コミュニケーションを学習する。  
留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。

**到達目標**

大学生生活と勉学における、コミュニケーションに関する基本的な表現を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。  
大学での文章作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                              |
| 第2回  | 目上の人にアポイントメントを取る（縦書きの手紙の形式）        |
| 第3回  | 個人・組織にメールを送る（メールの形式）               |
| 第4回  | 敬語を使ってメールを書く（敬語表現）                 |
| 第5回  | 公的機関等に電話をかける（電話のかけ方の基本）            |
| 第6回  | イベントで社会人と会話する（社会人との的確な応答）          |
| 第7回  | 頼みごとの目的をしっかりと伝える（横書きの手紙の形式）        |
| 第8回  | アポや申し込みのためのコンタクト（訪問のためのメールや電話）     |
| 第9回  | 業者とメールで相談する（内容を整理して要望を伝えるメール）      |
| 第10回 | 業者に条件を伝えて発注する（イメージを具体的に伝えるメール）     |
| 第11回 | 教育実習先へのコンタクト（打診と実習後の礼状）            |
| 第12回 | OB・OG訪問のためのコミュニケーション（コンタクトメール）     |
| 第13回 | 手紙で協力を依頼する（丁寧な横書きの手紙と礼状）           |
| 第14回 | インターンシップに挑戦する（挨拶メールと終了後のマナー）授業のまとめ |
| 第15回 | 到達度確認                              |

**授業計画コメント**

受講者の状況に応じて内容を変更する場合がある。

**授業方法**

授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。  
必要に応じてグループワークを行う。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

毎回授業後には復習し、再度作文演習をして理解を深めること。(約1時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考         |
|--------------------------|---------|------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |            |
| 学年末試験(第2学期)              |         |            |
| 中間テスト                    |         |            |
| レポート                     |         |            |
| 小テスト                     |         |            |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | 授業への取り組み姿勢 |
| その他(備考欄を参照)              | 80 %    | 毎週提出する授業課題 |

**成績評価コメント**

平常点:20%(3分の2以上の出席を前提とし、課題への積極的な取り組みを評価する。)  
授業課題:80%(作文および赤ペンによる自己添削を評価の対象とする。授業で学んだ点を理解しているか確認する。)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。

**教科書**

大学生のための実用日本語表現ドリル,真田治子・野原佳代子,三省堂,2019,9784385363226

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。希望者多数の場合、抽選を行う。

日本語表現法A(1学期)もしくは日本語表現法B(2学期)の履修を希望する者は、必ず日本語表現法A(1学期)の1回目の講義(ガイダンス)に出席すること。

### **その他**

教科書付属のドリルを使うので、第2回以降は毎回教科書を必ず持参すること。  
(第1回目は履修者抽選を行うため、第1回の授業時には必要ない。)

本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800102                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法B                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 青木 祐子                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 木曜日 2時限 西1－305           |          |          |

授業概要

大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけるために、実践的な場面を想定して、会話・電話・手紙・メールを用いた対外的コミュニケーションを学習する。  
留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。

到達目標

大学生活と勉学における、コミュニケーションに関する基本的な表現を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。  
大学での文章作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                                  |
|------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                               |
| 第2回  | 目上の人にアポイントメントを取る（縦書きの手紙の形式）         |
| 第3回  | 個人・組織にメールを送る（メールの形式）                |
| 第4回  | 敬語を使ってメールを書く（敬語表現）                  |
| 第5回  | 公的機関等に電話をかける（電話のかけ方の基本）             |
| 第6回  | イベントで社会人と会話する（社会人との的確な応答）           |
| 第7回  | 頼みごとの目的をしっかりと伝える（横書きの手紙の形式）         |
| 第8回  | アポや申し込みのためのコンタクト（訪問のためのメールや電話）      |
| 第9回  | 業者とメールで相談する（内容を整理して要望を伝えるメール）       |
| 第10回 | 業者に条件を伝えて発注する（イメージを具体的に伝えるメール）      |
| 第11回 | 教育実習先へのコンタクト（打診と実習後の礼状）             |
| 第12回 | OB・OG訪問のためのコミュニケーション（コンタクトメール）      |
| 第13回 | 手紙で協力を依頼する（丁寧な横書きの手紙と礼状）            |
| 第14回 | インターンシップに挑戦する（挨拶メールと終了後のマナー） 授業のまとめ |
| 第15回 | 到達度確認                               |

授業計画コメント

受講者の状況に応じて内容を変更する場合がある。

授業方法

授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。  
必要に応じてグループワークを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回授業後には復習し、再度作文演習をして理解を深めること。(約1時間)

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考         |
|--------------------------|---------|------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |            |
| 学年末試験(第2学期)              |         |            |
| 中間テスト                    |         |            |
| レポート                     |         |            |
| 小テスト                     |         |            |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    | 授業への取り組み姿勢 |
| その他(備考欄を参照)              | 80 %    | 毎週提出する授業課題 |

成績評価コメント

平常点:20%(3分の2以上の出席を前提とし、課題への積極的な取り組みを評価する。)  
授業課題:80%(作文および赤ペンによる自己添削を評価の対象とする。授業で学んだ点を理解しているか確認する。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。

教科書

大学生のための実用日本語表現ドリル,真田治子・野原佳代子,三省堂,2019,9784385363226

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。希望者多数の場合、抽選を行う。

日本語表現法A(1学期)もしくは日本語表現法B(2学期)の履修を希望する者は、必ず日本語表現法A(1学期)の1回目の講義(ガイダンス)に出席すること。

### **その他**

教科書付属のドリルを使うので、第2回以降は毎回教科書を必ず持参すること。  
(第1回目は履修者抽選を行うため、第1回の授業時には必要ない。)

本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800103                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法C                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 南波 千春                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 土曜日 2時限 南1－201           |          |          |

**授業概要**

レポート・論文の書き方を学び、自分の考えを的確に伝えられるように練習します。授業のはじめに、レポート・論文を書く上で必要な、読解や要約の練習と、物事を分かりやすく説明する練習を行います。次に、他者の意見を正確に理解し、その意見に対して自分の考えを的確に述べる練習をします。最後に、PCを使って、実際にレポートを書く練習をします。

**到達目標**

大学生活において、論文を読んだり、レポートを書いたりすることが多くなります。また、社会に出てからも、報告書を作るなど、様々な文書作成の能力が必要になります。様々な情報を集め、その中から必要な情報を見極め、的確に読み取り、整理し、まとめる能力を培うとともに、それらの情報を使って、自分の考えを分かりやすく伝えられるようになることを目標とします。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                               |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                            |
| 第2回  | 論文・レポートにふさわしい表現                  |
| 第3回  | 読解・要約①                           |
| 第4回  | 読解・要約②                           |
| 第5回  | 説明文①                             |
| 第6回  | 説明文②                             |
| 第7回  | 表・グラフの説明                         |
| 第8回  | 資料の引用方法                          |
| 第9回  | 賛成／反対型の意見文(他者の意見を踏まえて、自分の考えを述べる) |
| 第10回 | 提案型の意見文(資料を使って、自分の考えを述べる)        |
| 第11回 | レポートの書き方① レポートのテーマ設定と構成の作り方      |
| 第12回 | レポートの書き方② 資料の集め方とまとめ方            |
| 第13回 | レポートの書き方③ PCを使つての文書作成(レポートの一次提出) |
| 第14回 | レポートの書き方④ レポートの確認と修正             |
| 第15回 | まとめ                              |

**授業方法**

講義と実践練習・グループディスカッションにより、より分かりやすい文章が書けるようになるための練習をします。文章を書くだけでなく、他者の文章を読むことによって、客観的によりよい表現や文章構成を考えます。客観的に他者の文章を読み、考えることによって、分かりやすい文章とはどのようなものかを理解し、自分の言いたいことを分かりやすく伝える文章スキルを身につけます。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

毎回、課題となる文章やテーマを提示します。時間内に終わらなかった課題に関しては宿題とし、次回の授業時に提出してもらいます。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考    |
|--------------------------|---------|-------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |       |
| 学年末試験(第2学期)              |         |       |
| 中間テスト                    |         |       |
| レポート                     | 40 %    |       |
| 小テスト                     |         |       |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |       |
| その他(備考欄を参照)              | 40 %    | 毎回の課題 |

**成績評価コメント**

レポートでは、引用の方法に従い、資料を的確に使用できているか、分かりやすい構成で書けているかといった点を重視して評価します。毎回の課題では、その授業で学んだ内容が実践できているかを評価します。また、毎回の課題は、次回のグループ活動に必要となりますので、なるべく欠席しないようにしてください。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出された課題については、添削して返却します。

**教科書コメント**

適宜プリントを配布します。

#### **参考文献コメント**

授業時に提示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)／第1回目の授業に必ず出席してください。

#### **その他**

希望者多数の場合、抽選を行います。日本語表現法C(1学期)もしくは日本語表現法D(2学期)の履修を希望する者は、必ず第1学期(4月)の1回目の講義(ガイダンス)に出席してください。

#### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800104                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法D                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 南波 千春                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 土曜日 2時限 南1－201           |          |          |

**授業概要**

レポート・論文の書き方を学び、自分の考えを的確に伝えられるように練習します。授業のはじめに、レポート・論文を書く上で必要な、読解や要約の練習と、物事を分かりやすく説明する練習を行います。次に、他者の意見を正確に理解し、その意見に対して自分の考えを的確に述べる練習をします。最後に、PCを使って、実際にレポートを書く練習をします。

**到達目標**

大学生活において、論文を読んだり、レポートを書いたりすることが多くなります。また、社会に出てからも、報告書を作るなど、様々な文書作成の能力が必要になります。様々な情報を集め、その中から必要な情報を見極め、的確に読み取り、整理し、まとめる能力を培うとともに、それらの情報を使って、自分の考えを分かりやすく伝えられるようになることを目標とします。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                               |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                            |
| 第2回  | 論文・レポートにふさわしい表現                  |
| 第3回  | 読解・要約①                           |
| 第4回  | 読解・要約②                           |
| 第5回  | 説明文①                             |
| 第6回  | 説明文②                             |
| 第7回  | 表・グラフの説明                         |
| 第8回  | 資料の引用方法                          |
| 第9回  | 賛成／反対型の意見文(他者の意見を踏まえて、自分の考えを述べる) |
| 第10回 | 提案型の意見文(資料を使って、自分の考えを述べる)        |
| 第11回 | レポートの書き方① レポートのテーマ設定と構成の作り方      |
| 第12回 | レポートの書き方② 資料の集め方とまとめ方            |
| 第13回 | レポートの書き方③ PCを使つての文書作成(レポートの一次提出) |
| 第14回 | レポートの書き方④ レポートの確認と修正             |
| 第15回 | まとめ                              |

**授業方法**

講義と実践練習・グループディスカッションにより、より分かりやすい文章が書けるようになるための練習をします。文章を書くだけでなく、他者の文章を読むことによって、客観的によりよい表現や文章構成を考えます。客観的に他者の文章を読み、考えることによって、分かりやすい文章とはどのようなものかを理解し、自分の言いたいことを分かりやすく伝える文章スキルを身につけます。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

毎回、課題となる文章やテーマを提示します。時間内に終わらなかった課題に関しては宿題とし、次回の授業時に提出してもらいます。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考    |
|--------------------------|---------|-------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |       |
| 学年末試験(第2学期)              |         |       |
| 中間テスト                    |         |       |
| レポート                     | 40 %    |       |
| 小テスト                     |         |       |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 20 %    |       |
| その他(備考欄を参照)              | 40 %    | 毎回の課題 |

**成績評価コメント**

レポートでは、引用の方法に従い、資料を的確に使用できているか、分かりやすい構成で書けているかといった点を重視して評価します。毎回の課題では、その授業で学んだ内容が実践できているかを評価します。また、毎回の課題は、次回のグループ活動に必要となりますので、なるべく欠席しないようにしてください。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出された課題については、添削して返却します。

**教科書コメント**

適宜プリントを配布します。

#### **参考文献コメント**

授業時に提示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)／第1回目の授業に必ず出席してください。

#### **その他**

希望者多数の場合、抽選を行います。日本語表現法C(1学期)もしくは日本語表現法D(2学期)の履修を希望する者は、必ず第1学期(4月)の1回目の講義(ガイダンス)に出席してください。

#### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800105                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法E                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 吉村 晶子                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 金曜日 2時限 西1－205           |          |          |

**授業概要**

文章表現についての知識を深め、現代社会で要求される文章を書く能力を身につける。  
 授業を通じて、各自の定めたテーマに基づくレポートの作成を行っていく。インターネットや図書館等を利用して情報を収集し、的確に読解・整理する力、収集した情報を用いながら自分の考えをまとめ、PCを利用して文章表現する能力を培う。

**到達目標**

PCを使って文章を作成する実践を通じ、大学生として必要な知識と技術を習得し、大学生活および現代社会において不可欠となっている的確な文章表現ができるようになる。また、論文やレポートなどを作成をする上で知っておくべき研究倫理についても理解を深める。

**授業内容**

| 実施回  | 内容              |
|------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス           |
| 第2回  | PCを利用した文章作成の概要  |
| 第3回  | 新聞記事を読む         |
| 第4回  | 新聞記事をまとめる       |
| 第5回  | 論文を読む           |
| 第6回  | 論文をまとめる         |
| 第7回  | 批評と推敲           |
| 第8回  | レポートのテーマを決める    |
| 第9回  | 資料の集め方          |
| 第10回 | 資料の引用方法         |
| 第11回 | 文献の概要をまとめる      |
| 第12回 | 集めた資料を整理する      |
| 第13回 | レポートのアウトラインを考える |
| 第14回 | まとめ             |
| 第15回 | 振り返り            |

**授業計画コメント**

授業の内容は受講者の様子を見て適宜変更する場合もある。

**授業方法**

講義形式だが、適宜PCを用いた検索や文章作成の実践を行う。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業中に課題を指示する(1－2時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考   |
|--------------------------|---------|------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |      |
| 学年末試験(第2学期)              |         |      |
| 中間テスト                    |         |      |
| レポート                     | 50 %    |      |
| 小テスト                     |         |      |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 25 %    | 出席   |
| その他(備考欄を参照)              | 25 %    | 課題提出 |

**成績評価コメント**

期末レポートは授業中に指示したポイントを的確に踏まえて作成されているかを、第一に考慮する。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出された課題は、添削しコメントを付与して返却する。

**教科書コメント**

適宜、資料を配布する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)  
第1回の授業に必ず出席のこと。

#### その他

希望者多数の場合、抽選を行う。日本語表現法E(1学期)もしくは日本語表現法F(2学期)の履修を希望する者は、必ず第1学期(4月)の1回目の講義(ガイダンス)に出席すること。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800106                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法F                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 吉村 晶子                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 金曜日 2時限 西1－205           |          |          |

**授業概要**

文章表現についての知識を深め、現代社会で要求される文章を書く能力を身につける。  
 授業を通じて、各自の定めたテーマに基づくレポートの作成を行っていく。インターネットや図書館等を利用して情報を収集し、的確に読解・整理する力、収集した情報を用いながら自分の考えをまとめ、PCを利用して文章表現する能力を培う。

**到達目標**

PCを使って文章を作成する実践を通じ、大学生として必要な知識と技術を習得し、大学生活および現代社会において不可欠となっている的確な文章表現ができるようになる。また、論文やレポートなどを作成をする上で知っておくべき研究倫理についても理解を深める。

**授業内容**

| 実施回  | 内容              |
|------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス           |
| 第2回  | PCを利用した文章作成の概要  |
| 第3回  | 新聞記事を読む         |
| 第4回  | 新聞記事をまとめる       |
| 第5回  | 論文を読む           |
| 第6回  | 論文をまとめる         |
| 第7回  | 批評と推敲           |
| 第8回  | レポートのテーマを決める    |
| 第9回  | 資料の集め方          |
| 第10回 | 資料の引用方法         |
| 第11回 | 文献の概要をまとめる      |
| 第12回 | 集めた資料を整理する      |
| 第13回 | レポートのアウトラインを考える |
| 第14回 | まとめ             |
| 第15回 | 振り返り            |

**授業計画コメント**

授業の内容は受講者の様子を見て適宜変更する場合もある。

**授業方法**

講義形式だが、適宜PCを用いた検索や文章作成の実践を行う。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業中に課題を指示する(1－2時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考   |
|--------------------------|---------|------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |      |
| 学年末試験(第2学期)              |         |      |
| 中間テスト                    |         |      |
| レポート                     | 50 %    |      |
| 小テスト                     |         |      |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 25 %    | 出席   |
| その他(備考欄を参照)              | 25 %    | 課題提出 |

**成績評価コメント**

期末レポートは授業中に指示したポイントを的確に踏まえて作成されているかを、第一に考慮する。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出された課題は、添削しコメントを付与して返却する。

**教科書コメント**

適宜、資料を配布する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。(25名)  
第1回の授業に必ず出席のこと。

#### その他

希望者多数の場合、抽選を行う。日本語表現法E(1学期)もしくは日本語表現法F(2学期)の履修を希望する者は、必ず第1学期(4月)の1回目の講義(ガイダンス)に出席すること。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800107                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法G                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 奈良 夕里枝                        |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 火曜日 5時限 西1－310           |          |          |

授業概要

大学で書くレポートことは研究者を目指す学生にとって重要であるだけではなく、社会人になって書く企画書や報告書と同じく根拠を提示し、信頼できる資料を探し、人に紹介する力が必要となります。そのために、資料を利用して論理的な文章を書くための日本語表現を学び、根拠に基づいた論理的な文章がかけられるように日本語表現を考えていきます。

到達目標

- ①論理的な文章を書く上で基本となる日本語表現のルールを身につける。
- ②信頼できる資料を根拠として自分の主張を立証する。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                 |
|------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 話し言葉と書き言葉、様々な資料について(図書・新聞・データベース等)                 |
| 第2回  | おすすめの新聞記事(5W1H・要約・グループ内で発表)                        |
| 第3回  | 意見文の書き方                                            |
| 第4回  | 意見文をグループ内で発表、レポートを書く目的と効果                          |
| 第5回  | 感想文とレポートの違い、レポートの構成                                |
| 第6回  | 序論・本論・結論の構成で文章を書く                                  |
| 第7回  | グループごとにピアレスポンス(お互いにチェックする)、資料を読む力を身につける①キーワードを見つける |
| 第8回  | 資料を読む力を身につける②論理的な関係をつかむ③論理的関係を構造化する                |
| 第9回  | 資料の引用と参考文献の示し方、レポートのテーマを決める、宿題:資料探す                |
| 第10回 | グルーピングとラベリングをする、資料を見て問いと主張を考えアウトラインを決める            |
| 第11回 | 序論・背景説明を考える、参考文献一覧を作る                              |
| 第12回 | 序論・背景説明へのフィードバック、本論を書く                             |
| 第13回 | 本論へのフィードバック、結論を書く                                  |
| 第14回 | 完成したレポートの発表と受講者からのフィードバック                          |
| 第15回 | 完成したレポートの発表と受講者からのフィードバック                          |

授業計画コメント

受講生の状況などに応じて変更する場合がある。

授業方法

- ①各課題について注意点などを確認後、ペアワークやグループワークを行うこともある。
- ②テキスト内の問題やプリントに沿って文章を書き、チェックを受ける。
- ③授業内でも一部文章を書くが、宿題もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 復習(30分)
- 自分のテーマに沿った資料を探す(1時間)
- 表現能力の向上を意識し、課題テーマに沿って文章を書く(1時間)

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                        |
|--------------------------|---------|---------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                           |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                           |
| 中間テスト                    |         |                           |
| レポート                     | 30 %    | 授業中に作成するレポートとは別で期末レポートを課す |
| 小テスト                     |         |                           |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |                           |
| その他(備考欄を参照)              | 20 %    | 宿題                        |

成績評価コメント

- ①授業中の活動への取り組みを重視する
- ②宿題をする
- ③論理的なレポートが書ける

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

扱った課題については、チェックを行い、フィードバックする。

#### **教科書**

アカデミック・ライティングの基礎,西川真理子他,晃洋出版,2017

#### **参考文献コメント**

授業中に指示する。

#### **履修上の注意**

- ①履修者数制限あり。(25名)
- ②日本語表現法GまたはHの履修希望者は、いずれも第1学期1回目の授業に必ず出席すること。

#### **その他**

希望者多数の場合は抽選等を行う。

#### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810800108                    | 科目ナンバリング | 007D012  |
| 講義名   | 日本語表現法H                       |          |          |
| 英文科目名 | Art of Expression in Japanese |          |          |
| 担当者名  | 奈良 夕里枝                        |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 火曜日 5時限 西1－310           |          |          |

**授業概要**

大学で書くレポートことは研究者を目指す学生にとって重要であるだけではなく、社会人になって書く企画書や報告書と同じく根拠を提示し、信頼できる資料を探し、人に紹介する力が必要となります。そのために、資料を利用して論理的な文章を書くための日本語表現を学び、根拠に基づいた論理的な文章がかけられるように日本語表現を考えていきます。

**到達目標**

- ①論理的な文章を書く上で基本となる日本語表現のルールを身につける。
- ②信頼できる資料を根拠として自分の主張を立証する。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                                 |
|------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 話し言葉と書き言葉、様々な資料について(図書・新聞・データベース等)                 |
| 第2回  | おすすめの新聞記事(5W1H・要約・グループ内で発表)                        |
| 第3回  | 意見文の書き方                                            |
| 第4回  | 意見文をグループ内で発表、レポートを書く目的と効果                          |
| 第5回  | 感想文とレポートの違い、レポートの構成                                |
| 第6回  | 序論・本論・結論の構成で文章を書く                                  |
| 第7回  | グループごとにピアレスポンス(お互いにチェックする)、資料を読む力を身につける①キーワードを見つける |
| 第8回  | 資料を読む力を身につける②論理的な関係をつかむ③論理的関係を構造化する                |
| 第9回  | 資料の引用と参考文献の示し方、レポートのテーマを決める、宿題:資料探す                |
| 第10回 | グルーピングとラベリングをする、資料を見て問いと主張を考えアウトラインを決める            |
| 第11回 | 序論・背景説明を考える、参考文献一覧を作る                              |
| 第12回 | 序論・背景説明へのフィードバック、本論を書く                             |
| 第13回 | 本論へのフィードバック、結論を書く                                  |
| 第14回 | 完成したレポートの発表と受講者からのフィードバック                          |
| 第15回 | 完成したレポートの発表と受講者からのフィードバック                          |

**授業計画コメント**

受講生の状況などに応じて変更する場合がある。

**授業方法**

- ①各課題について注意点などを確認後、ペアワークやグループワークを行うこともある。
- ②テキスト内の問題やプリントに沿って文章を書き、チェックを受ける。
- ③授業内でも一部文章を書くが、宿題もある。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

- 習(30分)
- 自分のテーマに沿った資料を探す(1時間)
- 表現能力の向上を意識し、課題テーマに沿って文章を書く(1時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                        |
|--------------------------|---------|---------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                           |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                           |
| 中間テスト                    |         |                           |
| レポート                     | 30 %    | 授業中に作成するレポートとは別で期末レポートを課す |
| 小テスト                     |         |                           |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |                           |
| その他(備考欄を参照)              | 20 %    | 宿題                        |

**成績評価コメント**

- ①授業中の活動への取り組みを重視する
- ②宿題をする
- ③論理的なレポートが書ける

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

扱った課題については、チェックを行い、フィードバックする。

#### **教科書**

アカデミック・ライティングの基礎,西川真理子他,晃洋出版,2017

#### **参考文献コメント**

授業中に指示する。

#### **履修上の注意**

- ①履修者数制限あり。(25名)
- ②日本語表現法GまたはHの履修希望者は、いずれも第1学期1回目の授業に必ず出席すること。

#### **その他**

希望者多数の場合は抽選等を行う。

#### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801201          | 科目ナンバリング | 007D063  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅠA         |          |          |
| 英文科目名 | Career DesignⅠ      |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 月曜日 5時限 西5－302 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。

キャリア・デザインⅠは、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を念頭に置きながら大学で学ぶ意義を考えます。また、100年時代人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、自ら考え、決断し、一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

**到達目標**

この授業を受けることにより、自分らしさとは何か、キャリアとは何かを意識し、自律的な大学生活を送るために大切なことは何かを理解します。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                    |
|------|-----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～ |
| 第2回  | 「キャリアデザイン」とは何か        |
| 第3回  | 大学で学ぶ意味               |
| 第4回  | グローバル人材とは             |
| 第5回  | 海外の相手と仕事をする           |
| 第6回  | 「計画された偶発性」            |
| 第7回  | ストレス・マネジメント           |
| 第8回  | 内的キャリアとライフライン・チャート    |
| 第9回  | 自己理解                  |
| 第10回 | 仕事の未来を考える             |
| 第11回 | ライフシフト～100年時代の人生戦略～   |
| 第12回 | 働くことの意義～身近な人に聴いてみる～   |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ            |
| 第14回 | 学生生活をどう過ごすか           |
| 第15回 | 自主研究                  |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業内での気付きや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

**成績評価コメント**

- ・リアクション・ペーパー/課題: 不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。
- ・期末レポート: 課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容

(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **参考文献**

未来を拓く キャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもどしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

【実務経験のある教員による授業科目】

①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。

②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801202          | 科目ナンバリング | 007D063  |
| 講義名   | キャリア・デザイン I B       |          |          |
| 英文科目名 | Career Design I     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 3時限 西2－302 |          |          |

授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 キャリア・デザインⅠは、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を念頭に置きながら大学で学ぶ意義を考えます。また、100年時代人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、自ら考え、決断し、一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

到達目標

この授業を受けることにより、自分らしさとは何か、キャリアとは何かを意識し、自律的な大学生活を送るために大切なことは何かを理解します。

授業内容

| 実施回  | 内容                          |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～       |
| 第2回  | キャリア・デザインを理解する① キャリアについて    |
| 第3回  | キャリア・デザインを理解する② キャリア発達について  |
| 第4回  | キャリア・デザインを理解する③ ワークキャリアについて |
| 第5回  | 自分を知る① 自分の興味・関心             |
| 第6回  | 自分を知る② 自分の持ち味・特性            |
| 第7回  | 自分を知る③ 自己開示                 |
| 第8回  | 自分を知る④ アサーション               |
| 第9回  | キャリア・デザインに必要な力① アクション       |
| 第10回 | キャリア・デザインに必要な力② チームワーク      |
| 第11回 | キャリア・デザインに必要な力③ シンキング       |
| 第12回 | キャリア・デザインを考える① キャリア開発       |
| 第13回 | キャリア・デザインを考える② 自分の未来を考える    |
| 第14回 | まとめ                         |
| 第15回 | 自主研究                        |

授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

振り返りシートへの質問や意見は次回の授業中にフィードバックします。

### 参考文献

未来を拓くキャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### 参考文献コメント

適宜紹介します。

### 履修上の注意

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### その他

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801203          | 科目ナンバリング | 007D063  |
| 講義名   | キャリア・デザイン I C       |          |          |
| 英文科目名 | Career Design I     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 木曜日 4時限 西2－201 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 キャリア・デザインⅠは、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を念頭に置きながら大学で学ぶ意義を考えます。また、100年時代人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、自ら考え、決断し、一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

**到達目標**

この授業を受けることにより、自分らしさとは何か、キャリアとは何かを意識し、自律的な大学生活を送るために大切なことは何かを理解します。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                          |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～       |
| 第2回  | キャリア・デザインを理解する① キャリアについて    |
| 第3回  | キャリア・デザインを理解する② キャリア発達について  |
| 第4回  | キャリア・デザインを理解する③ ワークキャリアについて |
| 第5回  | 自分を知る① 自分の興味・関心             |
| 第6回  | 自分を知る② 自分の持ち味・特性            |
| 第7回  | 自分を知る③ 自己開示                 |
| 第8回  | 自分を知る④ アサーション               |
| 第9回  | キャリア・デザインに必要な力① アクション       |
| 第10回 | キャリア・デザインに必要な力② チームワーク      |
| 第11回 | キャリア・デザインに必要な力③ シンキング       |
| 第12回 | キャリア・デザインを考える① キャリア開発       |
| 第13回 | キャリア・デザインを考える② 自分の未来を考える    |
| 第14回 | まとめ                         |
| 第15回 | 自主研究                        |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習（予習・復習）**

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

振り返りシートへの質問や意見は次回の授業中にフィードバックします。

### 参考文献

未来を拓くキャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### 参考文献コメント

適宜紹介します。

### 履修上の注意

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### その他

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801204          | 科目ナンバリング | 007D063  |
| 講義名   | キャリア・デザイン I D       |          |          |
| 英文科目名 | Career Design I     |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 月曜日 5時限 西5－302 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。

キャリア・デザインⅠは、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を念頭に置きながら大学で学ぶ意義を考えます。また、100年時代人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、自ら考え、決断し、行動することができるようになることをめざします。

**到達目標**

この授業を受けることにより、自分らしさとは何か、キャリアとは何かを意識し、自律的な大学生活を送るために大切なことは何かを理解します。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                    |
|------|-----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～ |
| 第2回  | 「キャリアデザイン」とは何か        |
| 第3回  | 大学で学ぶ意味               |
| 第4回  | グローバル人材とは             |
| 第5回  | 海外の相手と仕事をする           |
| 第6回  | 「計画された偶発性」            |
| 第7回  | ストレス・マネジメント           |
| 第8回  | 内的キャリアとライフライン・チャート    |
| 第9回  | 自己理解                  |
| 第10回 | 仕事の未来を考える             |
| 第11回 | ライフシフト～100年時代の人生戦略～   |
| 第12回 | 働くことの意義～身近な人に聴いてみる～   |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ            |
| 第14回 | 学生生活をどう過ごすか           |
| 第15回 | 自主研究                  |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業内での気付きや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

**成績評価コメント**

- ・リアクション・ペーパー/課題: 不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。
- ・期末レポート: 課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容

(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **参考文献**

未来を拓く キャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもどしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

【実務経験のある教員による授業科目】

①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。

②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801205          | 科目ナンバリング | 007D063  |
| 講義名   | キャリア・デザイン I E       |          |          |
| 英文科目名 | Career Design I     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 木曜日 3時限 西2－302 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 キャリア・デザインⅠは、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を念頭に置きながら大学で学ぶ意義を考えます。また、100年時代人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、自ら考え、決断し、一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

**到達目標**

この授業を受けることにより、自分らしさとは何か、キャリアとは何かを意識し、自律的な大学生活を送るために大切なことは何かを理解します。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                          |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～       |
| 第2回  | キャリア・デザインを理解する① キャリアについて    |
| 第3回  | キャリア・デザインを理解する② キャリア発達について  |
| 第4回  | キャリア・デザインを理解する③ ワークキャリアについて |
| 第5回  | 自分を知る① 自分の興味・関心             |
| 第6回  | 自分を知る② 自分の持ち味・特性            |
| 第7回  | 自分を知る③ 自己開示                 |
| 第8回  | 自分を知る④ アサーション               |
| 第9回  | キャリア・デザインに必要な力① アクション       |
| 第10回 | キャリア・デザインに必要な力② チームワーク      |
| 第11回 | キャリア・デザインに必要な力③ シンキング       |
| 第12回 | キャリア・デザインを考える① キャリア開発       |
| 第13回 | キャリア・デザインを考える② 自分の未来を考える    |
| 第14回 | まとめ                         |
| 第15回 | 自主研究                        |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習（予習・復習）**

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

振り返りシートへの質問や意見は次回の授業中にフィードバックします。

### **参考文献**

未来を拓くキャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### **参考文献コメント**

適宜紹介します。

### **履修上の注意**

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1学期の同講師の「キャリア・デザインⅠ」の第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### **その他**

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801301          | 科目ナンバリング | 007D064  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅡA         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅱ     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 金曜日 2時限 西5－302 |          |          |

授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。
 

- ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。
- ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。
- ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。

 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠを履修されていることが望ましいです。

到達目標

この授業を受けることにより、社会に出ることや働くこととは何かを考えるとともに、働くうえで大切な心構えやスキル、周囲を巻き込んで共通の目標を達成するために大切なことを理解します。

授業内容

| 実施回  | 内容                             |
|------|--------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～          |
| 第2回  | キャリア・デザインのための自己理解 カリア・デザインⅠ 概要 |
| 第3回  | 働く環境を理解する① 社会の変化               |
| 第4回  | 働く環境を理解する② 職業の選択               |
| 第5回  | 働く環境を理解する③ 働く上でのルール            |
| 第6回  | 働く環境を理解する④ ワークライフバランス          |
| 第7回  | 業界について理解する①                    |
| 第8回  | 業界について理解する②                    |
| 第9回  | 職種について理解する                     |
| 第10回 | 働き方を考える① メンター                  |
| 第11回 | 働き方を考える② 内的キャリア                |
| 第12回 | 働き方を考える③ キャリアアンカー              |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ                     |
| 第14回 | まとめ                            |
| 第15回 | 自主研究                           |

授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです(15点満点×2回)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

振り返りシートへの質問や意見は次回の授業中にフィードバックします。

### **参考文献コメント**

適宜紹介します。

### **履修上の注意**

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### **その他**

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801302          | 科目ナンバリング | 007D064  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅡB         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅱ     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 金曜日 3時限 中央－302 |          |          |

授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠを履修されていることが望ましいです。

到達目標

この授業を受けることにより、社会に出ることや働くこととは何かを考えるとともに、働くうえで大切な心構えやスキル、周囲を巻き込んで共通の目標を達成するために大切なことを理解します。

授業内容

| 実施回  | 内容                             |
|------|--------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～          |
| 第2回  | キャリア・デザインのための自己理解 カリア・デザインⅠ 概要 |
| 第3回  | 働く環境を理解する① 社会の変化               |
| 第4回  | 働く環境を理解する② 職業の選択               |
| 第5回  | 働く環境を理解する③ 働く上でのルール            |
| 第6回  | 働く環境を理解する④ ワークライフバランス          |
| 第7回  | 業界について理解する①                    |
| 第8回  | 業界について理解する②                    |
| 第9回  | 職種について理解する                     |
| 第10回 | 働き方を考える① メンター                  |
| 第11回 | 働き方を考える② 内的キャリア                |
| 第12回 | 働き方を考える③ キャリアアンカー              |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ                     |
| 第14回 | まとめ                            |
| 第15回 | 自主研究                           |

授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです(15点満点×2回)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

振り返りシートへの質問や意見は次の授業中にフィードバックします。

### **参考文献コメント**

適宜紹介します。

### **履修上の注意**

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### **その他**

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801303          | 科目ナンバリング | 007D064  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅡC         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅱ     |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 月曜日 2時限 西5－302 |          |          |

### 授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠを履修されていることが望ましいです。

キャリア・デザインⅡは、就業力向上のために制作されたDVDを主に観ながら、リアルな職場で起こる先輩社会人の悪戦苦闘の中から社会に出て働く際の学びと気づきを見出す授業です。

### 到達目標

この授業を受けることにより、社会に出ることや働くこととは何かを考えるとともに、働くうえで大切な心構えやスキル、周囲を巻き込んで共通の目標を達成するために大切なことを理解します。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                   |
|------|----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か |
| 第2回  | 社会人1年目の現場から学ぶ～旅行代理店  |
| 第3回  | 社会人2年目の現場から学ぶ～専門商社   |
| 第4回  | 「営業」という仕事～製造業        |
| 第5回  | 中小企業でのやりがい           |
| 第6回  | 「販売」という仕事～百貨店        |
| 第7回  | 「企画」という仕事～化粧品販売      |
| 第8回  | 「SE」という仕事～システム開発     |
| 第9回  | 地域密着型金融機関の仕事         |
| 第10回 | 開発部門の仕事              |
| 第11回 | 社会人の先輩から学ぶ           |
| 第12回 | 事例研究～魅力ある企業とは        |
| 第13回 | 働くことへの心構えと準備①        |
| 第14回 | 働くことへの心構えと準備②        |
| 第15回 | 自主研究                 |

### 授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

### 成績評価コメント

・リアクション・ペーパー/課題：不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。

・期末レポート:課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもどしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

#### **【実務経験のある教員による授業科目】**

①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。

②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801304          | 科目ナンバリング | 007D064  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅡD         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅱ     |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 月曜日 3時限 西5－202 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠを履修されていることが望ましいです。

キャリア・デザインⅡは、就業力向上のために制作されたDVDを主に観ながら、リアルな職場で起こる先輩社会人の悪戦苦闘の中から社会に出て働く際の学びと気づきを見出す授業です。

**到達目標**

この授業を受けることにより、社会に出ることや働くこととは何かを考えるとともに、働くうえで大切な心構えやスキル、周囲を巻き込んで共通の目標を達成するために大切なことを理解します。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                   |
|------|----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か |
| 第2回  | 社会人1年目の現場から学ぶ～旅行代理店  |
| 第3回  | 社会人2年目の現場から学ぶ～専門商社   |
| 第4回  | 「営業」という仕事～製造業        |
| 第5回  | 中小企業でのやりがい           |
| 第6回  | 「販売」という仕事～百貨店        |
| 第7回  | 「企画」という仕事～化粧品販売      |
| 第8回  | 「SE」という仕事～システム開発     |
| 第9回  | 地域密着型金融機関の仕事         |
| 第10回 | 開発部門の仕事              |
| 第11回 | 社会人の先輩から学ぶ           |
| 第12回 | 事例研究～魅力ある企業とは～       |
| 第13回 | 働くことへの心構えと準備①        |
| 第14回 | 働くことへの心構えと準備②        |
| 第15回 | 自主研究                 |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習（予習・復習）**

授業内での気付きや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分（％） | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

**成績評価コメント**

・リアクション・ペーパー/課題：不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。

・期末レポート:課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもどしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

#### **【実務経験のある教員による授業科目】**

①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。

②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801305          | 科目ナンバリング | 007D064  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅡE         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅱ     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 木曜日 4時限 西2－201 |          |          |

授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠを履修されていることが望ましいです。

到達目標

この授業を受けることにより、社会に出ることや働くこととは何かを考えるとともに、働くうえで大切な心構えやスキル、周囲を巻き込んで共通の目標を達成するために大切なことを理解します。

授業内容

| 実施回  | 内容                                |
|------|-----------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～             |
| 第2回  | キャリア・デザインのための自己理解   キャリア・デザインⅠ 概要 |
| 第3回  | 働く環境を理解する①   社会の変化                |
| 第4回  | 働く環境を理解する②   職業の選択                |
| 第5回  | 働く環境を理解する③   働く上でのルール             |
| 第6回  | 働く環境を理解する④   ワークライフバランス           |
| 第7回  | 業界について理解する①                       |
| 第8回  | 業界について理解する②                       |
| 第9回  | 職種について理解する                        |
| 第10回 | 働き方を考える①   メンター                   |
| 第11回 | 働き方を考える②   内的キャリア                 |
| 第12回 | 働き方を考える③   キャリアアンカー               |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ                        |
| 第14回 | まとめ                               |
| 第15回 | 自主研究                              |

授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way（双方向）の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

成績評価コメント

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです(15点満点×2回)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

振り返りシートへの質問や意見は次の授業中にフィードバックします。

### 参考文献コメント

適宜紹介します。

### 履修上の注意

履修希望者数が一定の数を超えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1学期の同講師の「キャリア・デザインⅡ」の第1回目の授業に参加して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので、注意して下さい。

### その他

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801401          | 科目ナンバリング | 007D065  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅢA         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅲ     |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 月曜日 2時限 西5－302 |          |          |

### 授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡを履修されていることが望ましいです。

キャリア・デザインⅢは、企業のものの考え方や経営理念、さらにはヒトという経営資源を企業がどのように育成し魅力ある組織に変革しようとしているのかを知ることとおして、社会環境の変化に柔軟に対応しながら自分らしいキャリアを構築するためにどのようにしたらいいかを考える授業です。

### 到達目標

この授業を受けることにより、「環境適応業」としての企業が抱える課題やものの考え方を知るとともに、自らが社会に出るにあたっての心構えと勇気をもって一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

### 授業内容

| 実施回  | 内容                       |
|------|--------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～    |
| 第2回  | 外的キャリアと内的キャリア            |
| 第3回  | 企業(株式会社)とはどんなところか        |
| 第4回  | 企業のグローバル化とキャリア形成         |
| 第5回  | 企業はどのような人材を求めているか        |
| 第6回  | 経営理念と経営戦略                |
| 第7回  | 新規学卒者の採用から定着までの企業による支援活動 |
| 第8回  | ダイバーシティを考える              |
| 第9回  | 採用・育成・リテンションを考える         |
| 第10回 | なにが若者の早期離職をもたらすのか        |
| 第11回 | 働くうえで知っておくべきワークルール       |
| 第12回 | ブラック企業を考える               |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ               |
| 第14回 | これからの働き方を考える             |
| 第15回 | 自主研究                     |

### 授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way(双方向)の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってからでも役立つものとなることでしょう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

### 成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

### 成績評価コメント

- ・リアクション・ペーパー/課題:不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。
- ・期末レポート:課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **参考文献**

未来を拓く キャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

#### **【実務経験のある教員による授業科目】**

- ①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。
- ②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801402          | 科目ナンバリング | 007D065  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅢB         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅲ     |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 月曜日 3時限 西5－202 |          |          |

授業概要

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡを履修されていることが望ましいです。

キャリア・デザインⅢは、企業のものの考え方や経営理念、さらにはヒトという経営資源を企業がどのように育成し魅力ある組織に変革しようとしているのかを知ることとおして、社会環境の変化に柔軟に対応しながら自分らしいキャリアを構築するためにどのようにしたらいいかを考える授業です。

到達目標

この授業を受けることにより、「環境適応業」としての企業が抱える課題やものの考え方を知るとともに、自らが社会に出るにあたっての心構えと勇気をもって一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

授業内容

| 実施回  | 内容                       |
|------|--------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～    |
| 第2回  | 外的キャリアと内的キャリア            |
| 第3回  | 企業(株式会社)とはどんなところか        |
| 第4回  | 企業のグローバル化とキャリア形成         |
| 第5回  | 企業はどのような人材を求めているか        |
| 第6回  | 経営理念と経営戦略                |
| 第7回  | 新規学卒者の採用から定着までの企業による支援活動 |
| 第8回  | ダイバーシティを考える              |
| 第9回  | 採用・育成・リテンションを考える         |
| 第10回 | なにが若者の早期離職をもたらすのか        |
| 第11回 | 働くうえで知っておくべきワークルール       |
| 第12回 | ブラック企業を考える               |
| 第13回 | 社会人の先輩から学ぶ               |
| 第14回 | これからの働き方を考える             |
| 第15回 | 自主研究                     |

授業方法

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。  
 また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way(双方向)の授業です。  
 これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってからでも役立つものとなることでしょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考             |
|--------------------------|---------|----------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                |
| 中間テスト                    |         |                |
| レポート                     | 50 %    | 期末レポート         |
| 小テスト                     |         |                |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    | リアクション・ペーパー/課題 |
| その他(備考欄を参照)              |         |                |

成績評価コメント

- ・リアクション・ペーパー/課題:不定期に実施します。授業終了時にmanabaにて提出していただきます。
- ・期末レポート:課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

manabaにてフィードバックします。

### **参考文献**

未来を拓く キャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### **履修上の注意**

私語は禁じます。わからないことがあれば私語をせず、途中でもしどし質問して下さい。

### **その他**

履修希望者数が一定の数を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

#### **【実務経験のある教員による授業科目】**

- ①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。
- ②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810801403          | 科目ナンバリング | 007D065  |
| 講義名   | キャリア・デザインⅢC         |          |          |
| 英文科目名 | Career Design Ⅲ     |          |          |
| 担当者名  | 南 裕子                |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 金曜日 2時限 西5－201 |          |          |

**授業概要**

本学のキャリア・デザイン科目は全学部・全学年が履修可能な選択科目であり、以下のような構成となっています。  
 ・キャリア・デザインⅠ：主として1年生～2年生を対象とした基礎編であり、「働くことの意義や働きがい」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅡ：主として2年生～3年生を対象とした応用編であり、「働く際に大切なこと」について考えます。  
 ・キャリア・デザインⅢ：主として3年生～4年生を対象とした実践編であり、「企業を知り、一歩踏み出すこと」について考えます。  
 なおカリキュラムの構成上、「同じ学期に複数のキャリア・デザイン科目を同時に履修すること」は想定していません。  
 この科目を履修する前提として、キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡを履修されていることが望ましいです。

キャリア・デザインⅢは、企業のものの考え方や経営理念、さらにはヒトという経営資源を企業がどのように育成し魅力ある組織に変革しようとしているのかを知ることとおして、社会環境の変化に柔軟に対応しながら自分らしいキャリアを構築するためにどのようにしたらいいかを考える授業です。

**到達目標**

この授業を受けることにより、「環境適応業」としての企業が抱える課題やものの考え方を知るとともに、自らが社会に出るにあたっての心構えと勇気をもって一歩踏み出すことができるようになることをめざします。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                 |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～「キャリア」とは何か～              |
| 第2回  | キャリア・デザインのための自己理解 キャリア・デザインⅠ 概要    |
| 第3回  | キャリア・デザインのための関係性理解 キャリア・デザインⅡ 概要   |
| 第4回  | キャリア・デザインのための環境理解① 採用活動の変遷         |
| 第5回  | キャリア・デザインのための環境理解② 新卒に期待される能力      |
| 第6回  | キャリア・デザインのための環境理解③ 社員の視点から捉えられる問題点 |
| 第7回  | キャリア・デザインのための組織理解① 経営理念・経営戦略       |
| 第8回  | キャリア・デザインのための組織理解② 持続可能性           |
| 第9回  | キャリア・デザインのための組織理解③ これからの社会         |
| 第10回 | 個人と組織の適合① グループワークの基礎               |
| 第11回 | 個人と組織の適合② グループワークの実践               |
| 第12回 | 個人と組織の適合③ グループワークの応用               |
| 第13回 | これからの働き方を考える                       |
| 第14回 | まとめ                                |
| 第15回 | 自主研究                               |

**授業方法**

毎回のテーマに合わせた個人ワーク、ピア・ワーク、グループ・ディスカッションなどの手法を使い、自律的に自分自身のキャリアと向き合う「参加型の授業」です。また、自分の考えを発表していただく機会をできるだけ用意した、2-way(双方向)の授業です。これらのスキルは、就職活動はもちろん、社会に入ってから役立つものとなることでしょう。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業内での気づきや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

授業の振り返りシート: 毎回授業終了後に提出していただきます(各回5点満点×14回)。6回以上未提出の場合は単位認定できません。レポート: 課題の指示内容を理解していること、自分自身を内省していること、新たな気づきがあることが評価ポイントです。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

振り返りシートへの質問や意見は次回の授業中にフィードバックします。

### 参考文献

未来を拓くキャリア・デザイン講座,山崎京子・平林正樹,中央経済社,1,2018,978-4502271410

### 参考文献コメント

適宜紹介します。

### 履修上の注意

履修希望者が一定の数を超えた場合には人数を制限することがあるので、履修希望者は必ず掲示の手続きに従って履修希望を提出すること。掲示の期間は4月上旬である。履修希望を提出していても履修を認められないことがあるので注意すること。

### その他

【実務経験のある教員による授業科目】民間企業ならびにキャリア支援業務によるキャリア構築のための環境理解を通じて、必要となる資質の提供を行う。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                               |          |          |
|-------|-------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810802101                    | 科目ナンバリング | 007D066  |
| 講義名   | インターンシップと仕事経験                 |          |          |
| 英文科目名 | Internship and Job Experience |          |          |
| 担当者名  | 平林 正樹                         |          |          |
| 単位    | 2                             | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 月曜日 4時限 南1－205             |          |          |

**授業概要**

この授業は、全学部の3年生のみを履修対象としています。  
 この授業では、インターンシップの意義と目的を自覚し、参加前の準備から参加後の振り返りやインターンシップ経験からの学びを今後のキャリア・デザインに繋げるため、通年(隔週授業)の講義とアクティブ・ラーニングをおこないます。

- 履修条件は、以下の通りです。
- ①通年で授業に参加すること(全15回)
  - ②夏季休業期間中に連続5日間以上のインターンシップに自主的に参加すること
  - ③新聞を毎日読むこと

**到達目標**

インターンシップに参加する目的意識を明確に持ち、仕事経験からの学びを自己成長に繋げ、学生から社会人への移行のイメージが持てるようになることです。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                         |
|------|----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション～インターンシップとは何か     |
| 第2回  | 自分の内的キャリアを知る               |
| 第3回  | インターンシップの準備(1)～業界研究        |
| 第4回  | インターンシップの準備(2)～業界研究        |
| 第5回  | 個別面談                       |
| 第6回  | インターンシップの準備(3)～職種研究        |
| 第7回  | インターンシップの準備(4)～職種研究        |
| 第8回  | インターンシップでの学び(1)            |
| 第9回  | インターンシップでの学び(2)            |
| 第10回 | インターンシップでの学び(3)            |
| 第11回 | 企業研究                       |
| 第12回 | 現役の採用担当者に聴く                |
| 第13回 | インターンシップをこれからの社会人生活にどう活かすか |
| 第14回 | 働くことへの心構えと準備               |
| 第15回 | 自主研究                       |

**授業方法**

インターンシップをとおして自己の成長と自律を促す授業です。  
 講義とグループ・ディスカッション、ワークショップなどを取り入れた「参加型授業」です。  
 インターンシップ先を自ら開拓することも自律的なキャリア形成のための経験と捉え、各自で希望企業に応募し、夏休み期間中に5日間以上のインターンシップ体験を必須とします。  
 また、毎回manabaによるリアクション・ペーパーの提出を求めます。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業内での気付きや学びを具体的な態度や行動に表し実践することが重要です。  
 上記以外は授業の中で適宜指示します。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考          |
|--------------------------|---------|-------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |             |
| 学年末試験(第2学期)              |         |             |
| 中間テスト                    |         |             |
| レポート                     | 20 %    | 期末レポート      |
| 小テスト                     |         |             |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 65 %    | リアクション・ペーパー |
| その他(備考欄を参照)              | 15 %    | インターンシップ経験  |

**成績評価コメント**

①期末レポート:課題内容は授業内で発表します。評価ポイントは、形式(構成、文体、誤字脱字、提出物としての完成度など)と内容

(網羅性、独自性、論理性、具体性など)です。

②リアクション・ペーパー:毎回の授業終了時にmanabaにて提出していただきます。

③インターンシップ経験:夏季休業期間中に連続5日間以上のインターンシップに自主的に参加することが必須となります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

manabaにてフィードバックします。

### その他

授業内で個別面談をおこないますので、履修人数を30人までといたします。

履修希望者数が30人を越えた場合には人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

【実務経験のある教員による授業科目】

①民間企業において、35年間にわたり営業職および人事職に従事していた実務経験をもつ教員による科目です。

②主として民間企業で働くこと・魅力ある組織の条件・働くことのリアルな姿を伝えるとともに、職業選択のうえで考慮すべき自己理解・仕事理解・企業理解についての知見を活かした教育をおこないます。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                     |          |          |
|-------|---------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810803101          | 科目ナンバリング | 007D013  |
| 講義名   | アカデミック・スキルズ         |          |          |
| 副題    | 大学での基礎となるスキルの習得     |          |          |
| 英文科目名 | Academic Skills     |          |          |
| 担当者名  | 小川 文子               |          |          |
| 単位    | 2                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第1学期 金曜日 2時限 西1－101 |          |          |

**授業概要**

大学では、自分で考え、判断し、自主的に勉強することが求められる。そのためにはインプットとアウトプットの二つが必要になる。インプットに関しては、適切な情報を収集する能力が、アウトプットに関してはインプットしたものを批判的に読解する能力およびアカデミックな（というのは大学に適したということ。大学は研究機関であり、いわゆる研究論文で用いられるような文章を書くことが求められる）文章を書く能力が求められる。また、こうしたスキルと合わせて収集した情報の信頼性を評価する能力や、情報を加工し自分にかなう形で利用する能力、そこに発生してくる倫理的な問題等を含む、いわゆる情報リテラシーを広く学ぶ。本授業は上記の能力を身に着けるための授業である。これらのスキルは、将来社会に出たときにも必ず求められる能力であるので、学生の皆さんには在学中に是非身に着けて頂きたい。

**到達目標**

- ・実際に図書館やインターネットを通じて適切な情報を手に入れられるようになる
- ・収集した情報を活用し、倫理的に適う再発信をすることが出来るようになる
- ・論理的な文章が書けるようになる

**授業内容**

| 実施回  | 内容                       |
|------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                |
| 第2回  | レポートの書き方①                |
| 第3回  | レポートの書き方②                |
| 第4回  | 資料の読み方・探し方               |
| 第5回  | レポートの書き方もう一度             |
| 第6回  | 情報リテラシー①大学図書館の役割と活用      |
| 第7回  | 情報リテラシー②インターネットの活用と情報モラル |
| 第8回  | 要約の仕方①                   |
| 第9回  | 要約の仕方②                   |
| 第10回 | テキスト批評                   |
| 第11回 | 論理的な文章の書き方①              |
| 第12回 | 論理的な文章の書き方②              |
| 第13回 | 上手な発表の仕方①パワーポイントの使い方     |
| 第14回 | 上手な発表の仕方②具体的な実演          |
| 第15回 | まとめ                      |

**授業方法**

- ・講義が中心である
- ・授業内容に応じて演習形式も取り入れる

**準備学習(予習・復習)**

- ・授業内容を復習し、実際に使ってみること(約1時間)
- ・指示された課題をやってくる(課題に応じて約1～3時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 50 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

平常点(授業内でのレポートや要約などの課題と出席)50%、学期末レポート50%。  
ただし、欠席が全体の1/3の回数に達した場合、単位は修得できない。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業期間に課した課題に関しては、授業時に再確認、議論し、この授業なりの答えを提示するものとする。

### 教科書コメント

適宜資料を配付する

### 参考文献

大学基礎講座—充実した大学生活をおくるために,藤田 哲也,北大路書房,改増,2006,978-4762824845

人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック,眞嶋 俊造(著, 編集) 他,慶應義塾大学出版会,2015,978-4766422559

レポート・論文の書き方入門,河野 哲也,慶應義塾大学出版会,第3,2002,978-4766409697

### 参考文献コメント

参考文献に関しては、授業時に詳細に説明する。

### 履修上の注意

履修者数制限なし。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

授業内容は、授業回数を目安に割り振ったものである。授業の進捗状態や履修者の理解度に応じて順番や内容を変えることがある。授業内容を知る目安とすること。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                                     |          |          |
|-------|---------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810804101                                                          | 科目ナンバリング | 007D014  |
| 講義名   | 英語で学ぶ日本事情－文化・社会・科学                                                  |          |          |
| 英文科目名 | Introduction to Japanese Culture, Society, and Scientific Research  |          |          |
| 担当者名  | 加藤 真紀.STEWART, Alison Mary.田崎 晴明.杜 長俊.野崎 與志子.橋本 陽子.RTISCHEV, Dmitry |          |          |
| 単位    | 2                                                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 土曜日 2時限 南1－306                                                 |          |          |

授業概要

In this course, seven professors belonging to the Faculties of Law, Economics, Letters, and Science will deliver omnibus-style lectures on topics such as law, philosophy, economics, Japanese, and science. Lectures will generally be held in English. 本講義では、法学部、経済学部、文学部、そして理学部に所属する7名の教員が、各専門分野の一端について、もっぱら英語でオムニバス形式の授業を行う。

到達目標

The aims of this course are 1) for foreign students to understand the state of affairs in Japan, 2) for Japanese students to have exposure to English dialogue on these topics, and 3) for foreign and Japanese students to explore aspects of the cutting-edge research being carried out by professors at Gakushuin University. We hope that the classroom will be a place of cross-cultural communication through a lively discourse between foreign and Japanese students. この講義を通じて、外国からの留学生に日本の現状を知ってもらおうと同時に、日本人の学生には各専門分野について行われる英語表現やダイアログに触れてもらいたい。また、外国人・日本人いずれの学生に対しても、本学の教員が行っている最先端の研究成果について学び、探求する機会を提供したいと考えている。この授業が行われる教室が、生き生きとした異文化交流の場になれば幸いである。

授業内容

| 実施回  | 内容                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 田崎晴明 9/12:Pseudosciences and their influence on education in Japan    |
| 第2回  | 田崎晴明 9/19:Pseudosciences and their influence on education in Japan    |
| 第3回  | Dmitry Rtischev 9/26: Entrepreneurs and Ventures in Japan             |
| 第4回  | Dmitry Rtischev 10/3: Entrepreneurs and Ventures in Japan             |
| 第5回  | Alison Stuart 10/10: (1) English education and social change in Japan |
| 第6回  | Alison Stuart 10/17:(2) Globalization and English education           |
| 第7回  | 野崎与志子 11/7:Japanese Society and its Diversity                         |
| 第8回  | 野崎与志子 11/14:Japanese Society and its Diversity                        |
| 第9回  | 加藤真紀 11/21:Higher education in Japan                                  |
| 第10回 | 加藤真紀 11/28:Higher education in Japan                                  |
| 第11回 | 橋本陽子 12/5:Introduction of Japanese Employment and Labor Law           |
| 第12回 | 橋本陽子 12/12:Introduction of Japanese Employment and Labor Law          |
| 第13回 | 杜長俊 12/19:Second Language Acquisition                                 |
| 第14回 | 杜長俊 12/26:Second Language Acquisition                                 |
| 第15回 | 予備日                                                                   |

授業計画コメント

Lecture contents may change. 講義内容は変更することがある。

授業方法

Most meetings will be in lecture style, but we will be open to student’s questions at all times. 授業の多くは通常の講義形式で行われるが、学生からの質問はいつでも歓迎する。

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

Read the recommended materials suggested by lecturers before coming to class. 各担当教員によって後日提示される参考文献をあらかじめ読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              | 0 %     |    |
| 学年末試験(第2学期)              | 0 %     |    |
| 中間テスト                    | 0 %     |    |
| レポート                     | 70 %    |    |
| 小テスト                     | 0 %     |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              | 0 %     |    |

成績評価コメント

Grading details will be announced in the first class. 成績評価についての詳細は最初の授業 でアナウンスする。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポートは必要に応じて返却する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                      |          |          |
|-------|--------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810805101                           | 科目ナンバリング | 007D015  |
| 講義名   | 海外語学研修                               |          |          |
| 英文科目名 | Short International Language Program |          |          |
| 担当者名  | 山田 澄生                                |          |          |
| 単位    | 2                                    | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 集中(通年) その他 集中講義                      |          |          |

**授業概要**

本授業では、夏季に行われる国際センター主催の3週間以上の「海外語学研修」に参加する学生に、海外の言語・文化・社会などについて短期集中的に修得してもらう。なお、本授業で指定する国際センター主催の「海外語学研修」は、例年いくつか実施している研修のうち、2019年度については、イギリスの協定校での英語研修を予定している。

**到達目標**

実際に海外に身を置き、プログラム所定の課題に取り組むことを通して異文化や国際社会の多様性に触れ、実践的なコミュニケーションのスキルと適応力を身につけ、自らの視野と可能性を広げる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                 |
|------|--------------------|
| 第1回  | 留学と異文化コミュニケーションの意義 |
| 第2回  | リスクマネジメント          |
| 第3回  | 自己目標シートの作成と語学力向上方策 |
| 第4回  | 海外語学研修(夏季集中)       |
| 第5回  | 研修で学んだことと今後の課題発表   |
| 第6回  |                    |
| 第7回  |                    |
| 第8回  |                    |
| 第9回  |                    |
| 第10回 |                    |
| 第11回 |                    |
| 第12回 |                    |
| 第13回 |                    |
| 第14回 |                    |
| 第15回 |                    |

**授業計画コメント**

第1回目から3回目までの授業は、4月から7月までの間に行われる。その他の授業は、8月と9月に行われる予定である。詳しい日程は、4月に行われる国際センター主催の海外語学研修の説明会でアナウンスする。

**授業方法**

事前事後の研修は、講義形式による。海外での語学研修は、現地語学研修先のカリキュラムに沿う。なお、海外語学研修に参加する際には、別途、個人の経費負担(参加費用)が生じるが、そのうちの一部について事後的に経済的援助を受けるため、学生は、「学習院大学海外短期語学研修奨学金」に応募することができる(当該奨学金は、学生からの申請に基づき、国際交流センターが受給者を選考する。詳細は、海外語学研修の説明会でアナウンスする予定)。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

異文化におけるコミュニケーションには、現地において社会的・文化的に前提されていることへの理解が不可欠である。イギリスの文化や歴史について、予備知識を仕入れておくこと。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 50 %    |    |
| 小テスト                     | 0 %     |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 50 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              | 0 %     |    |

**成績評価コメント**

レポート:50%(語学研修機関発行の修了証及び事後レポートで評価を行う。)  
平常点:50%(語学研修事前および事後研修への出席および参加を必修とする。)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

帰国後の事後研修において問題点等を提起し、参加者と教員で議論する。

### **教科書コメント**

現地語学研修先の教科書に従う。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。 ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

### **その他**

第1回目の授業が開始する前の4月に、海外語学研修について説明会を行う。説明会の日時は、G-Port、大学のホームページ内の国際センターのサイト及び中央教育研究棟2階にある国際センター入口付近の掲示板等で発表する。説明会では、海外語学研修の概要・参加費用・参加者の選考方法などについてアナウンスするので、語学研修への参加を考えている学生は必ず出席すること。なお、本授業は、語学研修の選考に合格した学生のみが履修登録をすることができる。この点にも、十分注意されたい。

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                     |          |          |
|-------|-----------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810805201                                          | 科目ナンバリング | 007D016  |
| 講義名   | 海外フィールド研修(欧州・日本研究)                                  |          |          |
| 英文科目名 | Field Studies Abroad(European and Japanese Studies) |          |          |
| 担当者名  | 加藤 真紀.岡田 尚文                                         |          |          |
| 単位    | 2                                                   | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 集中(通年) その他 集中講義                                     |          |          |

**授業概要**

本授業では、夏期に行われる国際センター主催の「学習院一アルザス欧州日本学研究所提携プログラム」に参加する学生に、短期研修中に行われる海外での学生との交流などを通じて、グローバルな視野と国際交流への意識を喚起する。短期研修を開催するアルザス地方は、フランスとドイツとの国境地帯に位置しており、ヨーロッパの多様な文化を実感できる土地である。国境であるがゆえに第一次世界大戦の激戦地であったこと、現地は欧州評議会などの国際機関が設置されていることなどから、多様性と寛容性を学ぶことのできる地域である。参加学生が、これまでに学んできた経験やそれぞれの個性を活かしつつ、短期研修での体験を通じて、グローバルな社会で活躍することへの意識を高めていくことを目標とする。

**到達目標**

短期研修中に行われる現地学生との交流や、欧州評議会などの訪問体験を通じて、ヨーロッパの多様な文化、歴史、現状などの学習、母国語以外での自分の意見の発信、文化や習慣の異なる他者の境遇への想像力を養うことができるようになるなど、国際性に必要なものを実体験として自分自身で考えることができるようになる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                                   |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | プログラム内容についての説明、および現地での報告会内容決定とグループ分け |
| 第2回  | 事前研修(1) アルザス地方についての理解、報告会準備等         |
| 第3回  | 事前研修(2) 訪問先機関についての理解、報告会準備等          |
| 第4回  | 事前研修(3) 訪問先機関についての理解、報告会準備等          |
| 第5回  | 事前研修(4) 報告会準備、質疑応答等                  |
| 第6回  | 現地研修(夏期集中) 1日目                       |
| 第7回  | 現地研修(夏期集中) 2日目                       |
| 第8回  | 現地研修(夏期集中) 3日目                       |
| 第9回  | 現地研修(夏期集中) 4日目                       |
| 第10回 | 現地研修(夏期集中) 5日目                       |
| 第11回 | 現地研修(夏期集中) 6日目                       |
| 第12回 | 現地研修(夏期集中) 7日目                       |
| 第13回 | 現地研修(夏期集中) 8日目                       |
| 第14回 | 現地研修(夏期集中) 9日目                       |
| 第15回 | 事後研修 プログラムの振り返り、総括                   |

**授業計画コメント**

- ・事前研修は、5月～7月に開催する。
- ・現地研修は、8月31日(月)東京発、9月9日(水)東京着を予定している。
- ・事後研修は、9月に開催する。

**授業方法**

- ・授業は、基本的にグループワークを中心とする。交流プログラムでのプレゼンテーションの準備や各訪問機関での質問事項の取りまとめの際に、グループで情報収集、共有、発表内容取りまとめを行うなどの調査学習・体験学習の手法を通じて、ヨーロッパについての理解の深化と、国際交流に対する意識の向上を図る。
- ・研修終了後、各自の報告を取りまとめて報告書を作成する予定である。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

1. 交流プログラムでの発表を準備するのに必要な情報収集・論点整理等(5時間)
2. 各訪問機関での質問事項を準備するのに必要な情報収集・論点整理等(3時間)
3. 交流プログラムでの発表資料の作成(7時間)

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目 | 評価配分(%) | 備考 |
|------|---------|----|
|------|---------|----|

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                 |
|--------------------------|---------|--------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                    |
| 中間テスト                    |         |                    |
| レポート                     | 30 %    | 研修報告の内容(授業理解、課題設定) |
| 小テスト                     |         |                    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 30 %    | 特にグループ作業への貢献を重視する  |
| その他(備考欄を参照)              | 40 %    | 研修参加の姿勢、報告内容等      |

#### 成績評価コメント

・「その他」における「研修参加の姿勢」としては、現地研修中の参加姿勢を、協調性、チームワーク、積極性、自発性、規則遵守などの観点から総合的に評価する。また、「報告内容」としては、現地研修中の交流プログラムにおけるグループ発表における貢献度と発表内容などを総合的に評価する。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・グループワーク中心の授業のため、都度、授業内や現地研修中に、各グループに対してコメントを行う。
- ・事後研修において、事前研修および現地研修での各人の学びを振り返り、フィードバックを行う。

#### 教科書コメント

教科書は、第一回目の授業の際に指示する。

#### 参考文献コメント

参考文献は、各グループが取り上げるテーマが固まったところで、改めて提示する。

#### 履修上の注意

- ・4月中にガイダンスを行うのでいずれかの回に必ず出席すること。具体的日時は学内ポータルサイト(G-port)等で通知する。
- ・履修者数に制限あり(20名)。希望者が履修者制限を上回った場合には、面接等により参加者を選考する。
- ・履修にあたり、現地研修の渡航費・宿泊費・プログラム費用などが別途、必要となる。詳細についてはガイダンスの際に説明する。

#### その他

- ・参加者への連絡は、基本的にmanaba globalを通じて行う。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



|       |                                           |          |          |
|-------|-------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810805301                                | 科目ナンバリング | 007D017  |
| 講義名   | 海外フィールド研修(東アジア研究)                         |          |          |
| 英文科目名 | Field Studies Abroad (East Asian Studies) |          |          |
| 担当者名  | 山田 澄生.杜 長俊                                |          |          |
| 単位    | 2                                         | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 集中(通年) その他 集中講義                           |          |          |

授業概要

本授業は、夏期に行われる国際センター主催の海外短期研修プログラム「グローバル・キャンパス・アジア派遣(上海、台北、ソウル)」に参加する学生を対象とする。2020年度の派遣先校は、上海復旦大学、台北東呉大学、ソウル高麗大学の3校で、各大学とも3週間程度の短期集中語学研修と文化研修プログラムを用意している。本授業は、参加学生への事前・事後研修と現地研修中の課題探求型研修を通じて、語学能力、国際コミュニケーション能力、課題探求能力などの向上を図るとともに、滞在先の国・地域の文化・社会に対する理解を深めることを目的とする。参加学生は、事前研修の場でそれぞれ現地で探求する課題を設定し、現地研修の場で語学を学びながら現地で課題探求のための活動を行い、研修終了後にこれを報告会で発表することが期待される。

到達目標

- ・3週間前後の現地語学研修・文化研修への参加を通じて、東アジア各国の言語と文化に対する理解を深めることができる。
- ・現地住民の生活を観察し、課題探求のテーマとして記述・分析することで、滞在先の国・地域に対する理解を深めるとともに、異文化をより多面的に理解することができる。
- ・3週間にわたる現地研修で、多様な国からの参加者と交流することを通じて、国際コミュニケーション能力を培うことができる。

授業内容

| 実施回  | 内容                              |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | プログラムの紹介、授業のオリエンテーション           |
| 第2回  | 事前研修1 生活を記述する(1)                |
| 第3回  | 事前研修2 生活を記述する(2)                |
| 第4回  | 事前研修3 設問を立てる(1)                 |
| 第5回  | 事前研修4 設問を立てる(2) 出発前の最終確認        |
| 第6回  | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第7回  | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第8回  | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第9回  | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第10回 | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第11回 | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第12回 | 海外現地研修(3週間の短期語学研修＋文化研修＋課題探求型研修) |
| 第13回 | 事後研修1 現地生活と現地研修について振り返る         |
| 第14回 | 事後研修2 成果を発信する(1)                |
| 第15回 | 事後研修3 成果を発信する(2)                |

授業計画コメント

- ・事前研修は5月から7月にかけて実施する予定である。
- ・現地研修は7月 末から8月にかけて、3週間開催する予定である。
- ・事後研修は、9月の土曜日午後を使い、1日でまとめて実施する予定である。

授業方法

- ・事前研修は、講義形式とグループワークを組み合わせて実施する。
- ・現地研修は、基本的に講義形式だが、プログラムによっては、現地視察や文化体験なども用意されている。
- ・事後研修は、報告会の形式をとる。
- ・なお、現地研修期間中は、ウェブ上でのレポートの提出を求める。また、研修報告書を取りまとめるので、研修報告の提出も求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・事前研修: 自分で課題を設定し、これを解明するのに必要な調査方法や調査対象をインターネット等を通じて確認(5時間)
- ・現地研修: 短期集中語学研修の際の、授業の予習・復習(毎日1～2時間)、及び課題探求活動(週4～5時間)
- ・事後研修: 報告会での発表準備(5時間)

成績評価の方法・基準

| 評価項目 | 評価配分(%) | 備考 |
|------|---------|----|
|------|---------|----|

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考                       |
|--------------------------|---------|--------------------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |                          |
| 学年末試験(第2学期)              |         |                          |
| 中間テスト                    |         |                          |
| レポート                     | 30 %    | 研修終了後の報告書の内容             |
| 小テスト                     |         |                          |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 40 %    | 事前・事後研修への出席、活動への参加、報告内容等 |
| その他(備考欄を参照)              | 30 %    | 現地研修時の語学の成績及び課題探求型活動     |

#### 成績評価コメント

- ・報告書については、教員の評価とともに、授業の受講生同士による評価を取り入れる。
- ・平常点については、出席、活動への参加、報告会での準備及びプレゼンテーションの内容等を評価する。
- ・その他については、現地研修時の語学の成績、現地研修期間中のウェブ上での報告状況、及び課題探求活動の内容等を評価する。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・研修期間中、manaba globalを通じて、レポートや活動に対するフィードバックを個別に行う。
- ・報告会では、それぞれの報告に対して担当教員がコメントの形でフィードバックを行う。

#### 教科書コメント

- ・教科書は特に指定しないが、研修参加者の参考として、グローバル・キャンパス・アジア2018報告書を全参加者に配布する予定である。

#### 履修上の注意

- ・履修登録の前に履修希望者向けガイダンスを実施し、事前研修スケジュールや海外研修の内容・費用等について説明する。ガイダンスの詳細はg-portを通じて通知する
- ・履修登録数に制限があるので、希望者多数の場合には面接・書類審査により選考する予定である。
- ・海外短期語学研修への参加には、別途、経費を支払う必要がある点に留意すること。

#### その他

- ・学生との連絡は、基本的にmanaba globalを通じて行う。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                                                                                |          |          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810805701                                                                     | 科目ナンバリング | 007D076  |
| 講義名   | 国際社会とは？－21世紀の地球人であること－                                                         |          |          |
| 副題    | 国際社会と人の移動                                                                      |          |          |
| 英文科目名 | The Ideas of International Society-to be a global citizen in the 21st century- |          |          |
| 担当者名  | 加藤 真紀.杜 長俊                                                                     |          |          |
| 単位    | 2                                                                              | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 第2学期 月曜日 4時限 南1－201                                                            |          |          |

**授業概要**

国際的な人の移動を介して、「国際社会」を考える。国際とは「国と国の境を超えて」という意味であり、社会は「自分と他者とのつながり」を表す。これらが組み合わさった国際社会という言葉を「人の移動」と「他者とのつながり」という観点から見ること、その在り様を考察する。なぜ人々は国境を越え、新たな地で生活を営むのか。それは移動者と滞在者に対してどのような影響を与えるのか。このような問いを社会学や経済学などのアプローチで捉える。この中には学生の移動すなわち留学に関する内容も含まれる。また、日本にも、様々な外国人が暮らして、地域社会で生活を営んでいる。この授業を通して、日本に移動してきた外国籍の住民と、どのようにつながるか、どのように理解し合うか、異文化コミュニケーションを実践し、多文化共生社会の実現について考える。

**到達目標**

- ・国際移動を促す背景や影響を説明することができる。
- ・留学を国際移動および受講者自身の学修(一般的には学習)の中に位置づけることができる。
- ・異文化コミュニケーションを実践するとともに、自身の実践を客観的に振り返ることができる。

**授業内容**

| 実施回  | 内容                              |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクションと授業概要の説明               |
| 第2回  | 国境を超えた移動を促す背景を学ぶ                |
| 第3回  | 国境を超えるのは誰かを学ぶ                   |
| 第4回  | 国際移動の影響を多層的に学ぶ(国際移動は誰に何をもたらすのか) |
| 第5回  | 留学(学生の移動)1:現状                   |
| 第6回  | 留学(学生の移動)2:キャリアを中心とした効果         |
| 第7回  | 留学(学生の移動)3/ その他のテーマ             |
| 第8回  | 国際移動に対する視点の変化:アウトバウンドからインバウンドへ  |
| 第9回  | 日本社会で生きる移住者の現実                  |
| 第10回 | 異文化コミュニケーションの理論と実践1             |
| 第11回 | 異文化コミュニケーションの理論と実践2             |
| 第12回 | 異文化コミュニケーションの課題探求1              |
| 第13回 | 異文化コミュニケーションの課題探求2              |
| 第14回 | 課題探求の成果発表                       |
| 第15回 | 全体総括                            |

**授業方法**

講義形式に加えて、学生参加のディスカッションの場を設ける。課題探求では、グループで課題を設定し、解決方法について話し合う。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業において講師が指示した課題を事前に調べることや資料を読むこと(約1時間)、およびグループ学習に必要な準備をする場合がある。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考 |
|--------------------------|---------|----|
| 学期末試験(第1学期)              |         |    |
| 学年末試験(第2学期)              |         |    |
| 中間テスト                    |         |    |
| レポート                     | 30 %    |    |
| 小テスト                     |         |    |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) | 70 %    |    |
| その他(備考欄を参照)              |         |    |

**成績評価コメント**

クラスの出席程度と同時に、ディスカッションやグループ作業への個人の学習スタイルに応じた貢献を評価する。レポートにはテーマを複数設定し、文献の引用などの記述条件を設定する。評価のポイントは授業で示す。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業で実施したクイズや質問およびレポートには次回授業など短期間での口頭もしくは文書にてフィードバックを実施する。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

|       |                            |          |          |
|-------|----------------------------|----------|----------|
| 講義コード | U810900101                 | 科目ナンバリング | 007D061  |
| 講義名   | 近代日本と学習院                   |          |          |
| 英文科目名 | Modern Japan and Gakushuin |          |          |
| 担当者名  | 千葉 功・桑尾 光太郎                |          |          |
| 単位    | 4                          | 配当年次     | 学部 1年～4年 |
| 時間割   | 通年 金曜日 2時限 中央－302          |          |          |

授業概要

学習院は幕末の京都におかれた公家の学問所を淵源とし、明治維新を経て1877年東京に開設された。第二次世界大戦後に官立学校から私立学校への転換を経験し、1949年に学習院大学が開学した。東京での創立から142年にわたる学習院のあゆみは、日本近代・現代の歴史と深く関わってきた。学習院の卒業生や教員には、政治・軍事・文芸・学術などさまざまな分野で活躍した人物が少なくない。私たちが日常を送る場所を題材に、日本近代・現代ならびに高等教育の諸問題を考えることが授業の目的である。授業では学習院アーカイブズが所蔵する文書・写真等の史資料を紹介する。大学の組織・教育研究・キャンパスや課外活動は、どのように形成され変容してきたのか。時代の流れのなかで学生や教職員は何を考え、どのように行動してきたのか。身近な史資料からそれらを読み取ることにより、みずからが大学で学ぶ意味を考えてもらいたい。

到達目標

学習院および日本の高等教育がたどった歩みを、日本近現代の歴史の中で位置づけるようにする。身の回りにある日常的な記録が、過去の事実を伝える歴史資料となることを理解する。現代の大学や学生が抱える問題を、過去の出来事や言説を踏まえ考察できる力をつける。

授業内容

| 実施回  | 内容                     |
|------|------------------------|
| 第1回  | はじめに―史資料をどのようにみるか―     |
| 第2回  | 京都学習院と幕末維新の政治変動        |
| 第3回  | 華族の創出と学習院の開設           |
| 第4回  | 明治国家形成と近代教育の成り立ち       |
| 第5回  | 女子教育の始まりと華族女学校         |
| 第6回  | 校地の変遷と課外活動の進展          |
| 第7回  | 目白キャンパスの形成             |
| 第8回  | 乃木希典院長と白樺派             |
| 第9回  | 大正期の学習院・女子学習院          |
| 第10回 | 高等教育の整備と学生生活           |
| 第11回 | 昭和の社会変動と戦時体制           |
| 第12回 | 戦時下の学習院―学生は戦争をどう迎えたか―  |
| 第13回 | 学校教育の崩壊―動員・疎開・出陣―      |
| 第14回 | 敗戦前後の学習院・女子学習院         |
| 第15回 | 1学期のまとめ                |
| 第16回 | 学校の再開と占領政策             |
| 第17回 | 宮内省からの独立と対GHQ交渉        |
| 第18回 | 私立学習院の出発―山梨勝之進から安倍能成へ― |
| 第19回 | 学習院の経営難と戦後教育改革         |
| 第20回 | 新制学習院大学の構想と開学          |
| 第21回 | 大学初期の学生と社会             |
| 第22回 | 学部学科の増設と組織運営           |
| 第23回 | キャンパスの総合整備             |
| 第24回 | 高度成長と大学の大衆化            |
| 第25回 | 1960年代の社会矛盾と大学紛争       |
| 第26回 | 全共闘運動とその後              |
| 第27回 | 1970年代以降の大学と学生生活       |
| 第28回 | キャンパス・入試・カリキュラムの移り変わり  |
| 第29回 | 21世紀の大学「改革」            |
| 第30回 | 1年のまとめ                 |

授業計画コメント

第2学期は、学習院に加えて日本の大学全般について考察する。

**授業方法**

講義形式。適宜プリントを配布し画像を紹介する。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

日本近現代史の基本的な概説書に目を通してほしい(それぞれの授業前に30分程度)。

**成績評価の方法・基準**

| 評価項目                     | 評価配分(%) | 備考            |
|--------------------------|---------|---------------|
| 学期末試験(第1学期)              |         |               |
| 学年末試験(第2学期)              | 50 %    |               |
| 中間テスト                    |         |               |
| レポート                     | 40 %    | 第1学期末試験に代えて課す |
| 小テスト                     | 10 %    |               |
| 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) |         |               |
| その他(備考欄を参照)              |         |               |

**成績評価コメント**

レポートや試験では、自分の意見をしっかりと書きこんで下さい。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

第1学期課題レポートについて、提出者が選んだ題材やレポート内で述べられた意見を分析し、第2学期の授業構成に反映させる。

**参考文献**

学習院百年史(全三編)

学習院大学五十年史(上巻・下巻)

**参考文献コメント**

他は授業のなかで随時紹介する。多くの本を手にとって関心のある領域を拓けてほしい。

**その他**

日本近現代史に関する基礎的な知識を必要とする。「いつ、どんなことがあったか」に、大まかでよいから広く関心を持っていてもらいたい。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>